



NX300h

取扱説明書

安全・安心のために

お客様に**必ずお読みいただきたいこと**

(主な項目：チャイルドシートの取扱い、盗難防止装置)

走行に関する情報表示

走行に関する情報を表示する計器類の見方

(主な項目：メーター・マルチインフォメーションディスプレイ)

運転する前に

ドア・ドアガラスの開閉や、運転操作前の調整

(主な項目：キー、ドア、シート)

運転

運転に必要な操作やアドバイス

(主な項目：ハイブリッドシステム始動のしかた、給油のしかた)

室内装備・機能

室内装備の使い方など

(主な項目：エアコン・収納装備の使い方)

お手入れのしかた

車のお手入れ・メンテナンスの方法

(主な項目：内装・外装の手入れ、電球の交換)

万一の場合には

故障したときや、緊急時などの対処

(主な項目：補機バッテリーあがりやタイヤがパンクしたときの対処)

車両情報

車の仕様や好みに合わせて選べる機能の情報

(主な項目：指定燃料、各オイル量、タイヤ空気圧)

さくいん

症状から検索

音から検索

アルファベットで検索

五十音で検索

1

2

3

4

5

6

7

8

知つておいていただきたいこと	6
本書の見方	9
検索のしかた	10
イラスト目次	12

1 安全・安心のために

1-1. 安全にお使いいただくために	
運転する前に	26
安全なドライブのために	27
シートベルト	29
SRS エアバッグ	34
お子さまの安全のために	40
チャイルドシート	41
排気ガスに対する注意	57
1-2. ハイブリッドシステム	
ハイブリッドシステムの特徴	58
ハイブリッドシステムの注意	61
1-3. 盗難防止装置	
イモビライザーシステム	66
オートアラーム	67

2 走行に関する情報表示

2-1. 計器の見方	
警告灯／表示灯	72
計器類	76
マルチインフォメーションディスプレイ	81
カラーヘッドアップディスプレイ	87
エネルギーモニター／Harmonious Driving Navi. 画面／燃費画面 ...	91

3 運転する前に

3-1. キー	
キー	100

3-2. ドアの開閉、ロックのしかた	
ドア	104
バックドア	108
スマートエントリー＆スタートシステム	118

3-3. シートの調整	
フロントシート	123
リヤシート	124
パワーイージーアクセスシステム／ポジションメモリー／メモリーコール機能	129
ヘッドレスト	132
3-4. ハンドル位置・ミラー	
ハンドル	134
インナーミラー	135
ドアミラー	136

3-5. ドアガラス・ムーンルーフの開閉	
パワーウィンドウ	138
ムーンルーフ	140
電動サンシェード	143

4 運転

4-1. 運転にあたって	
運転にあたって	146
荷物を積むときの注意	152
4-2. 運転のしかた	
パワー（イグニッショ n）スイッチ	154
EV ドライブモード	158
トランスマッシュョン	160
方向指示レバー	164
電動パーキングブレーキ	165
ブレーキホールド	168
ASC（アクティブサウンドコントロール）	170

4-3. ランプのつけ方・ワイパーの使い方	5-3. 室内灯のつけ方
ランプスイッチ 171	室内灯一覧 263
アダプティブハイビームシステム 173	5-4. 収納装備
オートマチックハイビーム 176	収納装備一覧 266
フォグランプスイッチ 179	ラゲージルーム内装備 270
ワイパー＆ウォッシャー（フロント） 180	5-5. その他の室内装備の使い方
ワイパー＆ウォッシャー（リヤ） 182	その他の室内装備 274
4-4. 給油のしかた	6 お手入れのしかた
給油口の開け方 184	6-1. お手入れのしかた
4-5. 運転支援装置について	外装の手入れ 286
Lexus Safety System+ 187	内装の手入れ 289
PCS（プリクラッシュセーフティシステム） 190	6-2. 簡単な点検・部品交換
LDA（レーンディバーチャーアラート [ステアリング制御機能付き]） 198	ポンネット 293
レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き） 205	ガレージジャッキ 294
ドライブモードセレクトスイッチ 213	ウォッシャー液の補充 295
PKSA（パーキングサポートアラート） 215	タイヤについて 296
クリアランスソナー 216	タイヤ空気圧について 302
パーキングサポートブレーキ（静止物） 221	エアコンフィルターの交換 303
BSM（ブラインドスポットモニター） 231	電子キーの電池交換 305
運転を補助する装置 237	ヒューズの点検・交換 306
4-6. 運転のアドバイス	電球（バルブ）の交換 309
ハイブリッド車運転のアドバイス 242	7 万一の場合には
寒冷時の運転 244	7-1. まず初めに
5 室内装備・機能	故障したときは 312
5-1. リモートタッチ	非常点滅灯（ハザードランプ） 313
リモートタッチ 248	発炎筒 313
5-2. エアコンの使い方	車両を緊急停止するには 314
オートエアコン 252	
ステアリングヒーター／シートヒーター／シートベンチレーター .. 260	

7-2. 緊急時の対処法

けん引について	316
警告灯がついたときは	321
警告メッセージが表示されたときは	328
パンクしたときは（タイヤパンク応急修理キット装着車）	332
パンクしたときは（応急用タイヤ装着車）	342
ハイブリッドシステムが始動できないときは	350
キーをなくしたときは	351
給油扉が開かないときは	351
電子キーが正常に働かないときは	352
補機バッテリーがあがつたときは	354
オーバーヒートしたときは	359
スタックしたときは	362

8 車両情報

8-1. 仕様一覧

メンテナンスデータ（指定燃料・オイル量など）	364
------------------------------	-----

8-2. カスタマイズ機能

ユーザーカスタマイズ機能	368
--------------------	-----

8-3. 初期設定

初期設定が必要な項目	378
------------------	-----

さくいん

こんなときは（症状別さくいん）	380
車から音が鳴ったときは（音さくいん）	382
アルファベット順さくいん	383
五十音順さくいん	385

1

2

3

4

5

6

7

8

知っておいていただきたいこと

本書の内容について

本書はオプションを含むすべての装備の説明をしています。

そのため、お客様の車にはない装備の説明が記載されている場合があります。また、車の仕様変更により、内容がお車と一致しない場合がありますのでご了承ください。

レクサス販売店で取り付けられた装備（販売店オプション）の取り扱いについては、その商品に付属の取り扱い説明書をお読みください。

イラストは、記載している仕様などの違いにより、お客様の車の装備と一致しない場合があります。

不正改造について

- レクサスが国土交通省に届け出をした部品以外のものを装着すると、不正改造になることがあります。
- 車高を下げる、ワイドタイヤを装着するなど、車の性能や機能に適さない部品を装着すると、故障の原因となったり、事故を起こし、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- ハンドルの改造は絶対にしないでください。ハンドルにはSRSエアバッグが内蔵されているため、不適切に扱うと、正常に作動しなくなったり、誤つてふくらみ、重大な傷害におよぶか、最悪の場合

死亡につながるおそれがあります。

- 次の場合はレクサス販売店にご相談ください。

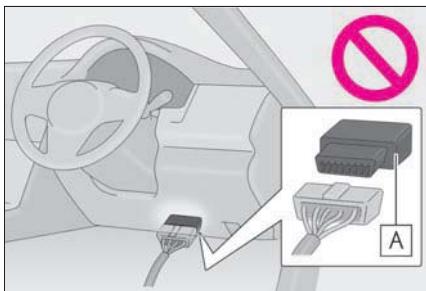
- ・ タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けナットの交換
異なる種類や指定以外のものを使用すると、走行に悪影響をおよぼしたり、不正改造になることがあります。
- ・ 電装品・無線機の取り付け・取りはずし
電子機器部品に悪影響をおよぼしたり、故障や車両火災など事故につながるおそれがあり危険です。
RF送信機の取り付けについては、P.8も参照してください。

- フロントウインドウガラス、および運転席・助手席のドアガラスに着色フィルム（含む透明フィルム）などを貼り付けないでください。視界をさまたげるばかりでなく、不正改造につながるおそれがあります。

故障診断コネクターなどへの電装品取り付けについて

故障診断コネクター[A]などに、点検整備用の故障診断装置以外の電装品を取り付けないでください。

電子機器に悪影響をおよぼしたり、補機バッテリーがあがつたりするなど、思わぬトラブルを招くおそれがあります。



車両データの記録について

お車には、車両の制御や操作に関するデータなどを記録するコンピューターが複数装備されており、主に次のようなデータを記録します。

- ・ エンジン回転数
- ・ 電気モーター回転数
- ・ アクセルの操作状況
- ・ ブレーキの操作状況
- ・ 車速
- ・ シフトポジション
- ・ 駆動用電池の状態

グレード・オプション装備により記録されるデータ項目は異なります。なお、コンピューターは会話などの音声や映像は記録しません。

● データの取り扱いについて

レクサスはコンピューターに記録されたデータを車両の故障診断・研究開発・品質の向上を目的に取得・利用することができます。

なお、次の場合を除き、レクサスは取得したデータを第三者へ開示または提供することはできません。

- ・ お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
- ・ 警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
- ・ 統計的な処理を行う目的で、使用者や車両が特定されないように加工した

データを研究機関などに提供する場合

● G-Linkによるデータの取り扱いについて

お客様が G-Link をご利用の場合、記録データとその使用について、G-Link 利用規約をご覧ください。

イベントデータレコーダー

お車には、イベントデータレコーダー（EDR）が装備されています。EDR は、一定の衝突や衝突に近い状態（SRS エアバッグの作動および路上障害物との接触など）が発生した時に車両システムの作動状況に関するデータを記録します。EDR は車両の動きや安全システムに関するデータを短時間記録するように作られています。ただし、衝突の程度と形態によっては、データが記録されない場合があります。

EDR は次のようなデータを記録します。

- ・ 車両の各システムの作動状況
- ・ アクセルペダルおよびブレーキペダルの操作状況
- ・ 車速

これらのデータは、衝突や傷害が発生した状況を把握するのに役立ちます。

注意：EDR は衝突が発生したときにデータを記録します。通常走行時にはデータは記録されません。また、個人情報（例：氏名・性別・年齢・衝突場所）は記録されません。ただし、事故調査の際に法執行機関などの第三者が、通常の手続きとして収集した個人を特定できる種類のデータと EDR データを組み合わせて使用することができます。EDR で記録

されたデータを読み出すには、特別な装置を車両またはEDRへ接続する必要があります。レクサスにくわえ、法執行機関などの特別な装置を所有する第三者が車両またはEDRに接続した場合でも情報を読み出すことができます。

● EDRデータの情報開示

次の場合を除き、レクサスはEDRで記録されたデータを第三者へ開示することはありません。

- ・お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
- ・警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
- ・レクサスが訴訟で使用する場合

ただし、レクサスは

- ・データを車両安全性能の研究に使用することができます。
- ・使用者・車両が特定されないデータを調査目的で第三者に開示することができます。

RF送信機の取り付けについて

お車へRF送信機を取り付けると、次のようなシステムに影響をおよぼす可能性があります。

- ハイブリッドシステム
- EFIコンピュータ
- Lexus Safety System+
- ABS（アンチロックブレーキシステム）
- SRSエアバッグ
- シートベルトプリテンショナー

悪影響を防ぐための措置や取り付け方法については、必ずレクサス販売店にお問い合わせください。

ご希望により、RF送信機の取り付けに関する詳しい情報（周波数帯域・電力レベル・アンテナ位置・取り付け条件）をレクサス販売店にてご提供します。

高電圧部位や高電圧配線は、電磁シールド構造になっています。従来の車や家電製品と比べて、電磁波が多いということはありません。

アマチュア無線の一部（遠距離通信）において、受信時に雑音が混入する場合がありますので、あらかじめご了承ください。

保証および点検について

保証および点検整備については、別冊「メンテナンスノート」に記載していますので、併せてお読みください。

日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施してください。（法律で義務付けられています）

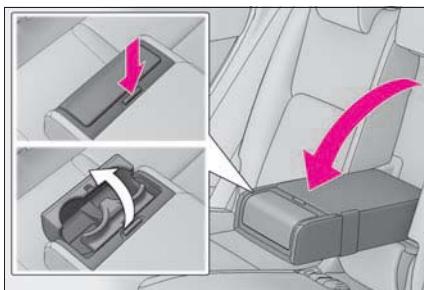
本書の見方

本書で使用している、記号について説明します。

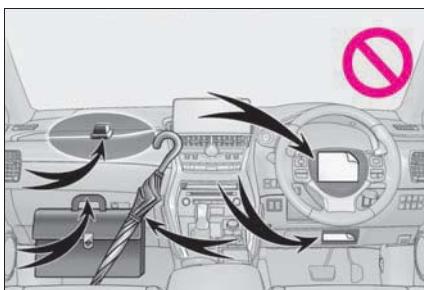
本文の記号について

記号	意味
	警告： お守りいただかないと、 お客様自身と周囲の人々 が死亡、または重大な傷 害につながるおそれがあ ることを説明していま す。
	注意： お守りいただかないと、 車や装備品の故障や破損 につながるおそれがあ ることを説明していま す。
	操作・作業の手順を示し ています。番号の順に 従ってください。
	機能や操作方法の説明以 外で知っておいていただき たい、知つておくと便 利なことを説明していま す。

イラスト上の記号について



記号	意味
	押す、まわすなど、して いただきたい操作を示して います。
	フタが開くなど、操作後 の作動を示しています。

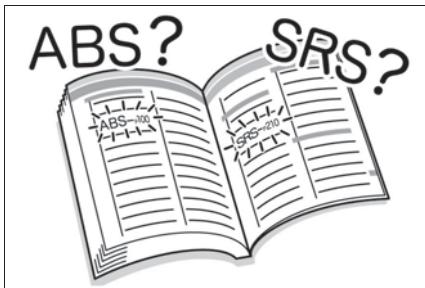


記号	意味
	説明の対象となるもの・場 所を示しています。
	してはいけません、このよ うにしないでください、こ のようなことを起こさない でくださいという意味で す。

検索のしかた

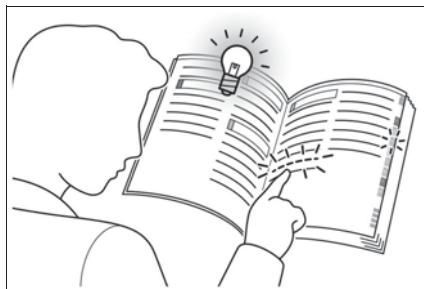
■ 名称から探す

- 五十音順さくいん : →P.385
- アルファベット順さくいん : →P.383



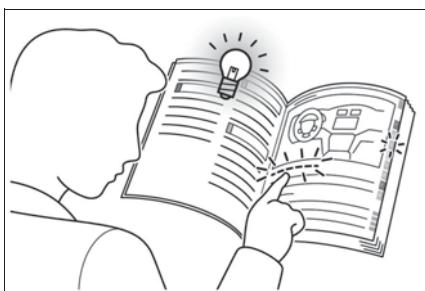
■ タイトルから探す

- 目次 : →P.2



■ 取り付け位置から探す

- イラスト目次 : →P.12



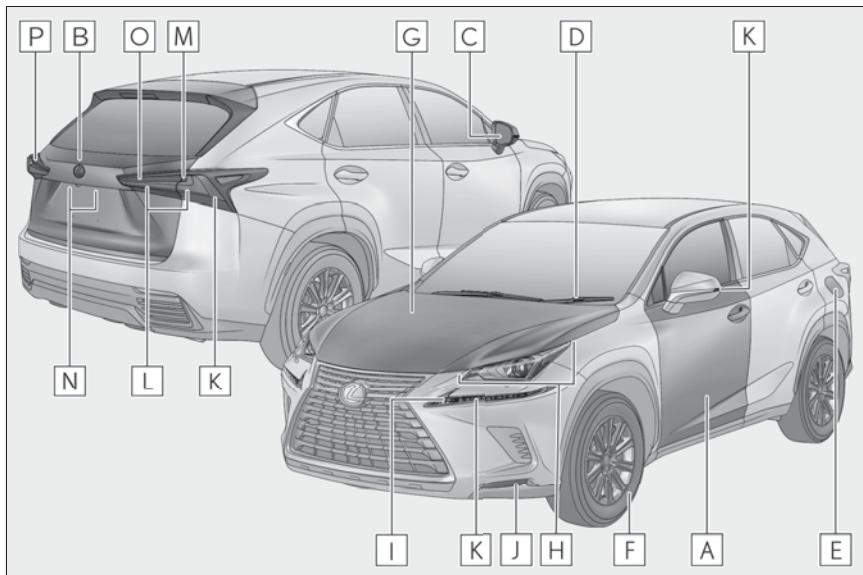
■ 症状や音から探す

- こんなときは（症状別さくいん）：
→P.380
- 車から音が鳴ったときは（音さくいん）
: →P.382



イラスト目次

■ 外観



A	ドア	P.104
	施錠／解錠	P.104, 106
	ドアガラスの開閉	P.138
	メカニカルキーでの施錠／解錠	P.352
	警告メッセージ	P.328
B	バックドア	P.108
	車内から開ける	P.109
	車外から開ける	P.109
	警告メッセージ	P.328
C	ドアミラー	P.136
	鏡面の角度調整	P.136
	ミラーの格納	P.137
	調整位置の登録★	P.129
	曇りを取り（ミラーヒーター）	P.253
D	ワイパー	P.180, 182

冬季の注意	P.244
凍結防止（ウインドシールドデアイサー）★	P.253
洗車時の注意	P.287
E 給油口	P.184
給油方法	P.184
燃料の種類・燃料タンク容量	P.364
F タイヤ	P.296
サイズ・空気圧	P.367
冬用タイヤ・タイヤチェーン	P.244
点検・ローテーション・タイヤ空気圧警報システム	P.296
パンク時の対処	P.332, 342
G ボンネット	P.293
開け方	P.293
エンジンオイル	P.364
オーバーヒート時の対処	P.359
警告メッセージ	P.328

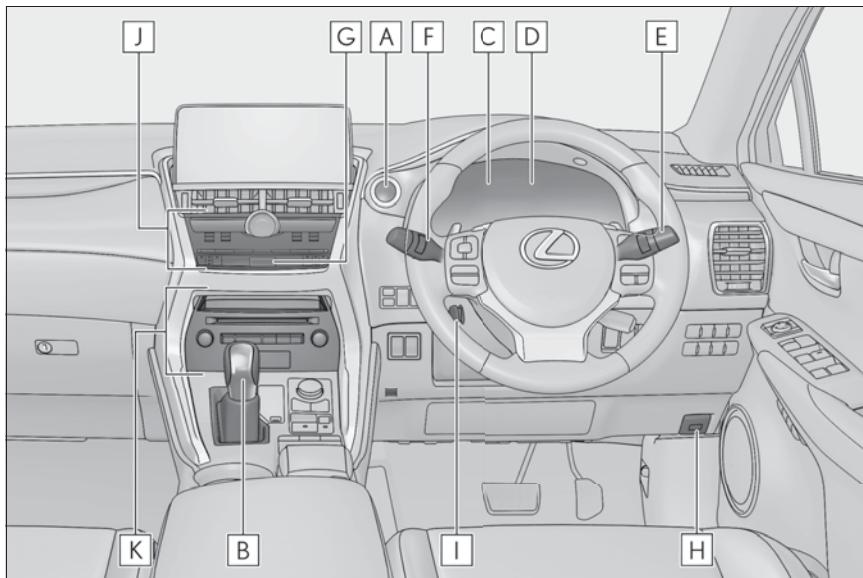
走行に関わる外装のランプ/バルブ

(交換方法 : P.309)

H ヘッドライト	P.171
I 車幅灯・LED デイライト	P.171
J フロントフォグランプ	P.179
コーナリングランプ	P.172
K 方向指示灯	P.164
L 尾灯・制動灯	P.171, 238
M 制動灯	
緊急ブレーキシグナル	P.238
N 番号灯	P.171
O リヤフォグランプ★	P.179
P 後退灯	
シフトポジションを R にする	P.160

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ インストルメントパネル



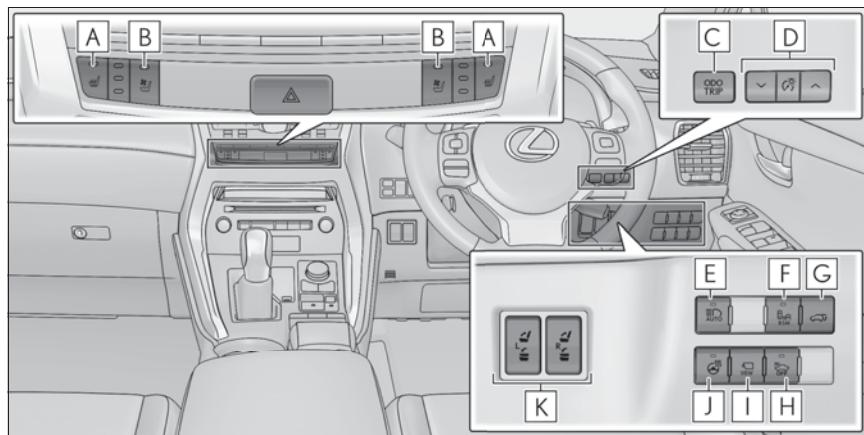
A	パワースイッチ	P.154
	ハイブリッドシステムの始動・モード切りかえ	P.154, 156
	ハイブリッドシステムの緊急停止	P.314
	ハイブリッドシステムが始動できないときの対処	P.350
	警告メッセージ	P.328
B	シフトレバー	P.160
	シフトポジションの切りかえ	P.160
	けん引時の注意	P.316
	シフトレバーが動かないときの対処	P.161
C	メーター	P.76
	見方・明るさの調整	P.76, 80
	警告灯／表示灯	P.72
	警告灯点灯時の対処	P.321
D	マルチインフォメーションディスプレイ	P.81
	表示内容	P.81

エネルギーモニター	P.91
警告メッセージ表示時の対処	P.328
E 方向指示レバー	P.164
ランプスイッチ	P.171
ヘッドライト・車幅灯・尾灯・番号灯・LED デイライト	P.171
フロントフォグランプ・リヤフォグランプ★	P.179
F ワイパー＆ウォッシュヤースイッチ	P.180, 182
使い方	P.180, 182
ウォッシュヤー液の補充	P.295
G 非常点滅灯スイッチ	P.313
H ボンネット解除レバー	P.293
I ハンドル位置調整スイッチ	P.134
調整方法	P.134
調整位置の登録★	P.129
J オートエアコン	P.252
操作方法	P.252
リヤウインドウガラスの曇り取り（リヤウインドウデフォッガー）...P.253	
K オーディオ*	
音楽を聴く	

* : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

* 別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

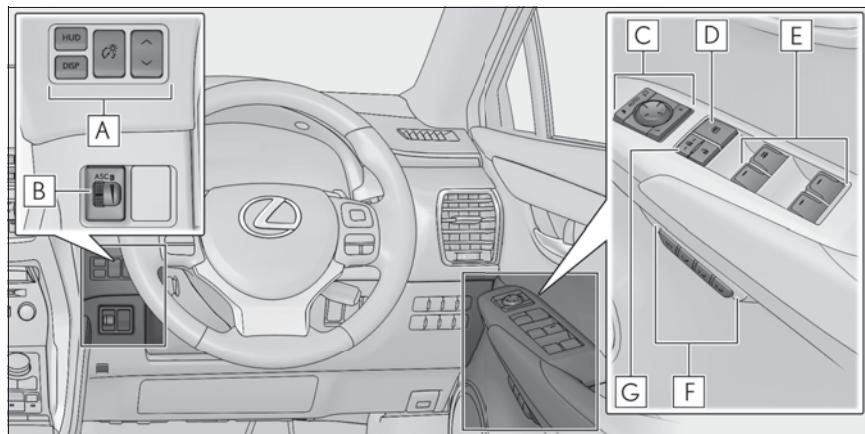
■スイッチ類



- | | | |
|----------|--|----------------|
| A | フロントシートヒータースイッチ★ | P.260 |
| B | フロントシートベンチレータースイッチ★ | P.261 |
| C | オドメーター／トリップメーター切りかえ・
トリップメーターリセットボタン | P.80 |
| D | インストルメントパネル照度調整スイッチ | P.80 |
| E | アダプティブハイビームシステムスイッチ★
オートマチックハイビームスイッチ | P.173
P.176 |
| F | BSM（ブライエンドスポットモニター）メインスイッチ★ | P.231 |
| G | パワーバックドアスイッチ | P.110 |
| H | 車両接近通報一時停止スイッチ | P.60 |
| I | カメラスイッチ* | |
| J | ステアリングヒータースイッチ★ | P.260 |
| K | リヤシート操作スイッチ★ | P.125 |

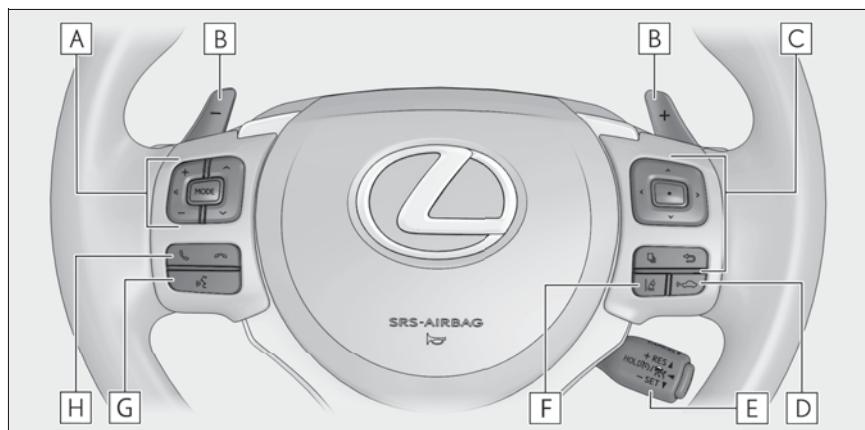
* : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

* 別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。



- A** ヘッドアップディスプレイスイッチ★ P.87
- B** ASC 音量調整ダイヤル★ P.170
- C** ドアミラースイッチ P.136
- D** ウィンドウロックスイッチ P.140
- E** パワーウィンドウスイッチ P.138
- F** ドライビングポジションメモリースイッチ★ P.129
- G** ドアロックスイッチ P.106

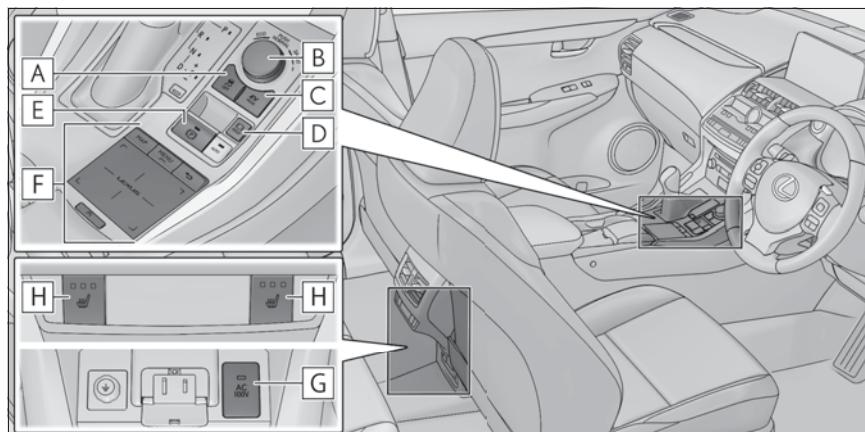
★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。



- A** オーディオスイッチ※

- [B]** パドルシフトスイッチ P.162
- [C]** メーター操作スイッチ P.82
- [D]** 車間距離切りかえスイッチ P.208
- [E]** クルーズコントロールスイッチ
レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き） P.205
- [F]** LDA（レーンディビューチャーラート）スイッチ P.200
- [G]** トーススイッチ*
- [H]** 電話スイッチ*

* 別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

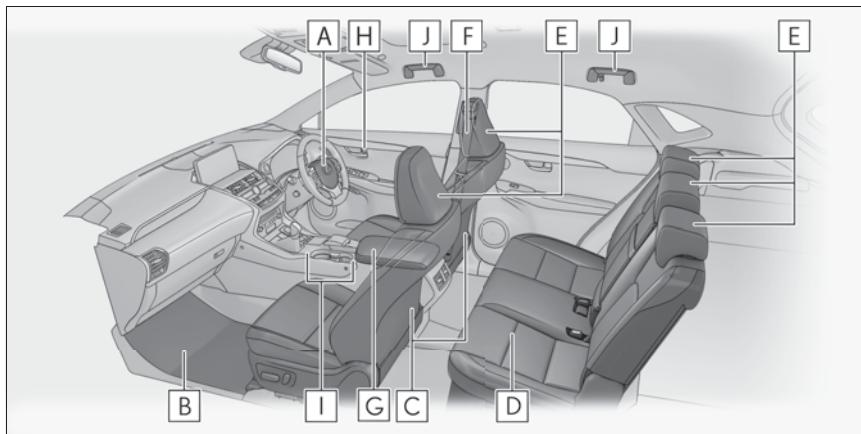


- [A]** VSC OFF スイッチ P.238
- [B]** ドライブモードセレクトスイッチ P.213
- [C]** EV ドライブモードスイッチ P.158
- [D]** ブレーキホールドスイッチ P.168
- [E]** パーキングブレーキスイッチ P.165
かける・解除する P.165
冬季の注意 P.245
警告ブザー・警告メッセージ P.167, 328
- [F]** リモートタッチ P.248
- [G]** アクセサリーコンセントメインスイッチ★ P.276

[H] リヤシートヒータースイッチ★P.261

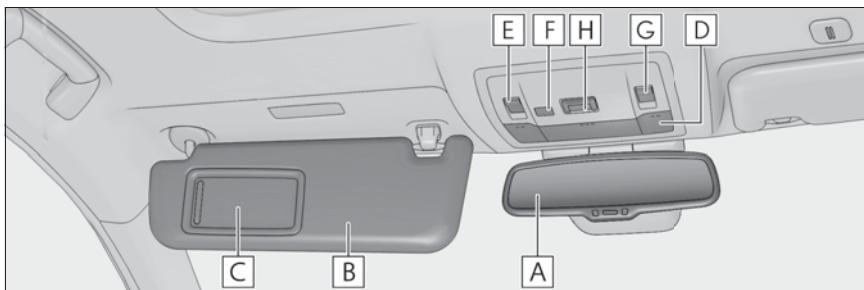
★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ 室内



- A** SRS エアバッグ P.34
- B** フロアマット P.26
- C** フロントシート P.123
- D** リヤシート P.124
- E** ヘッドレスト P.132
- F** シートベルト P.29
- G** コンソールボックス P.267
- H** ロックレバー P.106
- I** カップホルダー P.268
- J** アシストグリップ P.284

■ 天井



A	インナーミラー	P.135
B	サンバイザー ※1	P.274
C	バニティミラー	P.274
D	インテリアランプ※2	P.264
	パーソナルランプ	P.264
E	ムーンルーフスイッチ★	P.140
F	侵入センサー OFF スイッチ	P.68
G	ムーンルーフスイッチ★	P.140
	電動サンシェードスイッチ★	P.143
H	ヘルプネットスイッチパネル ※3	

★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※1 やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けないでください。

重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。(→P.45)



※2 図はフロントですが、リヤにも装着されています。

※³別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

安全・安心のために

～必ずお読みください～

1-1. 安全にお使いいただくために

運転する前に	26
安全なドライブのために	27
シートベルト	29
SRS エアバッグ	34
お子さまの安全のために	40
チャイルドシート	41
排気ガスに対する注意	57

1-2. ハイブリッドシステム

ハイブリッドシステムの特徴	58
ハイブリッドシステムの注意	61

1-3. 盗難防止装置

イモビライザーシステム	66
オートアラーム.....	67

運転する前に

お車を安全に運転していただくために、運転する前は必ず次のことを確認してください。

点検整備

日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施していただくことが法律で義務付けられています。適切な時期に点検整備を実施し、車に異常がないことを確認してください。

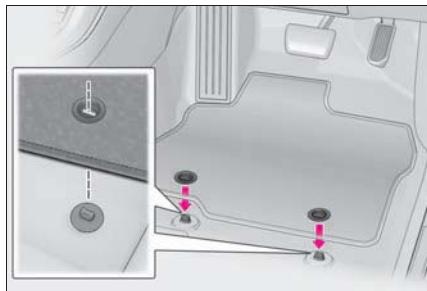
日常点検整備や点検項目などの詳細については、別冊「メンテナンスノート」を参照してください。

異常が見つかった場合は、レクサス販売店で必ず点検整備を受けてください。

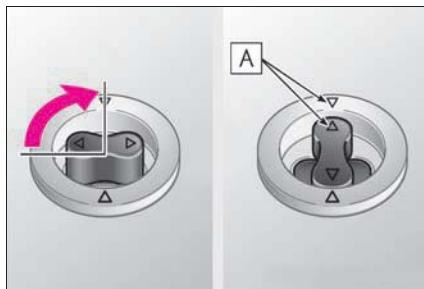
フロアマットを固定するには

専用のフロアマットを、フロアカーペットの上にしっかりと固定してお使いください。

- 1 固定フック（クリップ）にフロアマット取り付け穴をはめ込む



- 2 固定フック（クリップ）上部のレバーをまわして、フロアマットを固定する



△マークAを必ず合わせてください。
固定フック（クリップ）の形状はイラストと異なる場合があります。

⚠ 警告

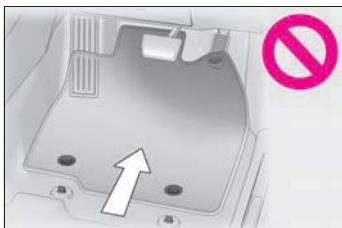
次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、フロアマットがずれて運転中に各ペダルと干渉し、思わずスピードが出たり車を停止しにくくなるなど、事故の原因になり重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 運転席にフロアマットを敷くときは
 - レクサス純正品であっても、他車種および異なる年式のフロアマットは使用しない
 - 運転席専用のフロアマットを使用する
 - 固定フック（クリップ）を使って、常にしっかりと固定する
 - 他のフロアマット類と重ねて使用しない
 - フロアマットを前後逆さまにしたり、裏返して使用しない

⚠ 警告

■ 運転する前に

- フロアマットがすべての固定フック(クリップ)で正しい位置にしっかりと固定されていることを定期的に確認し、特に洗車後は必ず確認を行う

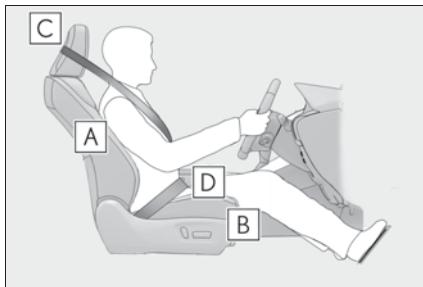


- ハイブリッドシステム停止およびシフトレバーがPの状態で、各ペダルを奥まで踏み込み、フロアマットと干渉しないことを確認する

安全なドライブのために

安全に運転するために、走行前にシートやミラーなどを適切に調整してください。

正しい運転姿勢をとるには



A まっすぐ座り、運転操作時に体が背もたれから離れないよう、背もたれの角度を調整する
(→P.123)

B ペダルがしっかりと踏み込め、ハンドルを握ったときにひじが少し曲がるようなシート位置にする
(→P.123, 134)

C ヘッドレストの中央が耳のいちばん上のあたりになるようにする
(→P.132)

D シートベルトを正しく着用する
(→P.30)

⚠ 警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 警告

- 走行中は運転席の調整をしないでください。
運転を誤るおそれがあります。
- 背もたれと背のあいだにクッションなどを入れないでください。
正しい運転姿勢がとれないばかりか、衝突したとき、シートベルトやヘッドラレストなどの効果が十分に発揮されないおそれがあります。
- フロントシートの下にものを見かないでください。
ものが挟まるとシートが固定されず、思わぬ事故や調整機構の故障の原因になります。
- 公道を走行するときは、法定速度や制限速度を遵守してください。
- 他の車や歩行者など、周囲の状況に常に注意を払い、安全運転を心がけてください。
- 飲酒運転は絶対にしないでください。
お酒を飲むと注意力と判断力がぶり、思いがけない事故を引き起こすおそれがあります。また、眠気をもよおす薬を飲んだときも運転を控えてください。
- 運転中に携帯電話を使用したり、装置の調節などをしないでください。
周囲の状況などへの注意が不十分になり、大変危険です。ハンズフリー以外の自動車電話や携帯電話を運転中に使用することは法律で禁止されています。
- 長距離ドライブの際は、疲れを感じる前に定期的に休憩してください。
また、運転中に疲労感や眠気を感じたときは、無理に運転せず、すみやかに休憩してください。

シートベルトを正しく着用するには

すべての乗員は、走行前に必ずシートベルトを正しく着用してください。
(→P.30)

シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、適切なチャイルドシートをご用意ください。
(→P.41)

ミラーを調整するには

後方が確実に確認できるように、インナーミラー・ドアミラーを正しく調整してください。
(→P.135, 136)

シートベルト

走行前にすべての乗員は必ずシートベルトを正しく着用してください。

⚠ 警告

急ブレーキや事故の際のけがを避けるため、次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

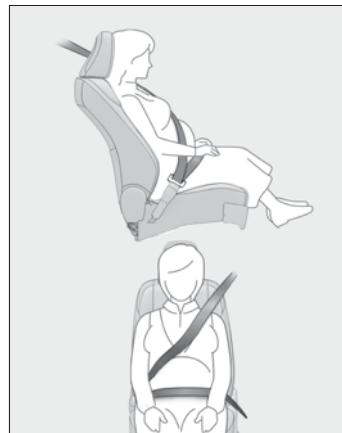
■ シートベルトの着用について

- 全員がシートベルトを着用する
- シートベルトを正しく着用する
- シートベルトは一組につき一人で使用する
お子さまでも一組のベルトを複数の人で使用しない
- お子さまはリヤ席に座らせてシートベルトを着用させる
- 背もたれは必要以上に倒さず、上体を起こし、シートに深く座る
- 肩部ベルトを腕の下に通して着用しない
- 腰部ベルトはできるだけ低い位置に密着させ着用する

■ 妊娠中の女性の場合

医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。通常の着用のしかたと同じように、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置にかかるようにお腹のふくらみの下に、肩部ベルトは確実に肩を通し、お腹のふくらみを避けて胸部にかかるように着用してください。

ベルトを正しく着用していないと、衝突したときなどに、母体だけでなく胎児までが重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



■ 疾患のある方の場合

医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。

■ お子さまを乗せるとき

お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。

万一本腰帶が首に巻き付いた場合、窒息など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。誤ってそのような状態になってしまい、バックルもはずせない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。

⚠ 警告

- シートベルトの損傷・故障について
 - ベルトやプレート、バックルなどは、シートやドアに挟むなどして損傷しないようしてください。
 - シートベルトが損傷したときはシートベルトを修理するまでシートは使用しないでください。
 - プレートがバックルに確実に挿し込まれているか、シートベルトがねじれていなかを確認してください。うまく挿し込めない場合はただちにレクサス販売店に連絡してください。
 - もし重大な事故にあったときは、明らかな損傷が見られない場合でも、シート・シートベルトを交換してください。
 - プリテンショナー付きシートベルトの取り付けや取りはずし・分解・廃棄などは、レクサス販売店以外でしないでください。
不適切に扱うと、正常に作動しなくなるおそれがあります。

正しく着用するには



- 肩部ベルトを肩に十分かける
首にかかつたり、肩からはずれないようにしてください。
- 腰部ベルトを必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させる

- 背もたれを調整し、上体を起こし、深く腰かけて座る
- ねじれがないようにする

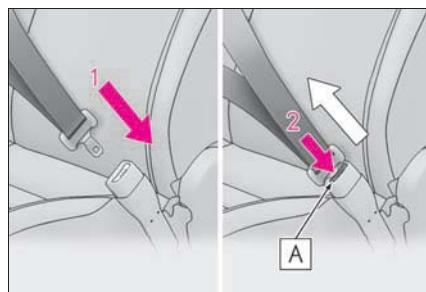
□ 知識

■ お子さまのシートベルトの使い方

この車のシートベルトは、シートベルトを着用するのに十分な、大人の体格を持った人用に設計されています。

- シートベルトが正しい位置で着用できない小さなお子さまの場合は、お子さまの体に合ったチャイルドシートを使用してください。 (→P.41)
- シートベルトが正しい位置で着用できるお子さまの場合は、シートベルトの着用のしかたに従ってください。
(→P.30)

着け方、はずし方（フロント席・リヤ外側席）



- 1 ベルトを固定するには、“力チツ”と音がするまでプレートをバックルに挿し込む
- 2 ベルトを解除するには、解除ボタン[A]を押す

□ 知識

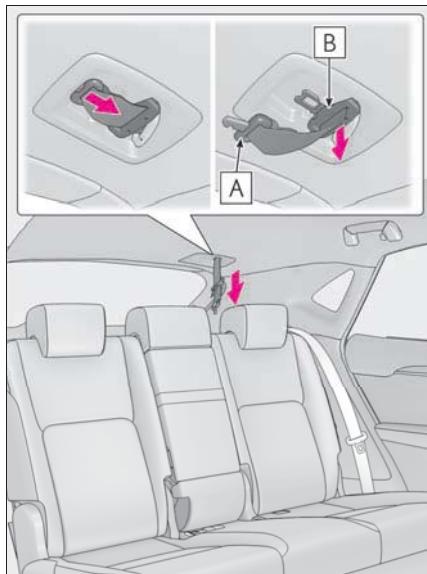
■ シートベルトロックの解除方法

急停止や衝撃があったときベルトがロック

クされます。急に体を前に倒したり、シートベルトをすばやく引き出してもロックする場合があります。一度ベルトを強く引いてからゆるめ、ゆっくり動かせば、ベルトを引き出すことができます。

着け方（リヤ中央席）

1 プレートを取り出す



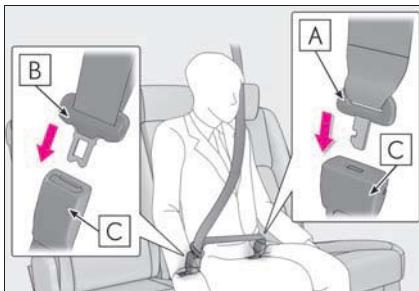
A プレート A

B プレート B

2 ベルトを固定するには、プレート

A、プレート**B**の順に“力

チッ”と音がするまでプレートをバックルに挿し込む



A プレート A

B プレート B

C バックル



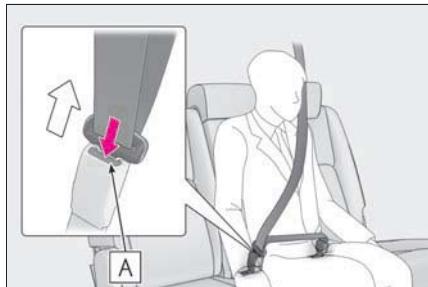
■リヤ中央席シートベルトについて

リヤ中央席シートベルトを使用するときは、必ずプレート A とプレート B をそれぞれのバックルに結合してください。（→P.31）結合しない状態で使用すると、シートベルトが十分な効果を発揮せず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



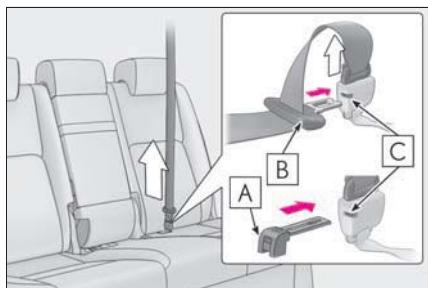
はずし方・格納のしかた（リヤ中央席）

- 1 バックルの解除ボタン**A**を押して、ベルトを解除する



- 2 メカニカルキー（→P.100）、またはプレートBをバックルの切り欠きに挿し込み、ベルトを分離する

シートベルトを格納するときは、ベルトを持ちながらゆっくり巻きもどします。



A メカニカルキー

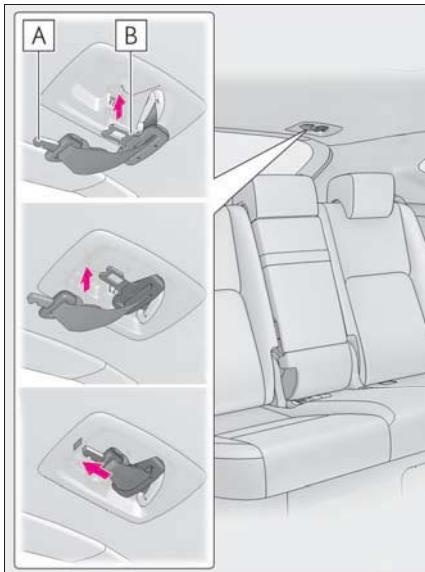
B プレートB

C バックル

- 3 プレートB、プレートAの順にホルダーに格納する

確実に固定されるよう、しっかり奥まで

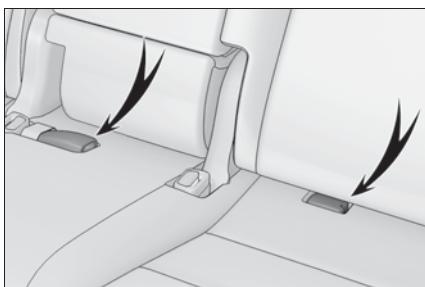
挿し込んでください。



A プレートA

B プレートB

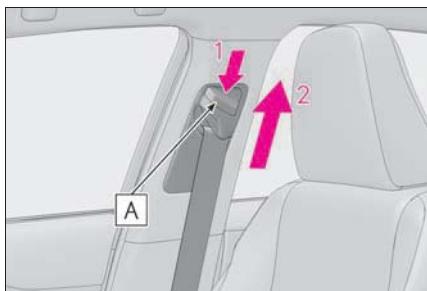
- 4 中央席シートベルトのバックルをポケットに格納する



■シートベルトロックの解除方法

急停止や衝撃があったときベルトがロックされます。急に体を前に倒したり、シートベルトをすばやく引き出してもロックする場合があります。一度ベルトを強く引いてからゆるめ、ゆっくり動かせば、ベルトを引き出すことができます。

シートベルトの高さ調節（フロント席）

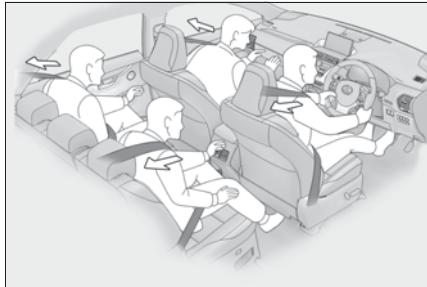


- 1 解除ボタン**A**を押しながら、アジャスターを下げる
 - 2 アジャスターを上げる
- “カチッ”と音がして固定されるところまで動かしてください。

シートベルトプリテンショナー（フロント席・リヤ外側席）

前方・側方から強い衝撃を受けたとき、シートベルトを引き込むことで適切な乗員拘束効果を確保します。

前方・側方からの衝撃が弱いときや、うしろからの衝撃、横転のときは通常は作動しません。



知識

■ シートベルトプリテンショナーについて

シートベルトプリテンショナーは、一度しか作動しません。玉突き衝突などで連續して衝撃を受けた場合でも、一度作動したあとは、その後の衝突では作動しません。

▲ 警告

■ プリテンショナー付きシートベルトについて

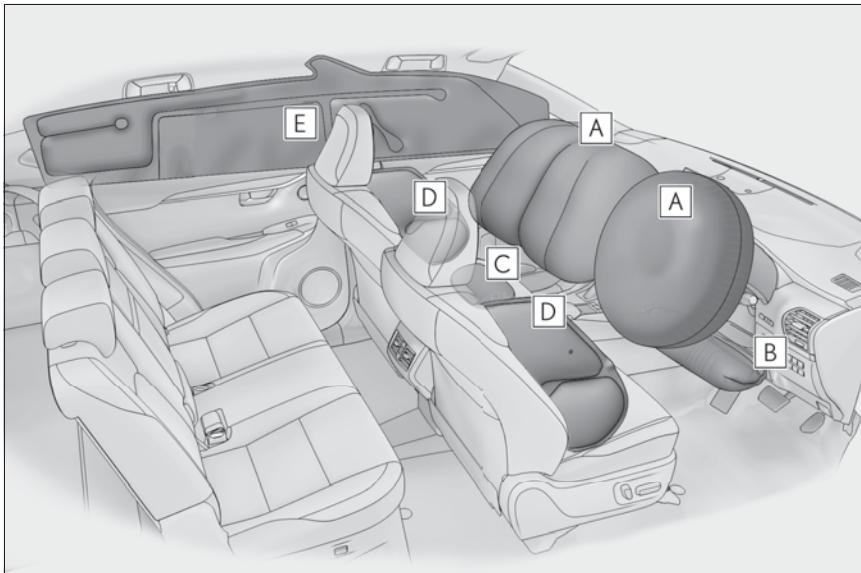
シートベルトプリテンショナーが作動すると、SRSエアバッグ／プリテンショナー警告灯が点灯します。その場合は、シートベルトを再使用することができないため、必ずレクサス販売店で交換してください。

SRS エアバッグ

SRS エアバッグは乗員に重大な危害がおよぶような強い衝撃を受けたときにふくらみ、シートベルトが体を拘束する働きと併せて乗員への衝撃を緩和させます。

SRS エアバッグシステム

■ SRS エアバッグの配置



▶ フロント SRS エアバッグ

- A 運転席 SRS エアバッグ／助手席 SRS エアバッグ（運転者と助手席乗員の頭や胸などへの衝撃を緩和）
- B SRS ニーエアバッグ（運転者の衝撃緩和を補助）
- C SRS シートクッションエアバッグ（助手席乗員の衝撃緩和を補助）
- ▶ SRS サイド&カーテンシールドエアバッグ
- D SRS サイドエアバッグ（フロント席乗員の胸や腰などへの衝撃を緩和）
- E SRS カーテンシールドエアバッグ（フロント席とリヤ外側席乗員の主に頭部への衝撃を緩和）

知識

■ SRS エアバッグが展開すると

- SRS エアバッグは高温のガスにより非常に速い速度でふくらむため、すり傷・やけど・打撲などを受けることがあります。
- 作動音と共に白いガスが発生します。
- フロント席・フロントピラー・リヤピラー・ルーフサイドレールの一部分などだけでなくエアバッグ構成部品（ハンドルのハブ・エアバッグカバー・インフレーター）も数分間熱くなることがあります。エアバッグそのものも熱くなります。
- フロントウインドウガラスが破損することがあります。
- G-Link の契約期間内は、SRS エアバッグの作動または後方から強い衝撃を受けた場合、自動的に緊急通報がヘルプネットセンターに送信されます。オペレーターからの呼びかけに応答がない場合は、緊急車両を手配します。詳しくは「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

■ SRS エアバッグが作動するとき（フロント SRS エアバッグ）

- フロント SRS エアバッグは、衝撃の強さが設定値（移動も変形もしない固定された壁に、車速約 20 ~ 30km/h で正面衝突した場合の衝撃の強さに相当する値）以上の場合に作動します。ただし、次のような場合はエアバッグが作動する車速は設定値より高くなります。
 - ・ 駐車している車や標識のような衝撃によって移動や変形するものに衝突した場合
 - ・ もぐり込むような衝突の場合（例えば、車両前部がもぐり込む、下に入り込む、トラックの下敷きになるなど）

● 衝突条件によってはシートベルトプリテンショナーのみ作動する場合があります。

● 助手席の SRS シートクッションエアバッグは、シートベルトを着用していないときは作動しません。

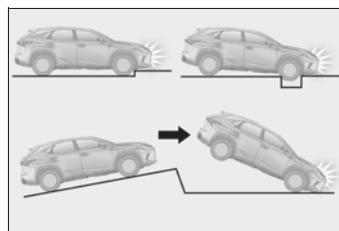
■ SRS エアバッグが作動するとき（SRS サイド & カーテンシールドエアバッグ）

- SRS サイド & カーテンシールドエアバッグは、衝撃の強さが設定値（約 1.5t の車両が、約 20 ~ 30km/h の速度で客室へ直角に衝突した場合の衝撃の強さに相当する値）以上の場合に作動します。
- 前面衝突時でも、とくに衝撃が大きい場合は左右の SRS サイド & カーテンシールドエアバッグが開く場合があります。

■ 衝突以外で作動するとき

次のような状況で車両下部に強い衝撃を受けたときも、フロント SRS エアバッグと SRS サイド & カーテンシールドエアバッグが作動する場合があります。

- 縁石や歩道の端など、固いものにぶつかったとき
- 深い穴や溝に落ちたり、乗りこえたとき
- ジャンプして地面にぶつかったり、道路から落下したとき



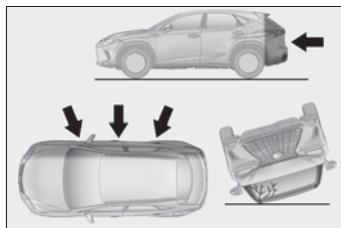
■ SRS エアバッグが作動しないとき（フロント SRS エアバッグ）

フロント SRS エアバッグは、側面や後方からの衝撃・横転・または低速での前方からの衝撃では、通常は作動しません。ただし、それらの衝撃が前方への減速を十分に引き起こす場合には、フロント SRS エアバッグが作動することがあります。

● 側面からの衝突

● 後方からの衝突

● 横転

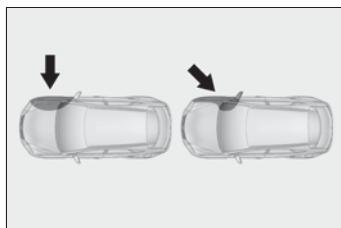


■ SRS エアバッグが作動しないとき（SRS サイド & カーテンシールドエアバッグ）

斜めから衝撃を受けた場合や、客室部分以外の側面に衝撃を受けたときには、SRS サイド & カーテンシールドエアバッグが作動しない場合があります。

● 客室部分以外の側面への衝撃

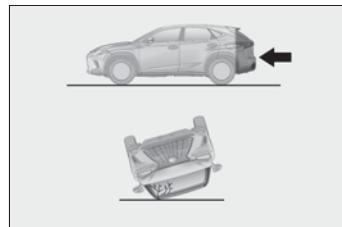
● 斜めからの衝撃



SRS サイド & カーテンシールドエアバッグは、後方からの衝撃・横転・または低速での前方や側面からの衝撃では、通常は作動しません。

● 後方からの衝突

● 横転

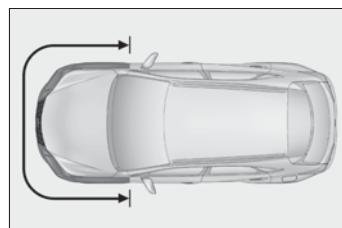


■ レクサス販売店に連絡が必要な場合

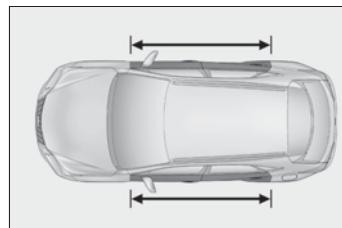
次のような場合には、点検・修理が必要になります。できるだけ早くレクサス販売店へご連絡ください。

● いずれかの SRS エアバッグがふくらんだとき

● フロント SRS エアバッグはふくらまなかつたが、事故で車両の前部が衝突したとき、または破損・変形などがあるとき

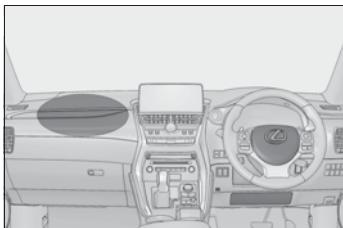


● SRS サイド & カーテンシールドエアバッグはふくらまなかつたが、事故でドアおよびその周辺部分を衝突したとき、または破損・変形などがあるとき



● ハンドルのパッド部分・ダッシュボードの助手席 SRS エアバッグ付近・インストルメントパネル下部が傷付いたり、

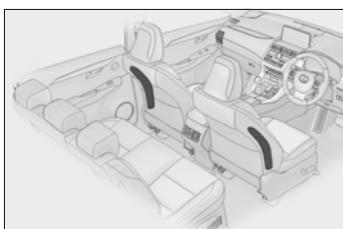
ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき



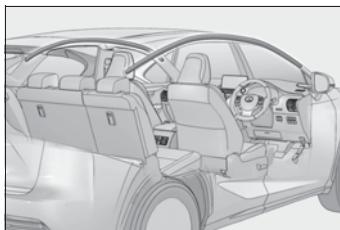
- 助手席のシートクッション表面が、傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき



- SRS サイドエアバッグが内蔵されているシート表面が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき



- SRS カーテンシールドエアバッグが内蔵されているフロントピラー・リヤピラー部・ルーフサイド部が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき



警告

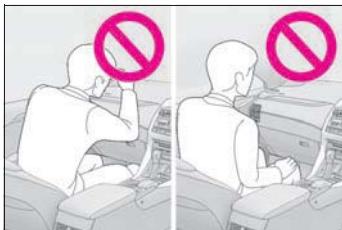
■ SRS エアバッグについて

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかない場合、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

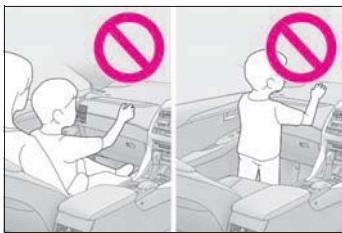
- 運転者と乗員すべてがシートベルトを正しく着用してください。
SRS エアバッグはシートベルトを補助するためのものです。
- 助手席 SRS エアバッグは強い力でふくらむため、特に乗員がエアバッグに近付きすぎると、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。乗員が SRS エアバッグのふくらむ場所に近い場合は特に危険です。シートの背もたれを調整して、シートができるだけ SRS エアバッグから離し、まっすぐに座ってください。
- お子さまがシートにしっかりと座っていないと、SRS エアバッグのふくらむ衝撃で重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。お子さまが小さくてシートベルトを使用できないときは、チャイルドシートでしっかりと固定してください。
お子さまはリヤ席に乗せ、チャイルドシートまたはシートベルトを着用されることをおすすめします。
(→P.41)

⚠ 警告

- シートの縁に座つたり、ダッシュボードにもたれかかつたりしない



- お子さまを助手席 SRS エアバッグの前に立たせたり、ひざの上に抱いたりしない



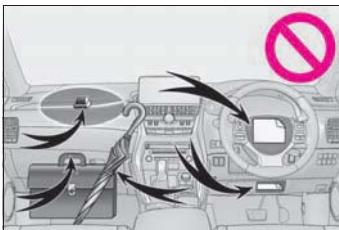
- 運転者および助手席乗員は、ひざの上に何も持たない
- ドアやフロントピラー・センターピラー・リヤピラー・ルーフサイドレールへ寄りかからない



- 助手席では、ドアに向かってひざをついたり、窓から顔や手を出したりしない

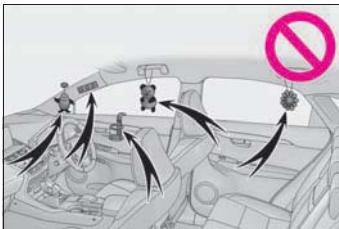


- ダッシュボード・ハンドルのパッド部分・インストルメントパネル下部などには何も取り付けたり、置いたりしない



- ドア・フロントウインドウガラス・ドアガラス・フロントピラーおよびリヤピラー・ルーフサイドレール・アシストグリップなどには何も取り付けない

(速度制限ラベルを除く : →P.336)



- コートフックにハンガーなどの硬いものをかけないでください。
SRS カーテンシールドエアバッグが作動したときに投げ出されて重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 警告

- SRS ニーエアバッグがふくらむ場所にビニールカバーが付いている場合は、取り除いてください。
- SRS サイドエアバッグや SRS シートクッションエアバッグがふくらむ場所を覆うようなシートアクセサリーを使用しないでください。エアバッグが展開する際、アクセサリーが干渉するおそれがあります。そのようなアクセサリーがエアバッグが正常に作動するのをさまたげ、システムを不能にしたり、またはエアバッグが誤って展開したりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- SRS エアバッグシステム構成部品の周辺は、強くたたくなど過度の力を加えないでください。
SRS エアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。
- SRS エアバッグがふくらんだ直後は、構成部品が熱くなっているため、ふれないでください。
- SRS エアバッグがふくらんだあとに、もし呼吸が苦しく感じたら、ドアやドアガラスを開けて空気を入れるか、安全を確認して車外に出てください。皮膚の炎症を防ぐため、残留物はできるだけ早く洗い流してください。
- SRS エアバッグが収納されているパッド部およびフロント・リヤピラー・ガーニッシュ部に傷が付いていたり、ひび割れがあるときはそのまま使用せず、レクサス販売店で交換してください。

■ 改造・廃棄について

- レクサス販売店への相談なしに、次の改造・廃棄をしないでください。
- SRS エアバッグが正常に作動しなくなったり、誤ってふくらむなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- SRS エアバッグの取りはずし・取り付け・分解・修理
 - ハンドル・インストルメントパネル・ダッシュボード・シート・シート表皮・フロントピラー・センター・ピラー・リヤピラー・ルーフサイドレール周辺の修理・取りはずし・改造
 - フロントフェンダー・フロントバンパー・車内側面部の修理、改造
 - グリルガード（ブルバー・カンガルーバーなど）・除雪装置・ウインチなどの取り付け
 - サスペンションの改造
 - CD プレーヤー・無線機などの電化製品の取り付け

お子さまの安全のために

お子さまを乗せるときは、次のことをお守りください。

- シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、適切なチャイルドシートをご用意ください。 (→P.41)
- 運転装置にふれるのを防ぐため、お子さまはリヤシートに乗ることをおすすめします。
- 走行中にドアを開けたり、パワーウィンドウを誤操作したりしないように、チャイルドプロテクター (→P.107)・ウインドウロックスイッチ (→P.140) をご使用ください。
- 小さなお子さまには、パワーウィンドウ・ボンネット・バックドアやシートなど、体を挟まるおそれがある装備類を操作させないでください。

- 車にお子さまを乗せる場合は、お子さまの安全を確保するための注意事項やチャイルドシートの取り付け方などをまとめた、P.41 を参照してください。



■ お子さまを乗せるときは

- お子さまを車の中に残したままにしないでください。車内が高温になって熱射病や脱水症状になり、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。また、お子さまが車内の装置を操作し、ドアガラスなどに挟まれたり、発炎筒などでやけどしたり、運転装置を動かして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

チャイルドシート

ここでは、お車にチャイルドシートを取り付ける前にお守りいただきたいことや、チャイルドシートの種類および取り付け方法などを記載しています。

- シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、チャイルドシートをお使いください。お子さまの安全のために、チャイルドシートはリヤシートに取り付けてください。
取り付け方法は、商品に付属の取扱説明書に必ず従ってください。
- レクサスでは、より安全にお使いいただくために、レクサス純正チャイルドシートの使用を推奨しています。
レクサス純正チャイルドシートは、レクサス車のために作られたチャイルドシートです。レクサス販売店で購入することができます。

目次

- 知つておいていただきたいこと：
→P.41
- チャイルドシートについて：→P.42
- チャイルドシートを助手席で使用するときは：→P.44
- チャイルドシートをリヤシートで使用するときは：→P.46
- チャイルドシートの取り付け方法
・ シートベルトで固定する：→P.47

- ・ ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーで固定する：→P.50
- ・ トップテザーアンカーを使用する：→P.55

知つておいていただきたいこと

- チャイルドシートに関する注意事項および法規について、優先してお守りください。
- 車の仕様やお子さまの年齢・体格に合わせて、適切なチャイルドシートをお選びください。
- 車の取り付けに合った、ECE R44[※] または ECE R129[※] に適合するチャイルドシートを使用してください。
- お子さまが成長し、適切にシートベルトが着用できるようになるまでは、お子さまに合ったチャイルドシートを使用してください。

[※] ECE R44、ECE R129 は、チャイルドシートに関する国連法規です。



■ お子さまを乗せるときは

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないとい、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 事故や急停止の際、効果的にお子さまを保護するために、必ずお子さまの年齢や体の大きさに合ったチャイルドシートを使用して、しっかりと体を固定してください。お子さまに最適なチャイルドシートについては、チャイルドシート製造業者、または販売業者にご相談ください。

⚠ 警告

- レクサスでは、お子さまの年齢や体の大きさに合った適切なチャイルドシートをリヤシートに取り付けることを推奨します。事故統計によると、フロントシートよりリヤシートに適切に取り付けるほうがより安全です。
 - お子さまを腕の中に抱くのはチャイルドシートのかわりにはなりません。事故の際、お子さまがフロントウインドウガラスや乗員、車内の装備にぶつかるおそれがあります。
 - チャイルドシートにはお子さまを1人だけ乗せて、チャイルドシートのベルトで体を固定してください。
- チャイルドシートについて**
- 次のことをお守りいただかないと、急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに飛ばされるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 事故等で車両に強い衝撃を受けた場合は、チャイルドシートにも目に見えない破損があるおそれが強いため、再使用しないでください。
 - チャイルドシートによっては、取り付けができない、または取り付けが困難な場合があります。その場合は、車への取り付けに適したチャイルドシートであるか確認ください。
(→P.47, 50) 本書のチャイルドシート固定方法およびチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。
 - チャイルドシートを使用しないときであっても、シートに適切にしっかりと取り付けた状態にしてください。ゆるめた状態で客室内に置くことは避けてください。

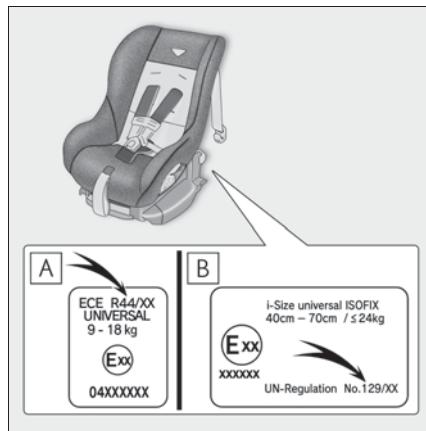
- チャイルドシートの取りはずしが必要な場合は、車両からはずして保管するか、ラゲージルーム内に容易に動かないように収納してください。

チャイルドシートについて

お手持ちのチャイルドシートについては、次の項目を確認のうえ、車に取り付けてください。

■ チャイルドシートの規格

ECE R44^{※1} または、ECE R129^{※1, 2} に適合したチャイルドシートを使用してください。適合したチャイルドシートには、次の認可マークが表示されています。チャイルドシートに付いている認可マークを確認してください。



法規番号の表示例

A ECE R44 認可マーク ※3

対象となるお子さまの体重の範囲が記載されています。

B ECE R129 認可マーク ※3

対象となるお子さまの身長の範囲および使用可能な体重が記載され

ています。

※¹ECE R44、ECE R129 は、チャイルドシートに関する国連法規です。

※²ECE R129 に適合したチャイルドシートを購入できない場合があります。
チャイルドシート製造業者または販売業者にご相談ください。

※³表示されているマークは、商品により異なります。

■ 質量グループについて (ECE R44 のみ)

この質量グループは、「シート位置別チャイルドシート適合性一覧表」を確認する際に必要となります。「シート位置別チャイルドシート適合性一覧表」と合わせてご確認ください。
(→P.47, 52)

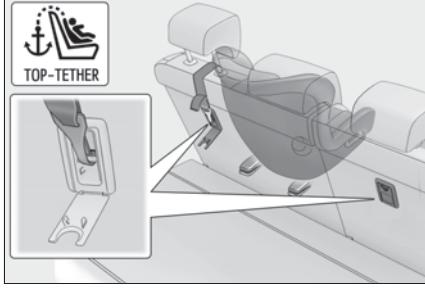
■ チャイルドシート固定方法の種類

チャイルドシートのご使用については、チャイルドシートに付属の取扱説明書をご確認してください。

ECE R44 の基準に適合するチャイルドシートはお子さまの体重により次の 5 種類に分類されます。

質量グループ	お子さまの体重	参考年齢 [※]
グループ 0	10kg まで	9ヶ月頃まで
グループ 0+	13kg まで	1歳半頃まで
グループ I	9 ~ 18kg	9ヶ月頃 ~ 4歳頃まで
グループ II	15 ~ 25kg	3歳頃 ~ 7歳頃まで
グループ III	22 ~ 36kg	6歳頃 ~ 12歳頃まで

* 年齢の範囲は、おおよその目安になります。お子さまの体重に合わせて選択してください。

固定方法		ページ
シートベルトで固定する		P.47
ISOFIX チャイルドシート固定専用バーで固定する		P.50
テザーベルトを固定する		P.55

チャイルドシートを助手席で使用するときは

■ 助手席にチャイルドシートを取り付けるとき

お子さまの安全のために、チャイルドシートはリヤシートに取り付けてください。

やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、助手席シートを次のように調整し、チャイ

ルドシートを取り付けてください。



● 背もたれを可能な限り起こす

- シートをいちばんうしろに下げる
- シートの高さをいちばん高い位置まで上げる
- ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、ヘッドレストを取りはずす

! 警告

■ チャイルドシートを取り付けるとき

やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、次のことを必ずお守りください。

助手席 SRS エアバッグはかなりの速度と力でふくらむので、お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

● 助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けないでください。

うしろ向きに取り付けていると、事故などで助手席 SRS エアバッグがふくらんだとき、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

助手席側のサンバイザーに、同内容のラベルが貼られています。併せて参照してください。



⚠ 警告

- 助手席にチャイルドシートを前向きに取り付ける場合には、シートをいちばんうしろに下げ、シートの高さをいちばん高い位置まで上げて取り付けてください。
ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、ヘッドレストを取りはずしてください。



- チャイルドシートに座らせている場合でも、ドア・シート・フロントピラー・ルーフサイドレール付近にお子さまの頭や体のどの部分も、もたれかけないようにしてください。
SRSエアバッグがふくらんだ場合、大変危険であり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- ジュニアシートを使用している場合は、肩部ベルトが常にお子さまの肩の中心にくるようにしてください。ベルトを首から離すと共に肩から落ちないようにしてください。

チャイルドシートをリヤシートで使用するときは

⚠ 警告

■ チャイルドシートを取り付けるとき

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかない場合、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- お子さまの年齢や体の大きさに合ったチャイルドシートを使用して、リヤシートに取り付けてください。
- 運転席とチャイルドシートが干渉し、チャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、助手席側のリヤ席に取り付けてください。



- 助手席シートとチャイルドシートが干渉しないように、助手席シートを調整してください。
- チャイルドシートに座らせている場合でも、ドア・シート・リヤピラー・ルーフサイドレール付近にお子さまの頭や体のどの部分も、もたれかけないようにしてください。
SRSエアバッグがふくらんだ場合、大変危険であり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

チャイルドシートをシートベルトで固定する

■ シート位置別チャイルドシートの適合性一覧表について

チャイルドシート適合性一覧表（→P.47）は、お客様がお持ちのチャイルドシートについて、使用可能なチャイルドシートの種類や取り付け可能な座席位置を記号で表しています。また、お子さまにあつた推奨チャイルドシートについても選択することができます。

次に記載されている、「シートベルトで取り付けるタイプのチャイルドシートの質量グループ・取り付け可能な座席位置の確認のしかた」も合わせて確認ください。

■ シート位置別チャイルドシート適合性一覧表（シートベルトでの取り付け）

▶ フロントシート

質量グループ	助手席	推奨チャイルドシート
0 (10kgまで)	×	—
0+ (13kgまで)	×	—
I (9~18kg)	うしろ向き ×	“レクサス純正 NEO G-Child baby”
	前向き UF※1	
II, III (15~36kg)	UF※1	“レクサス純正ジュニアシート”

▶ リヤシート

質量グループ	右席	左席	中央席	推奨チャイルドシート
0 (10kgまで)	U※3	U※3	×	“レクサス純正 NEO G-Child baby”
0+ (13kgまで)	U※3	U※3	×	“レクサス純正 NEO G-Child baby”

■ シートベルトで取り付けるタイプのチャイルドシートの質量グループ・取り付け可能な座席位置の確認のしかた

- お子さまの体重から、該当する「質量グループ」を確認する（→P.43）

(例1)：体重が12kgの場合、質量グループは「0+」になります。

(例2)：体重が15kgの場合、質量グループは「I」になります。

- チャイルドシートの取り付け可能な位置と対応するチャイルドシートの種類（記号）を「シート位置別チャイルドシート適合性一覧表」から確認して、適切なシートを選択する。（→P.47）

質量グループ	右席	左席	中央席	推奨チャイルドシート
I (9 ~ 18kg)	U※2,3	U※2,3	×	“レクサス純正 NEO G-Child baby”
II , III (15 ~ 36kg)	U※2,3	U※2,3	×	“レクサス純正ジュニアシート”

表に記入する記号の説明

U : この質量グループでの使用を許可された汎用（ユニバーサル）カテゴリーのチャイルドシートに適しています。

UF : この質量グループでの使用を許可された汎用（ユニバーサル）カテゴリーの前向きのチャイルドシートに適しています。

× : チャイルドシートを取り付けることはできません。

※1 シートの高さ調整ができる場合は、いちばん高い位置に調整してください。

ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合、ヘッドレストの取りはずしが可能なときは、ヘッドレストを取りはずしてください。

※2 ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合、ヘッドレストの取りはずしが可能なときは、ヘッドレストを取りはずしてください。

※3 リヤマニュアルシートを使用する時 :

シートバックを直立状態から3段目の位置に調整してください。

リヤパワーシートを使用する時 :

シートバックとチャイルドシートの間に隙間がある場合は、シートバックと良い接触位置になるまでシートバックを調整してください。

● リヤシート左席にチャイルドシートを取り付けたときは、リヤシート中央席に乗車しないでください。

● 表に記載されていないチャイルドシートを使用する場合は、チャイルドシート製造業者または販売業者にご相談ください。

■ シートベルトで固定する たれを調整してください。

チャイルドシートに付属の取扱説明

書に従ってチャイルドシートを取り

付けてください。

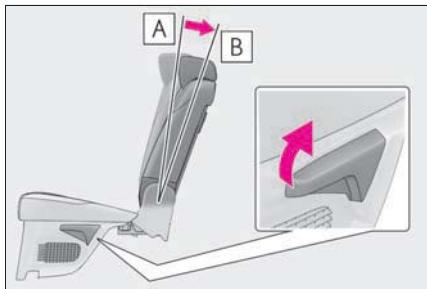
1 背もたれを調整する

▶ フロントシート、リヤパワーシートを使用するとき

背もたれとチャイルドシートの間にすき間がある場合は、背もたれとチャイルドシートのすき間が少なくなるように背も

▶ リヤマニュアルシートを使用するとき

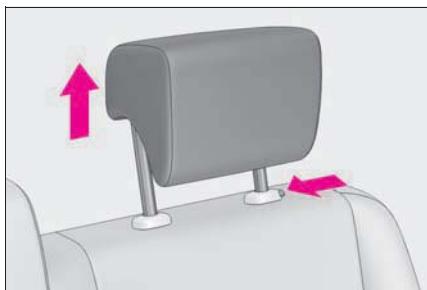
レバーを引き、背もたれをいったん前に倒してから、背もたれを起こします。（直立位置）背もたれを直立位置から3段目の位置に調整してください。



A 直立位置

B 3段目の固定位置

- 2 ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、ヘッドレストを取りはずしてください。（→P.133）



- 3 チャイルドシートにシートベルトを取り付け、プレートをバックルに“カチッ”と音がするまで挿し込む。ベルトがねじれていないようにする

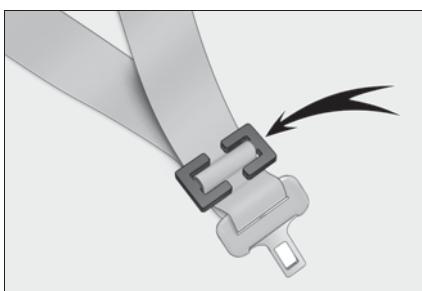
チャイルドシートに付属の取扱説明書に従い、シートベルトをチャイルドシート

にしっかりと固定させてください。



- 4 チャイルドシートにシートベルトの固定装置が備わっていない場合は、ロッキングクリップ（別売）を使用して固定する

ロッキングクリップの購入にあたっては、レクサス販売店にご相談ください。（ロッキングクリップ品番：73119-22010）



- 5 取り付け後はチャイルドシートを前後左右にゆすり、しっかりと固定されていることを確認してください。

■ チャイルドシートの取りはずし

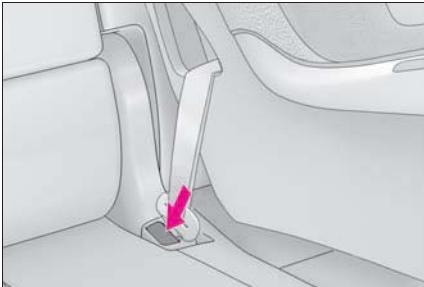
バックルの解除ボタンを押し、シートベルトをチャイルドシートから取りはずす

バックル解除時に、シートクッションの反発により、チャイルドシートが跳ね上がることがあります。

チャイルドシートを抑えながらバックルの解除をしてください。

シートベルトは自動的に巻き取られます

ので、ゆっくり戻してください。



⚠ 警告

■ チャイルドシートを取り付けるとき

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。万一ベルトが首に巻き付いた場合、窒息など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。誤ってそのような状態になってしまい、バックルもはずせない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。
- シートベルトのプレートとバックルがしっかりと固定されて、ベルトがねじれていなか確認してください。
- チャイルドシートを前後左右にゆすって、しっかりと固定されているか確認してください。
- チャイルドシートを固定したあとは、シートを調整しないでください。
- ジュニアシートを使用している場合は、肩部ベルトが常にお子さまの肩の中心にくるようにしてください。ベルトを首から離すと共に肩から落ちないようにしてください。

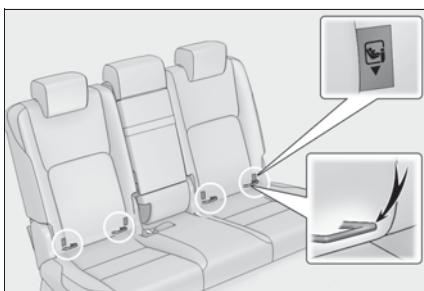
- 必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。

- リヤシート左席にチャイルドシートを取り付けたときはリヤシート中央席に座らないでください。シートベルトとチャイルドシートが干渉しシートベルトが正しく着用できないおそれがあります。



■ チャイルドシートを ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーで固定する

■ ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーについて



この車はリヤ外側席に ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーが装備されています。(固定専用バーが装備されていることを示すタグがシートに付いています)

■ ISOFIX 対応チャイルドシートについて

ECE R44[※] または、ECE R129[※] に適合したチャイルドシートを使用

してください。
適合したチャイルドシートには、認可マークが表示されています。
(→P.42)

※ ECE R44、ECE R129 は、チャイルドシートに関する国連法規です。

■ シート位置別チャイルドシート適合性一覧表について

チャイルドシート適合性一覧表
(→P.52, 53) は、お客様がお持ちのチャイルドシートについて、使用

■ ECE R44 チャイルドシートのサイズ等級、固定具について

チャイルドシートに表示される分類記号と、それにともなう取り付け器具の記号になります。

サイズ等級	固定具	形状・大きさ	使用の向き	お子さまの大きさ
A	ISO/F3	全高	前向き	幼児
B	ISO/F2	低型	前向き	幼児
B1	ISO/F2X	低型	前向き	幼児
C	ISO/R3	大型	うしろ向き	幼児
D	ISO/R2	小型	うしろ向き	幼児
E	ISO/R1	-	うしろ向き	乳児
F	ISO/R1	キャリコット※	左向き	乳児
G	ISO/L2	キャリコット※	右向き	乳児

※ キャリコットはお子さまを寝かせた姿勢で横向きに取り付けることのできる乳児用シートのことです。詳しくはチャイルドシート製造業者または販売業者にお尋ねください。

■ ECE R44 ISOFIX 対応チャイルドシートの質量グループ・サイズ等級の確認のしかた

1 お子さまの体重から、該当する「質量グループ」を確認する
(→P.43)

(例 1) : 体重が 12kg の場合、質量グループは「0 +」になります。

可能なチャイルドシートの種類や取り付け可能な座席位置を記号で表しています。また、お子さまにあつた推奨チャイルドシートについても確認することができます。

次に記載されている、「サイズ等級、固定具および「ECE R44 ISOFIX 対応チャイルドシートの質量グループ・サイズ等級の確認のしかた」も合わせて確認ください。

(例 2) : 体重が 15kg の場合、質量グループは「1」になります。

2 サイズ等級を確認する

手順 1 で確認した「質量グループ」を「シート位置別チャイルドシート適合性一覧表」から該当するサイズ等級を確認します。(→P.52) ※

(例 1) : 質量グループが「0 +」の場合、

サイズ等級は「C」・「D」・「E」が該当します。

(例 2)：質量グループが「I」の場合、サイズ等級は「A」・「B」・「B1」・「C」・「D」が該当します。

* ただし、該当のサイズ等級でも適合性

一覧表の「車両 ISOFIX 位置」に「×」と記載されているものは選択できません。また、「IL」と記載されている場合は、「推奨チャイルドシート」(→P.52) で指定されている製品を使用してください。

■ シート位置別チャイルドシート適合性一覧表 (ISOFIX での取り付け [ECE R44 適合のチャイルドシート])

▶ リヤシート

質量グループ	サイズ等級	固定具	車両 ISOFIX 位置		推奨チャイルドシート
			右席	左席	
キャリコット	F	ISO/L1	×	×	—
	G	ISO/L2	×	×	—
0 (10kgまで)	E	ISO/R1	IL	IL	“レクサス純正 NEO G-Child ISO leg”
0+ (13kgまで)	E	ISO/R1	IL	IL	“レクサス純正 NEO G-Child ISO leg”
	D	ISO/R2	IL	IL	“レクサス純正 NEO G-Child ISO leg”
	C	ISO/R3	IL	IL	
I (9~18kg)	D	ISO/R2	IL	IL	—
	C	ISO/R3	IL	IL	
	B	ISO/F2	IUF*	IUF*	—
			IL*	IL*	
	B1	ISO/F2X	IUF*	IUF*	—
			IL*	IL*	
	A	ISO/F3	IUF*	IUF*	—
			IL*	IL*	

表に記入する記号の説明

IUF : この質量グループでの使用を許可された汎用（ユニバーサル）カテゴリーの ISOFIX 対応の前向きチャイルドシートに適しています。

- IL : ISOFIX チャイルドシートのリストに示す準汎用（セミユニバーサル）カテゴリーのチャイルドシートに適しています。
 - × : ISOFIX チャイルドシートを取り付けることはできません。
 - * ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合、ヘッドレストの取りはずしが可能なときは、ヘッドレストを取りはずしてください。
- リヤマニュアルシートを使用する時：
シートバックを直立状態から 3 段目の位置に調整してください。
 - リヤパワーシートを使用する時：
シートバックとチャイルドシートの間に隙間がある場合は、シートバックと良い接触位置になるまでシートバックを調整してください。
 - リヤシート左席に ISOFIX チャイルドシートを取り付けたときは、リヤシート中央席に乗車しないでください。
 - 表に記載されていないチャイルドシートを使用する場合は、チャイルドシート製造業者または販売業者にご相談ください。
 - シート位置別チャイルドシート適合性一覧表（ISOFIX での取り付け [ECE R129 適合のチャイルドシート]）

	着席位置			
	フロントシート	リヤシート		
		助手席	右席	左席
i-Size チャイルドシート	×	i-U	i-U	×

表に記入する文字の説明

- i-U : 前向きおよびうしろ向きの i-Size 汎用（ユニバーサル）チャイルドシートに適しています。
 i-UF : 前向きの i-Size 汎用（ユニバーサル）チャイルドシートのみに適しています。
 × : i-Size 汎用（ユニバーサル）チャイルドシートを取り付けることはできません。

- ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合、ヘッドレストの取りはずしが可能なときは、ヘッドレストを取りはずしてください。
- リヤマニュアルシートを使用する時：
シートバックを直立状態から 3 段目の位置に調整してください。
- リヤパワーシートを使用する時：
シートバックとチャイルドシートの間に隙間がある場合は、シートバックと良い接触位置になるまでシートバックを調整してください。
- リヤシート左席にチャイルドシートを取り付けたときは、リヤシート中央

席に乗車しないでください。

■ ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーで固定する

チャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってチャイルドシートを取り付けてください。

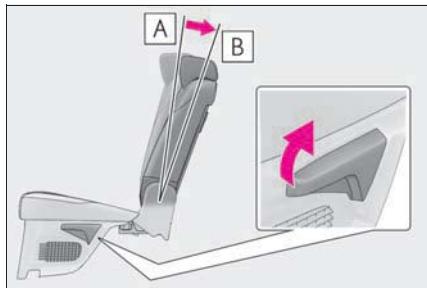
1 背もたれを調整する

▶ リヤパワーシートを使用するとき
背もたれとチャイルドシートの間にすき間がある場合は、背もたれとチャイルドシートのすき間が少なくなるように背もたれを調整してください。

▶ リヤマニュアルシートを使用するとき

レバーを引き、背もたれをいつたん前に倒してから、背もたれを起こします。(直立位置)

背もたれを直立位置から3段目の位置に調整してください。

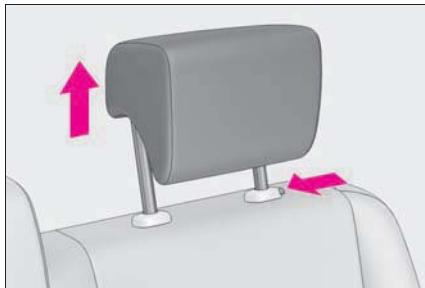


A 直立位置

B 3段目の固定位置

2 ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、

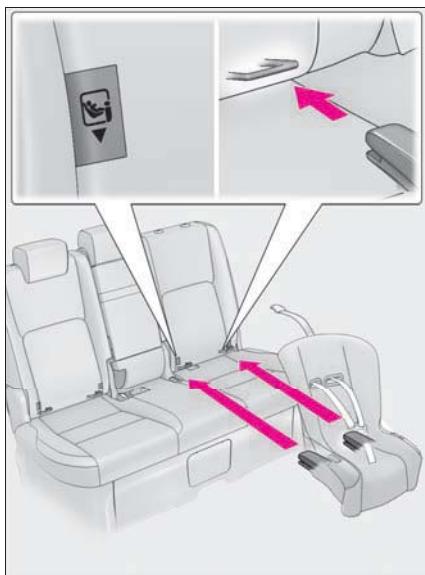
ヘッドレストを取りはずしてください。(→P. 133)



3 チャイルドシートをシートに取り付ける

チャイルドシートの取り付け金具をチャイルドシート固定専用バーに取り付けます。

取り付け方法は、それぞれのチャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってください。



4 取り付けたチャイルドシートを前後左右にゆすり、固定されていることを確認する

⚠ 警告

■ チャイルドシートを取り付けるとき

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- チャイルドシートを前後左右にゆすって、しっかりと固定されているか確認してください。
- チャイルドシートを固定したあとは、シートを調整しないでください。
- ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーを使用するときは、周辺に障害物がないか、シートベルトが挟まっているいかなどを確認してください。
- 必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。
- リヤシート左席にチャイルドシートを取り付けたときはリヤシート中央席に座らないでください。シートベルトとチャイルドシートが干渉しシートベルトが正しく着用できないおそれがあります。

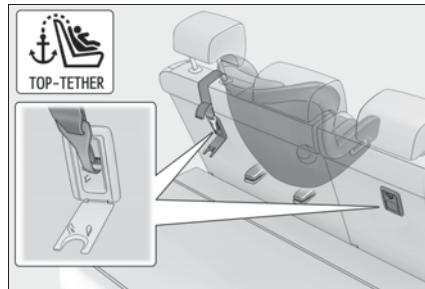


トップテザーアンカーを使用する

■ トップテザーアンカーについて

この車はリヤ外側席にトップテザーアンカーが装備されています。

テザーベルトを固定するときに使います。

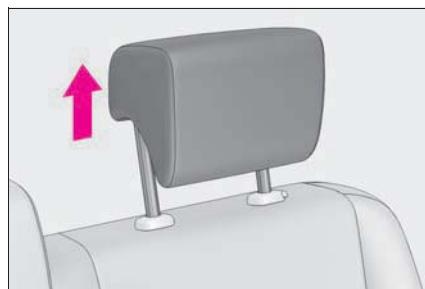


■ テザーベルトをトップテザーアンカーに固定する

チャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってチャイルドシートを取り付けてください。

1 ヘッドレストを上げる

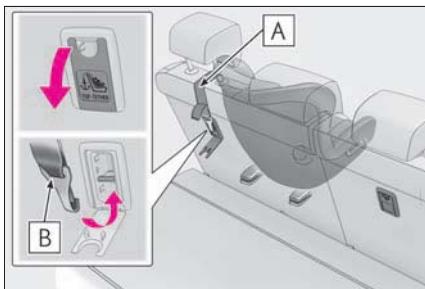
ヘッドレストとチャイルドシートまたはテザーベルトが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、ヘッドレストを取りはずしてください。
(→P.132)



- 2 フタを開けてトップテザーアンカーにフックを固定し、テザーベルトを締める**

テザーベルトをピンと張り、フックがしっかりと固定されていることを確認します。

ヘッドレストを上げた状態でチャイルドシートを取り付けるときは、テザーベルトは必ずヘッドレストの下へ通してください。



A テザーベルト

B フック

⚠ 警告

■ チャイルドシートを取り付けるとき

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害によぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- テザーベルトがしっかりと固定されて、ベルトがねじれていなか確認してください。
- テザーベルトはトップテザーアンカー以外に掛けないでください。
- チャイルドシートを前後左右にゆすって、しっかりと固定されているか確認してください。
- チャイルドシートを固定したあとは、シートを調整しないでください。

● 必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。

● ヘッドレストを上げた状態でチャイルドシートを取り付けるときは、ヘッドレストを引き上げてトップテザーアンカーに固定したあとに、ヘッドレストを下げないでください。

⚠ 注意

■ トップテザーアンカーについて

使用しないときはフタを確実に閉めてください。開けたままにしておくとフタが破損するおそれがあります。

排気ガスに対する注意

排気ガスには吸引すると人体に有害な物質が含まれています。



警告

排気ガスには無色・無臭で有害な一酸化炭素（CO）が含まれているため、次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、排気ガスが車内に侵入し、多量の排気ガスが眠気を招き事故の原因となるほか、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■走行中の留意事項

バックドアを閉じてください。
バックドアが閉じているのに車内で排気ガス臭がするときは、ドアガラスを開けて空気を入れ替え、すみやかにレクサス販売店で点検整備を受けてください。

■駐車するとき

- 車庫内など換気が悪い場所や囲まれた場所では、ハイブリッドシステムを停止してください。
- 長時間、ハイブリッドシステムを作動したままにしないでください。
やむを得ないときは、開かれた場所に車を停め、排気ガスが車内に入つてこないことを確認してください。
- 降雪時や雪が積もった場所では、ハイブリッドシステムが作動したままにしないでください。まわりに積もった雪で排気ガスが滞留して、車内に侵入するおそれがあります。

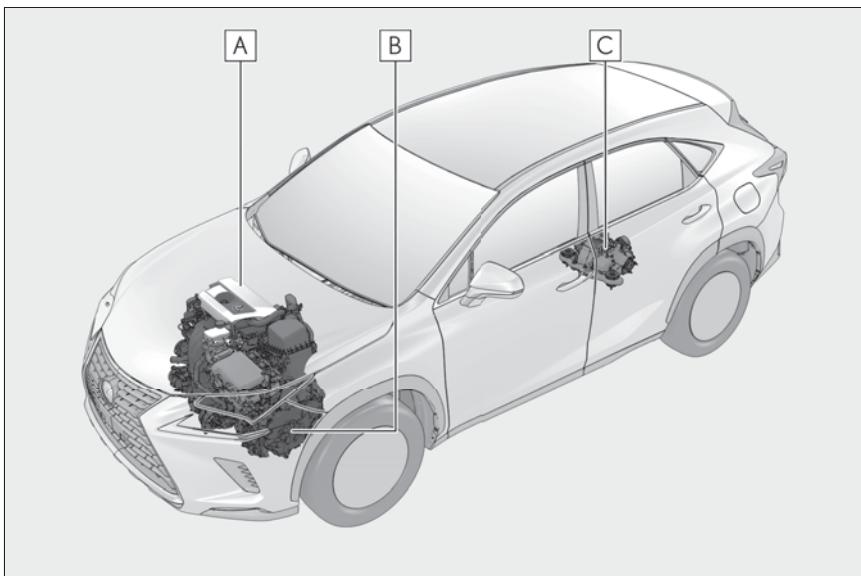
■排気管について

排気管は定期的に点検する必要があります。排気管等の腐食などによる穴や亀裂、および継ぎ手部の損傷、また、排気音の異常などに気付いた場合は、必ずレクサス販売店で点検を受けてください。

ハイブリッドシステムの特徴

ハイブリッドシステムは、電気モーターとガソリンエンジンという2つのパワーのシナジー（相乗）効果により、優れた動力性能と低燃費化の両立を高い次元で実現したシステムです。さらに、排出ガスを低減、クリーン化した環境に配慮した技術となっています。

システムの構成部品



イラストは説明のための例であり、実際とは異なります。

- A** ガソリンエンジン
- B** フロント電気モーター
- C** リヤ電気モーター (AWD車)

■ 停車時・発進時・低速走行時

停車中はガソリンエンジンを停止[※]します。
発進時は電気モーターを使って発進します。

低速走行時や下り坂走行時もガソリンエンジンを停止[※]し、電気モーターを使って走行します。

シフトレバーがNにあるときは駆動用電池への充電が行われません。

[※] 駆動用電池の充電が必要なときやエンジン暖機中など、ガソリンエンジンが自動停止しないことがあります。
(→P.59)

■ 通常走行時

主にガソリンエンジンを使用して走

行します。

必要に応じて電気モーターを発電機として動かし、駆動用電池へ充電します。

■ 急加速時

アクセルペダルを強く踏み込むと、ガソリンエンジンに加え、駆動用電池からも電気モーターに電力を供給し、電気モーターの出力を上げ、力強く加速します。

■ 減速時・制動時（回生ブレーキ）

車輪が電気モーターを発電機として動かし、駆動用電池へ充電します。



知識

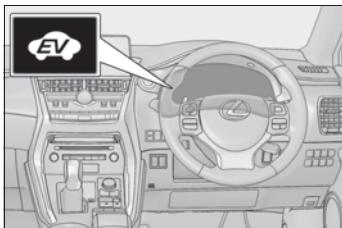
■ 回生ブレーキについて

次の場合、車の運動エネルギーを電気エネルギーに変換し、駆動用電池へ充電すると共に減速力を得ることができます。

- シフトレバーが D または S で走行中に、アクセルペダルから足を離したとき
- シフトレバーが D または S で走行中に、ブレーキペダルを踏んだとき

■ EV インジケーターについて

ガソリンエンジン停止中や、電気モーターの動力のみで走行しているときに、EV インジケーターが点灯します。



■ ガソリンエンジンの自動停止について

車両状態に応じて、ガソリンエンジンは自動的に始動・停止します。

ただし、次の状態では自動停止しないこ

とがあります。※

- ガソリンエンジン暖機中

- 駆動用電池充電時

- 駆動用電池の温度が高いとき、または低いとき

- 暖房をかけているとき

※ 状況により、上記の他にもガソリンエンジンが自動停止しない場合があります。

■ 駆動用電池の充電について

ガソリンエンジンの動力による充電や回生ブレーキにより、駆動用電池が充電されるため、車外からの充電は必要ありません。しかし、車両を長時間放置すると、少しづつ放電します。そのため少なくとも、2～3ヶ月に一度、約 30 分間または 16km ほど運転してください。

万一、駆動用電池が完全に放電し、ハイブリッドシステムを始動できないときはレクサス販売店にご連絡ください。

■ 補機バッテリーの充電について

→P.356

■ 補機バッテリーあがり発生後や、交換などでターミナルを脱着したとき

ガソリンエンジンの自動停止が行われないことがあります。

自動停止しない状態が 2～3 日続く場合は、レクサス販売店へご連絡ください。

■ ハイブリッド車特有の音と振動について

ハイブリッド車は、READY インジケーターが点灯し、走行可能な状態でも、通常の車のように、エンジン音や振動がないことがあるため、走行可能な状態であることに気が付かない場合があります。

安全のため、駐車時は確実にシフトレバーを P にして、パーキングブレーキをかけてください。

ハイブリッドシステム始動後は、次のよ

うな音や振動が発生する場合がありますが、異常ではありません。

- エンジルームからのモーター音
- ハイブリッドシステム始動時や停止時に聞こえる車両後方および駆動用電池からの音
- ハイブリッドシステム始動時および停止時に車両後方から聞こえる“コトン”、“カチッ”などの高電圧リレーの音
- バックドアを開けたときに聞こえる作動音
- ガソリンエンジンの始動・停止時や低速走行時、およびアイドリング中にトランスマッキン付近から聞こえる“コツコツ”、“カタカタ”という音
- 急加速時のエンジン音
- ブレーキペダルを踏んだときや、アクセルペダルをゆるめたときに聞こえる回生ブレーキの音
- ガソリンエンジンの始動・停止による振動
- リヤシート下部にある吸入口から聞こえるファンの音

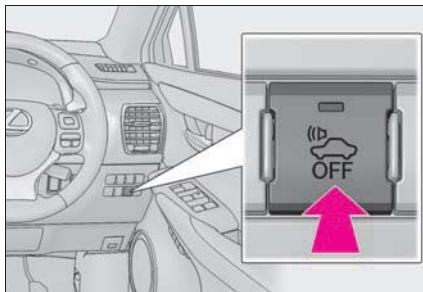
■メンテナンスや修理・廃車について
お車のメンテナンスや修理・廃車の際は必ずレクサス販売店にご相談ください。特に廃車する場合は、レクサス販売店を通じて駆動用電池の回収を行っていますので、ご協力ください。

車両接近通報装置

ガソリンエンジンが停止した状態での走行時、車両の接近を周囲の人間に知らせるため、車速に応じた音階で音を鳴らします。車速が約25km/hをこえると消音します。スイッチ操作で消音することもできます。

消音するには、READYインジケーターが点灯している状態で、スイッチを押す

スイッチ上のインジケーターが点灯します。再度スイッチを押すとONになります。ハイブリッドシステムを始動するごとに、車両接近通報装置はONになります。



知識

■車両接近通報装置について

次のような場合は、周囲の人に通報音が聞こえにくくなることがあります。

- 周囲の騒音が大きい場合
- 雨または強風の場合

また、車両接近通報装置は車両前側にがあるので、車両前方と比較して、車両後方は聞こえにくくなることがあります。

■車両接近通報一時停止スイッチのインジケーターが点滅したときは

車両接近通報装置に異常があるおそれがあります。レクサス販売店に連絡してください。

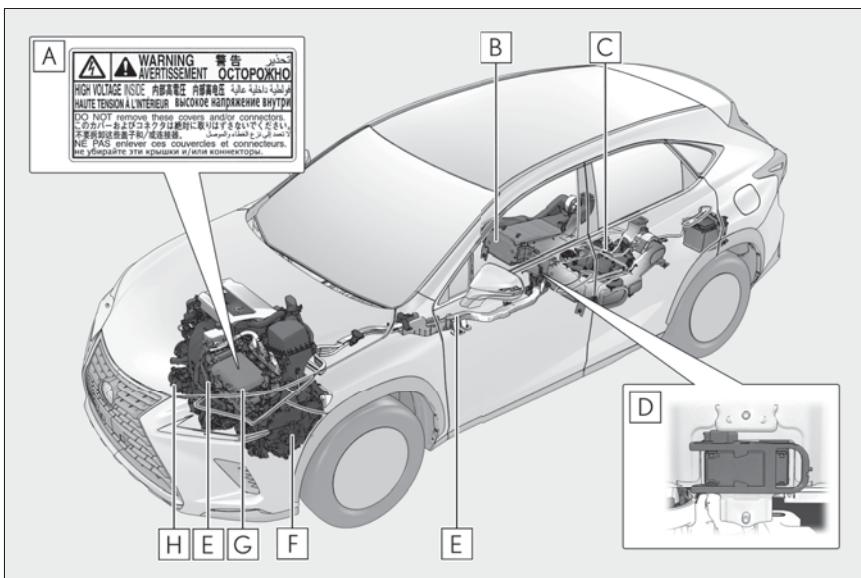
■カスタマイズ機能

車両接近通報装置の音量を大きくすることや、EVインジケーターを点灯しないように変更できます。(カスタマイズ一覧:→P.369)

ハイブリッドシステムの注意

ハイブリッドシステムには、駆動用電池・パワーコントロールユニット・オレンジ色の高圧ケーブル・電気モーターなどの高電圧部位（最高約650V）や、冷却用ラジエーターなどの高温部位がありますので、ご注意ください。なお、高電圧部位などには、取り扱い上の注意を記載したラベルが貼付してありますので、ラベルの指示に従って正しい取り扱いをしてください。

システムの構成部品



イラストは説明のための例であり、実際とは異なります。

- A** ラベル
- B** 駆動用電池
- C** リヤ電気モーター（AWD車）
- D** サービスプラグ
- E** 高電圧ケーブル（オレンジ色）
- F** フロント電気モーター
- G** パワーコントロールユニット
- H** エアコンコンプレッサー

□ 知識

■ ガス欠になったとき

ガス欠でハイブリッドシステムが始動できないときは、燃料残量警告灯（→P.324）が消灯するまで給油してから再始動してください。少量の給油では始動できない場合があります。（給油量の目安は車両水平状態で約 10.1 L です。車両の傾きによって給油量はかわります。傾いているときは、少し多めに給油してください。）

■ 電磁波について

- 高電圧部位や高電圧配線は、電磁シールド構造になっています。従来の車や家電製品と比べて、電磁波が多いということはありません。
- アマチュア無線の一部（遠距離通信）において、受信時に雑音が混入する場合がありますので、あらかじめご了承ください。

■ 駆動用電池について

駆動用電池には寿命があります。寿命は車の使い方、走行条件により異なります。

■ 適合宣言

この車両は、ECE100（バッテリー電気車両安全）に基づいた水素排出量に適合しています。

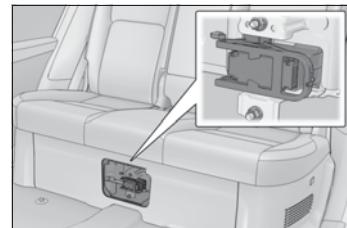
▲ 警告

■ 高電圧、高温について

この車は、高電圧システムを使用しています。

次のことをお守りいただかないと、やけどや感電など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 高電圧部位・高電圧の配線（オレンジ色）およびそのコネクターの取りはずし・分解などは絶対に行わないでください。
- 走行後はハイブリッドシステムが高温になります。車に貼ってあるラベルの指示に従い、常に高電圧・高温部位に注意してください。
- サービスプラグが駆動用電池に設置してあります。サービスプラグは絶対にさわらないでください。サービスプラグは、レクサス販売店での車両の修理時などに、駆動用電池の高電圧を遮断するためのものです。



■ 事故が発生したとき

次のことをお守りいただかないと、感電など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 続発事故防止のため安全な場所に停車して、シフトレバーを P にして、パーキングブレーキをかけて、ハイブリッドシステムを停止する。
- 高電圧部位・高電圧配線（オレンジ色）などには、絶対にさわらない

警告

- 車室内および車室外に、はみ出している電気配線には絶対さわらない
- 液体の付着やもれがある場合は絶対にさわらない
駆動用電池の電解液（強アルカリ性）が目や皮膚にふれると失明や皮膚傷害のおそれがあり危険です。万一、目や皮膚に付着した場合はただちに多量の水で洗い流し、早急に医師の診察を受けてください。
- 万一、車両火災が発生したときは、ABC 消火器を使用して消火する水をかける場合は、消火栓などから大量にかけてください。
- 前輪（FF 車）または4輪（AWD 車）が接地した状態でけん引しない
電気モーターから発電され、破損の状態によっては、火災のおそれがあり危険です。（→P.316）
- 車の下の路面などを確認し、液体のもれ（エアコンの水以外）が見つかった場合、燃料系統が損傷している可能性があります。そのままハイブリッドシステムを始動すると燃料に引火するおそれがあり危険ですので、始動しないでください。
この場合は、レクサス販売店に状況を連絡するときに併せてお伝えください。

■ 駆動用電池について

- 絶対に転売・譲渡・改造などをしないでください。廃車から取りはずされた駆動用電池は事故防止のため、レクサス販売店を通じて回収を行っていますので、ご協力ください。
適切に回収されないと、次のようなことがおこり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
 - ・不法投棄または放置され、環境汚染となるばかりか、第三者が高電圧部位に触れてしまい、感電事故が発生する
 - ・装備された車両以外で駆動用電池を使用（改造などを含む）し、感電事故、発熱・発煙・発火・爆発事故、電解液漏出事故などが発生する
- 特に、転売・譲渡などを行うと、相手にこれらの危険性が認識されず、事故につながるおそれがあります。
- 駆動用電池を取りはずさないままでお車を廃棄された場合、高電圧部品・ケーブル・それらのコネクターにふれると、深刻な感電の危険があります。お車を廃棄するときには、レクサス販売店で駆動用電池を廃棄してください。駆動用電池は適切に廃棄しないと、感電を引き起こし、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

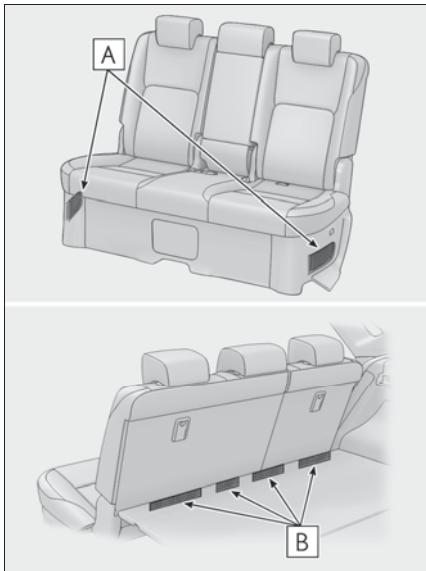
■ 駆動用電池について

駆動用電池周辺に多量の水をこぼさないように注意してください。
誤ってこぼしてしまったときは、レクサス販売店で点検を受けてください。

駆動用電池冷却用吸入口・排出口

リヤシート下部には駆動用電池冷却用の吸入口[A]、リヤシート後部とデッキボードの間には駆動用電池冷却用の排出口[B]が、それぞれあります。吸入口をふさいだりすると、駆動用電池の出力低下の原因となります。

排出口上部のリヤシート後部とデッキボードのすきまを荷物などでふさいでも、駆動用電池の出力低下の原因になります。



注意

■ 駆動用電池冷却用の吸入口・排出口について

- 吸入口をふさぐように荷物などを置かないでください。
吸入口がふさがれると駆動用電池の出力低下や、故障の原因になります。

- 吸入口または排出口は、目づまりしないよう定期的に清掃してください。
- 吸入口または排出口に水や異物を入れないでください。
駆動用電池を損傷するおそれがあります。
- マルチインフォメーションディスプレイに「駆動用電池の冷却部品のメンテナンス必要 取扱書を確認」が表示されたときは、吸入口の清掃をしてください。(→P.290)
吸入口を清掃しても表示が消えないときは、レクサス販売店で点検を受けてください。
- 吸入口にはフィルターが取り付けられています。
吸入口を清掃してもフィルターの汚れが目立つときは、フィルターの清掃・交換をお勧めします。フィルターの清掃・交換については、レクサス販売店にご相談ください。

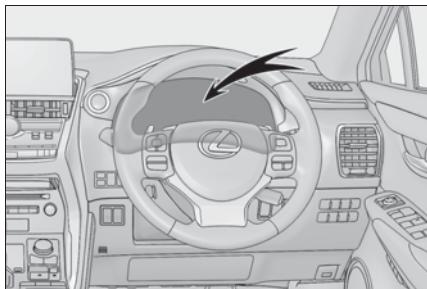
緊急停止システム

事故により衝撃を受けたときなどは、ハイブリッドシステムを停止して高電圧を遮断します。また、フューエルポンプ制御により燃料供給を停止し、燃料もれを最小限に抑えます。この場合、ハイブリッドシステムを再始動させることができなくなるためレクサス販売店へご連絡ください。

警告メッセージ

ハイブリッドシステムの異常やお知らせしたい事項が発生すると自動で表示されます。
警告メッセージは、マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

表示された画面の指示に従ってください。



知識

- 警告灯が点灯したときや、警告メッセージが表示されたとき、または補機バッテリーとの接続が断たれたとき

ハイブリッドシステムを再始動できない
おそれがあります。
もう一度始動操作をしても READY インジケーターが点灯しない場合はレクサス販
売店にご連絡ください。

イモビライザーシステム

キーに信号発信機が内蔵してあり、あらかじめ登録されたキー以外ではハイブリッドシステムを始動できません。

車両から離れる場合は、車内にキーを残さないでください。

このシステムは車両盗難の防止に寄与する機能であり、すべての車両盗難に対する完全なセキュリティを保証するものではありません。

れているとき

- キーが他の車両のセキュリティシステム用キー（信号発信機内蔵キー）と重なっているときや接近しているとき

! 注意

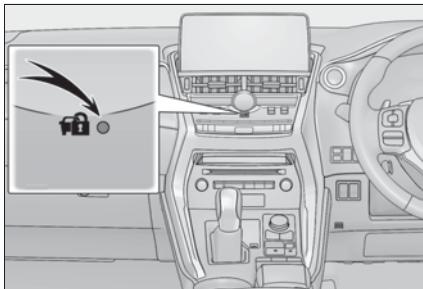
- イモビライザーシステムを正常に作動させるために

システムの改造や取りはずしをしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

システムを作動させるには

パワースイッチを OFF になると、システムの作動を知らせるためにセキュリティ表示灯が点滅します。

登録されたキーを携帯し、パワースイッチをアクセサリーモードまたは ON モードにするとシステムが解除され、セキュリティ表示灯が消灯します。



□ 知識

■ メンテナンスについて

イモビライザーシステムのメンテナンスは不要です。

■ システムが正常に作動しないとき

- キーが金属製のものに接したり、覆わ

オートアラーム

オートアラームとは、侵入を検知した場合に音と光で警報する機能です。

オートアラームを設定すると、次のような状況でオートアラームが作動します。

- 施錠されたドアが、スマートエントリー&スタートシステム・ワイヤレスリモコン・メカニカルキーを使わずに解錠されたり、開けられたとき
- ボンネットが開けられたとき
- 侵入センサーが車内で動くものを検知したとき（侵入者が車内に乗り込んだとき）

※ G-Link サービスをご利用のお客様へは、オートアラームが作動した場合 E メールや電話でお知らせすることができます。

詳しくは、別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書／G-Link／サービスの使い方／G-Security を利用する」を参照してください。

オートアラームを設定／解除／停止する

■ ドアを施錠する前の確認

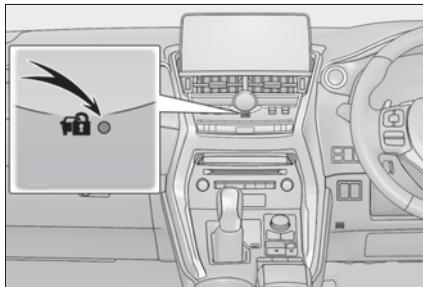
オートアラームの思わぬ作動、および盗難を防ぐため、次のことを必ず確認してください。

- 車内に人が乗っていないか
- ドアガラスとムーンルーフが閉じているか
- 車内に貴重品などを放置していないか

■ オートアラームを設定するには

ドア・ボンネットを閉め、スマートエントリー&スタートシステム・ワイヤレスリモコンを使って施錠します。30 秒以上経過すると、自動的に設定されます。

オートアラームが設定されるとセキュリティ表示灯は点灯から点滅に変わります。侵入センサーを停止してからオートアラームを設定するには（→P.68）



■ オートアラームを解除／停止するには

次のいずれかを行ってください。

- ドアを解錠する
- パワースイッチをアクセサリーモードまたは ON モードにするか、ハイブリッドシステムを始動する（数秒後に解除・停止します）

□ 知識

■ メンテナンスについて

オートアラームシステムのメンテナンスは不要です。

■ G-Link（ご契約のお客様のみ）

- うっかり通知機能によって、施錠のし忘れや非常点滅灯の消し忘れ、ドアガラスの閉め忘れ、ムーンルーフの閉め忘れを、ご指定の E メールアドレスへお知らせすることができます。

うっかり通知機能は車内の電子キー検知を使用しているため、スマートエンブリーアンプル＆スタートシステムが正しく作動しない場合は、うっかり通知機能が正しく働かないことがあります。

- リモート確認機能によって、ドアの開閉や施錠の状態、非常点滅灯の点滅状態、電子キーの車内への置き忘れなどを携帯電話で確認できます。

詳しくは、別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書／G-Link／サービスの使い方／G-Securityを利用する」を参照してください。

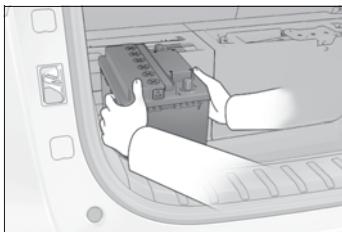
■オートアラームの作動について

次のような場合、オートアラームが作動することがあります。オートアラームの設定を解除・作動を停止する操作を行つてください。

- 車内に残った人が、ドアやポンネットを開けたり、ロックレバーで解錠したとき



- 施錠後、補機バッテリーをはずしたとき（→P.356）



■オートアラーム作動によるドアロック機能

次のような場合、自動的にドアが施錠さ

れことがあります。

- 車内に残った人がドアを解錠し、オートアラームが作動したとき
- オートアラーム作動中に車内に残った人がドアを解錠したとき
- 補機バッテリーあがりなどで充電・交換したとき

■カスタマイズ機能

メカニカルキーを使って解錠したとき、オートアラームが作動するように設定を変更することができます。

（カスタマイズ一覧：→P.369）



注意

■オートアラームを正常に作動させるために

システムの改造や取りはずしをしてください。システムが正常に作動しないことがあります。

侵入センサー

■侵入センサーの検知について

侵入センサーは、超音波を使って車内への侵入者や室内の動きを検知するセンサーです。

このシステムは、車両盗難を防止または抑止する機能であり、すべての侵入に対する完全なセキュリティを保証するものではありません。

■侵入センサーを設定するには

オートアラームを設定すると、自動でセットされます。（→P.67）

■侵入センサーを停止するには

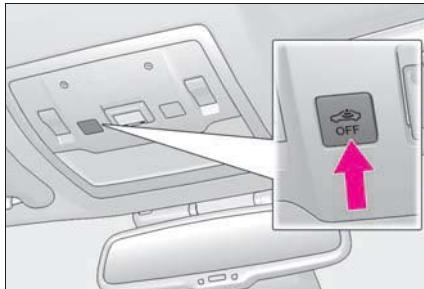
車内で動くものに反応するため、ペットや動くものを車内に残すときは、必ず侵入センサーを停止してからオートアラームを設定してください

い。

- 1 パワースイッチを OFF にする
- 2 侵入センサー OFF スイッチを押す

もう一度スイッチを押すと、侵入センサーは再びセットされます。

侵入センサーを OFF/ON にするたびに、メーター内のマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。



知識

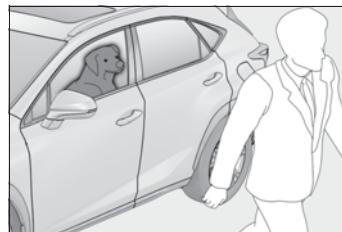
■ 侵入センサーの作動・停止について

- 侵入センサーの作動を停止しても、オートアラームは作動します。
- 侵入センサーを停止したあとにパワースイッチを押すか、スマートエントリー＆スタートシステム・ワイヤレスリモコン・メカニカルキーによる解錠操作を行うと、侵入センサーは復帰します。
- 再度オートアラームをセットすると、侵入センサーは作動可能状態（システム ON の状態）に自動復帰します。

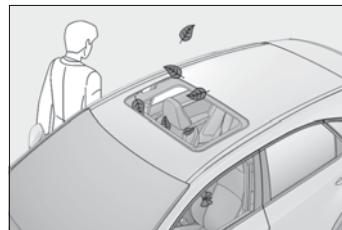
■ 侵入センサーについて

次のような場合、侵入センサーの検知によりオートアラームが作動することがあります。状況に応じ、侵入センサーを停止してからアラームを設定してください。

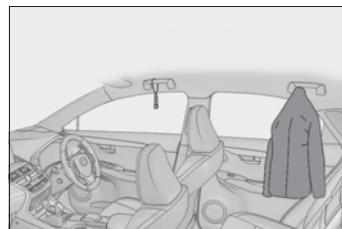
- 車内に乗員やペットなどを残して車両から離れる場合



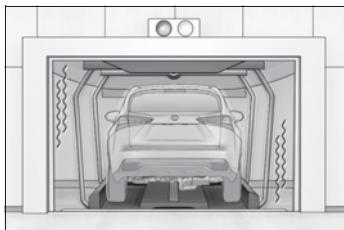
- ドアガラスやムーンルーフなどが開いている場合、次のものを検知することができます。
 - ・ 室内に入った落ち葉・虫・風など
 - ・ 他車の侵入センサーなどが発する超音波
 - ・ 室外の歩行者の動き



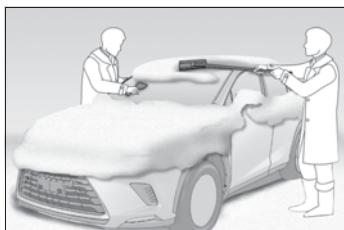
- マスコットやアクセサリーをぶら下げる状態で取り付けたり、コートフックに衣類をかけているときなど、動きやすいものが車内にある場合



- 立体駐車場のような振動や騒音の激しい場所に駐車した場合



- 雪かきやガラスに付着した氷を削り落とすときに、連続的な衝撃や振動が車両に伝わった場合



- 高圧洗車機や自動洗車機などを使う場合
- ひょうや落雷などにより、連続的な衝撃や振動が車両に伝わった場合

注意

■ 侵入センサーを正しく作動させるために

- センサーの穴に向かって、直接消臭スプレーなどを噴射しないでください。



- センサーの穴はふさがないようにしてください。



- 運転席と助手席のシートのあいだに、レクサス純正品以外のアクセサリーを装着したりものを放置したりすると、検知性能が低下することがあります。

2-1. 計器の見方

警告灯／表示灯.....	72
計器類	76
マルチインフォメーションディスプレイ	81
カラーヘッドアップディスプレイ	87
エネルギーモニター／ Harmonious Driving Navi. 画面／燃費画面 .	91

警告灯／表示灯

警告灯／表示灯でお車の状況をお知らせします。

メーターの警告灯／表示灯

次のイラストは、説明のためすべての警告灯／表示灯を示しています。



警告灯一覧

システム異常などを警告します。

	ブレーキ警告灯※1 (→P.321)		充電警告灯※2 (→P.321)		出力制限警告灯※2 (→P.321, 330)		油圧警告灯※2 (→P.321)		高水温警告灯※2 (→P.322)		ブレーキ警告灯※1 (→P.322)		エンジン警告灯※1 (→P.322)		SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯※1 (→P.322)		ABS & ブレーキアシスト警告灯※1 (→P.322)		パワーステアリング警告灯※1 (→P.323)		パワーステアリング警告灯※1 (→P.323)		PCS 警告灯※1 (→P.323)		LDA 表示灯※2 (→P.323)		PKSB OFF 表示灯★※1 (→P.324)
	スリップ表示灯※1 (→P.324)		ブレーキホールド作動表示灯※1 (→P.324)		パーキングブレーキ表示灯 (→P.324)		燃料残量警告灯 (→P.324)		シートベルト非着用警告灯 (→P.325)		マスター オーナー ウィング※1 (→P.325)		タイヤ空気圧警告灯※1 (→P.325)		ブレーキ オーバーライドシステム／ドライブスタートコン		トロール警告灯※2 (→P.326)										
	★ : グレード、オプションなどにより、 装備の有無があります。		※1 作動確認のためにパワースイッチを ON モードにすると点灯し、数秒後ま たはハイブリッドシステムを始動する と消灯します。点灯しない場合や点灯 したままのときはシステム異常のおそ れがあります。レクサス販売店で点検 を受けてください。		※2 マルチインフォメーションディスプレーに表示されます。																						

⚠️ 警告

■ 安全装置の警告灯が点灯しないとき

ABS や SRS エアバッグなどの安全装置の警告灯が、ハイブリッドシステムを始動しても点灯しない場合や点灯したままの場合は、事故にあつたときに正しく作動せず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

表示灯一覧

システムの作動状況を表示します。



方向指示表示灯 (→P.164)



尾灯表示灯 (→P.171)



ハイビーム表示灯※1
(→P.172, 176)

オートマチックハイビーム表示灯 (→P.176) / アダプティブハイビームシステム表示灯★ (→P.173)



フロントフォグランプ表示灯
(→P.179)



リヤフォグランプ表示灯★
(→P.179)



READY インジケーター
(→P.154)



EV インジケーター (→P.59)



EV ドライブモード表示灯※7
(→P.158)



Eco 表示灯※7 (→P.213)



Sport 表示灯★※7

(→P.213)



Sport S 表示灯★※7

(→P.213)



Sport S+ 表示灯★※7

(→P.213)



Custom 表示灯※7

(→P.213)



レーダークルーズコントロール表示灯※7 (→P.205)



クルーズコントロールセット表示灯※7 (→P.205)



クルーズコントロール表示灯※7 (→P.205)



LDA 表示灯※7 (→P.201)



LDA 表示灯※7 (→P.201)



LDA 表示灯※7 (→P.201)



クリアランスソナー表示灯★
(→P.216)



PKSB OFF 表示灯★
(→P.223)



スリップ表示灯※1
(→P.239)



VSC OFF 表示灯※1
(→P.238)



PCS 警告灯※1, 2
(→P.192)



パーキングブレーキ表示灯
(→P.165)



ブレーキホールドスタンバイ
表示灯^{※1} (→P.168)



ブレーキホールド作動表示灯
※1 (→P.168)



低温表示灯^{※3, 7} (→P.76)



BSM ドアミラーインジケー
ター★^{※4, 5} (→P.231)



セキュリティ表示灯^{※6}
(→P.66, 67)

★ : グレード、オプションなどにより、
装備の有無があります。

※¹ 作動確認のためにパワースイッチを
ON モードにすると点灯し、数秒後ま
たはハイブリッドシステムを始動する
と消灯します。点灯しない場合や点灯
したままのときはシステム異常のおそ
れがあります。レクサス販売店で点検
を受けてください。

※² システムが OFF のときに点灯します。

※³ 外気温が約 3 ℃以下のとき、約 10 秒
間点滅後に点灯します。

※⁴ 作動確認のため次の条件のときインジ
ケーターが点灯します。

BSM メインスイッチが ON の状態で、
パワースイッチを ON モードにしたと
き

パワースイッチが ON モードで、
BSM メインスイッチを ON にしたと
き

システムが正常であればインジケー
ターは数秒後に消灯します。点灯しな
い場合や点灯したままのときはシステ
ム異常のおそれがあります。レクサス
販売店で点検を受けてください。

※⁵ ドアミラーに表示されます。

※⁶ インストルメントパネルに表示されま
す。

※⁷ マルチインフォメーションディスプレ

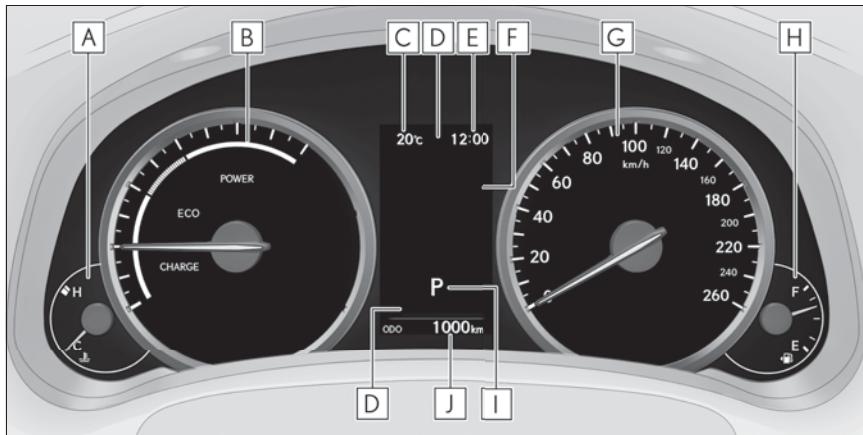
イに表示されます。

計器類

メーターにて、様々な走行状況に関する情報が表示されます。

メーターの表示について

- ▶ ドライブモードがスポーツモード（→P.213）以外のとき



A 水温計

エンジン冷却水の温度を示します。

B ハイブリッドシステムインジケーター

ハイブリッドシステムの出力や回生レベルを示します。（→P.79）

C 外気温

外気温度を -40°C ～ 50°C の間で表示します。外気温が約 3°C 以下のときは、低温表示灯が点灯します。

D ドライブモードのカラー背景

ドライブモードによって背景色がかわります。（→P.213）

- ・ スポーツモード：赤色
- ・ エコモード：青色

ノーマルモード、カスタムモードのときは、背景色が黒色になります。

E 時計

表示される時刻は、インストルメントパネルのアナログ時計と連動しています。
（→P.274）

F マルチインフォメーションディスプレイ

走行に関する様々な情報を表示します。（→P.81）

車両に異常が発生したときは警告メッセージを表示します。(\rightarrow P.328)

G スピードメーター

車両の走行速度を示します。

H 燃料計

燃料残量を示します。次の場合、実際の燃料残量が正しく表示されないことがあります。

- ・ 少量給油（約5L以下）を行ったとき
- ・ 坂道など傾いた場所に停車したとき
- ・ 坂道やカーブを走行したとき

I シフトポジション・シフトレンジ表示

選択されているシフトポジションまたはシフトレンジを表示します。(\rightarrow P.160)

J オドメーター／トリップメーター

オドメーター：

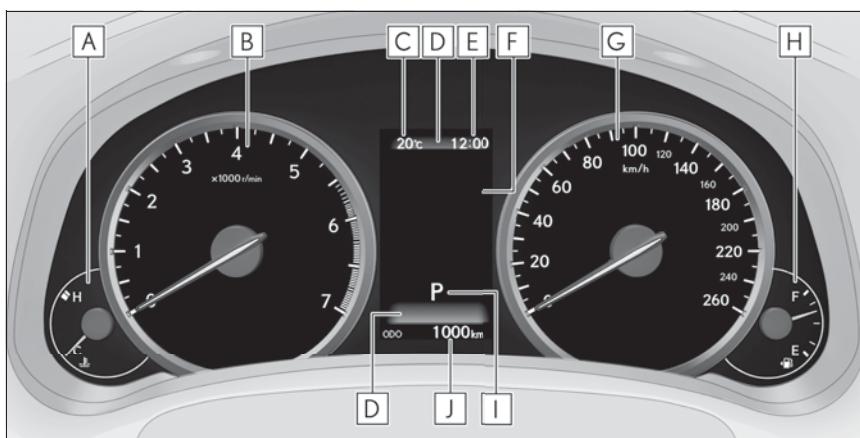
走行した総距離を表示します。

トリップメーター：

リセットしてからの走行距離を表示します。

区間距離は、トリップA・トリップBの2種類で使い分けることができます。

▶ ドライブモードがスポーツモード (\rightarrow P.213) のとき



A 水温計

エンジン冷却水の温度を示します。

B タコメーター

毎分のエンジン回転数を示します。

C 外気温

外気温度を $-40^{\circ}\text{C} \sim 50^{\circ}\text{C}$ の間で表示します。外気温が約 3°C 以下のときは、低温表示灯が点灯します。

D ドライブモードのカラー背景

ドライブモードによって背景色がかわります。(\rightarrow P.213)

- ・スポーツモード：赤色
- ・エコモード：青色

ノーマルモード、カスタムモードのときは、背景色が黒色になります。

E 時計

表示される時刻は、インストルメントパネルのアナログ時計と連動しています。
(\rightarrow P.274)

F マルチインフォメーションディスプレイ

走行に関する様々な情報を表示します。(\rightarrow P.81)

車両に異常が発生したときは警告メッセージを表示します。(\rightarrow P.328)

G スピードメーター

車両の走行速度を示します。

H 燃料計

燃料残量を示します。次の場合、実際の燃料残量が正しく表示されないことがあります。

- ・少量給油（約5L以下）を行ったとき
- ・坂道など傾いた場所に停車したとき
- ・坂道やカーブを走行したとき

I シフトポジション・シフトレンジ表示

選択されているシフトポジションまたはシフトレンジを表示します。(\rightarrow P.160)

J オドメーター／トリップメーター

オドメーター：

走行した総距離を表示します。

トリップメーター：

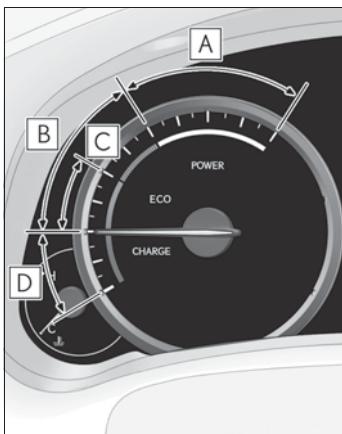
リセットしてからの走行距離を表示します。

区間距離は、トリップA・トリップBの2種類で使い分けることができます。

**知識****■ メーター・ディスプレイの作動条件**

パワースイッチがONモードのとき

■ハイブリッドシステムインジケーターについて



A パワーエリア

全開走行時など、エコ運転の範囲を超えている状態を示します。

B エコエリア

エコ運転（環境に配慮した走行）をしている状態を示します。

C ハイブリッドエコエリア

ガソリンエンジンの動力を使用しない状況を多く含む状態を示します。

ガソリンエンジンは、各種の条件により自動的に停止・再始動します。

D チャージエリア

回生ブレーキ機能により、エネルギーを回収している状態を示します。

- ハイブリッドシステムインジケーターは、ドライブモードがノーマルモードまたはエコモードのときに表示されます。（→P.213）

- インジケーターの針をエコエリアに保つことで、エコ運転が可能です。

- チャージエリアは、回生※状態を示します。回生した電力は、駆動用電池を

充電します。

※ ここでの「回生」の意味は、運動エネルギーを電気エネルギーに変換することです。

■タコメーターについて

ドライブモードがスポーツモードのとき、ハイブリッドシステムインジケーターからタコメーター表示に切りかれます。マルチインフォメーションディスプレイで表示方法を変更することができます。

■エンジン回転数について

ハイブリッド車のエンジン回転数は、燃費の向上や排気ガス低減などのため、ち密に制御されています。走行条件や運転条件が同じでも、エンジン回転数が異なる場合があります。

■外気温度表示について

- 次の場合は、正しい外気温度が表示されなかつたり、温度表示の更新が遅くなったりすることがあります。故障ではありません。

- ・ 停車している時や、低速走行（約20km/h以下）のとき
- ・ 外気温度が急激に変化したとき（車庫、トンネルの出入り口付近など）

- “--”または“E”が表示されたときは、システム異常のおそれがあります。レクサス販売店で点検を受けてください。

■割り込み表示について

マルチインフォメーションディスプレイやオドメーター／トリップメーター表示部には、状況に応じて一時的に割り込み画面が表示されます。割り込み表示・非表示を切りかえることができます。

■液晶ディスプレイについて

ディスプレイに小さな斑点や光点が表示されることがあります。これは液晶ディスプレイ特有の現象でそのまま使用しても問題ありません。

■ カスタマイズ機能

マルチインフォメーションディスプレイでメーターの表示を変更できます。
(カスタマイズ一覧: →P.369)



警告

■ 低温時の画面表示について

画面の温度が極めて低いときは、画面表示の切りかえが遅れる場合がありますので、車室内を暖めてからご使用ください。

例えばシフトレンジ表示を使用した場合、シフト操作をしてもすぐにシフトレンジの表示が切りかわらないことで運転者がダウンシフトしなかったと誤解し、再度ダウンシフトすることによって急激に過度のエンジンブレーキがかかり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



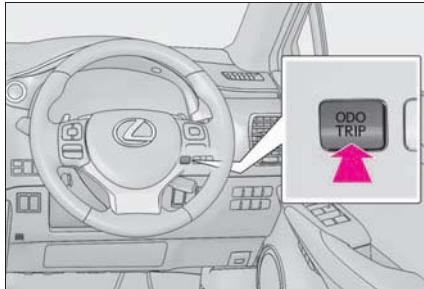
注意

■ ハイブリッドシステムや構成部品への損傷を防ぐために

- タコメーターが表示されているときは、タコメーターの針がレッドゾーン（エンジンの許容回転数をこえている範囲）に入らないようにしてください。
- 水温計の針がHのレッドゾーンに入ったときや、マルチインフォメーションディスプレイに「エンジン冷却水高温」または「ハイブリッドシステム高温」が表示されたときは、オーバーヒートのおそれがあるため、ただちに安全な場所に停車してください。完全に冷えたあと、エンジンやハイブリッドシステムを確認してください。（→P.359）

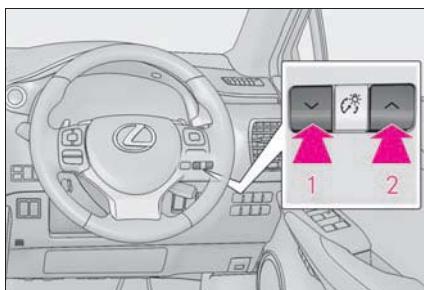
オドメーター／トリップメーターを切りかえるには

ボタンを押すごとに表示が切りかれます。また、トリップメーター表示中に押し続けると、走行距離を0にもどします。



インストルメントパネル照明の明るさを調整するには

インストルメントパネル照明の明るさを調整できます。



1 暗くする

2 明るくする

知識

■ インストルメントパネルの照度調整について

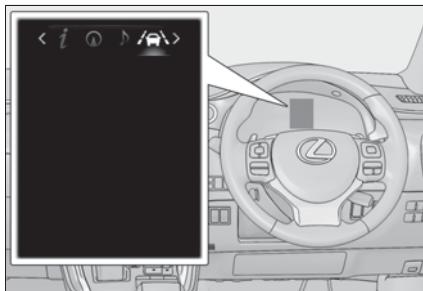
車幅灯消灯時と点灯時それぞれの明るさのレベルを調節することができます。ただし、周囲が明るいとき（昼間など）に車幅灯を点灯しても、メーターの明るさ

は切りかわりません。

マルチインフォメーションディスプレイ

マルチインフォメーションディスプレイは、車両に関するさまざまな情報を表示したり、設定したりすることができます。

ディスプレイの表示／メニュー アイコン一覧



■ メニューアイコン

2

走行に関する情報表示

	ドライブインフォメーション (→P.82)
	ナビゲーションシステム連携表示 (→P.84)
	オーディオシステム連携表示 (→P.84)
	走行支援機能情報 (→P.84)
	警告メッセージ (→P.328)
	設定 (→P.84)

知識

■ 液晶ディスプレイについて

→P.79

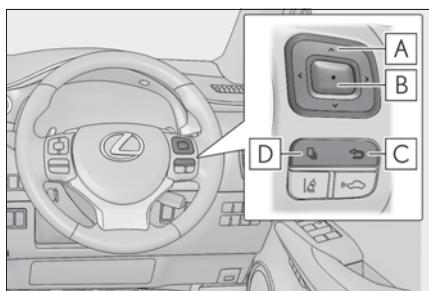
 注意

■ 低温時の画面表示について

画面の温度が極めて低いときは、画面表示の切りかえが遅れる場合がありますので、車室内を暖めてください。

表示を切りかえるには

メーター操作スイッチを使って次のように操作します。



A 選択／ページ送り

B 決定／設定

C ひとつ前の画面にもどる

D 短押し：

スイッチに登録した画面を表示する

長押し：

表示中の画面をスイッチに登録する

登録確認画面が表示されます。登録できない画面を選択しようとした場合は、登録不可のメッセージが表示されます。

ドライブインフォメーションについて

■ ドライブインフォ 1/2/3 で表示される内容

走行に関するさまざまな情報を表示します。

次の項目から選択し、1画面につき2項目ずつ表示します。

項目を切りかえるには、メーター操作スイッチの **<** または **>** を押して **i** を選択し、**▲** または **▼** を押します。

● 瞬間燃費 ※1

現在の瞬間燃費を表示します。

● 平均燃費（リセット間 ※2・始動後・給油後）※1

リセット後、ハイブリッドシステム始動後、給油後の平均燃費を表示します。

表示される平均燃費は、参考として利用してください。

● 平均車速（リセット間 ※2・始動後）※1

リセット後、ハイブリッドシステム始動後の平均車速を表示します。

● 走行時間（リセット間 ※2・始動後）※1

リセット後、ハイブリッドシステム始動後の経過時間を表示します。

● 距離（航続可能・始動後走行）※1

燃料残量による走行可能な距離、ハイブリッドシステム始動後の走行距離を表示します。

・ 運転履歴から学習した燃費と現在の燃

料残量から算出した走行可能な距離を表示します。使用環境（気象、渋滞など）や運転方法（急発進、エアコンの使用など）に応じて燃費が変わるために、実際に走行できる距離とは異なります。

- ・燃料給油量が少量（約5L以下）のとき、表示が更新されないことがあります。

※¹「設定」のドライブインフォ1／ドライブインフォ2／ドライブインフォ3で選択した項目が表示されます。

※²リセットするには、項目表示中にメーター操作スイッチの●スイッチを1秒以上押します。

リセット可能項目が複数表示されている場合は、リセット項目の選択画面が表示されます。

■ エネルギーモニター

→P.91

■ Gセンサー★

車両にかかる前後左右の加速度を表示します。また、ハンドルの切れ角、ブレーキ油圧、アクセル開度も表示します。

●表示画面については路面状況、気温、車速などによって実際の車両状態と異なる場合があります。表示画面は、参考として利用してください。

●補機バッテリー端子の脱着をしたときは、一時的にステアリング操作量が表示されなくなりますが、しばらく走行することで表示されます。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ 車速

車両の走行速度を示します。

■ タイヤ空気圧★

タイヤが装着されている位置ごとに、現在のタイヤ空気圧を表示します。
応急用タイヤ装着車：応急用タイヤの空気圧は表示されません。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ ふらつき警報機能

運転者の注意力が低下したときに発生するふらつき運転を検知し、注意力低下の度合をバーの長さで表示します。バーの長さが短いほど休憩が必要な状態であることを表します。

この表示はLDA（レーンディバイチャーアラート）の機能のひとつです。LDA（レーンディバイチャーアラート）のふらつき警報機能の作動条件を満たしたときに、表示の機能が有効になります。（→P.201）

■ 表示 OFF

プランク（非表示）画面を表示します。



知識

■ タイヤ空気圧表示について

- ・パワースイッチをONモードにしたあと、空気圧が表示されるまで2、3分かかります。また、空気圧が調節された場合も、表示が更新されるまで2、3分かかります。
- ・電波状況等によって各タイヤ位置の情報を識別できないときは“---”と表示されることがあります。
- ・タイヤ空気圧は温度によって変化します。また、表示された空気圧は、空気圧計で測定した数値と異なる場合があります。

■補機バッテリー端子の脱着をしたとき
補機バッテリー端子の脱着を行うと、ドライブインフォメーションのデータはリセットされます。

ナビゲーションシステム連携表示について

ナビゲーションシステムと連携して次の情報を表示します。

- ルート案内表示
- コンパス（ヘッティングアップ表示）

オーディオシステム連携表示について

オーディオソースの選択、選曲などを操作することができます。

走行支援機能情報について

次のシステムの作動状況を表示します。

- レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）
(→P.205)
- LDA（ステアリング制御機能付き）
(→P.198)

アイコン表示は機能により切りかわります。

警告メッセージについて

車両に異常が発生した場合に、内容・対処法などのメッセージを表示します。
(→P.328)

表示の設定について

各装備の機能のON/OFFや設定変更などができます。

変更可能な項目では、●を押すたびにON/OFFが切りかわります。

-  LDA（レーンディバーチャー アラート【ステアリング制御機能付き】)
(→P.198)

次の設定を変更することができます。

- 制御モード

制御機能を警報・ステアリング制御のいずれか、または両方を選択することができます。

- 操舵支援

ハンドル操舵支援の作動・非作動を変更することができます。

- 警報手段

警報の手段をハンドルの振動または警報ブザーのいずれかから選択することができます。

- 警報感度

警報機能の感度を変更することができます。

- ふらつき検知

ふらつき検知機能の作動・非作動を変更することができます。

- ふらつき検知感度

ふらつき警報機能の感度を変更することができます。

-  PCS（プリクラッシュセーフティシステム）
(→P.190)

次の設定を変更することができます。

- PCS

プリクラッシュセーフティシステムの作動・非作動を変更することができます。

● 警報感度

警報タイミングを変更することができます。

■ PKSA（パーキングサポートアラート）（→P.215）★

次の設定を変更することができます。

● クリアランスソナー

クリアランスソナーの作動・非作動を変更することができます。

● 音量

パーキングサポートアラート作動時のブザー音量を変更することができます。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ PKSB（パーキングサポートブレーキ）（→P.221）★

次の設定を変更することができます。

● PKSB

パーキングサポートブレーキ（静止物）の作動・非作動を変更することができます。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ 時計（→P.274）

次の設定を変更することができます。

● 時刻の表示方法を変更することができます。

■ 車両設定

● PBD（パワーバックドア）

次の設定を変更することができます。

・ 機能

パワーバックドアの作動・非作動を変更

することができます。

・ 音量

パワーバックドア作動時のブザー音量を変更することができます。

・ キックセンサ※

キックセンサの作動・非作動を変更することができます。

※ キックセンサ装着車

● TPMS（タイヤ空気圧警報システム）（→P.300）

タイヤ空気圧警報システムの初期化を行います。

■ 表示設定

● 言語

表示される言語を変更することができます。

● 単位

燃費表示の単位を変更することができます。

● EV インジケーター

EV インジケーターの作動・非作動を変更することができます。

● スイッチ設定

スイッチにお好みの画面を登録する方法を表示します。

お好みの画面を登録しておくと、スイッチを押したときに登録した画面を表示させることができます。

● ドライブインフォメーション画面（→P.82）

ドライブインフォメーションに表示させる項目をドライブインフォ 1、ドライブインフォ 2、ドライブインフォ 3 それぞれに 2 項目ずつ選択することができます。

● 割込表示

下記の割り込み表示される項目の表示・非表示を変更することができます。

- ・ナビゲーションシステム運動の交差点案内
- ・電話着信
- ・照度調整
- ・ETCに関する通知

● カラー

カーソルの色などを変更することができます。

● タコメーター切替え

走行モードに応じたタコメーターとハイブリッドシステムインジケーターの切りかえ方を変更することができます。

● 表示設定初期化

メーターの表示設定を初期状態にもどすことができます。



知識

■ 設定画面の操作について

設定画面操作中に次の状況になると操作が一時中断されます。

- ・警告メッセージが表示されたとき
- ・走行し始めたとき

クリアランスソナー表示★について

クリアランスソナー使用時に自動で表示されます。(\rightarrow P.216)

★ : グレード、オプションなどにより、
装備の有無があります。

警告

■ ディスプレイの設定を変更するとき

ハイブリッドシステムが作動している状態で操作を行うため、車庫内など囲まれた場所では、十分に換気をしてください。換気をしないと、排気ガスが充満し、排気ガスに含まれる一酸化炭素(CO)により、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■ ディスプレイの設定を変更するとき

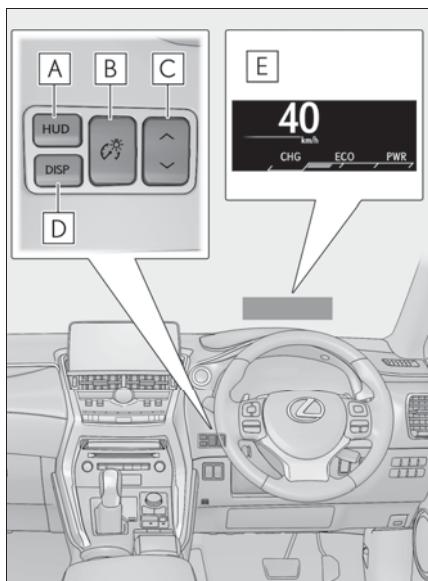
補機バッテリーあがりを起こす可能性がありますので、確実にハイブリッドシステムが作動している状態で実施してください。

カラーへッドアップディスプレイ★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

カラーへッドアップディスプレイは、フロントウインドウガラスに現在の車速やナビゲーションシステムのルート案内表示などの情報を表示することができます。

システムの構成部品



- A** HUD (ヘッドアップディスプレイ) メインスイッチ
- B** 表示輝度調整スイッチ
表示輝度はお好みの明るさに調節することができます。
- C** 表示位置調整スイッチ
- D** DISP スイッチ
- E** ヘッドアップディスプレイ

表示輝度は、周囲の明るさに応じて自動的に調整されます。

ヘッドアップディスプレイの表示内容

- 車速表示
- ハイブリッドシステムインジケーター (→P.90)
- タコメーター
- シフトポジション・シフトレンジ表示 (→P.160)

選択されているシフトポジションまたはシフトレンジを表示します。

- オーディオ表示
オーディオシステム操作時に約3秒間表示されます。

- レーン表示 (→P.90)
交差点にさしかかったとき、自動で車線・進行方向などのレーン情報が表示されます。

- ルート案内表示 (→P.90)
ナビゲーションシステムで、ルート案内を実行しているときに使用できます。
交差点に近付いたとき、ヘッドアップディスプレイにルート案内（進行方向の矢印）が表示されます。

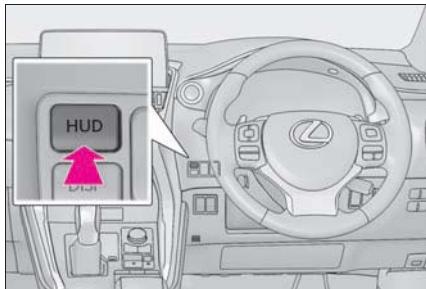
- 車線逸脱警報表示 (LDA[ステアリング制御機能付き]) (→P.198)
- 接近警報表示 (レーダークルーズコントロール) (→P.210)
- 衝突警報表示 (プリクラッシュセーフティシステム) (→P.190)
- パーキングサポートブレーキ (静止物) 表示★ (→P.221)
- Gセンサー★ (→P.83)

★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ヘッドアップディスプレイ表示の切りかえ

■ HUD メインスイッチ

ヘッドアップディスプレイの ON/OFF を切りかえる

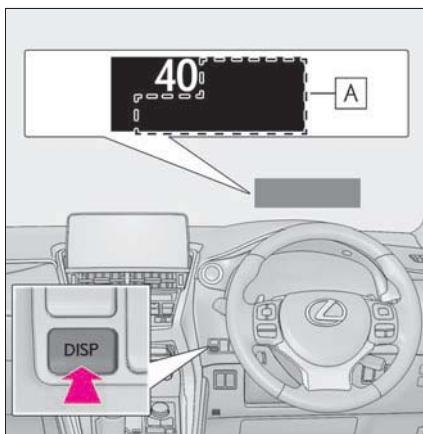


■ DISP スイッチ

押すたびに車速以外の表示[A]が次のように切りかわります。

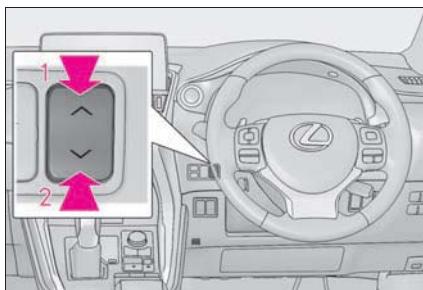
- 非表示
- ハイブリッドシステムインジケーター
- タコメーター
- G センサー★

★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。



見やすく調整する

■ 表示位置の調整

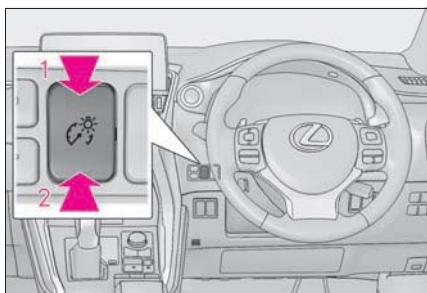


1 表示位置を上げる

2 表示位置を下げる

■ 表示輝度の調整

表示輝度は 9 段階あり、周囲の明るさに応じて自動で調整されますが、手動で調整することもできます。



- 1 明るくする
- 2 暗くする

知識

■ ヘッドアップディスプレイについて

サングラス（特に偏光サングラス）を着用していると、ヘッドアップディスプレイの表示が見づらくなる場合があります。表示が見づらい場合は、輝度を調整するか、サングラスをはずしてください。

■ ヘッドアップディスプレイの表示について

ヘッドアップディスプレイ表示を OFF にしたときは、再び ON にするまでヘッドアップディスプレイは表示されません。

警告

■ ヘッドアップディスプレイ使用上の留意点

映像の明るさ、および表示位置は、安全運転に支障がないよう適切な状態に調整してください。

調整が不適切だと運転者の視界のさまたげとなり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

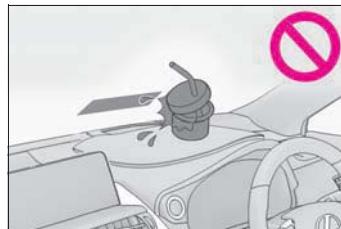
■ ヘッドアップディスプレイの設定を変更するとき

ハイブリッドシステムが作動している状態で操作を行うため、車庫内など囲まれた場所では、十分に換気をしてください。換気をしないと、排気ガスが充満し、排気ガスに含まれる一酸化炭素（CO）により、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■ ヘッドアップディスプレイ映写部についての注意

- 映写部の付近に飲み物を置かないでください。水やそのほかの液体が映写部にかかると、装置が故障する原因になります。



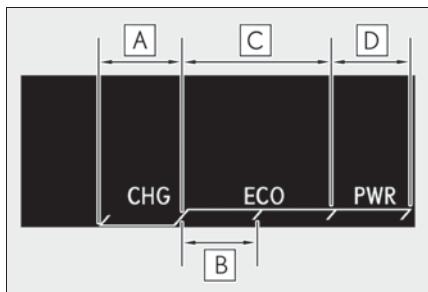
- 映写部の上にものを置いたり、シールなどを貼り付けたりしないでください。ヘッドアップディスプレイの表示のさまたげとなります。

- 映写部の内部にふれたり、とがったものを押し付けたりしないでください。装置が故障する原因となります。

■ ヘッドアップディスプレイの設定を変更するとき

補機バッテリーあがりを起こす可能性がありますので、確実にハイブリッドシステムが作動している状態で実施してください。

ハイブリッドシステムインジケーター



A チャージエリア

回生ブレーキ機能により、エネルギーを回収している状態を示します。

B ハイブリッドエコエリア

ガソリンエンジンの動力を使用しない状況を多く含む状態を示します。

ガソリンエンジンは、各種の条件により自動的に停止・再始動します。

C エコエリア

エコ運転（環境に配慮した走行）をしている状態を示します。

D パワーエリア

全開走行時など、エコ運転の範囲を超えている状態を示します。

ルート案内表示

交差点に接近すると、進路方向を矢印で指示します。

交差点から約 150 メートル^{※1}まで接近すると、案内表示が開始され、交差点までの残距離^{※2}が表示されます。

^{※1} レーン表示機能が OFF のときは、約 300 メートル手前から、案内表示が開始されます。

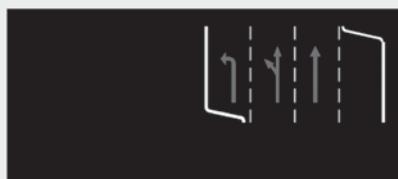
^{※2} 交差点を通過すると表示が消えます。



レーン表示

交差点の約 300 メートル手前から表示がはじまり、交差点を通過するとレーン表示が消え、もとの表示にもどります。

必要に応じて、レーン表示の表示／非表示を切りかえることができます。



知識

■ レーン表示について

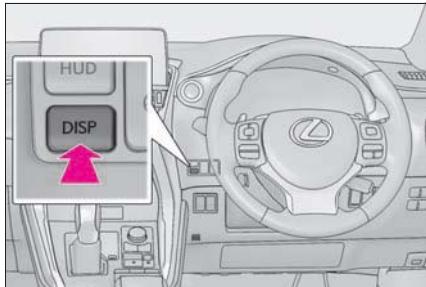
地図データに情報のない交差点では、レーン表示は行われません。また交差点によっては、レーン表示と実際の交差点形状が異なる場合があります。現場の道路標識・表示や道路状況に従って走行してください。

表示のカスタマイズ

次の内容の表示／非表示を設定することができます。

- ・ 目的地案内
- ・ レーン表示
- ・ 走行支援機能情報
- ・ オーディオ作動表示

安全に操作することができる場所に停車し、パーキングブレーキをかけ、シフトレバーを P にしてください。



- 1** レーン表示設定画面が表示されるまで、DISP スイッチを押し続ける

ヘッドアップディスプレイが ON のときに操作ができます。

- 2** DISP スイッチを押して ON/OFF を切りかえる

スイッチを押すたびに ON/OFF が切りかれます。

スイッチを操作しないまましばらく放置した場合は、自動で設定が終了します。

知識

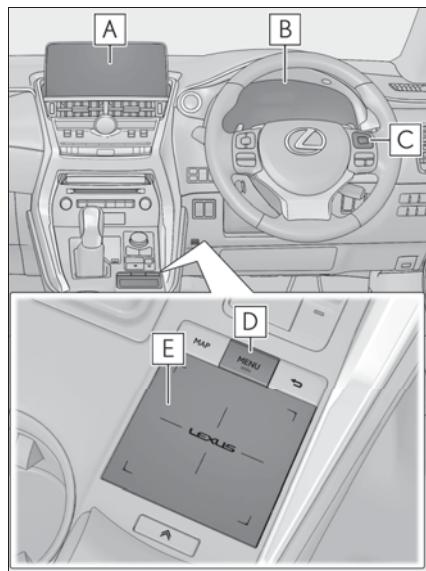
- 换機バッテリー端子の脱着をしたとき
ヘッドアップディスプレイのカスタマイズ設定がリセットされます。

エネルギーモニター／ Harmonious Driving Navi. 画面／燃費画面

ハイブリッドシステムの状態を、マルチインフォメーションディスプレイおよびナビゲーション画面に表示します。

エネルギーモニター、
Harmonious Driving Navi. 画面、
または燃費画面は、サイド画面にも表示することができます。

システムの構成部品



A ナビゲーション画面

B マルチインフォメーションディスプレイ

C メーター操作スイッチ

D MENU ボタン

E タッチパッド

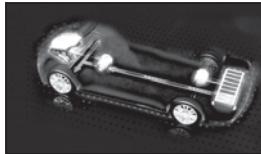
エネルギー モニターの見方

- 画面を表示させるには
- ▶ ナビゲーション画面
- 1 リモートタッチの MENU ボタンを押し、**i**を選択する
- 2 「エネルギー」を選択する

▶ マルチインフォメーションディスプレイ

メーター操作スイッチの **<** または **>** を押して **i** を選択し、**▲** または **▼** を押してエネルギー モニターを表示させる

電気のエネルギーで走行しているとき

ナビゲーション画面	マルチインフォメーションディスプレイ
	

ガソリンと電気の両方のエネルギーで走行しているとき

ナビゲーション画面	マルチインフォメーションディスプレイ
	

ガソリンのエネルギーで走行しているとき

ナビゲーション画面	マルチインフォメーションディスプレイ
	

駆動用電池に充電しているとき	
ナビゲーション画面	マルチインフォメーションディスプレイ

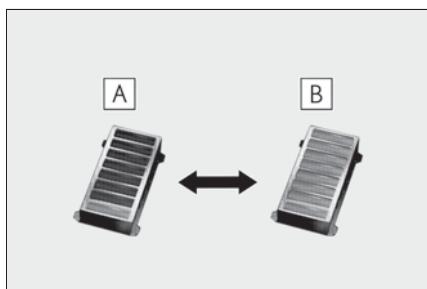
エネルギーの流れがないとき	
ナビゲーション画面	マルチインフォメーションディスプレイ

表示画面については実際の状況とわずかに異なる場合があります。

▶ マルチインフォメーションディスプレイ

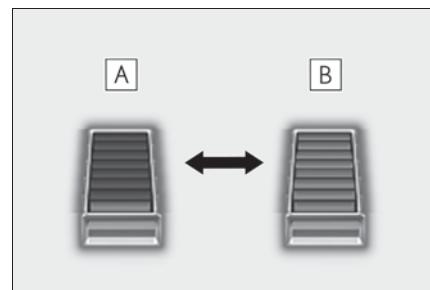
■ 駆動用電池の残量表示

▶ ナビゲーション画面



[A] 少ない

[B] 多い



[A] 少ない

[B] 多い

表示画面については実際の状況とわずかに異なる場合があります。

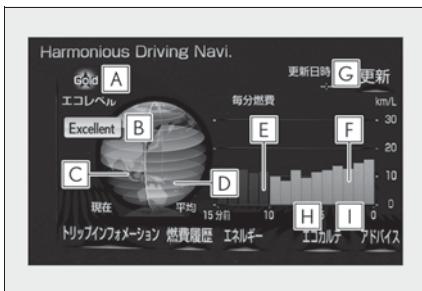
Harmonious Driving Navi. 画面の見方

■ 画面を表示させるには

- 1 リモートタッチの MENU ボタンを押し、①を選択する
- 2 「Driving Navi」を選択する

Harmonious Driving Navi. 画面が表示されます。

■ 画面の表示について



A ステータス／ポイント獲得率表示

※1

エコ運転の採点結果や走行情報を G-Link センターに送信し、計算されたデータをもとにステータスやポイント獲得率を表示します。

ステータスはエコ運転を継続することでプロンズ、シルバー、ゴールドの順にランクがアップします。

B エコレベルインジケーター

エコレベルメーターのレベルに応じて Good・Excellent が表示されます。レベルが低い場合は表示されません。

C エコレベルメーター

エコドライブインジケーターランプの点灯を継続させることなどでメーターが増加します。

D エコレベル平均値

エコレベルメーターの平均値を表示しま

す。

E トリップインフォメーション（前回ハイブリッドシステム始動～ハイブリッドシステム停止）

1 分ごとの平均燃費を最大 15 分前までグラフ表示します。

今回と前回の平均燃費を色分けして表示します。

F トリップインフォメーション（今回ハイブリッドシステム始動～現在）

1 分ごとの平均燃費を最大 15 分前までグラフ表示します。

今回と前回の平均燃費を色分けして表示します。

G 更新スイッチ ※2

走行情報などを G-Link センターへ送信し、ステータス／ポイント表示を更新します。

H エコカルテスイッチ ※2

お車から送信された情報を反映して、月間の走行距離・ガソリン消費量・CO2 排出量・平均燃費・獲得ポイントが表示されます。

I アドバイススイッチ

- ・ ドライバーの運転操作についてエコ運転の観点で診断した結果を表示します。良いところを確認したり、さらに良くするにはどうしたら良いかを知ることができます。
- ・ エコ運転や環境に関する豆知識を表示します。

※1 G-Link サービスをご利用されているときに表示されます。

G-Link の利用手続き・利用開始操作については別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

※2 G-Link サービスをご利用されている

ときに使用することができます。また、ナビゲーション画面に通信設定に関するメッセージが表示された場合は、メッセージに従って設定してください。

G-Link の利用手続き・利用開始操作については別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

□ 知識

■ G-Link センターへ送信する走行情報について

G-Link センターへ送信する走行情報は、ナビゲーションシステムが算出するものであり、マルチインフォメーションディスプレイに表示される走行距離や燃費などとは一致しないことがあります。

■ Harmonious Driving Navi. 画面について

パソコンや携帯電話のユーザーサイトでもステータスなどをみることができます。

燃費画面の見方

■ 画面を表示させるには

- 1 リモートタッチの MENU ボタンを押し、①を選択する
- 2 「トリップインフォメーション」または「燃費履歴」を選択する
- トリップインフォメーションの見方

トリップインフォメーション画面以外が表示されたときは、「トリップインフォメーション」を選択します。



A 履歴消去

B 過去 15 分間の 1 分ごとの燃費 (平均燃費)

C 瞬間燃費

D 過去 15 分間の 1 分ごとのエネルギー回収量

E マーク 1 つが 50Wh です。

F ハイブリッドシステム始動後平均車速

G 航続可能距離

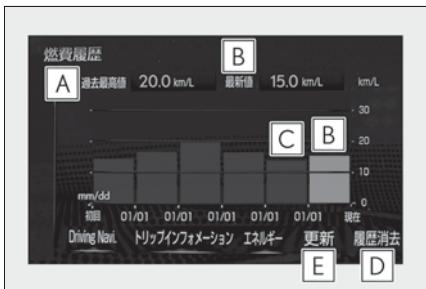
平均燃費はパワースイッチを ON モードにしてからと、前回走行時で色分けして表示されます。

表示される平均燃費は、参考として利用してください。

表示画面については実際の状況とわずかに異なる場合があります。

■ 燃費履歴の見方

燃費画面以外が表示されたときは、「燃費履歴」を選択します。



A 過去最高値表示

B 最新値表示

C 過去平均燃費表示

平均燃費は最後に更新してからの平均、過去の平均で色分けして表示されます。

D 履歴消去

E 最新値更新

表示される平均燃費は、参考として利用してください。

表示画面については実際の状況とわずかに異なる場合があります。

□ 知識

■ 過去の区間平均燃費の記録を更新するには

区間燃費画面で「更新」を選択すると、平均燃費の値とグラフが更新され、新たに平均燃費の記録を開始します。

■ 燃費データをリセットするには

「履歴消去」を選択すると、燃費データがリセットされます。

■ 航続可能距離について

現在の燃料残量で走行できるおよその距離を示します。

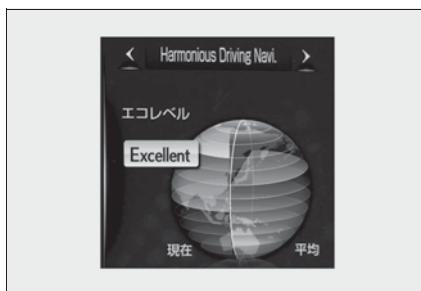
表示される距離は、過去の平均燃費をもとに算出されるため、表示される距離を実際に走行できるとは限りません。

サイド画面の使い方

ナビゲーション画面を分割画面表示（→P.251）にした場合、サイド画面に車両情報を表示し、◀または▶を選択してお好みの画面を表示します。

■ Harmonious Driving Navi.

現在のエコ運転の状況を表示します。



表示画面については実際の状況とわずかに異なる場合があります。

■ トリップインフォメーション（タイプA）

過去 10 分間の 1 分ごとの平均燃費、回収エネルギーと航続可能距離を表示します。



表示される平均燃費は、参考として利用してください。

表示画面については実際の状況とわずかに異なる場合があります。

■ トリップインフォメーション（タイプB）

航続可能距離・最新値・始動後経過時間を表示します。

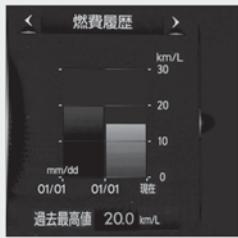


表示される平均燃費は、参考として利用してください。

表示画面については実際の状況とわずかに異なる場合があります。

■ 燃費履歴

最新値と過去最高値を表示します。



表示される平均燃費は、参考として利用してください。

表示画面については実際の状況とわずかに異なる場合があります。

■ エネルギーモニター

ハイブリッドシステム動作状況・エネルギーの回収状況を表示します。



エネルギーモニターの見方は、マルチインフォメーションディスプレイの表示と同様です。 (→P.92)

表示画面については実際の状況とわずかに異なる場合があります。

3-1. キー

キー	100
----------	------------

3-2. ドアの開閉、ロックのしかた

ドア	104
----------	------------

バックドア	108
-------------	------------

スマートエントリー&スタートシス	
------------------	--

テム	118
----------	------------

3-3. シートの調整

フロントシート	123
---------------	------------

リヤシート	124
-------------	------------

パワーイージーアクセスシステム／	
------------------	--

ポジションメモリー／メモリー	
----------------	--

コール機能	129
-------------	------------

ヘッドレスト	132
--------------	------------

3-4. ハンドル位置・ミラー

ハンドル	134
------------	------------

インナーミラー	135
---------------	------------

ドアミラー	136
-------------	------------

3-5. ドアガラス・ムーンルーフの開

閉

パワーウィンドウ	138
----------------	------------

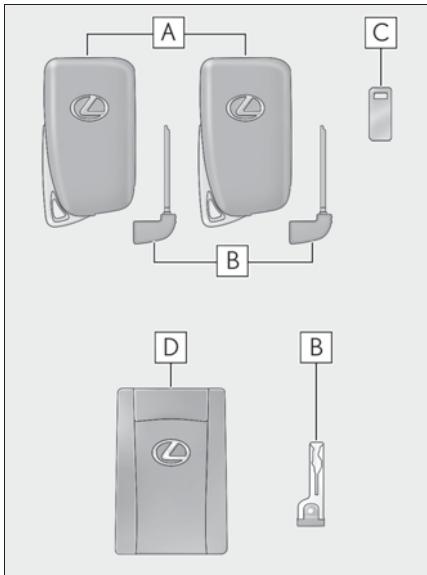
ムーンルーフ	140
--------------	------------

電動サンシェード	143
----------------	------------

キー

キーの種類

お客様へ次のキーをお渡しします。



A 電子キー

- スマートエントリー＆スタートシステムの作動 (→P.118)
- ワイヤレス機能の作動

B メカニカルキー

C キーナンバープレート

D カードキー

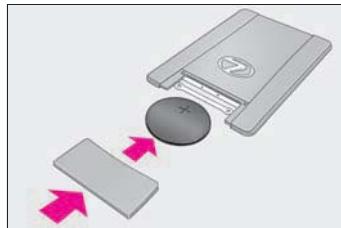
スマートエントリー＆スタートシステムの作動 (→P.118)



■ カードキー

- カードキーに内蔵されているメカニカルキーは、カードキーが正常に作動しないなどの緊急時にのみ使用してください。

- 電池カバーがはずれたときやぬれたときに電池をはずした場合は、電池の+極をレクサスエンブレム面側にして取り付けてください。



- カードキーは防水ではありません。

■ 航空機に乗るとき

航空機に電子キーを持ち込む場合は、航空機内で電子キーのスイッチを押さないでください。また、かばんなどに保管する場合でも、簡単にスイッチが押されないように保管してください。スイッチが押されると電波が発信され、航空機の運行に支障をおよぼすおそれがあります。

■ 電池の消耗について

- 電池の標準的な寿命は1～2年です。
(カードキーの電池は1年半程度で消耗します)
- 電池残量が少なくなると、ハイブリッドシステムを停止した際に車内から警音が鳴ります。
- 電子キーは常に電波を受信しているため、使用していないあいだでも電池が消耗します。次のような状態になったときは、電池が消耗している可能性があります。新しい電池に交換してください。
 - スマートエントリー＆スタートシステムやワイヤレスリモコンが作動しない
 - 作動範囲が狭くなった
 - 電子キーのLEDが点灯しない
- 電池の著しい消耗を防ぐため、次のような磁気を発生する電化製品の1m以内に電子キーを保管しないでください。

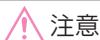
- ・TV
- ・パソコン
- ・携帯電話やコードレス電話機、および充電器
- ・電気スタンド
- ・電磁調理器

■電池の交換方法

→P.305

■キー登録本数の確認について

車両に登録されたキーの本数を確認することができます。詳しくはレクサス販売店へご相談ください。



■キーの故障を防ぐために

- 落としたり、強い衝撃を与えたまま曲げたりしない
- 湿度の高いところに長時間放置しない
- ぬらしたり超音波洗浄器などで洗つたりしない
- キーに金属製または磁気を帯びた製品を取り付けたり、近付けたりしない
- 分解しない
- 電子キー表面にシールなどを貼らない
- テレビやオーディオ、電磁調理器などの磁気を帯びた製品や、低周波治療器などの電気医療機器の近くに置かない

■電子キー取り扱いの注意

電子キーは電波法の認証に適合しています。必ず以下のことをお守りください。

- 電池交換時以外は、不用意に分解しないでください。
分解、改造したものを使用することは法律で禁止されています。
- 必ず日本国内でご使用ください。

■キーを携帯するとき

電源を入れた状態の電化製品とは10cm以上離して携帯してください。10cm以内にあると電化製品の電波と干渉し正常に機能しない場合があります。

■スマートエントリー＆スタートシステムの故障などで販売店に車両を持っていくとき

→P.352

■電子キーを紛失したときは

→P.351

■カードキーの取り扱いについて

- 電池やカードキーの電極がぬれた場合は、電池が腐食するおそれがあります。

水の中に落としたときや飲料水などをこぼしたときは、ただちに電池カバーをはずして電池および電極部分をふき取ってください（電池カバーをはずすには、軽く持つて引き抜いてください）。電池が腐食した場合は、レクサス販売店で電池を交換してください。

- 電池カバーを取りはずす場合は、押しつぶしたりドライバーなどを使用したりしないでください。

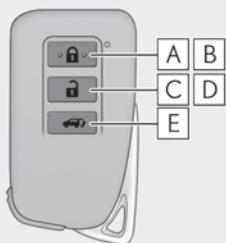
無理にこじ開けようすると、曲がったり傷を付けたりするおそれがあります。

注意

- 電池カバーをひんぱんに取りはずすと、電池カバーが抜けやすくなることがあります。
- 電池を取り付けるときは、必ず電池の向きを確認してください。電池の向きを間違えると、電池が急激に消耗する原因になります。
- 次のような使い方をした場合は、カードキーの表面に傷を付けたり塗装がはがれたりするおそれがあります。
 - ・ 小銭や鍵などの硬いものと一緒に携帯したとき
 - ・ シャープペンシルの先端などの鋭利なものでこすったとき
 - ・ シンナーやベンジンでカードキーの表面をふいたとき

ワイヤレス機能について

キーには次のワイヤレス機能が装備されています。



- A** 全ドアを施錠する (→P.104)
- B** ドアガラスとムーンルーフ★を閉める※ (→P.104)
- C** 全ドアを解錠する (→P.104)
- D** ドアガラスとムーンルーフ★を開

<※ (→P.104)

- E** パワーバックドアを開閉する (→P.109)

★: グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※ レクサス販売店での設定が必要です。

知識

■ バックドア予約ロック機能

バックドアが開いている状態で、あらかじめ全ドアの施錠を予約する機能です。次の操作をすると、バックドア以外のすべてのドアが施錠され、バックドアが閉まるときに同時にバックドアも施錠されます。

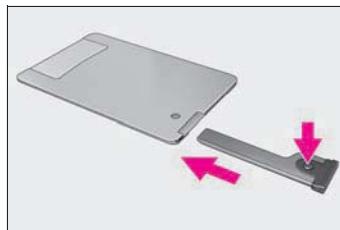
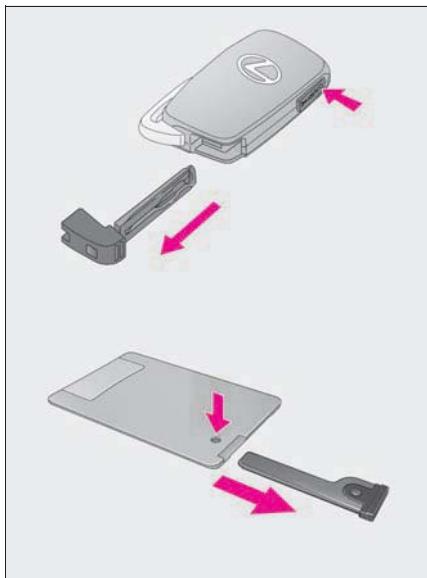
- 1 バックドア以外のすべてのドアを閉じる。
- 2 バックドアの自動閉作動中にワイヤレスの施錠ボタンを押す。

メカニカルキーを使うには

メカニカルキーを取り出すには、解除ボタンを押してキーを取り出してください

メカニカルキーは挿し込み方向に指定のある片溝キーです。キーシリンダーに挿し込めないと、キー溝面の向きをかえて挿し込んでください。

使用後はもとにもどし、電子キーと一緒に携帯してください。電子キーの電池が切れたときやスマートエントリー＆スタートシステムが正常に作動しないとき、メカニカルキーが必要になります。
(→P.352)



 **注意**

■ カードキーの取り扱いについて

メカニカルキーをカードキーに挿し込むときは、無理な力を与えないでください。カードキーが破損するおそれがあります。



知識

■ 駐車場などでキーを預けるとき

必要に応じてグローブボックスを施錠（→P.267）します。メカニカルキーを取り出し、電子キーのみを渡してください。

■ メカニカルキーを紛失したとき

→P.351

■ 不正キーの使用について

指定のメカニカルキー以外のキーを使用すると、キーシリンダーが空まわりして解錠できません。

■ カードキーについて

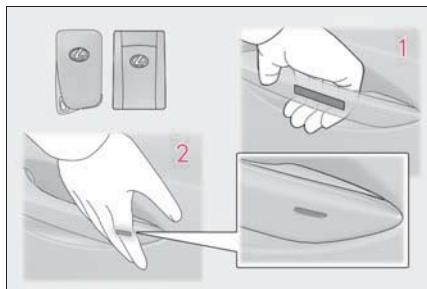
- メカニカルキーが取り出し�にくいときは、ボールペンの先などで解除ボタンを押してください。引き出しがくいときは、コインなどで引っかけてください。
- メカニカルキーをカードキーへ入れるときは、解除ボタンを押しながら奥まで入れてください。

ドア

車外から解錠／施錠するには

■ スマートエントリー＆スタートシステムを使用する

電子キーを携帯して操作します。



1 ハンドルを握って解錠する

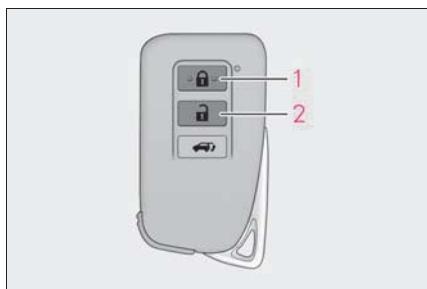
ハンドル裏面のセンサー部に確実にふれてください。

施錠操作後 3 秒間は解錠できません。

2 ドアハンドル表面のロックセンサー部（ハンドルのくぼみ部）にふれ施錠する

必ず施錠されたことを確認してください。

■ ワイヤレス機能を使用する



1 全ドアを施錠する

必ず施錠されたことを確認してください。

押し続けるとドアガラスとムーンルーフ
★が閉まります。※

2 全ドアを解錠する

押し続けるとドアガラスとムーンルーフ

★が開きます。※

★：グレード、オプションなどにより、
装備の有無があります。

※ レクサス販売店での設定が必要です。

□ 知識

■ 解錠するドアを切りかえるには

ワイヤレスリモコンを使用して、スマートエントリー＆スタートシステムで解錠できるドアの設定を切りかえることができます。

- 1 パワースイッチを OFF にする
- 2 オートアラームの侵入センサーを停止する
- (操作中のオートアラーム誤作動防止 : →P.68)
- 3 キー表面のインジケーターが消灯しているときに ボタンと同時に ボタンまたは のいずれかを約 5 秒間押し続ける

操作を行うごとに次のように設定が切りかわります。(続けて切りかえ操作を行う場合は、ボタンから手を離したあと 5 秒以上間隔をあけてから手順 3 を行ってください)

マルチインフォ メーションディス プレイ表示／ブ ーザー音	解錠できるドア
 車外：“ピピッ” (3回) 車内：“ポーン” (1回)	運転席のドアハンドルを握ると運転席のみ解錠 運転席以外のドアハンドルを握ると全席解錠
 車外：“ピピッ” (2回) 車内：“ポーン” (1回)	いずれかのドアハンドルを握ると全席解錠

オートアラームの誤作動防止のため、登録後はいったんワイヤレスリモコンで解錠し、ドアを開閉してください。

( ボタンを押して30秒以内にドアを開けなかった場合は、ドアが再び施錠されオートアラームが設定されます)
オートアラームが作動し警報が鳴ってしまったときは、作動を停止する操作を行ってください。(\rightarrow P.67)

■キーを使わずに車外から施錠をするとき

- 1 ロックレバーを施錠側にする
- 2 ドアハンドルを引いたままドアを閉める

パワースイッチがアクセサリーモードまたはONモードのときや車内に電子キーが放置されているときは施錠されません。ただし、キーが正しく検知されずに施錠される場合があります。

■衝撃感知ドアロック解除システム

車両が前後から強い衝撃を受けると、すべてのドアが解錠されます。衝撃の度合

いや事故の状況によっては作動しないことがあります。

■作動の合図

ドアの施錠・解錠を、ブザーと非常点滅灯の点滅で知らせます。(施錠は1回、解錠は2回)

ドアガラスとムーンルーフの開閉をブザーで知らせます。

■解錠操作のセキュリティ機能

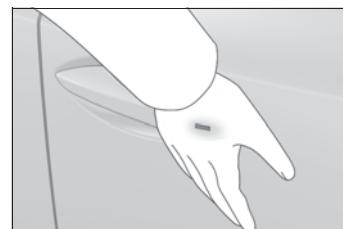
解錠操作後、約30秒以内にドアを開けなかつたときは、盗難防止のため自動的に施錠されます。

■半ドア警告ブザー

ドアが完全に閉まっていない状態でドアを施錠しようとすると、ブザーが鳴ります。ドアを完全に閉めてから、もう一度施錠してください。

■ドアハンドル表面のロックセンサーで施錠できないとき

ドアハンドル表面のロックセンサーに指でふれても施錠できないときは、手のひらでロックセンサーにふれてください。
手袋を着用しているときは、手袋をはずしてください。



■オートアラームの設定制御

施錠するとオートアラームが設定されます。(\rightarrow P.67)

■スマートエントリー＆スタートシステムやワイヤレスリモコンが正常に働かないおそれのあるとき

\rightarrow P.120

■スマートエントリー＆スタートシステムやワイヤレスリモコンが正常に作動しないときは

- メカニカルキーを使ってドアの施錠・解錠ができます。→P.352)
- 電子キーの電池が消耗しているときは、電池を交換してください。

■カスタマイズ機能

キー操作によって解錠されるドアの設定などを変更できます。

(カスタマイズ一覧: →P.369)



警告

■事故を防ぐために

運転中は次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、不意にドアが開き、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- すべてのドアを確実に閉め、施錠する

- 走行中はドア内側のドアハンドルを引かない

特に、運転席はロックレバーが施錠側になっていてもドアが開くため、注意してください。

- お子さまをリヤ席に乗せるときは、チャイルドプロテクターを使用して車内からドアが開かないようにする

■ドアを開閉するときは

傾斜した場所・ドアと壁などのあいだが狭い場所・強風など、周囲の状況を確認し、予期せぬ動きにも対処できるよう、ドアハンドルを確実に保持してドアを開閉してください。

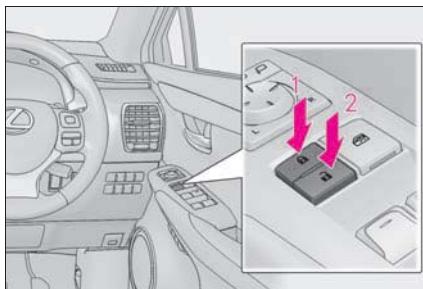
■ワイヤレスリモコンを使ってドアガラスやムーンルーフ★を操作するとき

ドアガラスやムーンルーフに人が挟まるおそれがないことを確認してから操作してください。またおさまには、ワイヤレスリモコンによる操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスやムーンルーフに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

★: グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

車内から施錠／解錠するには

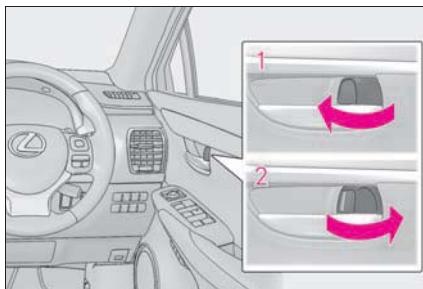
■ドアロックスイッチを使用する



1 全ドアを施錠する

2 全ドアを解錠する

■ロックレバーを使用する



1 ドアを施錠する

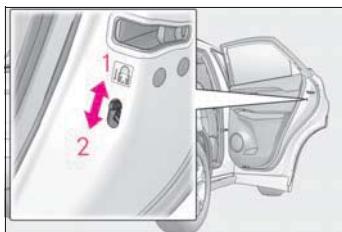
2 ドアを解錠する

運転席ドアは、ロックレバーが施錠側になっていても、車内のドアハンドルを引くと開けられます。

知識

■ チャイルドプロテクター

施錠側にすると、リヤ席ドアが車内から開かなくなります。



1 解錠

2 施錠

お子さまが車内からリヤ席ドアを開けられないようにできます。両側のリヤ席ドアを施錠側にしてください。

■ チャイルドプロテクター使用時のドアの開け方

ドアを解錠して車外のドアハンドルを引くと開きます。万一、車内から開ける場合は、ドアガラスを下げて手を出し、車外のドアハンドルを引いてください。

■ 半ドア走行時警告ブザー

全ドアまたはボンネットが確実に閉まっていない状態のまま、車速が約 5km/h をこえるとマスター オーナーイングが点滅し、警告ブザーが鳴ります。

開いているドアまたはボンネットがマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

オートドアロック・アンロック機能

次の機能を設定・解除することができます。

設定変更のしかたについては、P.369 を参照してください。

機能	作動内容
車速感応オートドアロック	速度が約 20km/h 以上になると全ドアが施錠されます。
シフト操作連動ドアロック	ハイブリッドシステムが作動中にシフトレバーを P 以外にしたとき全ドアが施錠されます。
シフト操作連動アンロック	シフトレバーを P にしたとき全ドアが解錠されます。
運転席ドア開連動アンロック	パワースイッチを OFF にしてから 10 秒以内に運転席ドアを開けると全ドアが解錠されます。

バックドア

バックドアはバックドアオーブンスイッチやスマートエントリー＆スタートシステム、ワイヤレスリモコンを使って施錠・解錠および開閉することができます。



■走行しているとき

- 走行中はバックドアを閉めてください。
開けたまま走行すると、バックドアが車外のものにあたったり荷物が投げ出されたりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。
また、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害や死亡につながるおそれがあります。走行前にバックドアが閉まっていることを必ず確認してください。
- 走行前にバックドアが完全に閉まっていることを確認してください。
バックドアが完全に閉まつていないと、走行中にバックドアが突然開き、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- ラゲージルーム内には絶対に人を乗せないでください。急ブレーキ、急旋回をかけたときや衝突したときなどに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■お子さまを乗せているときは

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ラゲージルームでお子さまを遊ばせないでください。
誤って閉じ込められた場合、熱射病や窒息などを引き起こすおそれがあります。
- お子さまにはバックドアの開閉操作をさせないでください。
不意にバックドアが動いたり、閉めるときに手・頭・首などを挟んだりするおそれがあります。

■バックドアの使用にあたって

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- バックドアを開ける前に、バックドアに貼り付いた雪や氷などの重量物を取り除いてください。開いたあとに重みでバックドアが突然閉じるおそれがあります。
- バックドアを開閉するときは、十分に周囲の安全を確かめてください。
- 人がいるときは、安全を確認し、動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。
- 強風時の開閉には十分注意してください。
バックドアが風にあおられ、勢いよく開いたり閉じたりするおそれがあります。
- 傾斜が急な場所で半開状態で使用すると、バックドアが突然閉じて重大な傷害を受けるおそれがあります。
必ずバックドアが静止していることを確認して使用してください。

⚠ 警告

- バックドアを閉めるときは、指などを挟まないよう十分注意してください。

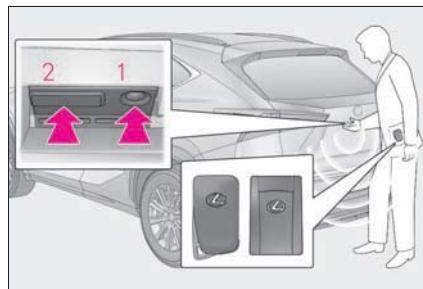


- バックドアは必ず外から軽く押して閉めてください。バックドアハンドルを持ったままバックドアを開めると、手や腕を挟むおそれがあります。
- スピンドルユニット（→P.115）を持ってバックドアを閉めたり、ぶらさがつたりしないでください。手を挟んだり、スピンドルユニットが破損したりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- バックドアにキャリアなどの重いものを取り付けると、開けたあとにドアが突然閉じて、手・頭・首などを挟むおそれがあります。バックドアへのアクセサリー用品の取り付けは、レクサス純正品を使用することをおすすめします。

車外から施錠／解錠するには

- スマートエントリー＆スタートシステムを使用する

電子キーを携帯して操作します。



1 全ドアを施錠する

必ず施錠されたことを確認してください。

2 全ドアを解錠する

施錠操作後 3 秒間は解錠できません。

■ ワイヤレス機能を使用する

→P.102

車内から施錠／解錠するには

■ ドアロックスイッチを使用する

→P.106

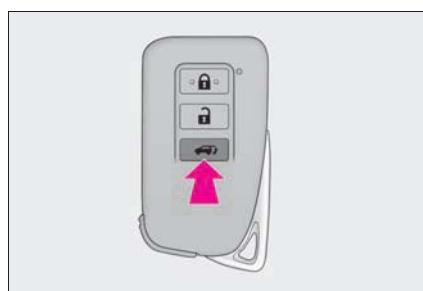
バックドアを開閉するには

■ ワイヤレス機能を使用して開閉する

を約 1 秒長押しする

バックドア解錠時※に作動させることができます。

※ カスタマイズ機能により、施錠時からでも作動できるように設定できます。



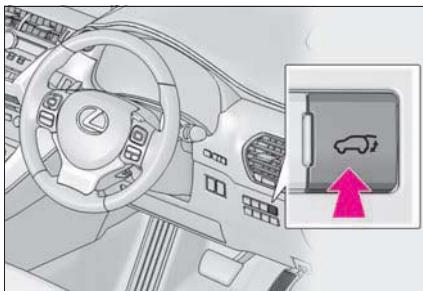
■ 車内からスイッチ操作で開閉する

車を約1秒長押しする

ブザーが鳴りバックドアが自動で開閉します。

開閉作動中に車を押すと、作動を停止します。

作動を停止した状態から再度、車を約1秒間長押しすると、バックドアは反転作動します。



■ 車外からスイッチ操作で開閉する

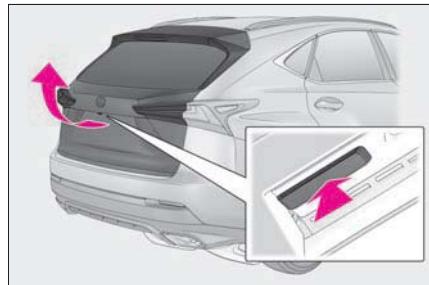
● 開ける

バックドア解錠時：バックドアオープنسイッチを押す

バックドア施錠時：電子キーを携帯して、バックドアオープنسイッチを押す

ブザーが鳴りバックドアが自動で開きます。

バックドアが聞く途中でスイッチを押すと、作動を停止します。



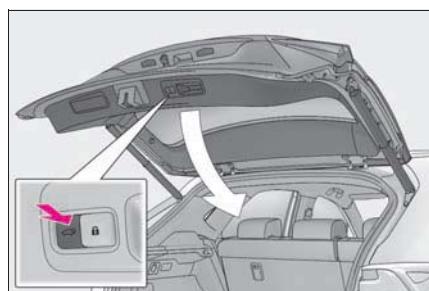
● 閉じる

車を押す

ブザーが鳴りバックドアが自動で閉まります。

バックドアが閉まる途中で車を押すと、作動を停止します。

再度車を押すと、バックドアは自動で開きます。



● 閉じると同時に全ドアの施錠をする（クローズ&ロック機能）

LOCK を押す

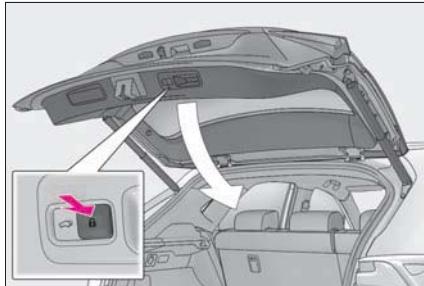
通常ブザーと異なるブザー音が鳴り、パワーバックドアが自動で閉まります。閉まるとき同時にすべてのドアが施錠されたことをドアロックアンサーバックでお知らせします。

パワーバックドアが閉まる途中で

LOCK を押すと、作動を停止します。

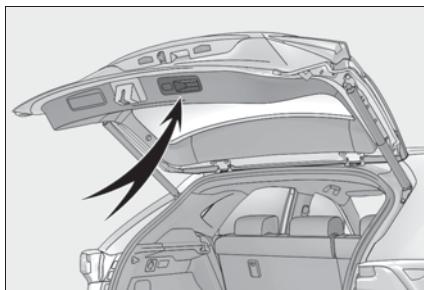
再度 LOCK を押すと、パワーバックドア

は自動で閉作動します。



■ バックドアグリップを使用して閉じる

バックドアグリップを持ってバックドアを引き下げるとき、ブザーが鳴り、バックドアが自動で閉まります。



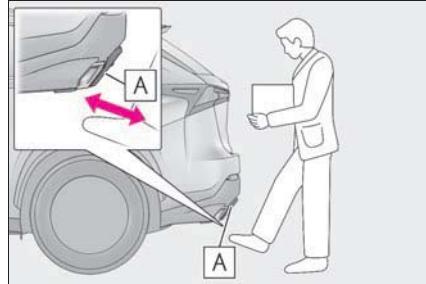
■ キックセンサを使用して開閉する (ハンズフリーパワーバックドア 装着車)

リヤバンパー中央の下部に足を近づけて離す動作をすることで、バックドアを自動で開閉することができます。

- 1 電子キーを携帯した状態で、リヤバンパー中央の下部にあるキックセンサ[A]から、10cm以内に足を近づけて離す動作をする

全ドア施錠時：キックセンサが動きを感じ

知すると、全ドアが解錠されます。



2 ブザーが鳴り、パワーバックドア が作動する

ブザーが鳴りバックドアが自動で開閉します。作動の停止、または再作動を行う場合は、キックセンサ、ワイヤレスリモコン（→P.102）またはパワーバックドアスイッチ（→P.110）を操作してください。

知識

■ ラゲージルームランプ

- バックドアを開けたとき、ラゲージルームランプが点灯します。
- パワースイッチがOFFの場合、ラゲージルームランプが点灯したままのときは、約20分後に自動消灯します。

■ パワーバックドアの作動可能条件

パワーバックドアの作動がONで、次のときに自動で開閉できます。

- バックドアが解錠されているとき、ただし次のときはバックドアが施錠されてもパワーバックドアは作動します。
 - ・ 電子キーを携帯してバックドアオープニングスイッチを押したとき
 - ・ ワイヤレスリモコン使用時では、カスタマイズ機能により施錠時からでも作動できるように設定したとき
- パワースイッチがONモードのとき開作動するには、上記に加え、次のいずれ

かの条件で作動します。

- ・パーキングブレーキがかかる
- ・ブレーキペダルを踏んでる
- ・シフトレバーがPの位置にある

■キックセンサの作動可能条件（ハンズフリーパワーバックドア装着車）

キックセンサの作動がON（→P.117）で、次の作動条件を満たしているときに自動で開閉できます。

- パワーバックドアが完全に閉じている、または完全に開いているとき
- 電子キーが作動範囲内にあるとき（→P.119）
- 足をリヤバンパー中央の下部に近づけて離す動作をしたとき（手や肘、膝などでも作動します）

■バックドアイージークローザー

バックドアが半ドア状態になったとき、バックドアイージークローザーが作動し、バックドアが自動で完全に閉まります。

パワースイッチがどの状態であっても、バックドアイージークローザーは作動します。

■パワーバックドアの作動について

- 作動開始時にブザーが鳴り、非常点滅灯が2回点滅します。
- パワーバックドアの作動がOFFのときは、パワーバックドアは作動しませんが手動で開閉できます。

●パワーバックドアを自動で開いているときに、人や異物などにより異常を感じると、作動が停止します。

■クローズ＆ロック機能について

パワーバックドアが開いている状態で、パワーバックドアを閉じると同時に全ドアを施錠する機能です。

自車のもう一つの電子キーを車室内に置いていない状態で次の操作をすると、パワーバックドアが閉ると同時に全ドア

も施錠されます。

- 1 パワーバックドア以外のすべてのドアを閉じる
- 2 電子キーを携帯した状態で、パワーバックドア下部のスイッチ（→P.110）を短押しする

通常ブザーと異なるブザー音が鳴り、パワーバックドアが閉じると同時にすべてのドアが施錠したことをドアロックアンサーバックでお知らせします。

■クローズ＆ロック機能が正常に作動しない状況

クローズ＆ロック機能は、次のような状況では作動しないことがあります。

- 電子キーを持った手でパワーバックドア下部のスイッチ（→P.110）を押したとき
- 地面に置いたかばんなどに電子キーを入れたままパワーバックドア下部のスイッチ（→P.110）を押したとき

- パワーバックドア下部のスイッチ（→P.110）から離れた位置から押したとき

■キックセンサが誤作動するおそれのある状況（ハンズフリーパワーバックドア装着車）

キックセンサは、リヤバンパー中央の下部で次のような状況があるとき、誤作動するおそれがあります。

誤作動を防ぐため電子キーを携帯して作動範囲内に入らない、またはキックセンサの作動をOFFにしてください。

- 大雨などで大量の水がかかっているとき
- 洗車で水をかけたとき

- 金属体などを近づけたとき
- 汚れを拭き取る動作をしたとき
- カーカバーの脱着作業を行ったとき
- ベットなどの動物が動いたとき
- 物を取り除こうとするとき
- 雪等を取り除こうとするとき
- キックセンサが正常に作動しない状況
(ハンズフリーパワーバックドア装着車)**

次のような場合にキックセンサが正常に作動しないときは、バックドアオーブンスイッチ（→P.110）から操作してください。

- リヤバンパーに強い衝撃が加わったとき
- 電子キーと車両間の通信をさまたげる電波があるとき（→P.120）
- 大雨などで大量の水がかかっているとき
- 洗車で水をかけたとき
- 泥・雪・氷などが付着したとき
- 契約ヒッチなどの金属製の部品を取り付けたとき
- 草木などの動くものがぶれる状態が長期間続いたとき
- キックセンサの感度をさまたげる電波があるとき

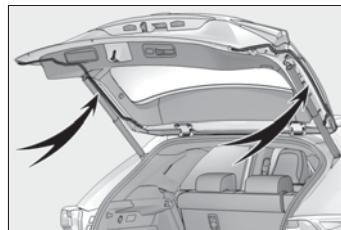
■ 補機バッテリーを再接続したときは

パワーバックドアを適切に作動させるために、初期設定としてバックドアを手動で一度全閉にしてください。

■ 挟み込み防止機能

パワーバックドアの左右端部には、センサーが付いています。ドアを自動で閉めているときに、挟み込みなどによりセンサーが押されると挟み込み防止機能が作動し、その位置からドアは自動的に反対

方向に少し動き、作動が停止します。

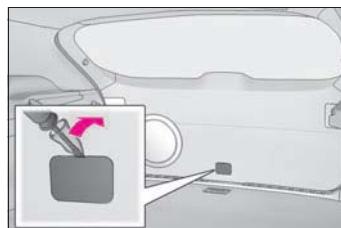


■ バックドアが開かないときは

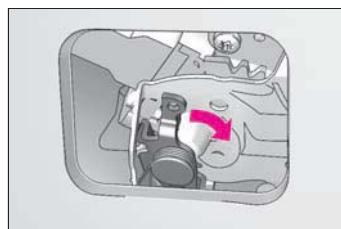
バックドアを内側から開けることができます。

1 カバーをはずす

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。



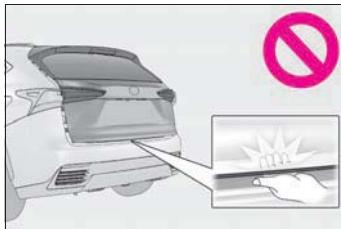
2 レバーを押す



⚠ 警告

■ バックドアイージークローザーについて

- バックドアが半ドア状態になったとき、バックドアイージークローザーが動き自動で完全に閉まります。また、作動し始めるまでに数秒かかります。指などを挟まないように注意してください。骨折など重大な傷害を受けるおそれがあります。



- バックドアイージークローザーは、パワーバックドアメインスイッチがOFFのときにも作動するため、指などの挟みこみには十分注意してください。

■ パワーバックドアについて

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害によぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 周辺の安全を確かめ、障害物がないか、身のまわりの品が挟み込まれる危険がないか確認してください。
- 人がいるときは、作動させる前に安全を確認し、動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。

- 自動開閉中にパワーバックドアの作動をOFF(→P.116)にすると、作動が停止し手動操作に切りかわります。この場合、バックドアが急に開いたり閉じたりするおそれがあるので、十分注意してください。

● 自動開閉中に作動可能条件

(→P.111)を満たさなくなったときは、ブザーが鳴り、作動が停止し手動操作に切りかわる場合があります。この場合、傾斜した場所ではバックドアが急に開いたり閉じたりするおそれがあるので十分注意してください。

● 傾斜した場所では、開いたあとにドアが突然閉じる場合があります。必ずドアが静止していることを確認してください。

● 次のような場合、システムが異常と判断して自動作動が停止し、手動操作に切りかわることがあります。この場合、バックドアが急に開いたり閉じたりするおそれがあるので、十分注意してください。

- ・ 自動作動中、障害物に干渉したとき
- ・ ハイブリッドシステム停止時でパワーバックドアが自動作動しているときに、パワースイッチをONモードにしたりハイブリッドシステムを始動したりして、補機バッテリー電圧が急に低下したとき

● バックドアにキャリアなどの重いものを取り付けると、自動で作動できずにパワーバックドアが故障したり、開いたあとにドアが突然閉じて、手・頭・首などを挟むおそれがあります。バックドアには、レクサス純正品以外のアクセサリー用品を付けないでください。

⚠ 警告

■ 挟み込み防止機能

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 挟み込み防止機能を故意に作動させようとして、体の一部を挟んだりしないでください。
- 挟み込み防止機能は、バックドアが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。指などを挟まないように注意してください。
- 挟み込み防止機能は、挟まれるもののが形状や挟まれたによっては作動しない場合があります。指などを挟まないように注意してください。

■ キックセンサについて（ハンズフリーパワーバックドア装着車）

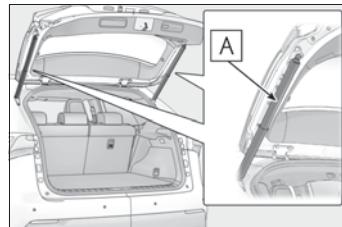
キックセンサを使用してパワーバックドアを操作するときは、次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 周辺の安全を確かめ、障害物がないか、身のまわりの品が挟み込まれる危険がないか確認してください。
- リヤバンパー下の中央付近に足を出し入れする際は、十分に排気管が冷却されるまでふれないでください。やけどをするおそれがあります。
- リヤバンパーの下のスペースが狭い場合は、操作しないでください。

⚠ 注意

■ スピンドルユニットについて

バックドアにはバックドアを支えるためのスピンドルユニットAが取り付けられています。スピンドルユニットAの損傷や作動不良を防ぐため次のことをお守りください。



- ビニール片・ステッカー・粘着材などの異物をスピンドルユニットに付着させない
 - バックドアにレクサス純正品以外のアクセサリー用品を付けない
 - スピンドルユニットに手をかけたり、横方向に力をかけたりしない
- ### ■ バックドアイージークローザーの故障を防ぐために

バックドアイージークローザーの作動中は無理な力をかけないでください。無理な力をかけると、バックドアイージークローザーの故障の原因となります。

■ パワーバックドアの故障を防ぐために

- パワーバックドアを作動させる前に、凍結によるバックドアの貼り付けがないことを確認してください。バックドアに無理な力がかかるている状態で作動させると、故障の原因になります。

注意

- パワーバックドアの作動中は、パワーバックドアに無理に力をかけないでください。
- パワーバックドア左右端部のセンサー（→P.113）を刃物などの鋭利なもので傷付けないように注意してください。センサーが切斷されると自動で閉めることができなくなります。

■ クローズ＆ロック機能について

クローズ＆ロック機能でパワーバックドアを閉じると、通常ブザーと異なるブザー音が鳴り作動します。
正常に作動開始したことを確認するため、通常ブザーと異なるブザー音が鳴ったことを確認してください。
またパワーバックドアが完全に閉じ施錠されると、すべてのドアが施錠されたことをドアロックアンサーバックでお知らせします。
車から離れるときは、ドアロックアンサーバックを確認し、全ドアが施錠されたことを確認してください。

■ キックセンサについて（ハンズフリーパワーバックドア装着車）

キックセンサは、リヤバンパーの内側に設置されています。ハンズフリーパワーバックドアを正しく作動させるために次のことをお守りください。

- リヤバンパーは常にきれいにしておく
リヤバンパーに汚れや着雪などがある場合、キックセンサが作動しなくなることがあります。その場合、汚れや雪を落とした後、現在の位置から車両を動かしてから作動するか確認を行ってください。それでも作動しない場合はレクサス販売店にて点検を受けてください。

- リヤバンパーに親水性コーティングなどの液体を塗らない
- リヤバンパーに草木など動くものを近づけない
リヤバンパーに草木などの動くものがふれる状態が長期間続いたときは、キックセンサが作動しなくなることがあります。その場合、現在の位置から車両を動かしてから作動するか確認を行ってください。それでも作動しない場合はレクサス販売店にて点検を受けてください。
- リヤバンパーへの強い衝撃を避ける
リヤバンパーが強い衝撃を受けると、キックセンサが正常に作動しなくなるおそれがあります。次のような場合にキックセンサが作動しないときは、必ずレクサス販売店で点検を受けてください。
 - ・ キックセンサやキックセンサ周辺に強い衝撃を受けた
 - ・ リヤバンパーに傷や破損がある
- リヤバンパーを分解しない
- リヤバンパーにステッカーを貼らない
- リヤバンパーを塗装しない
- パワーバックドアに自転車キャリアなどを取り付けた場合は、キックセンサの作動を OFF にする

パワーバックドアの作動を ON/OFF するには

マルチインフォメーションディスプレイの「車両設定」（→P.85）で ON（作動）・OFF（停止）の切り替えができます。

- 1 メーター操作スイッチの < または > を押して  を選択する

- 2 メーター操作スイッチの▲または▼を押し、「車両設定」を選択し●を押す
- 3 メーター操作スイッチの▲または▼を押してPBDを選択し●を押す
- 4 メーター操作スイッチの▲または▼を押して「機能」を選択する
- 5 メーター操作スイッチの●を押すごとにON・OFFが切りかわるOFFを選択して、パワーバックドアの作動を停止させた場合、再度、マルチインフォメーションディスプレイの「車両設定」からシステム作動状態にしないとパワーバックドアの作動は復帰しません。(パワースイッチの操作では復帰しません)

キックセンサの作動をON/OFFするには(ハンズフリーパワーバックドア装着車)

マルチインフォメーションディスプレイの「車両設定」(→P.85)でON(作動)・OFF(停止)の切りかえができます。

- 1 メーター操作スイッチの＜または＞を押して○を選択する
- 2 メーター操作スイッチの▲または▼を押し、「車両設定」を選択し●を押す

- 3 メーター操作スイッチの▲または▼を押してPBDを選択し●を押す

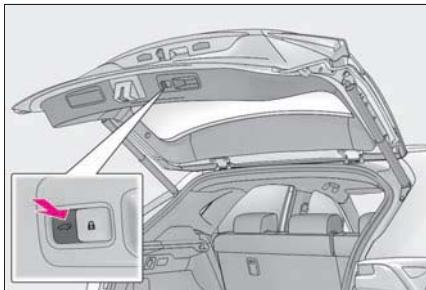
- 4 メーター操作スイッチの▲または▼を押して「キックセンサ」を選択する

- 5 メーター操作スイッチの●を押すごとにON・OFFが切りかわるOFFを選択して、キックセンサの作動を停止させた場合、再度、マルチインフォメーションディスプレイの「車両設定」からシステム作動状態にしないとキックセンサの作動は復帰しません。(パワースイッチの操作では復帰しません)

バックドア自動開停止位置調整について

パワーバックドアを自動で開けたときに、開く位置を調整できます。

- 1 バックドアをお好みの位置で停止させる(→P.110)
- 2 バックドア下部の△を約2秒間押し続ける
 - ・設定が完了するとブザーが4回鳴ります。
 - ・次回パワーバックドアを開けると、その位置でバックドアが停止します。

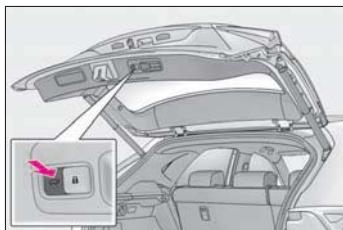


□ 知識

■ バックドア自動開停止位置を初期状態の位置にもどすには

バックドア下部のスイッチを約7秒間押し続ける。

ブザーが4回鳴ったあと、さらに2回鳴ります。次回パワーバックドアを開ける操作をすると、初期状態の位置までバックドアが開きます。



■ カスタマイズ機能

ナビゲーションシステムからもパワーバックドアの自動開停止位置の変更ができます。

車またはナビゲーションシステムのうち、最後に設定した方の停止位置が優先されます。

(カスタマイズ一覧: →P.369)

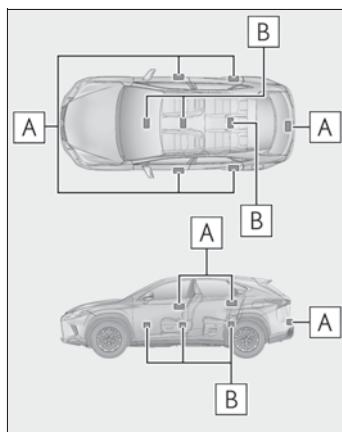
スマートエントリー&スタートシステム

電子キー（カードキー含む）をポケットなどに携帯していると、次の操作が行えます。必ず運転者が携帯してください。

- ドアを施錠・解錠する
(→P.104)
- バックドアを施錠・解錠する
(→P.109)
- ハイブリッドシステムを始動する
(→P.154)

□ 知識

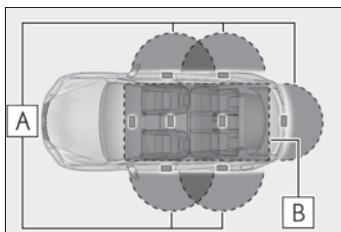
■ アンテナの位置



A 車外アンテナ

B 車室内アンテナ

■作動範囲（電子キーの検知エリア）



■ A ドアの施錠・解錠時

ドアハンドルから周囲約70cm以内で電子キーを携帯している場合に作動します。（電子キーを検知しているドアハンドルのみ作動します）

■ B ハイブリッドシステム始動時またはパ

ワースイッチ切りかえ時

車内で電子キーを携帯している場合に作動します。

■ 警告音が鳴ったり警告表示が出たりしたとき

誤操作などによる予期せぬ事故や盗難を防ぐため、車内や車外で警告音が鳴ったり、マルチインフォメーションディスプレイに警告が表示されることがあります。マルチインフォメーションディスプレイに警告が表示されたときは、ディスプレイの表示をもとに適切に対処してください。（→P.328）

警告音のみが鳴る場合の状況と対処方法は次のようになります。

●車外から“ピー”と5秒間鳴る

状況	対処方法
いずれかのドアが開いているときにスマートエントリー＆スタートシステムで施錠しようとした	全ドアを閉めたあと、再度施錠してください。

●車内から“ポーン、ポーン”と鳴り続ける

状況	対処方法
運転席ドアが開いている状態でパワースイッチをアクセサリーモードにした（アクセサリーモードのとき運転席ドアを開いた）	パワースイッチをOFFにしたあと、運転席ドアを閉めてください。

■マルチインフォメーションディスプレイに「スマートエントリー＆スタートシステム故障 取扱書を確認」が表示されたときは

システムに異常があるおそれがあります。ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

■節電機能

長期駐車時に電子キーの電池と車両の補機バッテリーあがりを防止するため、節電機能が働きます。

●次の状況では、スマートエントリー＆スタートシステムによる解錠に時間がかかる場合があります。

- ・車の外約2m以内に電子キーを10分以上放置した
- ・5日間以上スマートエントリー＆スタートシステムを使用しなかつた

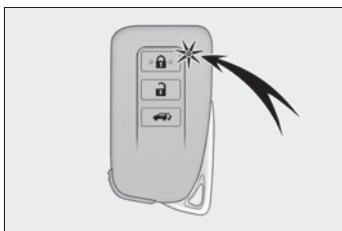
●14日間以上スマートエントリー＆スタートシステムを使用しなかつた場合、運転席以外での解錠ができなくなります。この場合は、運転席のドアハンドルを握る、もしくは、ワイヤレス機能、メカニカルキーで解錠してください。

■電子キーを節電モードにするには

節電モードに設定すると、電子キーによる電波の受信待機を停止し、電子キーの電池の消耗を抑えることができます。

電子キーの を押しながら、
 を2回押し、電子キーのインジケーターが4回光ることを確認してください。

節電モード中は、スマートエントリー＆スタートシステムを使用できません。節電モードを解除するには、電子キーのいずれかのスイッチを押してください。



■機能が正常に働かないおそれのある状況

スマートエントリー＆スタートシステムは微弱な電波を使用しています。次のような場合は電子キーと車両間の通信をさまたげ、スマートエントリー＆スタートシステムやワイヤレスリモコン、イモビライザーシステムが正常に作動しない場合があります。(対処方法: →P.352)

- 電子キーの電池が消耗しているとき
- 近くにテレビ塔や発電所・ガソリンスタンド・放送局・大型ディスプレイ・空港があるなど、強い電波やノイズの発生する場所にいるとき
- 電子キーが、次のような金属製のものに接していたり、覆われたりしているとき
 - ・アルミ箔などの金属の貼られたカード
 - ・アルミ箔を使用したタバコの箱
 - ・金属製の財布やかばん
 - ・小銭
 - ・カイロ
 - ・CDやDVDなどのメディア
- 近くで他の電波式ワイヤレスリモコンを使用しているとき
- 電子キーを、次のような電波を発信する製品と同時に携帯しているとき
 - ・無線機や携帯電話・コードレス式電話などの無線通信機器
 - ・他の車の電子キーや電波式ワイヤレス

リモコン

- ・パソコンや携帯情報端末(PDAなど)
- ・デジタルオーディオプレーヤー
- ・ポータブルゲーム機器

- リヤウインドウガラスに金属を含むフィルムなどが貼ってあるとき

- 充電器など電子機器の近くにキーを置いた場合

■ご留意いただきたいこと

- 電子キーが作動範囲内(検知エリア内)にあっても、次のような場合は正しく作動しないことがあります。

- ・ドアの施錠・解錠時に電子キーがドアガラスやドアハンドルに近付きすぎている、または地面の近くや高い場所にある

- ・バックドアを開けるとき、電子キーが地面の近くや高い場所にある、またはリヤバンパー中央に近付きすぎている

- ・ハイブリッドシステム始動時またはパワースイッチの切りかえ時に、電子キーがインストルメントパネルやフロア上・ラゲージルーム・ドアポケット・またはグローブボックス内などに置かれていた

- インストルメントパネル上面やドアポケット付近に電子キーを置いたまま車外に出ると、電波の状況によっては車外アンテナに検知され車外から施錠でき、電子キーが車内に閉じ込められるおそれがあります。

- 電子キーが作動範囲内にあれば、電子キーを携帯している人以外でも施錠・解錠できます。ただし、電子キーを検知しているドア以外は解錠しません。

- 車外でも電子キーがドアガラスに近付いていると、ハイブリッドシステムを始動できることがあります。

- 電子キーが作動範囲内にあるとき、洗車や大雨などでドアハンドルに大量の水がかかると、ドアが施錠・解錠する

ことがあります。(ドアの開閉操作がなければ、解錠されても約30秒後に自動で施錠します)

- ワイヤレスリモコンなどでの施錠時にキーが車両の近くにあると、スマートエントリー＆スタートシステムでの解錠ができないことがあります。(ワイヤレスリモコンを使用すると解錠できます)
- 手袋を着用していると施錠・解錠しないことがあります。
- ロック操作は、連続で2回まで有効です。3回目以降はロック動作しません。
- 電子キーを携帯したまま洗車をすると、水がドアハンドルにかかったときに施錠・解錠をくり返すことがあります。その場合は次のような処置をしてください。
 - ・キーを車両から約2m以上離れた場所に置く(盗難に注意し保管してください)
 - ・キーを節電モードに設定してスマートエントリー＆スタートシステムの作動を停止する(→P.119)
- 洗車機での洗車中にキーが車内にあると、水がドアハンドルにかかったときに、マルチインフォメーションディスプレイに警報が表示され車外のブザーが吹鳴することがあります。全てのドアを施錠すると警報は止まります。
- ロックセンサーの表面に氷や雪、泥が付着すると、センサーが反応しないことがあります。その場合は氷や雪、泥を取り除いて再度操作してください。
- すばやいドアハンドル操作や、車外アンテナの作動範囲内へ入ってすぐのドアハンドル操作では、解錠しないことがあります。センサーにぶつれ解錠したことを探認してからドアハンドルを引いてください。
- 作動範囲内に他の電子キーがあると、

解錠に時間がかかることがあります。

■長期間運転しないとき

- 盗難防止のため、電子キーを車両から2m以上離しておいてください。
- あらかじめスマートエントリー＆スタートシステムを非作動にすることができます。

■システムを正しく作動させるために

電子キーを必ず携帯した上で作動させてください。また、車外から操作する場合は電子キーを車両に近付けすぎないようにしてください。

作動時の電子キーの位置や持ち方によっては、電子キーが正しく検知されず、システムが正しく作動しないことがあります。(誤って警報が鳴ったり、キー閉じ込み防止機能が働かないこともあります)

■スマートエントリー＆スタートシステムが正常に作動しないとき

- ドアの施錠・解錠: →P.352
- ハイブリッドシステムの始動: →P.353

■カスタマイズ機能

スマートエントリー＆スタートシステムを非作動にするなどの変更ができます。
(カスタマイズ一覧: →P.369)

カスタマイズ機能でスマートエントリー＆スタートシステムを非作動にしたときは、次の操作の説明を参照してください。

- ドアの施錠・解錠: ワイヤレス機能、またはメカニカルキーを使ってドアの施錠・解錠ができます。(→P.104, 352)
- ハイブリッドシステムの始動・パワースイッチのモード切りかえ: →P.353
- ハイブリッドシステムの停止: →P.156



警告

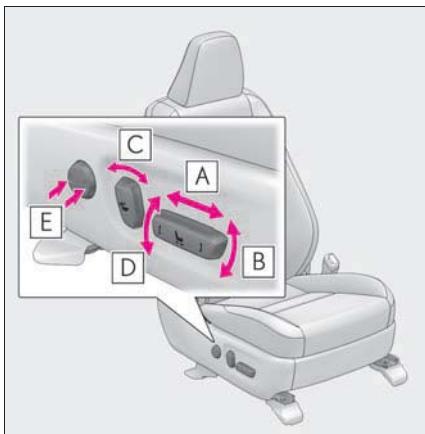
- 電波がおよぼす影響について（スマートエントリー＆スタートシステムアンテナ）
 - 植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器を装着されている方は、アンテナ（→P.118）から約22cm以内に近付かないようしてください。電波により植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器の作動に影響を与えるおそれがあります。
 - 植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器以外の医療用電気機器を使用される場合は、電波による影響について医療用電気機器製造業者などに事前に確認してください。電波により医療用電気機器の動作に影響を与えるおそれがあります。

スマートエントリー＆スタートシステムを非作動にすることもできます。詳しくはレクサス販売店にお問い合わせください。

フロントシート

スイッチ操作により、シートの前後・上下位置などの調整ができます。正しい運転姿勢がとれるよう調整してください。(→P.27)

調整するには



- A** 前後位置調整
- B** クッション前端の上下調整
- C** リクライニング調整
- D** シート全体の上下調整
- E** 腰部硬さ調整（運転席のみ）

知識

■パワーアイージーアクセスシステム

→P.129

! 警告

- シートを調整するとき**
- 同乗者がシートにあたってけがをしないように注意してください。

- シートの下や動いている部分に手を近付けないでください。
指や手を挟み、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

■リクライニング調整について

背もたれは必要以上に倒さないでください。

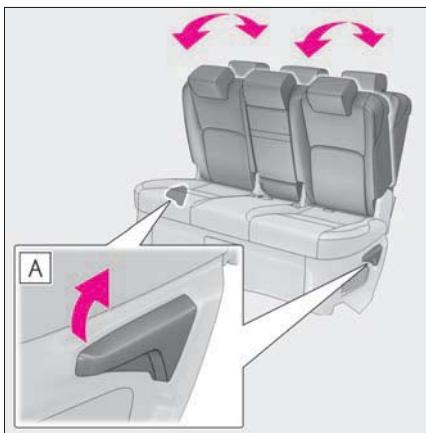
必要以上に倒しすぎると、事故のときに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受けたり肩部ベルトが首にかかるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

リヤシート

レバー操作、もしくはスイッチ操作により、リクライニングの調整や背もたれを倒すことができます。

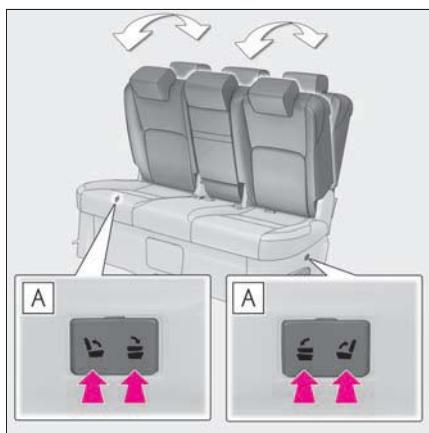
調整するには

- ▶ マニュアルシート装着車



- ▶ **A** リクライニング調整

- ▶ パワーシート装着車



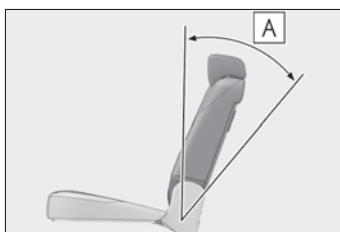
- ▶ **A** リクライニング調整

知識

■ リクライニング調整の作動条件（パワーシート装着車）

次の条件がすべて満たされたとき、スイッチ操作が可能になります。

- 背もたれの位置が直立位置から図の**A**の範囲のとき



- 操作するシート以外の操作スイッチが押されていないとき

■ リクライニング調整について（パワーシート装着車）

背もたれは途中で止まります。いちばんうしろまで倒すには、再度スイッチを押してください。



■ パワーシートの作動について（パワーシート装着車）

シートにカバーや座布団を装着すると、正常に作動しない場合があります。また、前倒しするときは、リヤシートの上に作動のさまたげになるものがないことを確認してください。

⚠ 警告

■ 背もたれを操作するとき

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死につながるおそれがあります。

- 同乗者がシートにあたらないようにしてください。
- シートの間や動いている部分に手を近付けないようにしたり、体の一部が挟まれないようにしてください。
- パワーシート装着車：お子さまには背もたれの操作をさせないでください。同乗者がシートに挟まるおそれがあります。

- パワーシート装着車：前倒しするシートに同乗者が座っていないことを確認してください。また、前倒し中に同乗者が座らないようにしてください。

■ リクライニング調整について

背もたれは必要以上に倒さないでください。

必要以上に倒しすぎると、事故のときに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受けたり肩部ベルトが首にかかるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死につながるおそれがあります。

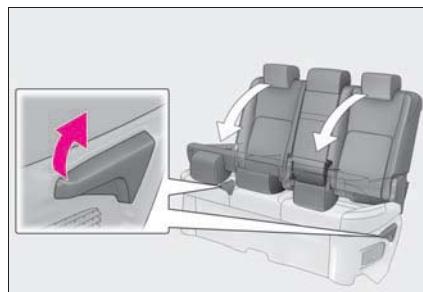
背もたれを倒すには

■ 操作する前に

- 1 リヤ中央席のシートベルトとバッフルを格納する (→P.32)
- 2 ヘッドレストをいちばん下まで下げる (→P.132)

■ 前に倒すときは（マニュアルシート装着車）

レバーを引いて背もたれを倒す



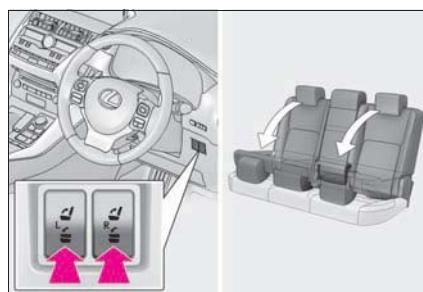
■ 前に倒すときは（パワーシート装着車）

スイッチを長押しして背もたれを倒す

ブザーが鳴り、作動を開始します。作動が完了すると、再度ブザーが鳴ります。

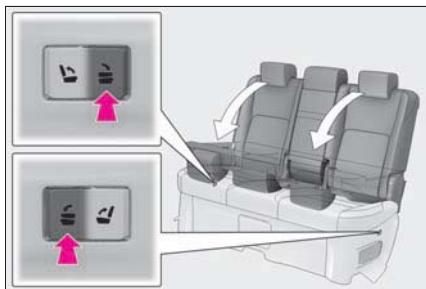
途中で止めるには、もう一度スイッチのどちらかを押すか、他の位置にある、止めたいシート側の操作スイッチを押してください。(止める位置によっては、ブザーが鳴ります)

► インストルメントパネルスイッチ

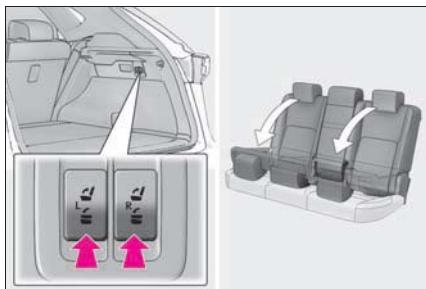


► リヤ席スイッチ

背もたれがうしろに倒れている場合は、背もたれを直立位置にし、再度スイッチを押してください。



▶ ラゲージルーム内スイッチ



■ 背もたれをもとにもどすときは
(マニュアルシート装着車)

1 背もたれを起こし、固定する



**2 シートベルトのプレートがシート
の前側にあることを確認する**

リヤ中央席を使用するときは、リヤ中央
席のシートベルトを取り付けてください。

(→P.31)



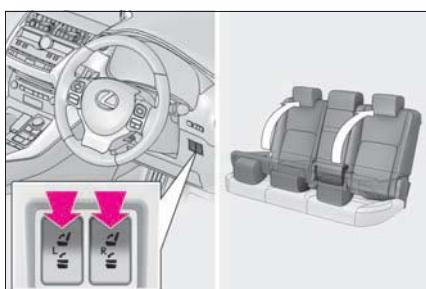
■ 背もたれをもとにもどすときは
(パワーシート装着車)

**1 スイッチを長押しして背もたれを
もとにもどす**

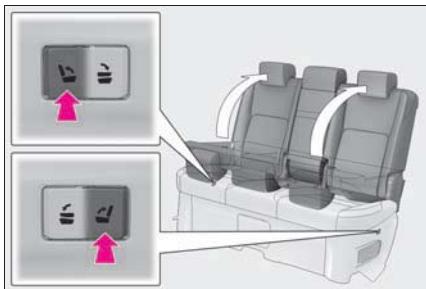
ブザーが鳴り、作動を開始します。作動
が完了すると、再度ブザーが鳴ります。

途中で止めるには、もう一度スイッチの
どちらかを押すか、他の位置にある、止
めたいシート側の操作スイッチを押して
ください。(止める位置によっては、ブ
ザーが鳴ります)

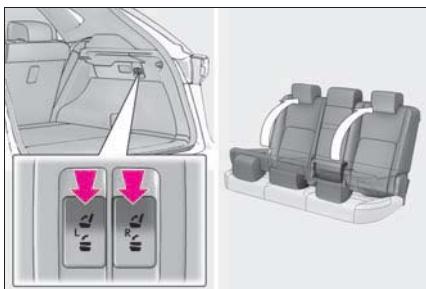
▶ インストルメントパネルスイッチ



► リヤ席スイッチ



► ラゲージルーム内スイッチ



2 シートベルトのプレートがシートの前側にあることを確認する

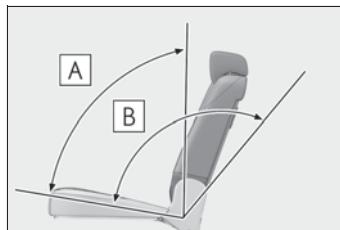
リヤ中央席を使用するときは、リヤ中央席のシートベルトを取り付けてください。
（→P.31）



知識

■ 背もたれを前に倒すときの作動条件
(パワーシート装着車)

次の条件がすべて満たされたとき、スイッチ操作が可能になります。



- リヤ席スイッチ操作時：背もたれの位置が直立位置から図の**A**の範囲のとき
- インストルメントパネルスイッチ、ラゲージルーム内スイッチ操作時：背もたれの位置が図の**B**の範囲のとき
- リヤ席スイッチ操作時：操作するシート側のリヤドアが開いているとき
- ラゲージルーム内スイッチ操作時：バックドアが開いているとき
- 操作するシート以外の操作スイッチが押されていないとき

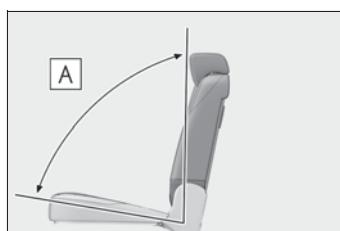
パワースイッチがONモードのときは上記に加え、次のいずれかの条件で作動します。

- パーキングブレーキがかかっている
- ブレーキペダルを踏んでいる
- シフトレバーがPの位置にある

■ 背もたれをもとにもどすときの作動条件 (パワーシート装着車)

次の条件がすべて満たされたとき、スイッチ操作が可能になります。

- リヤ席スイッチ操作時：背もたれの位置が直立位置から図の**A**の範囲のとき



- リヤ席スイッチ操作時：操作するシート側のリヤドアが開いているとき
- ラゲージルーム内スイッチ操作時：バックドアが開いているとき
- 操作するシート以外の操作スイッチが押されていないとき

パワースイッチがONモードのときは上記に加え、次のいずれかの条件で作動します。

- ・ パーキングブレーキがかかっている
- ・ ブレーキペダルを踏んでいる
- ・ シフトレバーがPの位置にある

■ 背もたれの挟み込み防止機能（パワーシート装着車）

背もたれを前に倒すときに、背もたれとシートクッションの間に異物を感知すると、背もたれが反転作動し、作動が停止します。

反転作動中は断続的にブザーが鳴り、作動が停止すると連続的にブザーが鳴ります。



警告

■ 背もたれを前倒しするときや、前倒したあとは

次のことをお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 走行中に前倒しをしない
- 平坦な場所でパーキングブレーキを確実にかけ、シフトレバーをPにする
- 倒した背もたれの上やラゲージルームに人を乗せて走行しない
- お子さまがラゲージルームに入らないよう注意する

■ 背もたれをもとの位置にもどしたあとは

次のことをお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- シートを前後に軽くゆさぶり、確実に固定する

- シートベルトがねじれたり、挟み込まれていないか確認する

■ 挟み込み防止機能（パワーシート装着車）

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 挟み込み防止機能を故意に作動させようとして、体の一部を挟んだりしないでください。

- 挟み込み防止機能は、シートが完全に倒れる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。指などを挟まないように注意してください。

- 挟み込み防止機能は、挟まれるもののが形状や挟まれたによっては作動しない場合があります。指などを挟まないように注意してください。



注意

■ 背もたれを前倒しするときは

背もたれを倒す前に必ずリヤ中央席のシートベルトとバックル、アームレストを格納してください。（→P.32）

パワーアクセスシステム★/ポジションメモリー★/メモリーコール機能★

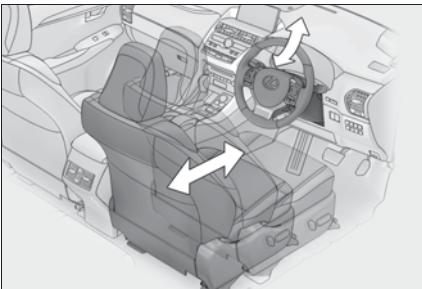
★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

自動でシート・ハンドル・ドアミラーを動かし、お好みのドライビングポジションに調整します。

ドライビングポジションは、3パターンまで登録できます。

ドライビングポジションを電子キー（カードキーを含む）に登録することで、電子キーごとにドライビングポジションを自動で呼び出すことができます。

運転席への乗り降りをしやすくする（パワーアクセスシステム）



次のすべての操作を行ったとき、シートとハンドルが乗り降りしやすい位置に自動で調整されます。

- ・ シフトレバーを P に入れる
- ・ パワースイッチを OFF にする
- ・ シートベルトをはずす

次のいずれかの操作を行ったとき、シートとハンドルがもとの位置にも

どります。

- ・ パワースイッチをアクセサリーモードまたは ON モードにする
- ・ シートベルトを着用する

知識

■パワーアクセスシステムの作動について

降車時に、シートの位置が最後方付近にあるなど、パワーアクセスシステムが作動しない場合があります。

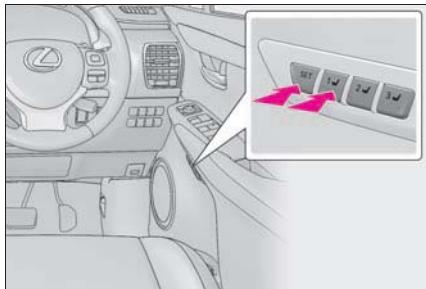
■カスタマイズ機能

パワーアクセスシステムによるシート移動量を変更できます。
(カスタマイズ一覧 : →P.369)

ドライビングポジションを登録するには

- 1 シフトレバーが P の位置にあることを確認する
 - 2 パワースイッチを ON モードにする
 - 3 運転席・ハンドル・ドアミラー角度をお好みの位置に調整する
 - 4 SET ボタンを押しながら、または SET ボタンを押したあと 3 秒以内に 1 ~ 3 のうち登録したいボタンをブザーが鳴るまで押す
- すでに同じボタンに登録されている場合

は、上書きされます。



□ 知識

■ 登録できるシート位置 (→P.123)

腰部位置調整（ランバーサポート）以外の位置が登録できます。

■ ポジションメモリーを正しくお使いいただくために

登録位置がシート各調整位置の最端部にある状態で、さらに同じ方向に操作をすると、呼び出し位置にずれが生じることがあります。

⚠ 警告

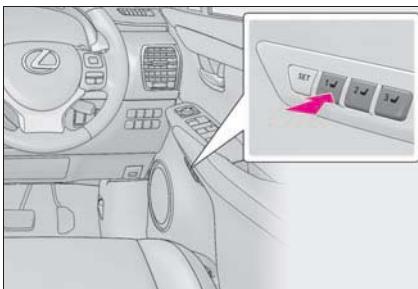
■ シート調整時の警告

シート調整中は、シートがリヤ席乗員にあたつたり、運転者の体がハンドルに圧迫されたりしないよう注意してください。

ドライビングポジションを呼び出すには

- シフトレバーが P の位置にあることを確認する
- パワースイッチを ON モードにする

3 1 ~ 3 のうち呼び出したいポジションのボタンをブザーが鳴るまで押す



□ 知識

■ ポジションの呼び出し作動を途中で止めたいたとき

次のいずれかの操作をします。

- SET ボタンを押す
- 1 ~ 3 のボタンを押す
- シート調整スイッチのいずれかを操作する（シートのみ作動停止）
- ハンドル位置調整スイッチを操作する（ハンドルのみ作動停止）

■ パワースイッチ OFF 後の作動

運転席ドアを開けて 180 秒以内、または運転席ドアを閉めて 60 秒以内に呼び出したいポジションのボタンを押すと、シートの位置が調整されます。

電子キーにドライビングポジションを登録／解除／呼び出しをするには（メモリーコール機能）

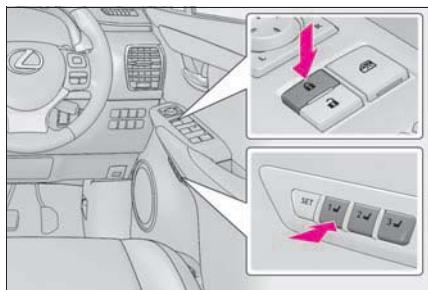
■ 登録方法

お好みのドライビングポジションをあらかじめ 1 ~ 3 のいずれかのボタンに登録しておきます。

登録させたいキーのみ携帯して、運

- 転席ドアを閉めてください。
車内にキーが2つ以上あると、正確に登録できません。
- 1 シフトレバーがPの位置にあることを確認する
 - 2 パワースイッチをONモードにする
 - 3 登録させたいドライビングポジション(1~3)を呼び出す
 - 4 呼び出したドライビングポジションのボタンを押しながら、ドアロックスイッチの施錠側または解錠側を“ピー”とブザーが鳴るまで押す

登録できなかった場合は、約3秒間ブザーが鳴り続けます。



■ 解除方法

- 1 解除させたいキーのみ携帯して、運転席ドアを閉める
車内にキーが2つ以上あると、正確に解除できません。
- 2 パワースイッチをONモードにする
- 3 SETボタンを押しながら、ドアロックスイッチの施錠側または解錠側を“ピッピッ”とブザーが鳴るまで押す

解除できなかった場合は、約3秒間ブザーが鳴り続けます。

■ 呼び出し方法

- 1 ドライビングポジションを登録した電子キーを携帯し、運転席ドアをスマートエンタリー＆スタートシステムまたはワイヤレスリモコンで解錠してドアを開ける

ハンドルを除くドライビングポジションが登録された位置へ動きますが、シート位置は乗り込みやすくするために、登録された位置より少し後方に動きます。

ドライビングポジションがすでに登録された位置にある場合は、シートやミラーは動きません。

- 2 パワースイッチをアクセサリーモードまたはONモードにするか、シートベルトを着用する

シートとハンドルが登録したドライビングポジションに動きます。

□ 知識

■ メモリーコール機能によるドライビングポジションの呼び出しについて

- 電子キーごとにドライビングポジションを登録できるため、携帯する電子キーによっては呼び出されるドライビングポジションが異なる場合があります。

- 運転席ドア以外のドアをスマートエンタリー＆スタートシステムで解錠した場合は、ドライビングポジションの呼び出しは行われません。その場合は、登録したドライビングポジションのボタンを押してください。

■ カスタマイズ機能

メモリーコール機能による解錠ドアの設定を変更できます。

(カスタマイズ一覧: →P.369)

ヘッドレスト

ヘッドレストはすべてのシートに装備されています。

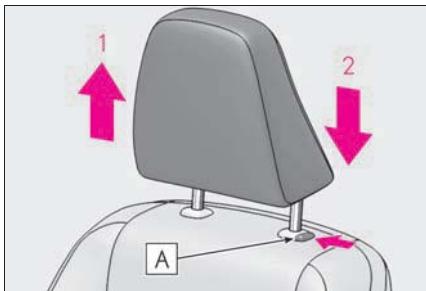
! 警告

■ ヘッドレストについて

- 次のことをお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害によぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- ヘッドレストは、それぞれのシート専用のものを使用する
- ヘッドレストを必ず正しい位置に調整する
- ヘッドレストを調整したあとは、ヘッドレストを押し下げて固定されていることを確認する
- ヘッドレストをはずしたまま走行しない

上下調整するには

■ フロント席

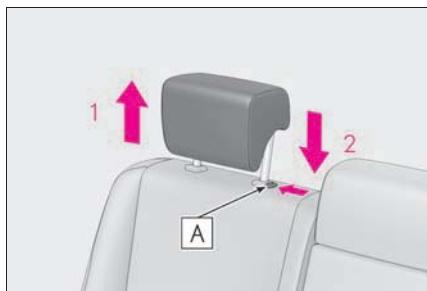


1 上げる

2 下げる

下げるときは、解除ボタン[A]を押しながら操作します。

■ リヤ席



1 上げる

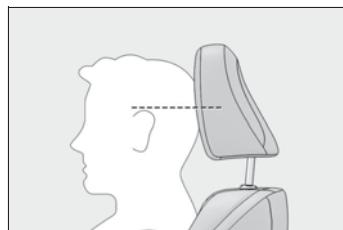
2 下げる

下げるときは、解除ボタン[A]を押しながら操作します。

□ 知識

■ ヘッドレストの高さについて（フロント席）

必ずヘッドレストの中心が両耳のいちばん上のあたりになるよう調整してください。



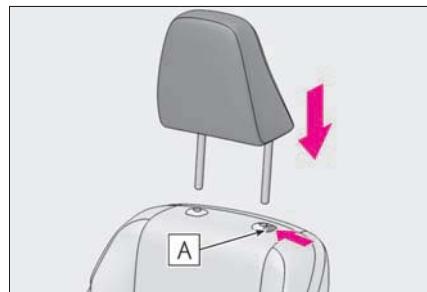
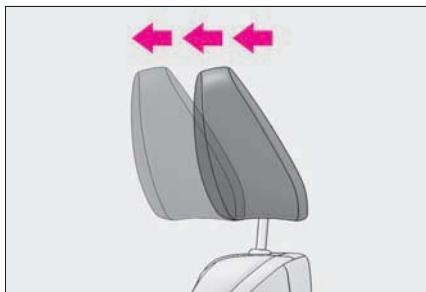
■ リヤ席について

使用するときは、常に格納位置から一段上げた位置にしてください。

前後調整するには★

フロント席ヘッドレストの前後位置を、4段階に調整できます。

いちばん前の状態からさらに前に引くと、いちばんうしろにもどります。



★ : グレード、オプションなどにより、
装備の有無があります。

ヘッドレストを取りはずすには

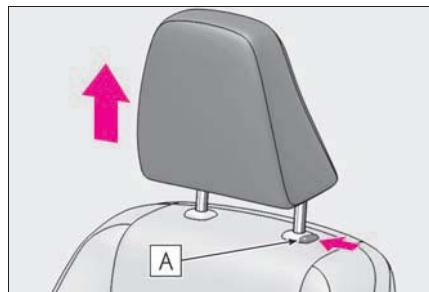
解除ボタン**A**を押しながら取りはずします。

ヘッドレストが天井にあたって取りはずしにくいときは、シートの高さや角度をかえてください。

(→P.123, 124)

3

運転する前の確認



ヘッドレストを取り付けるには

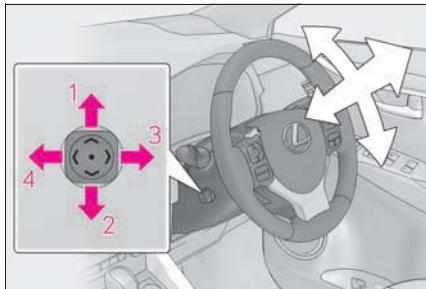
ヘッドレストを取り付け穴に合わせて、ロック位置まで押し下げてください。

さらに下げるときは、解除ボタン**A**を押しながら操作してください。

ハンドル

調整のしかた

スイッチを操作すると、ハンドルを次の方向に動かします。



- 1** 上方へ
- 2** 下方へ
- 3** 手前へ
- 4** 前方へ

□ 知識

■ ハンドル位置調整の作動条件

パワースイッチがアクセサリーモード、またはONモードのとき※

※ 運転席シートベルトを装着していれば、パワースイッチのモードにかかわらず、ハンドルの調整ができます。

■ ハンドル位置の自動調整★

お好みのハンドル位置を運転席ポジションメモリーに登録すると、自動で調整されます。 (→P.129)

★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ パワーイージーアクセスシステム

パワースイッチのモード切りかえ・運転席シートベルトの脱着に連動して、ハンドルとシートが動きます。 (→P.129)

警告

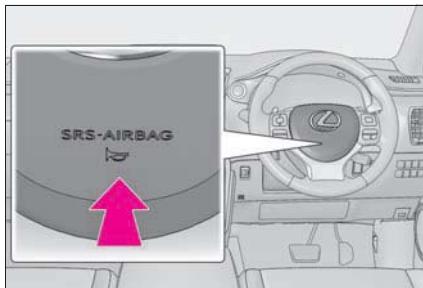
■ 走行中の留意事項

走行中はハンドル位置の調整をしないでください。

運転を誤り、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

ホーン（警音器）を使うには

ハンドルの 周辺部を押すとホーンが鳴ります。



インナーミラー

後方を十分に確認できるようにミラーの位置を調整することができます。

上下調整するには

運転姿勢に合わせてインナーミラーの高さを調整することができます。

インナーミラー本体を持って、上下方向に調整する



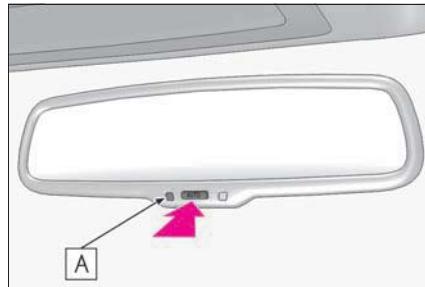
警告

■走行中の留意事項

走行中はミラーの調整をしないでください。

運転を誤って、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

たときは、ミラーは常に自動防眩機能がONになっています。ボタンを押すとOFFになりインジケーターAが消灯します。



知識

■センサーの誤作動防止



センサーの誤作動を防ぐため、センサーにふれたりセンサーを覆つたりしないでください。

自動防眩機能を使うには

後続車のヘッドライトのまぶしさに応じて反射光を自動的に減少させます。

自動防眩機能のON/OFFを切りかえる

ONのときはインジケーターAが点灯します。パワースイッチをONモードにし

ドアミラー

安全に運転していただくためには、運転する前に視界が確保できるようミラーの角度を調整してください。

警告

■走行中の留意事項

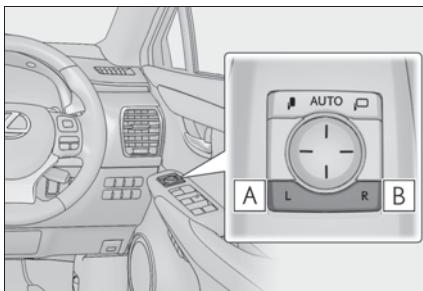
走行中は次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、運転を誤って重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ミラーの調整をしない
- ドアミラーを格納したまま走行しない
- 走行前に必ず、運転席側および助手席側のミラーをもとの位置にもどして、正しく調整する
- ミラーヒーターが作動しているとき
鏡面が熱くなるのでふれないでください。

調整するには

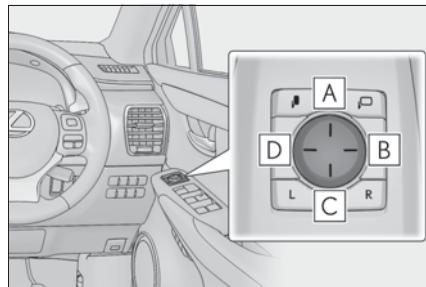
1 調整するミラーを選ぶ



A 左

B 右

2 ミラーの鏡面を調整するにはスイッチを押す



A 上

B 右

C 下

D 左

知識

■鏡面調整の作動条件

パワースイッチがアクセサリーモードまたはONモードのとき

■ミラーが曇ったとき

リヤウインドウデオッガーを作動させると、ミラーヒーターが同時に作動し、曇りを取ることができます。(\rightarrow P.253)

■自動防眩機能

インナーミラーを自動モードにしておくと、ドアミラーも連動して防眩機能が作動します。(\rightarrow P.135)

■ミラー角度の自動調整（運転席ポジションメモリー装着車）

お好みのミラー角度を運転席ポジションメモリーに登録すると、自動で調整されます。(\rightarrow P.129)

■リバース連動機能

ミラー選択スイッチのLまたはRどちらかが選択されているときは、後退時に鏡面が下向きになり、下方が見やすくなり

ます。

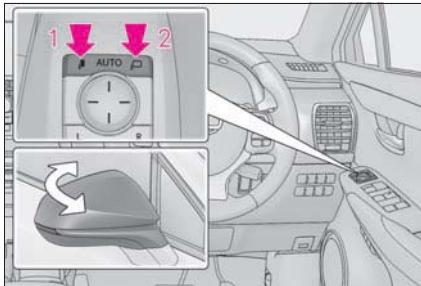
この機能を使用しないときは、ミラー選択スイッチを中立の位置（L・Rともに選択していない状態）にしてください。

後退時に下向きになる角度を調整するときはシフトレバーをRに入れた状態で、鏡面位置を調整することで、下向きに動く角度を調整できます。

通常時（シフトレバーがR以外のとき）の鏡面位置を基準に下向きに動く角度を記憶するため、調整後に通常時の鏡面位置を変更すると、それに伴って後退時の鏡面位置も変化します。通常時の鏡面位置を変更したときは、後退時に下向きになる角度も調整してください。

寒冷時に「リバース運動」を使用するとき、ドアミラーが凍結していると、自動で鏡面が下向きにならないことがあります。この場合、鏡面の周辺に付着している氷や雪などを取り除いてください。

ドアミラーを格納するには



1 ミラーを格納する

2 ミラーをもとの位置にもどす

スイッチを中立の位置（“AUTO”）にすると自動モードに切りかわり、ドアの施錠・解錠と連動します。

知識

■寒冷時に使用するとき

寒冷時に「オート作動」で使用している

とき、ドアミラーが凍結すると、自動で格納・復帰ができないことがあります。この場合、ドアミラーに付着している氷や雪などを取り除いたあと、格納スイッチを押すか、手で動かしてください。

■カスタマイズ機能

オート電動格納の設定を変更できます。（カスタマイズ一覧：→P.369）

警告

■ミラーが動いているとき

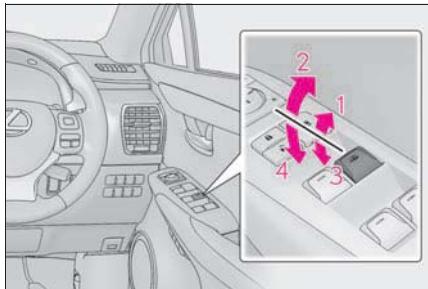
手をふれないでください。

手を挟んではがや、ミラーの故障などの原因になるおそれがあります。

パワーウィンドウ

ドアガラスを開閉するには

スイッチを操作し、自動でドアガラスを開閉できます。



- 1** 閉める
- 2** 自動全閉 ※
- 3** 開ける
- 4** 自動全開 ※

※途中で停止するときは、スイッチを反対側へ操作します。

□ 知識

■ 作動条件

パワースイッチがONモードのとき

■ハイブリッドシステム停止後の作動

パワースイッチをアクセサリーモードまたはOFFにしたあとでも、約45秒間はドアガラスを開閉できます。ただし、そのあいだに運転席ドアを開閉すると作動しなくなります。

■ 挟み込み防止機能

ドアガラスを閉めているときに、窓枠とドアガラスのあいだに異物が挟まると、作動が停止し、少し開きます。

■ 巻き込み防止機能

ドアガラスを開けているときに、異物がドアガラスとドアのすき間に巻き込まれ

ると、作動が停止します。

■ ドアガラスを開閉することができないときは

挟み込み防止機能や巻き込み防止機能が異常に作動してしまい、ドアガラスを開閉することができないときは、開閉することができないドアのパワーウィンドウスイッチで、次の操作を行ってください。

●車を停止し、パワースイッチをONモードの状態で、挟み込み防止機能や、巻き込み防止機能が作動したあと約4秒以内に、パワーウィンドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続ける。または、「自動全開」の位置で押し続けることでドアガラスを開閉することができます。

●上記の操作を行ってもドアガラスが開閉できない場合、機能の初期化を次の手順で実施してください。

- 1 パワースイッチをONモードにする
- 2 パワーウィンドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続け、ドアガラスを全閉にする
- 3 いつたんパワーウィンドウスイッチから手を離して、再度パワーウィンドウスイッチを「自動全閉」の位置で約6秒以上引き続ける
- 4 パワーウィンドウスイッチを「自動全開」の位置で押し続け、ドアガラスを全開にしたあと、さらにスイッチを約1秒以上押し続ける
- 5 いつたんパワーウィンドウスイッチから手を離して、再度パワーウィンドウスイッチを「自動全開」の位置で約4秒以上押し続ける
- 6 再度、パワーウィンドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続け、ドアガラスを開めたあと、さらにスイッチを約1秒以上引き続ける

ドアガラス作動途中でスイッチから手をはなすと、最初からやり直しとなります。

以上の操作を行っても反転して閉じ切らない、または全開にならない場合は、レクサス販売店で点検を受けてください。

■ ドアロック連動ドアガラス開閉機能

- メカニカルキーでドアガラスを開閉できます。※ (→P.353)
- ワイヤレスリモコンでドアガラスを開閉できます。※ (→P.104)
- オートアラームがセットされているときに、ドアロック連動ドアガラス開閉機能でドアガラスを閉めると、オートアラームが作動することがあります。(→P.67)
- ※ レクサス販売店での設定が必要です。

■ 窓開警告ブザー

パワースイッチが OFF でドアガラスが開いていると、運転席ドアを開けたときにブザーが鳴り、メーター内のマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

■ カスタマイズ機能

ドアロック連動ドアガラス開閉機能などの設定を変更できます。
(カスタマイズ一覧: →P.369)

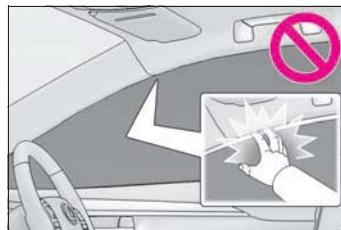


警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ ドアガラスを開閉するときは

- 運転者は、乗員の操作を含むすべてのドアガラス開閉操作について責任があります。特にお子さまの誤った操作による事故を防ぐため、お子さまにはドアガラスの操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。また、お子さまが同乗するときはウインドウロックスイッチを使用することをおすすめします。(→P.140)
- ドアガラスを開閉するときは、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだり巻き込んだりしないようにしてください。特にお子さまへは手などを出さないよう声かけをしてください。



- ワイヤレスリモコンやメカニカルキーを使ってドアガラスを操作するときは、ドアガラスに人が挟まるおそれがないことを確認してから操作してください。またお子さまには、ワイヤレスリモコンやメカニカルキーによる操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

- 車から離れるときはパワースイッチを OFF にし、キーを携帯してお子さまと一緒に車から離れてください。いたずらなどによる誤った操作により、思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 警告

■ 挟み込み防止機能

- 挟み込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだりしないでください。
- 挟み込み防止機能は、ドアガラスが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。また、挟み込み防止機能は、スイッチを引き続けた状態では作動しません。指などを挟まないように注意してください。

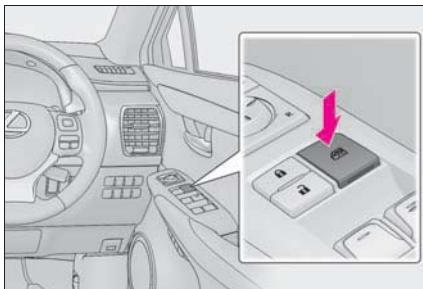
■ 巻き込み防止機能

- 巻き込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手・腕・服などを巻き込ませたりしないでください。
- 巻き込み防止機能は、ドアガラスが完全に開く直前に異物を巻き込むと作動しない場合があります。手・腕・服などを巻き込まないように注意してください。

誤操作を防止するには（ウンドウロックスイッチ）

お子さまが誤ってドアガラスを開閉することを防止できます。

スイッチを押すと、運転席以外のドアガラスが非作動になります。



ムーンルーフ★

- ★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

車内で快適にお過ごしいただくために、天井部（ムーンルーフ）を開けたり、チルトアップしたりできます。

⚠ 警告

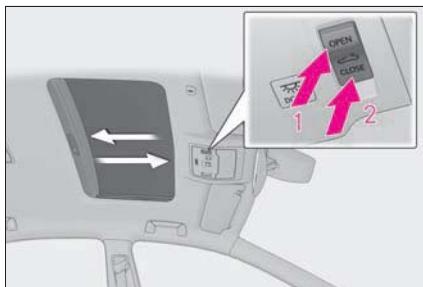
次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ ムーンルーフを開けているときは

- 走行中はルーフから手や顔を出さない
- 開口部に腰かけない

ムーンルーフを操作する

■ ムーンルーフを開閉するには



1 開ける

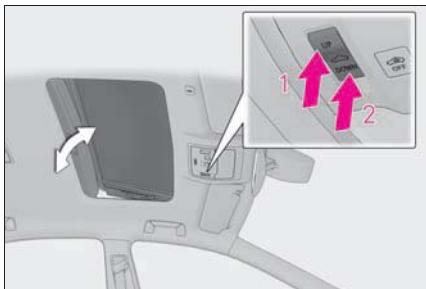
スイッチを長押しすると、チルトアップしてから自動で全開します。※

2 閉める

スイッチを長押しすると、自動で全閉します。※

※ 途中で停止するときは、開閉スイッチを軽く押します。

■ チルトアップ／ダウンするには



1 チルトアップする

スイッチを長押しすると、チルトアップ停止位置まで自動で開きます。※

2 チルトダウンする

スイッチを長押しすると、自動で全閉します。※

※途中で停止するときは、チルトアップ／ダウンスイッチを軽く押します。

□ 知識

■ 作動条件

パワースイッチがONモードのとき

■ 挟み込み防止機能

ムーンルーフを開めるとき、またはチルトダウンするときに、ムーンルーフが異物の挟み込みを感知すると、作動が停止し少し開きます。

■ サンシェード

手動で開閉できます。また、ムーンルーフが開くと連動して開きます。

■ ムーンルーフが正常に閉まらないとき

下記の操作を行ってください。

● 閉まるときに反転し、閉じ切らない場合

1 車を停止する

2 スイッチの“CLOSE”側を押し続ける※1

ムーンルーフが閉じ、再び開き、10

秒間停止します。※2

その後再び閉じ、チルトダウンし、全閉位置で停止します。

3 ムーンルーフが完全に停止したことを確認し、スイッチから手をはなす

●チルトダウン時に反転し、閉じ切らない場合

1 車を停止する

2 スイッチの“DOWN”側を押し続ける※1

ムーンルーフが閉じ、再び開き、チルトアップ位置で10秒間停止します。※2

その後再び閉じ、全閉位置で停止します。

3 ムーンルーフが完全に停止したことを確認し、スイッチから手をはなす

※1途中でスイッチから手をはなすと、最初からやり直しとなります。

※210秒間停止したあとにスイッチから手をはなすと、それ以降オート作動できなくなります。その場合はP.141の「チルトアップ／ダウンやムーンルーフの開閉はできるが、自動で全開・全閉ができない場合」を参照し、ムーンルーフの初期化を行ってください。

以上の操作を行っても反転して閉じ切らない場合は、レクサス販売店で点検を受けてください。

■ ムーンルーフが正常に働かないとき

ムーンルーフの開閉操作や自動全開機能が正常に働かないときは、次の手順で初期化を行ってください。

1 パワースイッチをONモードにする

2 ムーンルーフを操作する

操作できる内容によって、初期化方法が異なります。

●ムーンルーフが閉じている状態で、チルトアップ作動のみできる場合

- 3 スイッチの “DOWN” または “CLOSE” 側を押し続ける
チルトアップ停止位置まで開く。その後ムーンルーフが開き、全閉します。
その後再び、チルトアップし、全閉位置で停止します。
- 4 ムーンルーフが完全に停止したことを確認し、スイッチから手をはなす
- ムーンルーフが途中まで開いている状態で、ムーンルーフが閉じる作動のみできる場合
- 3 スイッチの “DOWN” または “CLOSE” 側を押し続ける
ムーンルーフが全閉し、チルトアップしたあと、全開付近の位置まで開きます。その後、全閉しチルトアップしたあとに、全閉位置で停止します。
- 4 ムーンルーフが完全に停止したことを確認し、スイッチから手をはなす
- チルトアップ／ダウンやムーンルーフの開閉はできるが、自動で全開・全閉ができない場合
- 3 スイッチの “OPEN” 側を押して全開にする
- 4 スイッチの “CLOSE” 側を押して全閉にする
- 5 スイッチの “UP” 側を押してチルトアップ停止位置までチルトアップする
- 6 スイッチの “DOWN” 側を押してチルトダウンする

途中でスイッチから手をはなすと、最初からやり直しとなります。

以上の操作を行っても開閉操作や自動全開機能が正常に働かない場合は、レクサス販売店で点検を受けてください。

■ ムーンルーフが開いたままになっているとき

パワースイッチが OFF でムーンルーフが開いていると、運転席ドアを開けたときにブザーが鳴り、メーター内のマルチインフォメーションディスプレイにメッ

セージが表示されます。

■ カスタマイズ機能

メカニカルキー或いはワイヤレスリモコンでムーンルーフを開閉できるように設定を変更できます。

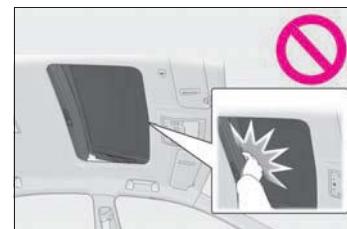
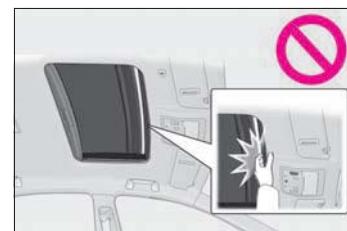
(カスタマイズ一覧 : →P.369)

警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ ムーンルーフを開閉するときは

- 運転者は、ムーンルーフの開閉操作について責任があります。特にお子さまの誤った操作による事故を防ぐため、お子さまにはムーンルーフの操作をさせないでください。お子さまや他の人がムーンルーフに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。
- ムーンルーフを開閉や、チルトダウンするときは、乗員の手・腕・頭・首を挟んだり巻き込んだりしないように注意してください。



⚠ 警告

- ワイヤレスリモコンやメカニカルキーを使ってムーンルーフを操作するときは、ムーンルーフに人が挟まるおそれがないことを確認してから操作してください。
またお子さまには、ワイヤレスリモコンやメカニカルキーによる操作をさせないでください。お子さまや他の人がムーンルーフに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。
- 車から離れる時はパワースイッチをOFFにし、キーを携帯してお子さまも一緒に車から離れてください。いたずらなどによる誤った操作により、思わぬ事故につながるおそれがあります。

■ 挟み込み防止機能

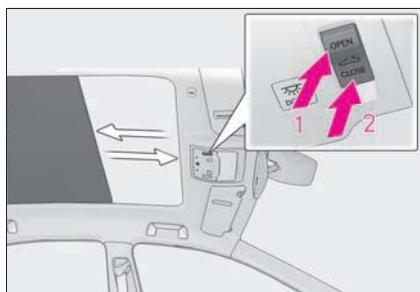
- 挟み込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだりしないでください。
- 挟み込み防止機能は、ムーンルーフが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。また、挟み込み防止機能は、スイッチを押し続けた状態では作動しません。指などを挟まないように注意してください。

電動サンシェード★

★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

車内で快適にお過ごしいただくために、電動サンシェードを開閉することができます。

電動サンシェードを開閉するには



1 開ける

スイッチを長押しすると、自動で全開します。※

2 閉める

スイッチを長押しすると、自動で全閉します。※

※途中で停止するときは、スイッチを軽く押します。

□ 知識

■ 作動条件

パワースイッチがONモードのとき

■ 挟み込み防止機能

- 電動サンシェードを閉めるときに、電動サンシェードが異物の挟み込みを感じると、作動が停止し少し開きます。
- 挟み込み防止機能が作動したときは、再度スイッチの“CLOSE”側を押しても、完全に反転作動が停止するまで

は閉まる方向に動きません。

- 電動サンシェードは、周囲の状況や走行状況により衝撃があつた場合、反転作動することがあります。

■自動全開／自動全閉機能が働かないとき

次の手順で初期化を行ってください。

- 1 パワースイッチをONモードにする
- 2 スイッチの“CLOSE”側を押し続ける
全閉付近の位置まで閉じ、停止します。その後、開く方向に作動してから全閉位置で停止します。

途中でスイッチから手をはなすと、最初からやり直しとなります。

以上の操作を行っても自動全開／自動全閉機能が働かない場合は、レクサス販売店で点検を受けてください。

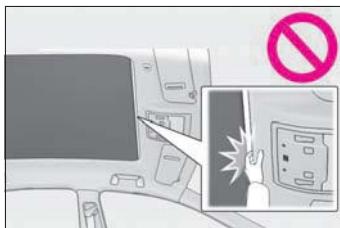


警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■電動サンシェードを開閉するときは

- 電動サンシェードを開閉するときは、乗員の手・腕・頭・首を挟んだり巻き込んだりしないように注意してください。



- お子さまには、電動サンシェードの操作をさせないでください。
電動サンシェードに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

■挟み込み防止機能

- 挟み込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだりしないでください。
- 挟み込み防止機能は、電動サンシェードが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。また、挟み込み防止機能は、スイッチを押し続けた状態では作動しません。指などを挟まないように注意してください。

■やけどやけがを防ぐために

ルーフの下側と電動サンシェードの隙間にはふれないでください。
手を挟んでがをするおそれがあります。また、車を直射日光のあたる場所に長時間駐車するとルーフの下側が熱くなるため、やけどをするおそれもあります。

運転

4

4-1. 運転にあたって

運転にあたって	146
荷物を積むときの注意	152

4-2. 運転のしかた

パワー（イグニッション）スイッチ	154
EV ドライブモード	158
トランスミッション	160
方向指示レバー	164
電動パーキングブレーキ	165
ブレーキホールド	168
ASC（アクティブサウンドコントロール）	170

4-3. ランプのつけ方・ワイパーの使い方

ランプスイッチ	171
アダプティブハイビームシステム	173
オートマチックハイビーム	176
フォグランプスイッチ	179
ワイパー＆ウォッシャー（フロント）	180
ワイパー＆ウォッシャー（リヤ）	182

4-4. 給油のしかた

給油口の開け方	184
---------------	-----

4-5. 運転支援装置について

Lexus Safety System+	187
PCS（プリクラッシュセーフティシステム）	190
LDA（レーンディバーチャーラート [ステアリング制御機能付き]）	198
レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）	205
ドライブモードセレクトスイッチ	213
PKSA（パーキングサポートアラート）	215
クリアランスソナー	216
パーキングサポートブレーキ（静止物）	221
BSM（ブラインドスポットモニター）	231
運転を補助する装置	237

4-6. 運転のアドバイス

ハイブリッド車運転のアドバイス	242
寒冷時の運転	244

運転にあたって

安全運転を心がけて、手順に従つて走行してください。

安全に走行するには

■ ハイブリッドシステムを始動する

→P.154

■ 発進する

- 1 ブレーキペダルを踏んだまま、シフトレバーを D にする
→P.160)
- 2 パーキングブレーキを解除する
→P.165)

パーキングブレーキがオートモードのときは、シフトレバーを P 以外にしたときに、自動でパーキングブレーキが解除されます。→P.165)

- 3 ブレーキペダルから徐々に足を離し、アクセルペダルをゆっくり踏み発進する

■ 停車する

- 1 シフトレバーは D のまま、ブレーキペダルを踏む
- 2 必要に応じて、パーキングブレーキをかける →P.165)

長時間停車する場合は、シフトレバーを P にします。→P.160)

■ 駐車する

- 1 車を完全に停止させる
- 2 パーキングブレーキをかけて
→P.165)、シフトレバーを P にする →P.160)
- 3 パワースイッチを押してハイブリッドシステムを停止する

4 電子キーを携帯していることを確認し、ドアを施錠する

坂道の途中で駐車をする場合は、必要に応じて輪止め※を使用してください。

※ 輪止めはレクサス販売店で購入することができます。

■ 上り坂で発進する

- 1 ブレーキペダルを踏んだまま、シフトレバーを D にする
→P.160)
- 2 パーキングブレーキスイッチを引いて、手動でパーキングブレーキをかける →P.165)
- 3 ブレーキペダルから徐々に足を離し、アクセルペダルをゆっくり踏む
- 4 車が動き出す感触を確認したら、パーキングブレーキスイッチを押し、パーキングブレーキを解除して発進する

□ 知識

■ 上り坂発進について

ヒルスタートアシストコントロールが作動します。→P.238)

■ 燃費を良くする走り方

ハイブリッド車も急加速を控えるなど、通常のガソリン車と同様の心がけが必要です。→P.242)

■ 雨の日の運転について

●雨の日は視界が悪くなり、またガラスが曇ったり、路面がすべりやすくなったりするので、慎重に走行してください。

●雨の降りはじめは路面がよりすべりやすいため、慎重に走行してください。

●雨の日の高速走行などでは、タイヤと路面のあいだに水膜が発生し、ハンド

ルやブレーキが効かなくなるおそれがあるので、スピードは控えめにしてください。

■ハイブリッドシステム出力の抑制について（ブレーキオーバーライドシステム）

- アクセルペダルとブレーキペダルが同時に踏まれたとき、ハイブリッドシステム出力を抑制する場合があります。
- ブレーキオーバーライドシステム作動中は、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

■急発進の抑制について（ドライブスタートコントロール）

- 次のような通常と異なる操作が行われた場合、ハイブリッドシステム出力を抑制する場合があります。
 - ・ アクセルペダルを踏み込んだまま、シフトレバーを操作した（R から D、D から R、N から R、P から D、P から R）とき。（D は S ポジションを含む）この場合、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。表示された画面の指示に従ってください。
 - ・ 後退時にアクセルペダルを踏みすぎたとき。
- ドライブスタートコントロールが作動していると、ぬかるみや新雪などからの脱出が困難な場合があります。そのようなときは、TRC の作動を停止（→P.238）することにより、ドライブスタートコントロールが停止し、脱出しやすくなります。

■運転標識の取り付けについて

磁石式の初心運転者標識や高齢運転者標識などを樹脂バンパーやアルミボデー部に取り付けることはできません。

■環境に配慮した運転

→P.79

▲警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■発進するとき

車が動き出すことによる事故を防ぐため、READY インジケーターが点灯している状態で停車しているときは、常にブレーキペダルを踏んでください。クリープ現象で車が動き出すのを防ぎます。

■運転するとき

- 踏み間違いを避けるため、ブレーキペダルとアクセルペダルの位置を十分把握した上で運転してください。
- ・ アクセルペダルをブレーキペダルと間違えて踏むと、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあります。
- ・ 後退するときは体をひねった姿勢となるため、ペダルの操作がしにくくなります。ペダル操作が確実にできるよう注意してください。
- ・ 車を少し移動させるときも正しい運転姿勢をとり、ブレーキペダルとアクセルペダルが確実に踏めるようにしてください。
- ・ ブレーキペダルは右足で操作してください。左足でのブレーキ操作は緊急時の反応が遅れるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

警告

- ハイブリッド車は電気モーターでの走行時にエンジン音がしないため、周囲の人が車両の接近に気が付かない場合があります。車両接近通報装置がONでも、周囲の騒音などが大きい場合は、車両の接近に気が付かないことがありますので、十分注意して運転してください。特に車両接近通報装置をOFFにしているときは、注意が必要です。
- 燃えやすいものの上を走行したり、可燃物付近に車を停めたりしないでください。排気管や排気ガスは高温になり、可燃物が近くにあると火災になるおそれがあり危険です。
- 通常走行時は、走行中にハイブリッドシステムを停止しないでください。走行中にハイブリッドシステムを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、ハンドルの操作力補助がなくなり、ハンドル操作が困難になります。安全を確認した上で、すみやかに道路脇に停車してください。
なお、通常の方法で車両を停止することができないような緊急時は、P.314 を参照してください。
- 急な下り坂では、エンジンブレーキを使用してスピードを下げてください。フットブレーキを連続して使いすぎると、ブレーキが過熱して正常に機能しなくなります。（→P.160）
- 走行中はハンドル・シート・ドアミラー・インナーミラーの調整をしないでください。運転を誤るおそれがあります。
- すべての乗員は頭や手、その他の体の一部を車から出さないようにしてください。

- AWD車：オフロード走行をしないでください。
本格的なオフロード走行を目的としたAWD車ではありません。やむを得ずオフロードを走行するときは、慎重に運転してください。

- AWD車：渡河などの水中走行はしないでください。

電装品のショートやハイブリッドシステムの破損など、重大な車両故障の原因になるおそれがあります。

■すべりやすい路面を運転するとき

- 急ブレーキ・急加速・急ハンドルはタイヤがスリップし、車両の制御ができなくなるおそれがあります。

- 急激なアクセル操作、シフト操作によるエンジンブレーキやエンジン回転数の変化は、車が横すべりするなどのおそれがあります。

- 水たまり走行後はブレーキペダルを軽く踏んでブレーキが正常に働くことを確認してください。ブレーキパッドがぬれるとブレーキの効きが悪くなったり、ぬれていない片方だけが効いたりしてハンドルをとられるおそれがあります。

■シフトレバーを操作するとき

- シフトレバーを前進側のシフトポジションに入れたまま惰性で後退したり、Rに入れたまま惰性で前進することは絶対にやめてください。思わぬ事故や故障の原因となるおそれがあります。

- 車両が動いているあいだは、シフトレバーをPに入れないとください。トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。

警告

- 車両が前進しているあいだは、シフトレバーを R に入れないでください。トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
 - 車両が後退しているあいだは、シフトレバーを前進側のシフトポジションに入れないとください。トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
 - 走行中にシフトレバーを N に入れると、ハイブリッドシステムの動力伝達が解除され、エンジンブレーキが効かなくなります。
 - アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気を付けてください。シフトレバーが P または N 以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 繼続的にブレーキ付近から警告音（キーキー音）が発生したとき**

できるだけ早くレクサス販売店で点検を受け、ブレーキパッドを交換してください。必要なときにパッドの交換が行われないと、ディスクローターの損傷につながる場合があります。

パッドやローターなどの部品は、役割を果たすと共に摩耗していきます。摩耗の限界をこえて走行すると故障を引き起こすばかりでなく、事故につながるおそれがあります。

■ 停車するとき

- 不必要にアクセルペダルを踏み込まないでください。シフトレバーが P または N 以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 車が動き出すことによる事故を防ぐため、READY インジケーターが点灯しているときは常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。
 - 坂道で停車するときは、前後に動き出して事故につながるのを防ぐため、常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。
 - 停車中に空ぶかしをしないでください。排気管が過熱し、可燃物が近くにあると火災につながるおそれがあり危険です。
- 駐車するとき**
- 炎天下では、メガネ・ライター・スプレー缶・炭酸飲料の缶などを車内に放置しないでください。放置したままでいると、次のようなことが起こるおそれがあり危険です。
 - ・ライターやスプレー缶からガスがもれたり、出火する
 - ・プラスチックレンズ・プラスチック素材のメガネが、変形またはひび割れを起こす
 - ・炭酸飲料の缶が破裂して車内を汚したり、電気部品がショートする原因になる
 - ライターを車内に放置したままにしないでください。ライターをグローブボックスなどに入れておいたり、車内に落としたままにしておくと、荷物を押し込んだりシートを動かしたときにライターの操作部が誤作動し、火災につながるおそれがあり危険です。

⚠️ 警告

- フロントウインドウガラスなどには吸盤を取り付けないでください。また、インストルメントパネルやダッシュボードの上に芳香剤などの容器を置かないでください。
吸盤や容器がレンズの働きをして、車両火災につながるおそれがあり危険です。
- シルバー色などの金属蒸着フィルムを曲面ガラスに貼った場合は、ドアやフロント・リヤドアガラスを開けたまま放置しないでください。直射日光が曲面ガラスの内側に反射し、レンズの働きをして火災につながるおそれがあり危険です。
- 車から離れるときは、必ずシフトレバーを P に入れ、パーキングブレーキをかけて、ハイブリッドシステムを停止し、施錠してください。
READY インジケーターが点灯しているあいだは、車から離れないでください。
パーキングブレーキをかけずにシフトレバーを P にした状態では、車が動き思わず事故につながるおそれがあり危険です。
- READY インジケーターが点灯しているとき、またはハイブリッドシステム停止直後は排気管にふれないでください。やけどをするおそれがあります。

■ 仮眠するとき

必ずハイブリッドシステムを停止してください。
READY インジケーターが点灯した状態のまま仮眠すると、無意識にシフトレバーを動かしたり、アクセルペダルを踏み込んだりして、事故やハイブリッドシステムの異常過熱による火災が発生するおそれがあります。さらに、風通しの悪い場所に停めると、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ ブレーキをかけるとき

- ブレーキがぬれているときは、普段よりも注意して走行してください。
ブレーキがぬれないと、制動距離が長くなり、ブレーキのかかりに、左右の違いが出るおそれがあります。また、パーキングブレーキがしっかりとかかるないおそれもあります。
- 電子制御ブレーキシステムが機能しないときは、他の車に近付いたりしないでください。また、下り坂や急カーブを避けてください。
この場合ブレーキは作動しますが、通常よりもブレーキペダルを強く踏む必要があります。また制動距離も長くなります。ただちにブレーキの修理を受けてください。
- ブレーキシステムは2つ以上の独立したシステムで構成されており、1つの油圧システムが故障しても、残りは作動します。この場合、ブレーキペダルを通常より強く踏む必要があり、制動距離が長くなります。ただちにブレーキの修理を受けてください。



警告

■ 万一脱輪したときは（AWD 車）

いずれかのタイヤが宙に浮いているときは、むやみに空転させないでください。駆動系部品の損傷や、車両の飛び出しによる思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。



注意

■ 運転しているとき

- 運転中にアクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏まないでください。アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏むと、ハイブリッドシステム出力を抑制する場合があります。
- 坂道で停車するために、アクセルペダルを使つたり、アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏んだりしないでください。

■ 部品の損傷を防ぐために

- パワーステアリングモーターの損傷を防ぐため、ハンドルをいっぱいにまわした状態を長く続けないでください。
- ディスクホイールなどの損傷を防ぐため、段差などを通過するときは、できるだけゆっくり走行してください。

■ 走行中にタイヤがパンクしたら

次のようなときはタイヤのパンクや損傷が考えられます。ハンドルをしっかりと持って徐々にブレーキをかけ、スピードを落としてください。

- ハンドルがとられる
- 異常な音や振動がある
- 車両が異常に傾く

タイヤがパンクした場合の対処法はP.332, 342をご覧ください。

■ 冠水路走行に関する注意

大雨などで冠水した道路では、次のような重大な損傷を与えるおそれがあるため、走行しないでください。

- エンストする
- 電装品がショートする
- 水を吸い込んでのエンジン破損

万一、冠水した道路を走行し、水中に浸かつてしまつたときは必ずレクサス販売店で次の点検をしてください。

- ブレーキの効き具合
- エンジン・ハイブリッド用トランスマッチションなどのオイルやフルードの量および質の変化
- 各ペアリング・各ジョイント部などの潤滑不良

■ 駐車するとき

必ずパーキングブレーキをかけシフトレバーをPにしてください。パーキングブレーキをかけシフトレバーをPにしておかないと、車が動き出したり、誤ってアクセルペダルを踏み込んだときに急発進するおそれがあります。

荷物を積むときの注意

安全で快適なドライブをするために、荷物を積むときは次のことをお守りください。



警告

■ 積んではいけないもの

次のようなものを積むと引火するおそれがあり危険です。

- 燃料が入った容器

- スプレー缶

■ 荷物を積むとき

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、ブレーキペダル・アクセルペダルを正しく操作できなかつたり、荷物が視界をさえぎつたり、荷物が乗員に衝突したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- できるだけ荷物はラゲージルームに積んでください。
- シート背もたれより高いものをラゲージルームに積まないでください。
- 後席のシート背もたれを折りたたんで荷物を積むときは、荷物を積み重ねないでください。
- 後席のシート背もたれを折りたたんで、寸法が長い荷物を積むときは、できるだけ前席シート背もたれの真うしろには積まないでください。
- ラゲージルームに人を乗せないでください。乗員用には設計されていません。乗員は、適切にシートベルトを着用させ、座席に座らせてください。

- 次の場所には荷物を積まないでください。

- ・ 運転席足元

- ・ 助手席やリヤ席（荷物を積み重ねる場合）

- ・ トノボード

- ・ インストルメントパネル

- ・ ダッシュボード

- 室内に積んだ荷物はすべてしっかりと安定させてください。

- ルーフレール装着車：ルーフレールには直接荷物を置かないでください。荷くずれを起こしたりして思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■ 荷物の重量・荷重のかけ方について

- 荷物を積み過ぎないでください。

- 荷重を不均等にかけないようにしてください。

これはタイヤに負担をかけるだけでなく、ハンドル操作性やブレーキ制御の低下により思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ ルーフレールを使用するときは★

ルーフレールをルーフラゲージキャリアとして使用するときは、2つ以上のレクサス純正キャリアを装着してください。レクサス純正品以外を装着される場合は、レクサス純正品に相当するものを装着してください。

ルーフラゲージキャリアに荷物を積むときは、次のことをお守りください。

- 車両に荷重が均等になるように荷物を積んでください。

- 車両の大きさ（全長、全幅）を超える荷物を積まないでください。

 **警告**

- 走行する前に、荷物が確実に固定されていることを確認してください。
 - ルーフラゲージキャリアに荷物を積むと、車両の重心が高くなります。高速走行、急加速、急旋回、急ブレーキなどは避けてください。車両を適切に操作することができなくなることで横転し、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
 - 長距離走行、荒れた路面での走行、高速走行をするときは、時おり車両を止めて、荷物が固定した位置にあることを確認してください。
 - 80kg 以上の荷物を積まないでください。
- ★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

 **注意****■ 荷物を積むとき**

ムーンルーフやパノラマルーフに荷物が触れないようにしてください。お守りいただかないと傷が付いたり割れたりするおそれがあります。

パワー（イグニッショナ）スイッチ

電子キーを携帯して次の操作を行うことで、ハイブリッドシステムの始動またはパワースイッチのモードを切りかえることができます。

ハイブリッドシステムを始動するには

1 パーキングブレーキがかかっていることを確認する

2 シフトレバーがPの位置にあることを確認する

3 ブレーキペダルをしっかりと踏む

マルチインフォメーションディスプレイにとメッセージが表示されます。

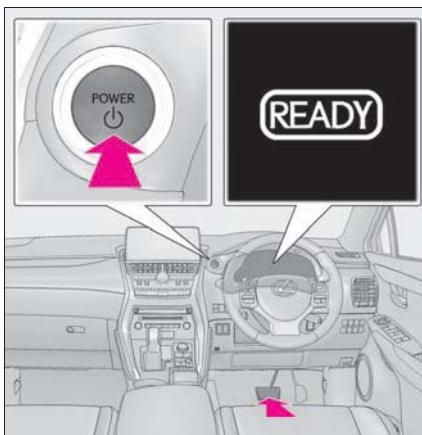
表示されないと、ハイブリッドシステムは始動しません。

4 パワースイッチを短く確実に押す
短く確実に押せば、押し続ける必要はありません。

READY インジケーターが点灯すれば、ハイブリッドシステムは正常に始動しています。

READY インジケーターが点灯するまでブレーキペダルを踏み続けてください。
パワースイッチのどのモードからでもハ

イブリッドシステムを始動できます。



5 READY インジケーターが点灯したことを確認する

READY インジケーターが消灯している状態では走行できません。

知識

■ハイブリッドシステムが始動しないときは

- イモビライザーシステムが解除されていない可能性があります。（→P.66） レクサス販売店へご連絡ください。

- シフトレバーがPの位置にあるか確認してください。ハイブリッドシステムを始動するときに、シフトレバーが傾いたり、P以外の位置にするとハイブリッドシステムを始動できないことがあります。マルチインフォメーションディスプレイに「始動時は P レンジに入れて下さい」が表示されます。

- スマートエントリ＆スタートシステムが正常に作動していない場合があります。（→P.120）

■ハイブリッド車特有の音と振動について

■電子キーの電池の消耗について

→P.100

■外気温が低いときは

ハイブリッドシステム始動時にREADYインジケーターの点滅時間が長くなることがあります。READYインジケーターが点灯すれば走行可能になりますので点灯するまでそのままお待ちください。

■電子キーが正常に働かないときは

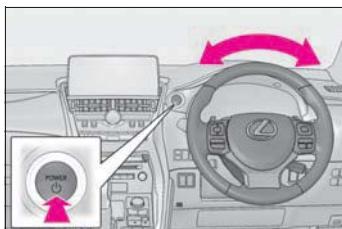
→P.120

■ご留意いただきたいこと

→P.120

■ステアリングロック機能

- パワースイッチをOFFにしたあとにドアを開閉すると、ステアリングロック機能によりハンドルが固定されます。パワースイッチを操作すると、ステアリングロックは自動で解除されます。
- ステアリングロックが解除できないときは、マルチインフォメーションディスプレイに「ハンドルを左右に回しながらパワースイッチを押してください」が表示されます。シフトレバーがPの位置にあることを確認して、ハンドルを左右にまわしながら再操作してください。



- 短時間にハイブリッドシステムの始動・停止をくり返すと、モーターのオーバーヒート防止のために作動制限することがあります。その場合は操作を控えてください。10秒程度でもとの状態にもどります。

■マルチインフォメーションディスプレイに「スマートエントリー＆スタートシステム故障 取扱書を確認」が表示されたときは

システムに異常があるおそれがあります。ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

■万一、READYインジケーターが点灯しないときは

正しい手順で始動操作を行ってもREADYインジケーターが点灯しない場合は、ただちにレクサス販売店へご連絡ください。

■ハイブリッドシステムに異常があるときは

→P.64

■電子キーの電池交換

→P.305

■パワースイッチの操作について

- パワースイッチを操作する際は、短く確実に押してください。確実に押せてない場合は、モードの切りかえやハイブリッドシステムの始動ができない場合があります。また、確実に操作すれば押し続ける必要はありません。
- スイッチを短く確実に押していない場合は、モードの切りかえやハイブリッドシステムの始動ができない場合があります。

■カスタマイズ機能でスマートエントリー＆スタートシステムを非作動にしたときは

→P.350

警告

■ハイブリッドシステムを始動するとき

必ず運転席に座って行ってください。このとき決してアクセルペダルは踏まないでください。

思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■走行中の警告

ハイブリッドシステムの停止などで車両滑走状態になったときは、車両が安全な状態で停止するまでドアを開けたり、ロック操作をしたりしないでください。ステアリングロック機能が作動し、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■ハイブリッドシステムを始動するとき

もしハイブリッドシステムが始動しにくい場合は、ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

■パワースイッチの操作について

パワースイッチ操作時に引っかかりなどの違和感があるときは、故障のおそれがあります。すみやかにレクサス販売店にご連絡ください。

ハイブリッドシステムを停止するには

- 1 車両を完全に停止させる
- 2 パーキングブレーキをかけて
(→P.165)、シフトレバーを P の位置にする (→P.160)
- 3 パワースイッチを押す

- 4 ブレーキペダルから足を離してメーターの表示が消灯していることを確認する

警告

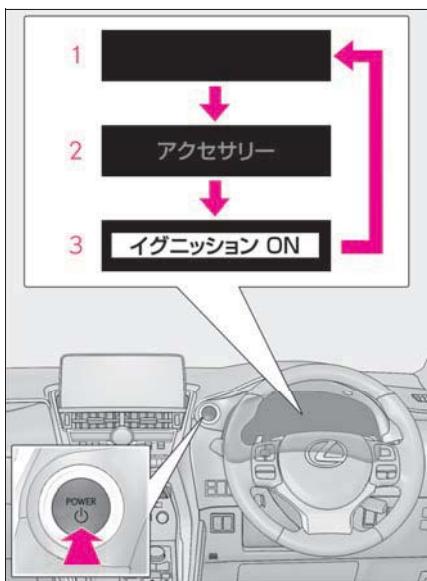
■緊急時のハイブリッドシステム停止方法

走行中にハイブリッドシステムを緊急停止したい場合には、パワースイッチを 2 秒以上押し続けるか、素早く 3 回以上連続で押してください。
(→P.314)

ただし、緊急時以外は走行中にパワースイッチにふれないでください。走行中にハイブリッドシステムを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、ハンドルの操作力補助がなくなり、ハンドル操作が困難になります。安全を確認した上で、すみやかに道路脇に停車してください。

パワースイッチを切りかえるには

ブレーキペダルを踏まずにパワースイッチを押すと、モードを切りかえることができます。(スイッチを押すごとにモードが切りかわります)



1 OFF※

非常に点滅灯が使用できます。

2 アクセサリーモード

オーディオなどの電装品が使用できます。
マルチインフォメーションディスプレイに「アクセサリー」が表示されます。

3 ON モード

すべての電装品が使用できます。

マルチインフォメーションディスプレイに「イグニッション ON」が表示されます。

※ シフトレバーが P 以外のときはアクセサリーモードになり、OFF なりません。



■自動電源 OFF 機能

シフトレバーが P にあるとき、20 分以上アクセサリーモードか 1 時間以上 ON モード（ハイブリッドシステムが作動していない状態）にしたままにしておくと、パワースイッチが自動で OFF になります。

ただし、自動電源 OFF 機能は、補機バッテリーあがりを完全に防ぐものではありません。ハイブリッドシステムが作動していないときは、パワースイッチをアクセサリーモードまたは ON モードにしたまま長時間放置しないでください。

■シフトレバーがP以外でハイブリッドシステムを停止したとき

シフトレバーが P 以外でハイブリッドシステムを停止させた場合、ハイブリッドシステムは停止しますが、パワースイッチのモードは OFF なりません。次の手順で OFF してください。

- 1 パーキングブレーキがかかるていることを確認する
- 2 シフトレバーを P の位置にする
- 3 マルチインフォメーションディスプレイに「電源を Off してください」が表示されていることを確認し、パワースイッチを 1 回押す
- 4 マルチインフォメーションディスプレイの「電源を Off してください」の表示が消灯していることを確認する



注意

■ハイブリッドシステムを始動するとき

もしハイブリッドシステムが始動しにくい場合は、ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

■補機バッテリーあがりを防止するために

- ハイブリッドシステム停止中は、パワースイッチをアクセサリーモードまたは ON モードにしたまま長時間放置しないでください。

注意

- ハイブリッドシステム停止中に、マルチインフォメーションディスプレイの「アクセサリー」または「イグニッションON」の表示が消灯していない場合、パワースイッチがOFFになつていません。パワースイッチをOFFにしてから車両を離れてください。
- シフトレバーがP以外でハイブリッドシステムを停止させないでください。シフトレバーがP以外でハイブリッドシステムを停止させた場合、パワースイッチがアクセサリーモードとなるため、そのまま放置すると補機バッテリーあがりの原因となります。

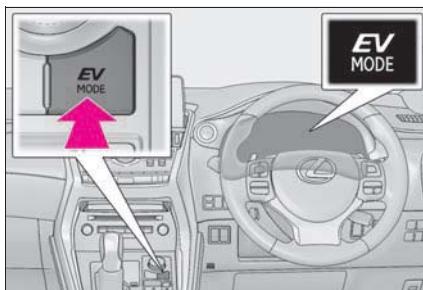
EV ドライブモード

EV ドライブモードは、駆動用電池から電力を供給し、電気モーターのみを使って走行するモードです。早朝、深夜の住宅街や屋内の駐車場などで、騒音や排気ガスを気にすることなく走行することができます。

通常は車両接近通報装置がONになつているため、静かに走行したい場合はOFFにしてください。
(→P.60)

EV ドライブモードの切りかえ

EV ドライブモードスイッチを押す
EV ドライブモードになると、EV ドライブモード表示灯が点灯します。
もう一度スイッチを押すと通常走行（ガソリンエンジンと電気モーターによる走行）にもどります。



知識

■ EV ドライブモードの切りかえについて

次のときはEV ドライブモードに切りかわらない場合があります。EV ドライブモードに切りかわらないときはブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

- ハイブリッドシステムが高温のとき

炎天下に駐車したあとや登降坂、高速走行後など

- ハイブリッドシステムが低温のとき
約0℃を下まわるような低温下に長時間駐車したあとなど
- ガソリンエンジンが暖機運転中のとき
- 駆動用電池の充電量が低いとき
エネルギーモニターに表示される駆動用電池の残量が少ない状態（→P.92）
- 車速が高いとき
- アクセルペダルを大きく踏み込んだときや坂道など
- フロントウインドウガラスの曇り取りを使用しているとき

■ガソリンエンジンが冷えているときのEV ドライブモードの切りかえについて

ガソリンエンジンが冷えているときにハイブリッドシステムを始動した場合、しばらくすると暖機運転のためガソリンエンジンが自動的に始動し、EV ドライブモードに切りかえることができなくなります。

ハイブリッドシステム始動操作後、READY インジケーターが点灯したら、ガソリンエンジンが始動する前に EV ドライブモードスイッチを押してください。

■EV ドライブモードの自動解除について

EV ドライブモードで走行中、次のときは自動的に通常走行（ガソリンエンジンと電気モーターによる走行）になることがあります。EV ドライブモードが解除されるときは、ブザーが鳴り、EV ドライブモード表示灯が点滅したあと消灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

- 駆動用電池の充電量が低下したとき
エネルギーモニターに表示される駆動用電池の残量が少ない状態（→P.92）
- 車速が高いとき

- アクセルペダルを大きく踏み込んだときや坂道など

■EV ドライブモードの走行可能距離

EV ドライブモードの走行可能距離は数百mから約1km程度です。ただし、車両の状況によってはEV ドライブモードが使用できない場合があります。

■燃費について

ハイブリッドシステムは、通常走行（ガソリンエンジンと電気モーターによる走行）において、最も燃費がよくなるように制御されています。EV ドライブモードを多用すると、燃費が悪くなることがあります。



警告

■走行中は

EV ドライブモードではエンジ音がしないため、周囲の人が車両の発進や接近に気が付かない場合があります。車両接近通報装置がONでも、周囲の騒音などが大きい場合は、車両の接近に気が付かない場合がありますので、十分注意して運転してください。特に車両接近通報装置をOFFにしているときは、注意が必要です。

トランスマッision

目的や状況に応じてシフトポジションを選択してください。

シフトポジションの使用目的について

シフトポジション	目的および状態
P	駐車またはハイブリッドシステムの始動
R	後退
N	動力が伝わらない状態
D	通常走行 ※1
S	S モード走行 ※2 →P.162)

※1 燃費向上や騒音の低減のために、通常はDポジションを使用してください。パドルシフトスイッチの操作で、走行に適したレンジを選択することができます。

※2 Sモードではシフトレンジを選択することで、加速力やエンジンブレーキ力を切りかえることができます。パドルシフトスイッチの操作で、走行に適したレンジを選択することができます。

□ 知識

■ レーダークルーズコントロールを使って走行しているとき

エンジンブレーキを目的に次の操作を行っても、レーダークルーズコントロールが解除されないためエンジンブレーキは効きません。

● DポジションまたはSモードで走行中に5または4レンジにシフトダウンした

とき (→P.210)

● Dポジションで走行中にドライブモードセレクトスイッチをスポーツモードにしたとき (→P.213)

■ 急発進の抑制について (ドライブスタートコントロール)

次のような通常と異なる操作が行われた場合、HVシステム出力を抑制する場合があります。

● アクセルペダルを踏み込んだまま、シフトレバーを操作した (R から D、D から R、N から R、P から D、P から R) とき。(D は S ポジションを含む) この場合、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。表示された画面の指示に従ってください

● 後退時にアクセルペダルを踏みすぎたとき

■ リバース警告ブザー

シフトレバーを R に入れるとブザーが鳴り、R にあることを運転者に知らせます。

⚠ 警告

■ すべりやすい路面を走行するとき

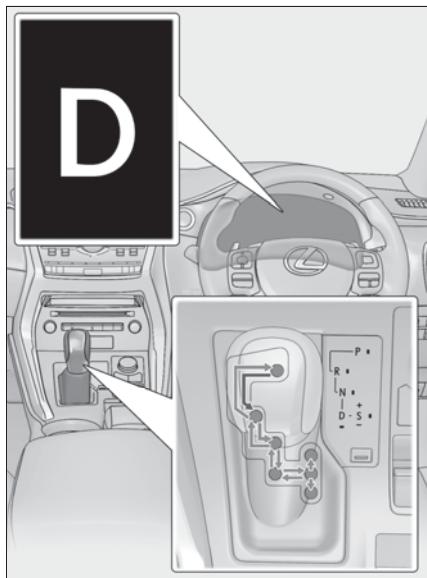
急なアクセル操作や、シフト操作を行わないでください。エンジンブレーキ力の急激な変化が横すべりやスピンの原因になりますので注意してください。

⚠ 注意

■ 駆動用電池の充電について

シフトレバーが N では、ガソリンエンジンが回転していても駆動用電池は充電されないため、N で長時間放置すると駆動用電池の残量が低下し、走行不能になるおそれがあります。

シフトレバーの動かし方



← パワースイッチが ON モードの状態で、ブレーキペダルを踏んだまま操作します。

P と D のあいだの操作は、ブレーキペダルを踏み、車を完全に止めてから行ってください。

□ 知識

■ シフトロックシステム

シフトロックシステムは、発進時のシフトレバーの誤操作を防ぐシステムです。

パワースイッチが ON モードでブレーキペダルを踏んだ状態でなければ、シフトレバーを P からシフトできません。

■ シフトレバーを P からシフトできないとき

ブレーキペダルを踏んでいることを確認してください。

ブレーキペダルを踏んだ状態でシフトレバーがシフトできない場合、シフトロックシステムなどの故障が考えられます。ただちにレクサス販売店で点検を受けて

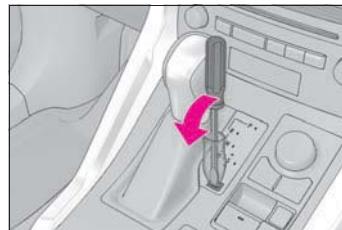
ください。

ただし一時的な処置として、次の方法でシフトレバーをシフトすることができます。

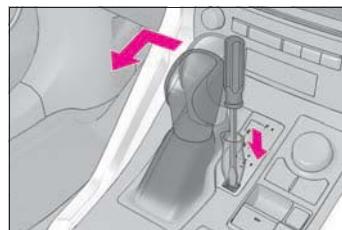
シフトロックの解除のしかた：

- 1 パーキングブレーキがかかつていることを確認する
- 2 パワースイッチを OFF にする
- 3 ブレーキペダルを踏む
- 4 マイナスドライバーなどを使ってカバーを取りはずす

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。



- 5 シフトロック解除ボタンを押す



ボタンを押しているあいだは、レバーをシフトできます。

⚠ 警告

■ シフトロック解除時の事故を防ぐために

シフトロック解除ボタンを押すときは、必ずパーキングブレーキをかけブレーキペダルを踏んでください。

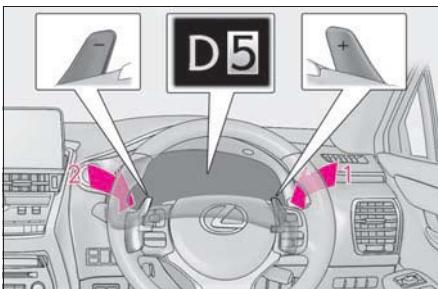
誤ってアクセルペダルを踏んでいると、シフトロック解除ボタンを押してシフトレバーを操作したときに、車が急発進して思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

走行モードの選択

→P.213

D ポジションでレンジ選択するには

シフトレバーを D ポジションで走行中、パドルシフトスイッチの “-” 側を操作すると、一時的にシフトレンジを選択する走行へ切りかわります。シフトレンジを選択することで、エンジンブレーキ力を切りかえることができます。パドルシフトスイッチの “-” 側または “+” 側の操作でシフトレンジを選択することができます。



1 シフトアップ

2 シフトダウン

1 から 6 レンジのあいだで選択されているシフトレンジが表示されます。

パドルシフトスイッチを操作したときの初期レンジは、4 レンジに設定されます。

通常走行にもどすときは、パドルシフトスイッチの “+” 側を一定時間以上保持します。

■ シフトレンジ機能

- エンジンブレーキ力は、6 段階から選択が可能です。
- シフトレンジの数字が小さい方が、エンジンブレーキ力は大きくなり、エンジン回転数も高くなります。

□ 知識

■ D ポジションでのレンジ選択の自動解除

次のとき、自動的に D ポジションでのレンジ選択が解除されます。

- 停車したとき
- アクセルペダルを一定時間以上踏み続けたとき
- シフトレバーを D 以外にしたとき

■ シフトダウン制限警告ブザー

安全や走行性能を確保するため、シフトダウン操作には制限があり、シフトレバーまたはパドルシフトスイッチを操作してもシフトダウンできない場合があります。(このときブザーが 2 回鳴ります)

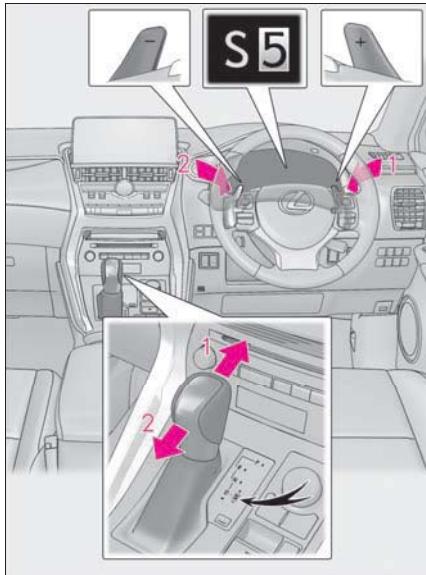
S モードでのシフトレンジ選択

シフトレバーを S ポジションにすると、S モードに切りかわります。シフトレバーまたはパドルシフトスイッチの操作で思いどおりのシフトレンジを選択し、運転することができます。

きます。シフトレバーまたはパドルシフトスイッチの“-”側または“+”側の操作でシフトレンジを選択することができます。

“+”側へ保持すると6レンジに設定されます。

- エンジン過回転前に自動的にシフトアップします。



1 シフトアップ

2 シフトダウン

1から6レンジのあいだで選択されているシフトレンジが表示されます。

Sポジションへ操作したときの初期レンジは、4レンジに設定されます。

■ シフトレンジ機能

- 加速力・エンジンブレーキ力は、6段階から選択が可能です。
- シフトレンジの数字が小さい方が、加速力・エンジンブレーキ力は大きくなり、エンジン回転数も高くなります。



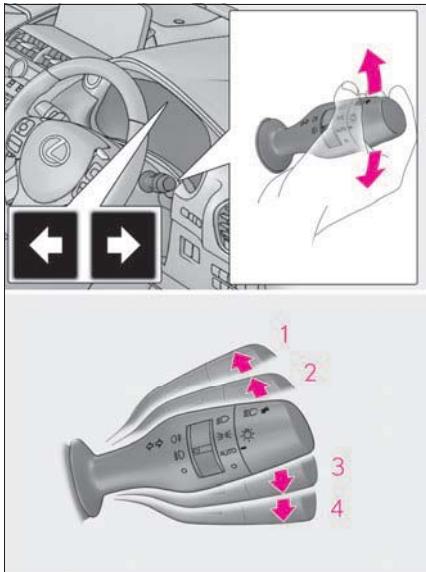
■ Sモードについて

- S4レンジ以下のとき、シフトレバーを

方向指示レバー

操作のしかた

レバー操作により、次のように運転者の意思を表示することができます。



1 左折

2 左側へ車線変更（レバーを途中で保持）

レバーを離すまで、左側方向指示灯が点滅します。

3 右側へ車線変更（レバーを途中で保持）

レバーを離すまで、右側方向指示灯が点滅します。

4 右折

□ 知識

■ 作動条件

パワースイッチがONモードのとき

■ 表示灯の点滅が異常に速くなったときは

方向指示灯の電球が切れていないか確認してください。

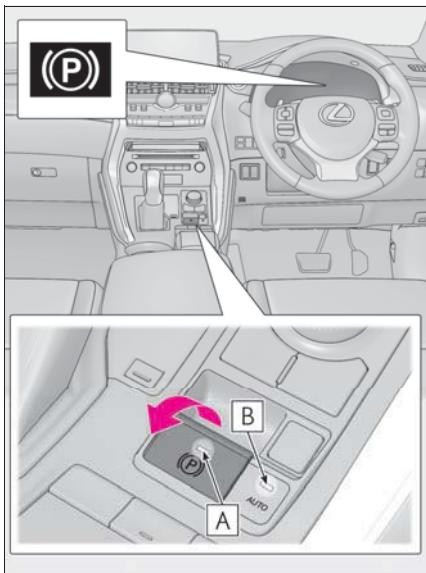
電動パーキングブレーキ

自動または手動でパーキングブレーキをかける・解除することができます。オートモードのときは、シフトレバーの操作に応じてパーキングブレーキが自動で作動します。また、オートモードのときでも手動でパーキングブレーキをかける・解除することができます。

操作のしかた

■ オートモードを ON にする

停車中にオートモードランプ[B]が点灯するまでスイッチを引き続ける



シフトレバーの操作に応じて、パーキングブレーキが自動で作動します。

● P から P 以外にしたとき：

パーキングブレーキが解除され、パーキングブレーキ表示灯とパー

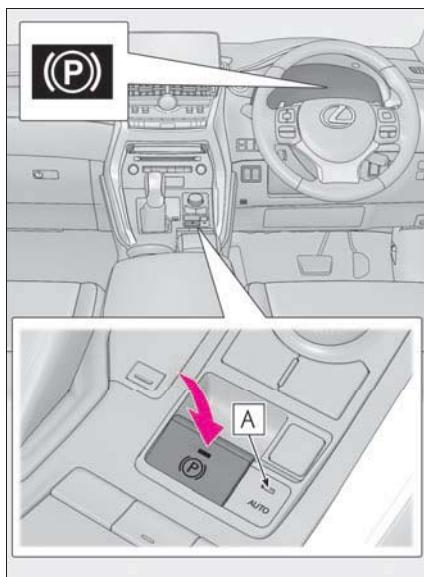
キングブレーキランプ[A]が消灯します。

- P 以外から P にしたとき：
パーキングブレーキがかかり、パーキングブレーキ表示灯とパーキングブレーキランプ[A]が点灯します。

シフトレバーは、ブレーキペダルを踏みながら操作してください。

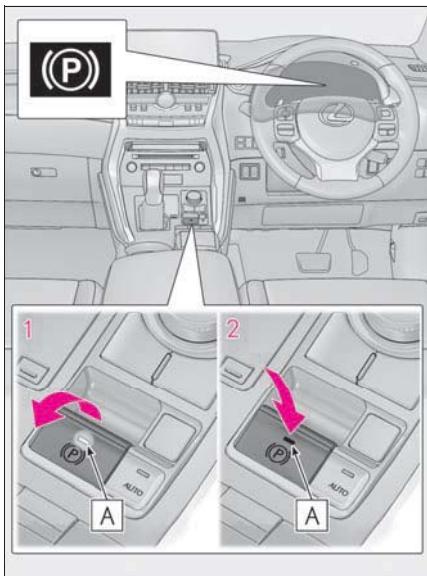
■ オートモードを OFF にする

停車中にオートモードランプ[A]が点灯するまでスイッチを押し続ける



■ マニュアルモード

手動でパーキングブレーキをかける・解除することができます。



1 パーキングブレーキをかける

パーキングブレーキ表示灯とパーキングブレーキランプ[A]が点灯します。

緊急時、走行中にパーキングブレーキをかける必要があるときは、スイッチを引き続けてください。

2 パーキングブレーキを解除する

パーキングブレーキ表示灯とパーキングブレーキランプ[A]が消灯します。

ブレーキペダルを踏みながら操作してください。

パーキングブレーキ表示灯とパーキングブレーキランプ[A]が点滅した場合は、再度スイッチを操作してください。 (→P.324)

□ 知識

■駐車するとき

→P.146

■パーキングブレーキの作動

●パワースイッチがONモード以外では、

パーキングブレーキスイッチによる解除はできません。

- パワースイッチがONモード以外では、オートモードによる作動（かける・解除する）はできません。

■モードの切りかえについて

オートモードのON/OFFを切りかえるとメーター内のマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示され、ブザーが吹鳴します。

■マルチインフォメーションディスプレイに「パーキングブレーキ高温 現在使用できません」が表示されたときは

短時間に作動をくり返すと、システムの過熱防止のために作動制限があります。その場合は、操作を控えてください。1分程度でもとの状態にもどります。

■パーキングブレーキの作動音

パーキングブレーキが作動するとき、モーターの音（“ウイーン”という音）が聞こえることがあります、異常ではありません。

■パーキングブレーキ表示灯とパーキングブレーキランプについて

- パーキングブレーキをかけたとき、パワースイッチのモードによって、次のようにパーキングブレーキ表示灯とパーキングブレーキランプが点灯します。

ONモード：パーキングブレーキを解除するまで点灯します。

ONモード以外：約15秒間点灯します。

- パーキングブレーキをかけた状態でパワースイッチをOFFにしたとき、パーキングブレーキ表示灯とパーキングブレーキランプが約15秒間点灯したままになりますが、異常ではありません。

■ パーキングブレーキ未解除警告ブザー

パーキングブレーキをかけたまま走行すると、警告ブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに「パーキングブレーキを解除してください」が表示されます。

■ 警告メッセージ・警告ブザーについて

操作に関して注意が必要な場合や、システムに異常が発生したときには、警告メッセージ・警告ブザーで注意をうながします。マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されたときは、表示された画面の指示に従ってください。

■ ブレーキ警告灯が点灯したときは

→P.321

■ 冬季のパーキングブレーキの使用について

→P.245

⚠ 注意

■ 駐車するとき

車から離れるときは、シフトレバーをPにし、パーキングブレーキをかけて、車が動かないことを確認してください。

■ システムに異常が発生したら

安全な場所に車を停め、警告表示を確認してください。

■ 故障などでかかったままになったとき

パーキングブレーキがかかったまま走行すると、ブレーキ部品が過熱し、ブレーキの効きが悪くなったり、早く摩耗したりするおそれがあります。ただちにレクサス販売店に連絡してください。

⚠ 警告

■ 駐車するとき

お子さまだけを車の中に残したままにしないでください。お子さまが誤ってパーキングブレーキを解除し、車が動き出して思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ パーキングブレーキスイッチについて

パーキングブレーキスイッチの周辺にものを置かないでください。ものとスイッチが干渉して、思わぬパーキングブレーキの作動につながるおそれがあります。

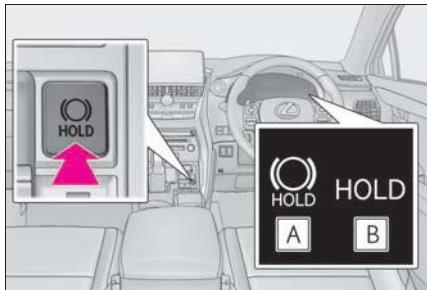
ブレーキホールド

シフトレバーが D・S または N でブレーキホールドシステムが ON のとき、ブレーキペダルを踏んで停車するとブレーキがかかったまま保持されます。シフトレバーが D または S のとき、アクセルペダルを踏むと同時に解除され、スムーズに発進できます。

システムを作動させるには

スイッチを押して、ブレーキホールドシステムを ON にする

ブレーキホールドスタンバイ表示灯
A(緑) が点灯します。ブレーキ保持中はブレーキホールド作動表示灯 B(黄) が点灯します。



知識

■ システムの作動条件

次のときはブレーキホールドシステムを ON できません。

- 運転席ドアが閉まっていない
- 運転席シートベルトを着用していない
ブレーキホールドシステムが ON のときに上記いずれかを検出したときは、システムが OFF になり、ブレーキホールドスタンバイ表示灯 (緑) が消灯します。ブ

レーキ保持中に検出した場合は、さらに警告音と共にマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示され、自動的にパーキングブレーキがかかります。

■ ブレーキ保持について

● ブレーキ保持中にブレーキペダルが踏まれていない状態が約 3 分継続すると、自動的にパーキングブレーキがかかります。このときはブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

● 急坂路ではブレーキ保持できないことがあります、その場合運転者が、ブレーキをかける必要があります。このときブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。表示された画面の指示に従ってください。

● ブレーキ保持中にシステムを OFF にするときは、ブレーキペダルをしっかりと踏み、もう一度スイッチを押してください。

■ ブレーキ保持中にパーキングブレーキが自動的にかかったとき

ブレーキペダルを踏みながら、パーキングブレーキスイッチを操作してパーキングブレーキを解除し、パーキングブレーキ表示灯が消灯したことを確認してください。(→P.165)

■ レクサス販売店で点検が必要なとき

ブレーキホールドシステムの作動条件を満たしているときに、ブレーキホールドスイッチを押してもブレーキホールドスタンバイ表示灯 (緑) が点灯しないときはシステムの異常が考えられます。ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

■マルチインフォメーションディスプレイに「BrakeHold 故障」が表示されたときは

システムに異常があるおそれがあります。ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

■警告メッセージ・警告ブザーについて
操作に関して注意が必要な場合や、システムに異常が発生したときには、警告メッセージ・警告ブザーで注意をうながします。マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されたときは、表示された画面の指示に従ってください。

■ブレーキホールド作動表示灯（黄）が点滅したときは

→P.324

 注意

■駐車するとき

ブレーキホールドは長時間駐車するための機能ではありません。ブレーキ保持中にパワースイッチを OFF になると、保持が解除されて車が動き出す場合があります。パワースイッチを操作するときは、ブレーキペダルを踏み、シフトレバーを P にして、パーキングブレーキをかけてください。

 警告

■急坂路では

急坂路でブレーキホールドシステムを使用するときは注意してください。急坂路ではブレーキホールドシステムにてブレーキを保持できないことがあります。

■すべりやすい路面では

タイヤのグリップ限界をこえて停車させることはできません。すべりやすい路面での使用は控えてください。

ASC (アクティブサウンドコントロール) ★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ASC は、インストルメントパネル内部のスピーカーからエンジン音を発生させて、車の加速や減速といった走行状態を、運転者に電子音で伝えるシステムです。

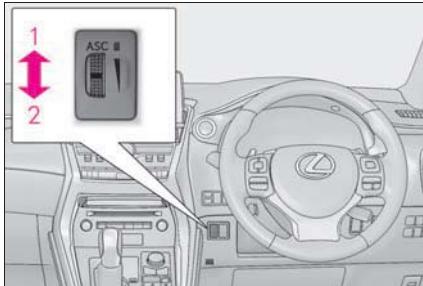
運転者のアクセル操作やシフト操作に対する車の反応が電子音で伝えられます。

スポーツモードが選択されているときは、電子音の音色がかわり音量がより大きくなります。

■機能の一時解除

ASC システムは、例えば急加速によってタイヤがスリップするようなときなど、走行状態によって一時的に解除される場合があります。

音量調整



1 大きくなる

2 小さくなる

ASC が ON のとき、スイッチ上のランプが点灯します。

ダイヤルを音量が最小になるまでまわすと、ASC は OFF になります。

知識

■作動条件

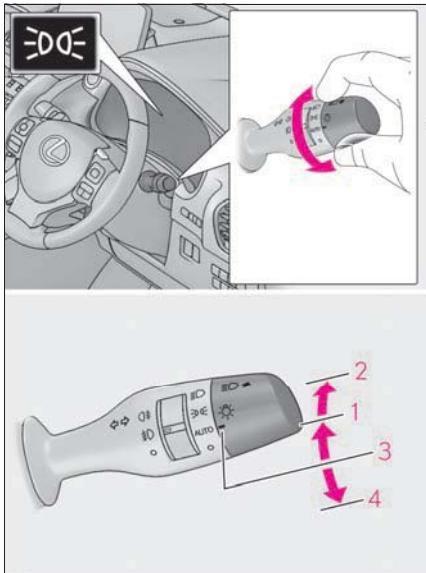
ドライブモードセレクトスイッチが、エコモードまたは EV ドライブモード以外のとき。

ランプスイッチ

自動または手動でヘッドライトなどを点灯できます。

点灯させるには

レバーの端をまわすと、次のようにランプが点灯します。



- 1 車幅灯・尾灯・番号灯・インストルメントパネルランプ・スイッチ照明を点灯
- 2 上記ランプとヘッドライトを点灯
- 3 AUTO ヘッドライト・LED デイライト (→P.171)・車幅灯などを自動点灯・消灯
- 4 ○ 消灯

知識

AUTO モードの作動条件

パワースイッチが ON モードのとき

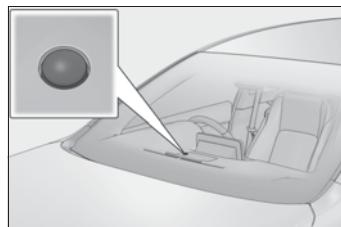
LED デイライト機能

日中の走行時、自車が他の運転者から見やすくなるように、ハイブリッドシステム始動後、パーキングブレーキを解除して、ランプスイッチを AUTO にすると、LED デイライトが自動で点灯します。(車幅灯より明るく点灯します)

LED デイライトは夜間の使用を意図したものではありません。

ライトセンサーについて

センサーの上にものを置いたり、センサーをふさぐようなものをフロントウインドウガラスに貼らないでください。周囲からの光がさえぎられると、自動点灯・消灯機能が正常に働かなくなります。



ランプ消し忘れ防止機能

パワースイッチをアクセサリーモードまたは OFF にしてランプが点灯した状態で運転席ドアを開けるとヘッドライトと尾灯が消灯します。

再びランプを点灯する場合は、パワースイッチを ON モードにするか、一度ランプスイッチを AUTO または ○ にもどし、再度 または の位置にします。

オートレベルリングシステム

通行人や対向車がまぶしくないように、乗車人数、荷物の量などによる車の姿勢

の変化に合わせて、ヘッドライトの光軸を自動で調整します。

■ 節電機能

車両のバッテリーあがりを防止するため、パワースイッチを OFF の状態でヘッドライトまたは尾灯が点灯している場合、節電機能が働き約 20 分後すべてのランプが自動消灯します。

パワースイッチを ON モードにすると節電機能は解除されます。

次のいずれかを行った場合、節電機能は一旦解除され、再度節電機能が働き約 20 分後すべてのランプが自動消灯します。

- ランプスイッチを操作したとき
- ドアを開閉したとき

■ カスタマイズ機能

ライトセンサーの感度の設定などを変更できます。

(カスタマイズ一覧: →P.369)



注意

■ 補機バッテリーあがりを防止するため

ハイブリッドシステムを停止した状態でランプ類を長時間点灯しないでください。

レバーをもとの位置へもどすとロービームにもどります。

2 レバーを引いているあいだ、ハイビームを点灯

ランプが消灯していても、ハイビームが点灯します。レバーを離すと、ロービームにもどる、または消灯します。

コーナリングランプ

ヘッドライト（ロービーム）点灯時に次の条件を満たしたとき、夜間走行時の交差点や駐車時に優れた視認性を確保するため、コーナーランプが追加点灯し車両進行方向を照射します。

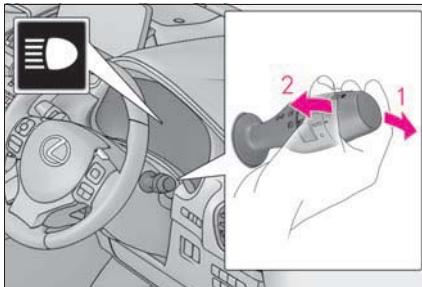
- ハンドルを操作したとき
- 方向指示レバーを操作したとき
- シフトレバーが R のとき

知識

■ コーナーランプ制御について

- 車速が 40km/h 以上の場合は、コーナーランプは点灯しません。
- 点灯した状態で 30 分間経過すると、自動で消灯します。

ハイビームにするには



- 1 ランプ点灯時ハイビームに切り替え

アダプティブハイビームシステム★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

アダプティブハイビームシステムは、フロントウインドウガラス上部に設置されたカメラセンサーにより前方車両のランプや街路灯などの明るさを判定し、ヘッドライトの配光を制御します。

警告

■安全にお使いいただくために

アダプティブハイビームシステムを過信しないでください。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけ、必要に応じて手動でハイビームとロービームを切りかえてください。

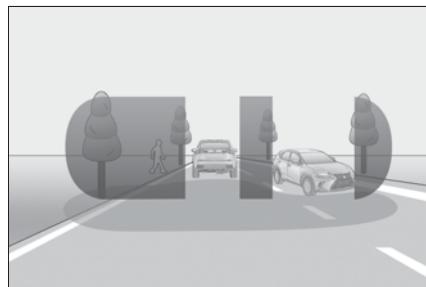
■アダプティブハイビームシステムの誤作動を防ぐために

荷物を積み過ぎないでください。

ハイビーム切りかえ制御について

- 車速に応じて、ハイビームの明るさと照らす範囲を調整します。
- カーブを走行しているとき、進行方向側をハイビームでより明るく照らします。
- 前方車両の周辺を遮光したハイビームを点灯します。(遮光ハイビーム)

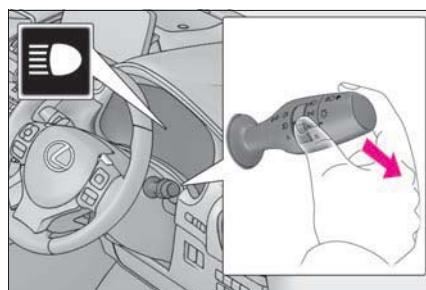
前方車両へのまぶしさを緩和しつつ、前方視界の確保を補助します。



- 先行車との距離に応じて、ロービームの照らす範囲を調整します。

アダプティブハイビームシステムを使うには

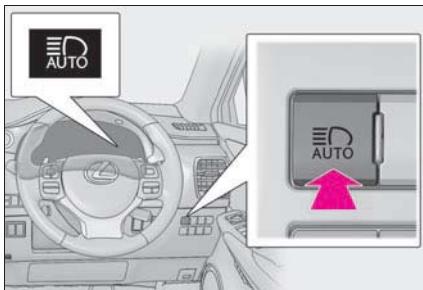
- 1 ランプスイッチを または AUTO にし、レバーを前方へ押す



- 2 アダプティブハイビームシステムスイッチを押す

アダプティブハイビームシステムが作動すると、アダプティブハイビームシステ

ム表示灯が点灯します。



■ 知識

■ ヘッドライト配光の自動切りかえ条件

- 次の条件をすべて満たすと、ハイビームが点灯し、システムが作動します。
 - ・ 車速が約 15km/h 以上 *
 - ・ 車両前方が暗い
- * 車速が約 30km/h 以上になると、カーブ走行時に進行方向側を明るく照らします。
- 次の条件をすべて満たすと、前方車両の位置に応じて遮光ハイビームに切りかわり、ロービームの照らす範囲を調整します。
 - ・ 車速が約 15km/h 以上
 - ・ 車両前方が暗い
 - ・ 前方にランプを点灯した車両がいる
- 次の条件のいずれかのとき、ロービームに切りかわります。
 - ・ 車速が約 10km/h 以下
 - ・ 車両前方が明るい
 - ・ 前方車両の台数が多い
 - ・ 前方車両の動きが速く、その車両にまぶしさを与える可能性がある
- 次の状況では、周囲の明るさが正確に検知されず、ハイビームが歩行者や前方車両などの迷惑になる場合や、ロービームが継続する場合があります。このような場合は、手動でハイビームとロービームを切りかえてください。
 - ・ 悪天候時（霧・雪・砂嵐・大雨など）

- ・ フロントウインドウガラスが汚れているときや、曇っているとき
- ・ フロントウインドウガラスにひび割れや破損があるとき
- ・ カメラセンサーが変形しているときや、汚れているとき
- ・ カメラセンサーが極端に高温になっているとき
- ・ 周囲にヘッドライトや尾灯などに似た光があるとき
- ・ 前方車両のランプが無灯火のときや、ランプに汚れや変色があつたり光軸がずれているとき
- ・ 先行車から水・雪・土埃などの巻き上げがあるとき
- ・ 急激な明るさの変化が連続するとき
- ・ 起伏や段差が多い道路を走行しているとき
- ・ カーブが多い道路を走行しているとき
- ・ 車両前方に標識やミラーのように光を強く反射するものがあるとき
- ・ コンテナなど、先行車の後部が光を強く反射するとき
- ・ 自車のヘッドライトが破損または汚れているとき
- ・ パンクやけん引などにより車両が傾いているとき
- ・ ハイビームとロービームをひんぱんに切りかえているとき
- ・ ハイビームの使用に問題がある、または他の運転者・付近の歩行者の迷惑になると思われるとき

■ カスタマイズ機能

お車に装備されている機能の一部は、設定を変更することができます。
(→P.374)

■ カメラセンサーの検知について

- 次の状況では、ハイビームが自動で遮光ハイビームに切りかわらない場合があります。
 - ・ 見通しの悪いカーブで対向車と突然すれ違ったとき

- ・他車が前方を横切ったとき
- ・連続するカーブや中央分離帯、街路樹などで前方車両が見え隠れするとき
- ・前方車両が離れた車線から接近してきたとき
- ・前方車両が無灯火のとき
- 前方車両のフォグランプにより、ハイビームが遮光ハイビームに切りかわる場合があります。
- 街路灯や信号・広告などの照明、または標識・看板などの反射物によりハイビームが遮光ハイビームに切りかわる場合や切りかわらない場合、または遮光範囲が変化する場合があります。
- 次の原因により、遮光範囲の追従速度やロービームへの切りかえのタイミングが変化する場合があります。
 - ・前方車両のランプの明るさ
 - ・前方車両の動きや向き
 - ・前方車両のランプが片側のみ点灯しているとき
 - ・前方車両が二輪車のとき
 - ・道路の状態（勾配やカーブ、路面状況など）
 - ・乗車人数や荷物の量
- ヘッドランプの配光制御が運転者の感覚に合わない場合があります。
- 自転車などの軽車両は検知しない場合があります。

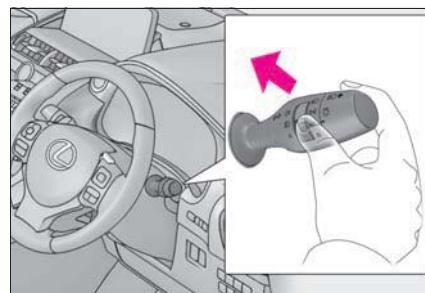
手動制御に切りかえるには

■ ロービームへの切りかえ

レバーをもとの位置にもどす

アダプティブハイビームシステム表示灯が消灯します。

アダプティブハイビームシステムにもどすには、再度レバーを前方に押します。

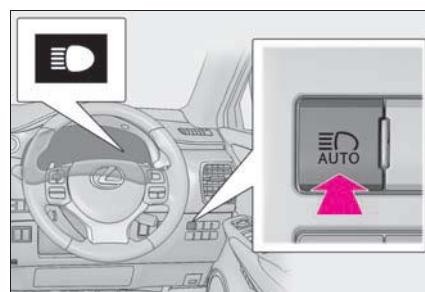


■ ハイビームへの切りかえ

アダプティブハイビームシステムスイッチを押す

アダプティブハイビームシステム表示灯が消灯し、ハイビーム表示灯が点灯します。

アダプティブハイビームシステムにもどすには、再度スイッチを押します。



オートマチックハイビーム

オートマチックハイビームは、フロントウインドウガラス上部に設置されたカメラセンサーにより対向車または先行車のランプや街路灯などの明るさを判定し、自動的にハイビームとロービームを切りかえます。



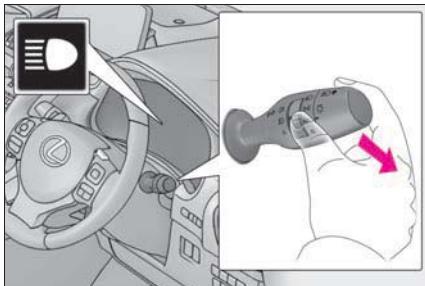
警告

■ 安全にお使いいただくために

オートマチックハイビームを過信しないでください。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけ、必要に応じて手動でハイビームとロービームを切りかえてください。

オートマチックハイビームを使うには

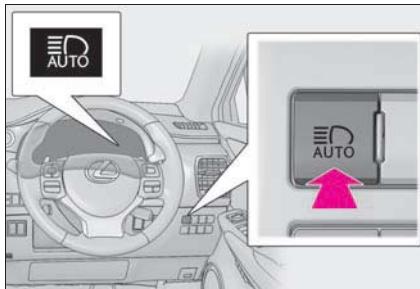
- 1 ランプスイッチを **AUTO** または にし、レバーを前方へ押す



- 2 オートマチックハイビームスイッチを押す

オートマチックハイビームが作動すると、オートマチックハイビーム表示灯が点灯

します。



知識

■ 作動条件

パワースイッチが ON モードのとき

■ ハイビームとロービームの自動切り替え条件

●次の条件をすべて満たすと、ハイビームを点灯します。

- ・車速が約 30km/h 以上
- ・車両前方が暗い
- ・対向車または先行車が存在しない、またはランプを点灯していない
- ・前方の道路沿いの街路灯の光が少ない

●次の条件のいずれかのときはロービームが点灯します。

- ・車速が約 25km/h 以下
- ・車両前方が明るい
- ・対向車または先行車がランプを点灯している
- ・前方の道路沿いの街路灯の光が多い

■ オートマチックハイビームについて

●次の状況では、ハイビームが自動でロービームに切りかわらない場合があります。

- ・見通しの悪いカーブで対向車と突然すれ違ったとき
- ・他車が前方を横切ったとき
- ・連続するカーブや中央分離帯、街路樹などで対向車や先行車が見え隠れするとき

- 対向車のフォグランプにより、ハイビームがロービームに切りかわる場合があります。
- 街路灯や信号・広告などの照明、または標識・看板などの反射物によりハイビームがロービームに切りかわる場合や、ロービームが継続する場合があります。
- 次の原因により、ハイビームとロービームの切りかえのタイミングが変化する場合があります
 - ・ 対向車または先行車のランプの明るさ
 - ・ 対向車または先行車の動きや向き
 - ・ 対向車または先行車のランプが片側のみ点灯しているとき
 - ・ 対向車または先行車が二輪車のとき
 - ・ 道路の状態（勾配やカーブ、路面状況など）
 - ・ 乗車人数や荷物の量
- オートマチックハイビームは車両前方にあるランプの明るさなどで周囲の状況を認識します。従って、ハイビームとロービームが運転者の感覚に合わず切りかわる場合があります。
- 自転車などの軽車両は検知しない場合があります。
- 次の状況では、周囲の明るさが正確に検知されず、ハイビームが対向車や先行車の迷惑になる場合や、ロービームが継続する場合があります。このような場合は、手動でハイビームとロービームを切りかえてください。
 - ・ 悪天候時（霧・雪・砂嵐・大雨など）
 - ・ フロントウインドウガラスが汚れているときや、曇っているとき
 - ・ フロントウインドウガラスにひび割れや破損があるとき
 - ・ カメラセンサーが変形しているときや、汚れているとき
 - ・ カメラセンサーの温度が非常に高いとき
 - ・ 周囲にヘッドライトや尾灯などに似た

光があるとき

- ・ 対向車または先行車のランプが無灯火のときや、ランプに汚れや変色があり光軸がずれているとき
- ・ 急激な明るさの変化が連続するとき
- ・ 起伏や段差が多い道路を走行しているとき
- ・ カーブが多い道路を走行しているとき
- ・ 車両前方に標識やミラーのように光を強く反射するものがあるとき
- ・ コンテナなど、先行車両の後部が光を強く反射するとき
- ・ 自車のヘッドライトが破損または汚れているとき
- ・ パンクやけん引などにより車両が傾いているとき

4

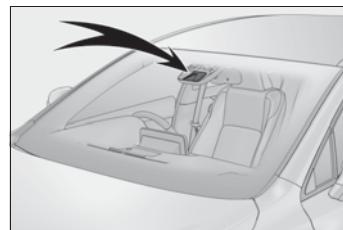
運転

注意

■ オートマチックハイビームを正しく作動させるために

オートマチックハイビームを正しく作動させるために次のことをお守りください。

● カメラセンサーのレンズにふれない



● カメラセンサーに強い衝撃を与えない

● カメラセンサーを分解しない

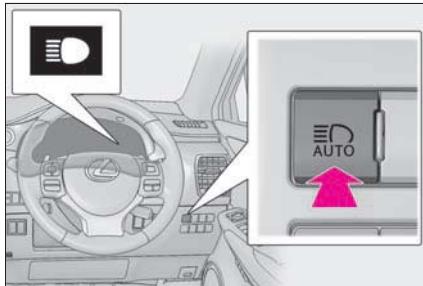
● カメラセンサーに液体をかけない

● カメラセンサーの近くのフロントウインドウガラスにステッカーを貼らない

● カメラセンサー周囲にアクセサリーを取り付けない

⚠ 注意

- 荷物を積み過ぎない
- 車両を改造しない
- レクサス純正品以外のフロントワインドウガラスに交換しない



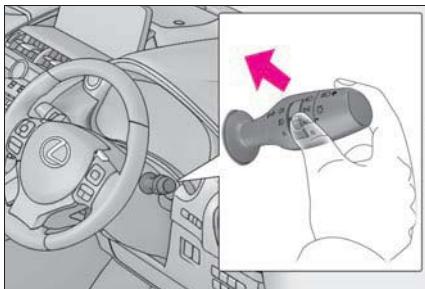
手動制御に切りかえるには

■ ロービームへの切りかえ

レバーをもとの位置にもどす

オートマチックハイビーム表示灯が消灯します。

オートマチックハイビームにもどすには、再度レバーを前方に押します。



■ ハイビームへの切りかえ

オートマチックハイビームスイッチを押す

オートマチックハイビーム表示灯が消灯し、ハイビーム表示灯が点灯します。

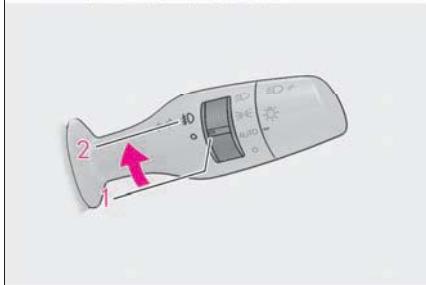
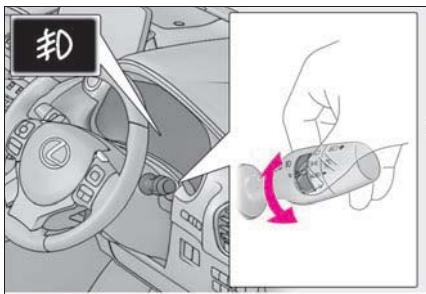
オートマチックハイビームにもどすには、再度スイッチを押します。

フォグランプスイッチ

雨や霧などの悪天候下では、前方の視界を確保するためにフロントフォグランプを、後続車に自車の存在を知らせるためにリヤフォグランプを点灯させます。

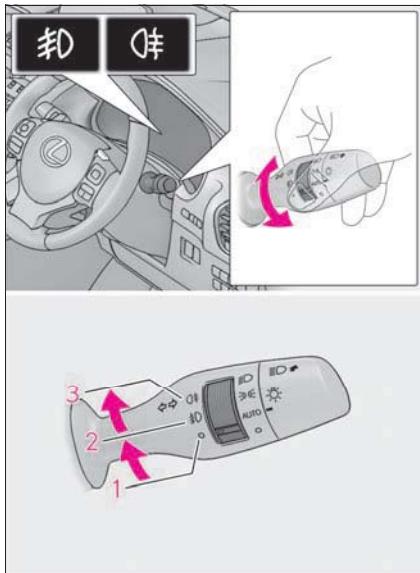
操作のしかた

▶ フロントフォグランプ装着車



- 1 ○ 消灯する
- 2 剥 点灯する

▶ フロント&リヤフォグランプ装着車



- 1 ○ 消灯する
- 2 剥 フロントフォグランプを点灯する
- 3 剥 フロント&リヤフォグランプを点灯する

手を離すと 剥 の位置までもどります。

再度操作すると、リヤフォグランプのみ消灯します。

□ 知識

■ 点灯条件

フロントフォグランプ：ヘッドライトまたは車幅灯が点灯しているときに使用できます。

リヤフォグランプ★：フロントフォグランプが点灯しているときに使用できます。

★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■リヤフォグランプ★について

- リヤフォグランプが点灯しているときは、メーター内の表示灯が橙色に点灯します。
- 雨や霧、雪などで視界が悪いときに後続車に自分の車の存在を知らせるために使用します。視界が悪いとき以外に使用すると後続車の迷惑になる場合があります。必要なとき以外は使用しないでください。
- ★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

⚠ 注意

■補機バッテリーあがりを防止するために

ハイブリッドシステムを停止した状態でランプ類を長時間点灯しないでください。

ワイパー＆ウォッシャー（フロント）

レバー操作で、ワイパーの作動を自動／手動に切りかえたり、ウォッシャーを作動させたりすることができます。

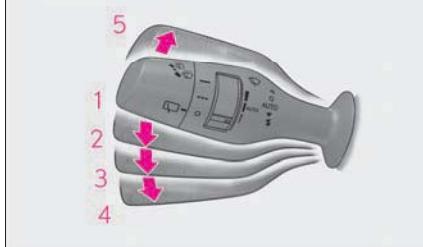
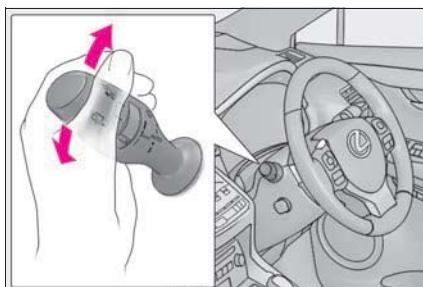
⚠ 注意

■フロントウインドウガラスが乾いているときは

ワイパーを使わないでください。
ガラスを傷付けるおそれがあります。

操作のしかた

次のようにレバーを操作して、ワイパーの作動を選択します。



1 ○ 停止

2 AUTO AUTO モード

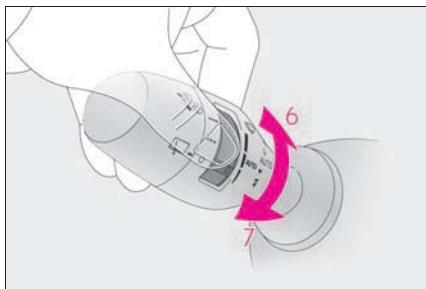
3 ▼ 低速作動

4 ▼ 高速作動

5 △ 一時作動

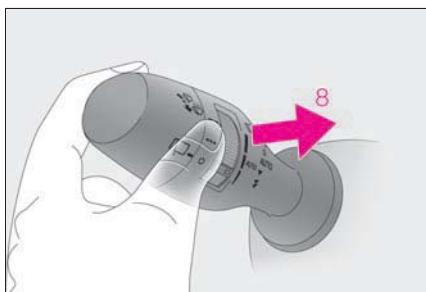
“AUTO” を選択しているとき、雨滴量と車速に応じてワイパーが作動します。

“AUTO” が選択されているときは、次のようにツマミをまわして、雨滴センサーの感度を調整できます。



6 雨滴センサーの感度調整（高）

7 雨滴センサーの感度調整（低）



8 ウオッシャー液を出す

ワイパーが連動して作動します。

ヘッドラランプクリーナー装着車：

ヘッドラランプが点灯しているときに5回連続で手前に引くとヘッドラランプクリーナーが作動します。



■ 作動条件

パワースイッチがONモードのとき

■ 液だれ防止作動

ウォッシャー液を噴射するとワイパーが数回作動し、その後、液だれ防止のためにさらに1回作動します。ただし、走行中は液だれ防止作動は働きません。

■ 車速による作動への影響

車速によってワイパー作動の間欠時間への影響があります。

■ 雨滴感知センサー

- 雨滴感知センサーが雨滴量を判定します。

光学センサーを使用しているため、フロントウインドウガラスに朝日や夕日が断続的にあたるときや、虫などで汚れたときに、正しく作動しないことがあります。



- パワースイッチがONモードのときにワイパーを“AUTO”にすると、動作確認のためワイパーが1回作動します。

- 雨滴感知センサーの温度が90℃以上または-15℃以下のときは、AUTO作動しないことがあります。その場合は、AUTOモード以外でワイパーを使用してください。

■ ウォッシャー液が出ないときは

ウォッシャー液量が不足していないのにウォッシャー液が出ないときは、ノズルのつまりを点検してください。

⚠ 警告

■ AUTO モード時のワイパー作動について

AUTO モードでは、センサーにふれたり、フロントウインドウガラスに振動があるなどの要因で不意にワイパーが作動するおそれがあります。ワイパーで指などを挟まないように注意してください。

■ ウオッシャーを使用するとき

寒冷時はフロントウインドウガラスが暖まるまでウォッシャー液を使用しないでください。ウォッシャー液がフロントウインドウガラスに凍りつき、視界不良を起こして思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 注意

■ ウォッシャー液が出ないときは

ウォッシャースイッチを操作し続けないでください。

ポンプが故障するおそれがあります。

■ ノズルがつまたときは

ノズルがつまたときはレクサス販売店へご連絡ください。

ピンなどで取り除かないでください。

ノズルが損傷するおそれがあります。

■ 補機バッテリーあがりを防止するために

ハイブリッドシステムを停止した状態でワイパーを長時間作動しないでください。

ワイパー＆ウォッシャー（リヤ）

⚠ 注意

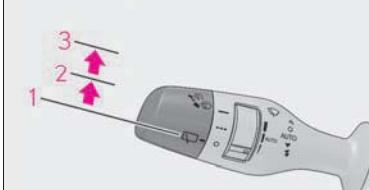
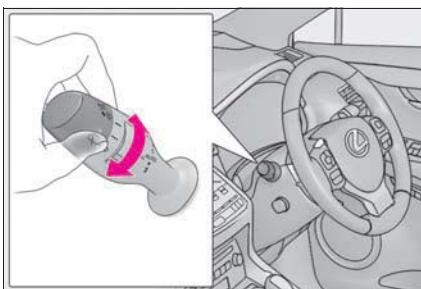
■ リヤウインドウガラスが乾いているときは

ワイパーを使わないでください。

ガラスを傷付けるおそれがあります。

操作のしかた

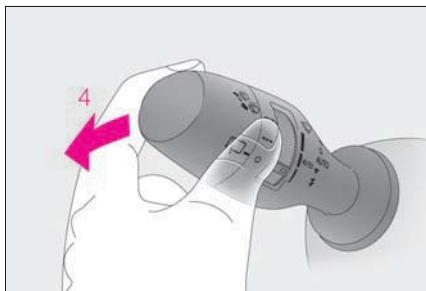
次のようにレバー・スイッチをまわしてワイパーの作動を選択します。



1 ○ 停止

2 --- 間欠作動

3 — 通常作動



4 ウオツシャー液を出す

ワイパーが連動して作動します。

知識

■ 作動条件

パワースイッチがONモードのとき

■ ウオツシャー液が出ないときは

ウオツシャー液量が不足していないのに
ウオツシャー液が出ないときは、ノズル
のつまりを点検してください。

4

運転

注意

■ ウオツシャー液が出ないときは

ウオツシャースイッチを操作し続けな
いでください。

ポンプが故障するおそれがあります。

■ ノズルがつまつたときは

ノズルがつまつたときはレクサス販売
店へご連絡ください。

ピンなどで取り除かないでください。

ノズルが損傷するおそれがあります。

■ 補機バッテリーあがりを防止するた めに

ハイブリッドシステムを停止した状態
でワイパーを長時間作動しないでくだ
さい。

給油口の開け方

給油する前に

- ドアとドアガラスを閉め、パワー・スイッチをOFFにしてください。
- 燃料の種類を確認してください。

知識

■ 燃料の種類について

- 無鉛レギュラーガソリン
- バイオ混合ガソリン（レギュラー）

■ バイオ混合ガソリンについて

エタノールの混合率10%以下、またはETBEの混合率22%以下のガソリン（酸素含有率3.7%以下）を使用することができます。

警告

■ 給油するときは

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと火災を引き起こすなど、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 給油前にボディなどの金属部分にふれて体の静電気を除去してください。除去したあとは給油が完了するまで、車内にもどつたり、他の人やものにふれないでください。また、給油口に静電気を除去していない人を近付けないでください。

静電気を帯電した人が給油口に近くと、放電による火花で燃料に引火するおそれがあります。

- キャップはツマミ部分を持ち、ゆっくりと開けてください。また、キャップをゆるめたときに、“シュー”という音がする場合は、その音が止まるまでキャップを保持してください。

すぐに開けると、気温が高いときなどに、給油口から燃料が噴き出るおそれがあります。

- 気化した燃料を吸わないようにしてください。
燃料の成分には、有害物質を含んでいるものもあります。
- 噫煙しないでください。
- 給油口にノズルを確実に挿入してください。
- 繰ぎ足し給油をしないでください。
- 正常に給油できない場合は、スタンドの係員を呼んで指示に従ってください。

注意

■ 給油するとき

指定のガソリンを使用してください。
指定以外のガソリンや他の燃料（粗悪ガソリン・軽油・灯油・高濃度バイオ混合ガソリン※）を使用したり、燃料をこぼしたりしないでください。

次のような状態になるおそれがあります。

- エンジンの始動性が悪くなる
- エンジンからの異音や振動など（ノッキング）が発生する
- エンジン出力が低下する
- 排気制御システムが正常に機能しない
- 燃料系部品が損傷する

⚠ 注意

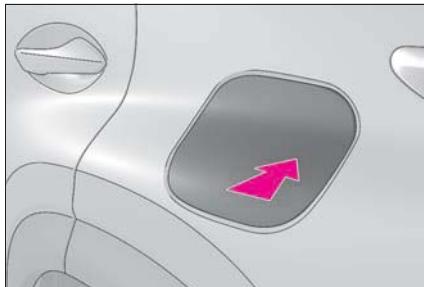
- 塗装が損傷する

* エタノール混合率 10% をこえるもの、または ETBE の混合率 22% をこえるもの

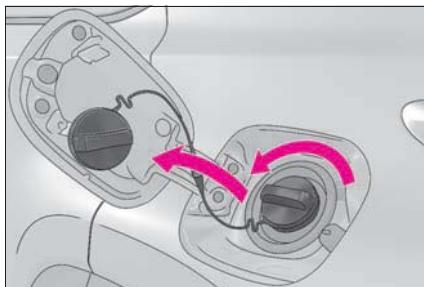
給油口を開けるには

- 1 ドアが解錠された状態で、給油扉の車両後端の中央部分を押す

奥まで押し込み、手を離すと給油扉が少し開きます。その後、手で全開にします。



- 2 キャップをゆっくりまわして開け、ホルダーにはめ込む



□ 知識

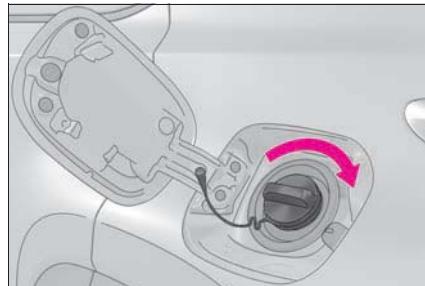
■ 給油扉が開かないとき

→P.351

給油口を閉めるには

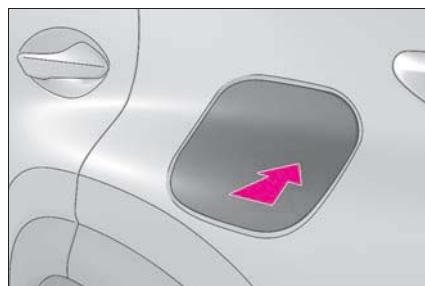
- 1 キャップを“カチッ”と音がするまでまわして閉める

手を離すと、キャップが逆方向に少しもどります。



- 2 給油扉を閉め、給油扉の車両後端の中央部分を押す

ドアを施錠すると給油扉も施錠されます。



□ 知識

■ 給油口の施錠について

次の場合、ドアが施錠されても給油口は施錠されません。

- 室内のドアロックスイッチで施錠したとき
- シフト操作連動ドアロックまたは車速感応オートドアロックで施錠されたとき
- ドアを施錠したあとに給油口を閉めたとき

■ 燃料キャップ閉め忘れ警告ブザー

パワースイッチがONモードで燃料キャップが緩んでいるとブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

**警告****■ キャップが正常に閉まらないとき**

必ずレクサス販売店へご連絡ください。

正常に閉まらないキャップをそのまま使用したり、純正品以外のキャップを使用すると、火災などを引き起こし、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

Lexus Safety System+

Lexus Safety System+ は、次の運転支援装置によって運転者を補助し、安全で快適なドライブを支援します。

運転支援装置

- PCS (プリクラッシュセーフティシステム)

→P.190

- LDA (レーンディバーチャーラート [ステアリング制御機能付き])

→P.198

- アダプティブハイビームシステム
★

→P.173

★ : グレード、オプションなどにより、
装備の有無があります。

- オートマチックハイビーム

→P.176

- レーダークルーズコントロール
(全車速追従機能付き)

→P.205

! 警告

■ Lexus Safety System+ について

Lexus Safety System+ は運転者の安全運転を前提としたシステムであり、事故被害や運転負荷の軽減に寄与することを目的としています。

本システムは認識性能・制御性能に限界があります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。

車両データの記録について

プリクラッシュセーフティシステムには、車両の制御や操作に関するデータなどを記録するコンピューターが装備されており、主に次のようなデータを記録します。

- ・ アクセルペダルの操作状況
- ・ ブレーキペダルの操作状況
- ・ 車速
- ・ プリクラッシュセーフティシステムの各機能の作動状況
- ・ 先行車などの障害物との距離、相対速度などの情報
- ・ カメラセンサーの画像情報（プリクラッシュブレーキまたはプリクラッシュブレーキアシスト作動時のみ）

なお、会話などの音声や車内の映像は記録しません。

● データの取扱いについて

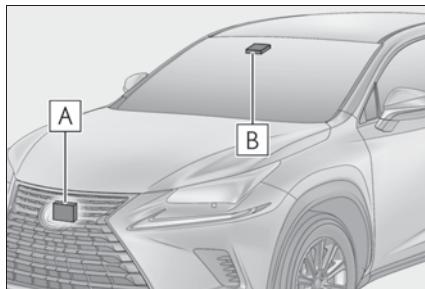
レクサスはコンピューターに記録されたデータを車両の故障診断・研究開発・品質の向上を目的に取得・利用することができます。

なお、次の場合を除き、レクサスは取得したデータを第三者へ開示または提供することはできません。

- ・お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
- ・警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
- ・レクサスが訴訟で使用する場合
- ・統計的な処理を行う目的で、使用者や車両が特定されないように加工したデータを研究機関などに提供する場合
- 記録した画像情報は特別な装置を使用して消去することが可能ですが、また、画像情報を記録する機能を停止することも可能です。ただし、機能を停止するとプリクラッシュセーフティシステム作動時のデータは残りません。

前方センサー

フロントグリルとフロントウインドウガラスにある2種類のセンサーにより、各運転支援装置に必要な情報を認識します。



A レーダーセンサー

B カメラセンサー

■ レーダーセンサーの取り扱いについて

レーダーセンサーは電波法の基準に適合しています。センサーに印字されているマークはその証明ですので消さないでください。また、製品を

分解・改造すると罰せられることがあります。必ず日本国内でご使用ください。

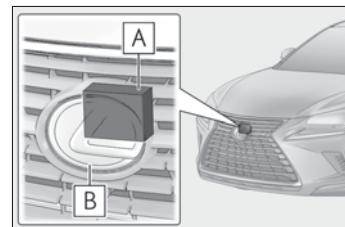
警告

■ レーダーセンサーの故障や誤作動を防ぐために

次のことをお守りください。

お守りいただかないと、レーダーセンサーが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- レーダーセンサーとフロントグリルエンブレムは常にきれいにしておく



A レーダーセンサー

B フロントグリルエンブレム

レーダーセンサー前面やフロントグリルエンブレム前後に汚れ・水滴・雪などが付着した場合は、取り除いてください。

お手入れをする際は、レーダーセンサーやフロントグリルエンブレムを傷付けないよう、やわらかい布を使ってください。

- レーダーセンサーとフロントグリルエンブレム周辺にアクセサリーを付けたり、ステッカー（透明なものも含む）などを貼つたりしない

⚠️ 警告

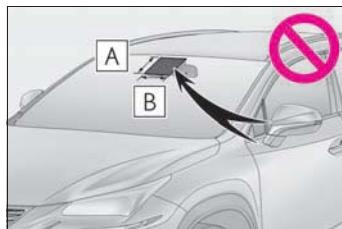
- レーダーセンサー周辺への強い衝撃を避ける
レーダーセンサー・フロントグリル・フロントバンパーに強い衝撃を受けた際は、必ずレクサス販売店で点検を受けてください。
- レーダーセンサーを分解しない
- レーダーセンサーやフロントグリルエンブレムを改造したり、塗装したりしない
- レーダーセンサー・フロントグリル・フロントバンパーの脱着や交換が必要な場合は、レクサス販売店にご相談ください。

■ カメラセンサーの故障や誤作動を防ぐために

次のことをお守りください。
お守りいただかないと、カメラセンサーが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- フロントウインドウガラスは常にきれいにしておく
 - ・ フロントウインドウガラス外側に汚れ・油膜・水滴・雪などが付着した場合は、取り除いてください。
 - ・ フロントウインドウガラスにガラスコーティング剤を使用していても、カメラセンサー前部に水滴などが付着した場合は、ワイパーでふき取ってください。
 - ・ フロントウインドウガラス内側のカメラセンサー取り付け部が汚れた場合は、レクサス販売店にご相談ください。

- フロントウインドウガラス外側のカメラセンサー前部（図に示す範囲内）にステッカー（透明などを含む）などを貼り付けない



A フロントウインドウガラス上端から
カメラセンサー下端より下約 1cm
まで

B 約 20cm (カメラセンサー中心から
左右約 10cm)

- カメラセンサー前部のフロントウインドウガラスが曇ったり、結露したり、凍結したりした場合は、フロントデフロスターで取り除く
(→P.253)

- カメラセンサー前部のフロントウインドウガラスの水滴をワイパーが正しくふき取れないときは、ワイパーゴムまたはワイパークリーナーを交換する
ワイパーゴムまたはワイパークリーナーの交換が必要な場合は、レクサス販売店にご相談ください。

- フロントウインドウガラスにフィルムを貼らない

- フロントウインドウガラスに傷・ひびなどが生じた場合は、そのまま放置せずに交換する
フロントウインドウガラスの交換が必要な場合は、レクサス販売店にご相談ください。

- カメラセンサーに液体をかけない

⚠️ 警告

- カメラセンサーに強い光を照射しない
- カメラセンサーのレンズを汚したり、傷を付けたりしない
フロントウインドウガラス内側を掃除するときは、ガラスクリーナーがレンズに付着しないようにしてください。また、レンズにはふれないでください。
レンズに汚れ・傷がある場合は、レクサス販売店にご相談ください。
- カメラセンサーに強い衝撃を加えない
- カメラセンサーの取り付け位置や向きを変更したり、取りはずしたりしない
- カメラセンサーを分解しない
- インナーミラーなどのカメラセンサー周辺部品や天井を改造しない
- ボンネット・フロントグリル・フロントバンパーに、カメラセンサーの視界をさえぎる可能性のあるアクセサリーを取り付けない
詳しくはレクサス販売店にご相談ください。
- ルーフ上に全長の長い荷物（サーフボードなど）を積むときは、カメラセンサーの視界をさえぎらないようにする
- ヘッドラランプなどのランプ類を改造しない

PCS（プリクラッシュセーフティシステム）

進路上の車両や歩行者を前方センサーで検出し、衝突の可能性が高いとシステムが判断したときに、警報やブレーキ力制御により運転者の衝突回避操作を補助します。また、衝突の可能性がさらに高まったと判断したときは、自動的にブレーキを作動させることで、衝突回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に寄与します。

必要に応じて、プリクラッシュセーフティシステムのON/OFFや、警報タイミングを切りかえることができます。（→P.192）

システムの制御

■ 衝突警報

衝突の可能性が高いとシステムが判断したとき、“ピピピ・・・”とブザー音が鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージを表示し、回避操作をうながします。



■ プリクラッシュブレーキアシスト

衝突の可能性が高いとシステムが判断したとき、ブレーキペダルが踏まれる強さに応じてブレーキ力を増強

します。

■ プリクラッシュブレーキ

衝突の可能性が高いとシステムが判断したときに衝突警報を行い、さらに衝突の可能性が高まったと判断したときは、ブレーキが自動でかかり、衝突回避を支援、あるいは衝突速度の低減に寄与します。

■ サスペンションコントロール★

衝突の可能性が高いとシステムが判断したとき、AVS (→P.238) によってショックアブソーバーの減衰力を制御することで、安定した車両姿勢の維持に寄与します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。



■ 安全にお使いいただくために

- 安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。
プリクラッシュセーフティシステムを日常のブレーキ操作のかわりには絶対に使用しないでください。本システムはあらゆる状況で衝突を回避または衝突の被害を軽減するものではありません。システムに頼つたり、安全を委ねる運転をしたりすると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

● プリクラッシュセーフティシステムは衝突回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に寄与することを目的としていますが、その効果はさまざまな条件によりかわります。そのため、常に同じ性能を発揮できるものではありません。

次の項目をお読みいただき、システムを過信せず安全運転に努めてください。

- ・ 衝突の可能性がなくてもシステムが作動するおそれがあるとき：→P.194
- ・ システムが正常に作動しないおそれがあるとき：→P.195

● お客様ご自身でプリクラッシュセーフティシステムの作動テストを行わないでください。状況によってシステムが正常に作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあります。

■ プリクラッシュブレーキについて

- プリクラッシュブレーキが作動したときは、強いブレーキがかかります。
- プリクラッシュブレーキの作動により車両が停止したときは、約 2 秒後にプリクラッシュブレーキが解除されます。必要に応じて運転者自らブレーキをかけてください。
- プリクラッシュブレーキは運転者の操作状態によっては作動しません。運転者がアクセルペダルを強く踏んでいたり、ハンドルを操作したりしていると、場合によっては運転者の回避操作とシステムが判断し、プリクラッシュブレーキが作動しない場合があります。

⚠️ 警告

- プリクラッシュブレーキ作動中に、アクセルペダルを強く踏んだり、ハンドルを操作したりすると、場合によっては運転者の回避操作とシステムが判断し、プリクラッシュブレーキの作動が解除されます。
- ブレーキペダルを踏んでいるときは、運転者の回避操作とシステムが判断し、プリクラッシュブレーキの作動開始タイミングが遅れる場合があります。

■ プリクラッシュセーフティシステムを OFF にするとき

次のときは、システムを OFF にしてください。

システムが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- けん引されるとき
- けん引するとき
- トラック・船舶・列車などに積載するとき
- 車両をリフトで上げ、ハイブリッドシステムを始動しタイヤを空転させるとき
- 点検でシャシーダイナモやフリーローラーなどを使用するとき
- 事故などにより、フロントバンパー やフロントグリルに強い衝撃が加わったとき
- 事故や故障で自車の走行が不安定なとき
- オフロード走行やスポーツ走行をするとき
- タイヤの空気圧が適正でないとき

- 著しく摩耗したタイヤを装着しているとき
- メーカー指定のサイズ以外のタイヤを装着しているとき
- タイヤチェーンを装着しているとき
- 応急用タイヤやタイヤパンク応急修理キットを使用しているとき
- 車両に前方センサーをさえぎるような装備品（除雪装置など）を一時的に取り付けているとき

プリクラッシュセーフティシステムの設定変更

■ プリクラッシュセーフティシステムの ON/OFF を変更する

マルチインフォメーションディスプレイでプリクラッシュセーフティシステムの ON（作動）／OFF（非作動）を変更することができます。

パワースイッチが ON モードになるたびシステムは ON になります。

- 1 メーター操作スイッチの または を押して を選択する
- 2 または を押して を選択し、 を押す
- 3 または を押して「PCS」を選択し、 を押す

を押すたびにプリクラッシュセーフティシステムの ON（作動）／OFF（非作動）を変更することができます。

システムを OFF にすると、PCS 警告灯が点灯します。

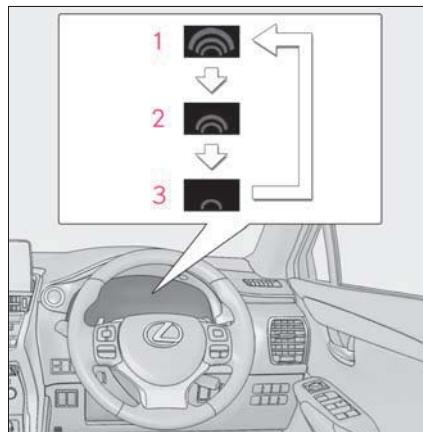


■ プリクラッシュセーフティシステムの警報タイミングを変更する

マルチインフォメーションディスプレイでプリクラッシュセーフティシステムの警報タイミングを変更することができます。

パワースイッチを OFF にしても選択した警報タイミングは継続します。

- 1 メーター操作スイッチの < または > を押して を選択する
- 2 ▲ または ▼ を押して を選択し、● を押す
- 3 ▲ または ▼ を押して 「警報感度」を選択し、● を押す
● を押すたびにプリクラッシュセーフティシステムの警報タイミングを変更することができます。



1 遠い

「中間」より警報タイミングが早くなる

2 中間

初期設定

3 近い

「中間」より警報タイミングが遅くなる



■ システムの作動条件

プリクラッシュセーフティシステムが ON で、前方の車両や歩行者と衝突の可能性が高いとシステムが判断したときに作動します。

各機能の作動速度は次のとおりです。

● 衝突警報

- ・ 自車速度約 10 ~ 180km/h（検出対象が歩行者のときは、自車速度約 10 ~ 80km/h）
- ・ 自車から見た前方の車両や歩行者との相対速度約 10km/h 以上

● プリクラッシュブレーキアシスト

- ・ 自車速度約 30 ~ 180km/h（検出対象が歩行者のときは、自車速度約 30 ~ 80km/h）
- ・ 自車から見た前方の車両や歩行者との相対速度約 30km/h 以上

● プリクラッシュブレーキ

- ・自車速度約 10 ~ 180km/h（検出対象が歩行者のときは、自車速度約 10 ~ 80km/h）
- ・自車から見た前方の車両や歩行者との相対速度約 10km/h 以上

ただし、次のときシステムは作動しません。

- 補機バッテリー端子を脱着したあと、しばらく走行するまでのあいだ
- シフトレバーが R のとき
- VSC が OFF のとき（衝突警報のみ作動可能状態になります）

■歩行者検出について

対象となる歩行者の大きさ・輪郭・動きなどから検出します。

周囲の明るさや、歩行者の動き・姿勢・角度などによっては、歩行者を検出できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。（→P.195）



■プリクラッシュブレーキの作動解除

プリクラッシュブレーキ作動中に次の操作をすると、プリクラッシュブレーキの作動が解除されます。

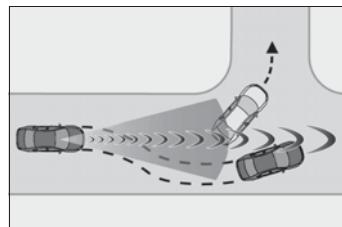
- アクセルペダルを強く踏み込む
- ハンドルを大きくくる、またはすばやく操作する

■衝突の可能性がなくてもシステムが作動するおそれがあるとき

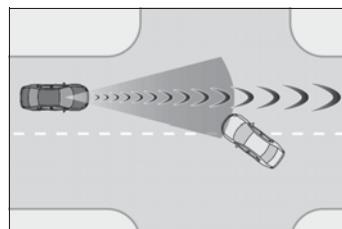
- 例えば次のような状況では、システムが衝突の可能性があると判断し、作動するおそれがあります。
- ・車両や歩行者のすぐそばを通過すると

き

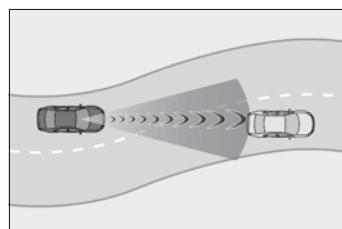
- ・車線を変更して先行車を追いこすとき
- ・車線変更している先行車を追い抜くとき
- ・右左折する先行車を追いこすとき



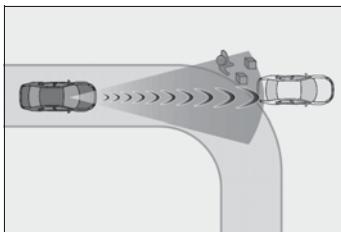
- ・右左折待ちの対向車とすれ違うとき



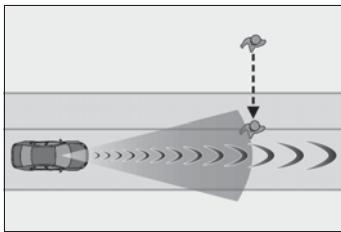
- ・隣の車線の前方車両との位置関係がずれる道（曲がりくねった道など）を走行するとき



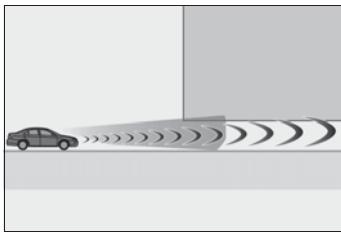
- ・前方車両に急接近したとき
- ・路面にうねり・凹凸があるときなど、車両姿勢が変化しているとき
- ・道路脇の構造物（ガードレール・電柱・木・壁など）に近付いたとき
- ・カーブ入り口の道路脇に車両・歩行者・構造物が存在するとき



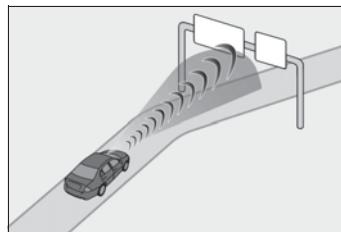
- ・道路脇が構造物に囲まれた狭い道（狭いトンネル・鉄橋など）を走行するとき
- ・路上または道路脇に金属物（マンホール・鉄板など）・段差・突起物があるとき
- ・横断する歩行者が車両のすぐそばに近付いたとき



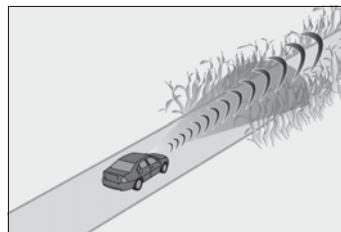
- ・道路上方に構造物（天井の低いトンネル・道路標識など）がある場所を走行するとき



- ・上り坂で道路上方に構造物（看板など）がある場所を走行するとき



- ・ETC ゲートや駐車場のゲートなどの開閉バーに急速に接近したとき
- ・洗車機を使用するとき
- ・車両に覆い被さるような障害物（生い茂った草・垂れ下がった枝・垂れ幕など）がある場所を走行するとき

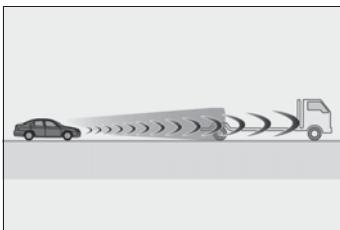


- ・前方車両から水・雪・土埃などの巻き上げがあるとき
- ・車両前方に水蒸気や煙などがあるとき
- ・路面または壁面に車両や歩行者との区別がつきにくい模様・ペイントがあるとき
- ・電波の反射が強い物体（大型トラック・ガードレールなど）の横を走行するとき
- ・テレビ塔・放送局・発電所など、強い電波やノイズが発生する場所の近くを走行するとき

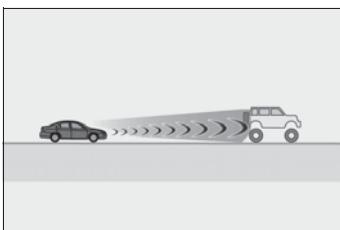
■システムが正常に作動しないおそれがあるとき

- 例えば次のような状況では、前方センサーが対象となる車両を検出できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。
 - ・前方から自転車に向かって車両が近付いてくるとき
 - ・前方車両がオートバイ・自転車のとき
 - ・車両の側面または前面に近付いたとき

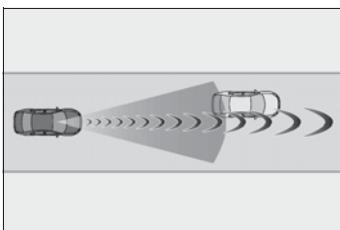
- ・先行車の後端面積が小さいとき（空荷のトラックなど）
- ・先行車の後端が低い位置にあるとき（低床トレーラーなど）



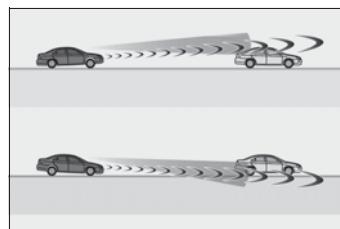
- ・前方車両の荷台から荷物がはみ出しているとき
- ・前方車両の最低地上高が極端に高いとき



- ・前方車両が特殊な形状のとき（トラクター・サイドカーなど）
- ・前方車両が太陽光などを強く反射しているとき
- ・車両が横から割り込んできたり、飛び出したりしたとき
- ・前方車両が急な動きをしたとき（急ハンドル・急加速・急減速など）
- ・自車が車線変更を行い、変更した車線の先行車に急接近したとき
- ・前方車両と自車の中心がずれているとき



- ・悪天候（雨・霧・雪・砂嵐など）のとき
- ・前方車両から水・雪・土埃などの巻き上げがあるとき
- ・車両前方に水蒸気や煙などがあるとき
- ・周囲の明るさが急激に変化する場所を走行するとき（トンネルの出入り口など）
- ・強い光（太陽光や対向車のヘッドラランプ光など）がカメラセンサーに直接あたっているとき
- ・薄暗いとき（朝方・夕方など）、および夜間やトンネル内
- ・ハイブリッドシステムを始動したあと、走行を開始してしばらくのあいだ
- ・右左折中および右左折後の数秒間
- ・カーブ走行中およびカーブを曲がりきってからの数秒間
- ・自車が横すべりしているとき
- ・車両姿勢が変化しているとき



- ・ホイールアライメントがずれているとき
- ・ワイパーブレードがカメラセンサーの視界をさえぎっているとき
- ・ふらつき運転をしているとき
- ・過度な高速走行をしているとき
- ・坂道を走行しているとき
- ・前方センサーの向きがずれているとき

● 例えば次のような状況では、制動力が十分に得られず、システムの性能を発揮できないおそれがあります。

- ・ブレーキ性能が十分に発揮できない場合（ブレーキ部品が極度に冷えている・過熱している・ぬれているなど）
- ・車両の整備状態（ブレーキ部品・タイヤの摩耗や空気圧など）が良好でない

とき

- ・砂利道やすべりやすい路面を走行しているとき
- 例えば次のような歩行者は、前方センサーが検出できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。
 - ・身長が約1m以下、または約2m以上の歩行者
 - ・羽根・ロングスカートなどを着ていて、全身の輪郭があいまいな歩行者
 - ・大きな荷物を抱えていたり、傘をさしていたりして、体の一部が隠れている歩行者
 - ・前かがみになっている、またはしゃがんでいる歩行者
 - ・ベビーカー・車いす・自転車などを押している歩行者
 - ・集団でいる歩行者
 - ・白っぽい服を着ていて、極端に明るく見える歩行者
 - ・夜間やトンネル内など、暗闇にいる歩行者
 - ・服装の色合いや明るさなどが背景に溶け込んでいる歩行者
 - ・壁際や車両・フェンス・ガードレールなどのそばにいる歩行者
 - ・路面の金属物（マンホール・鉄板など）上にいる歩行者
 - ・歩く速度が速い歩行者
 - ・歩く速度を急激に変化させている歩行者
 - ・物陰から飛び出してきた歩行者
 - ・車両の側端（ドアミラーなど）すれすれの位置にいる歩行者

■ PCS 警告灯が点滅または点灯、およびマルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されたとき

システムが一時的に作動しない、またはシステムに異常があるおそれがあります。

- 次のときは、状況が改善されるとPCS警告灯・警告メッセージが消え、作動可能状態になります。
 - ・炎天下などで、前方センサーや前方セ

ンサー周辺の温度が高いとき

- ・極寒の環境などで、前方センサーや前方センサー周辺の温度が低いとき
- ・前方センサーの周辺に雪や汚れなどが付着しているとき
- ・カメラセンサー前部のフロントウインドウガラスが曇ったり、結露したり、凍結したりしているとき（フロントウインドウガラスの曇りを取るには：→P.253）
- ・ポンネットが開いているときや、フロントウインドウガラスのカメラセンサー付近にシールが貼り付けられているなど、カメラセンサーの前方がさえぎられているとき

- 状況が改善されてもPCS警告灯が点滅または点灯、および警告メッセージが表示されたままのときは、システムに異常があるおそれがあります。レクサス販売店で点検を受けてください。

■ VSC を停止したとき

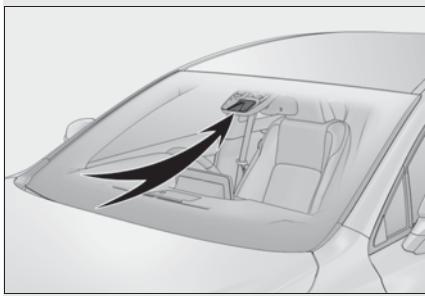
- VSCの作動を停止（→P.239）したときは、プリクラッシュブレーキアシスト・プリクラッシュブレーキの作動も停止します。
- PCS警告灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイに“VSCがOffのためプリクラッシュブレーキも停止します”が表示されます。

LDA（レーンディパー チャーアラート※[ステア リング制御機能付き]）

※ 車線逸脱警報

白（黄）線が整備された、高速道路または自動車専用道路を走行中、車線からの逸脱の可能性を運転者に警告するとともに、逸脱を回避するためのハンドル操作の一部を支援します。

LDAは、フロントウインドウガラス上部のカメラセンサーで、白（黄）線を認識します。

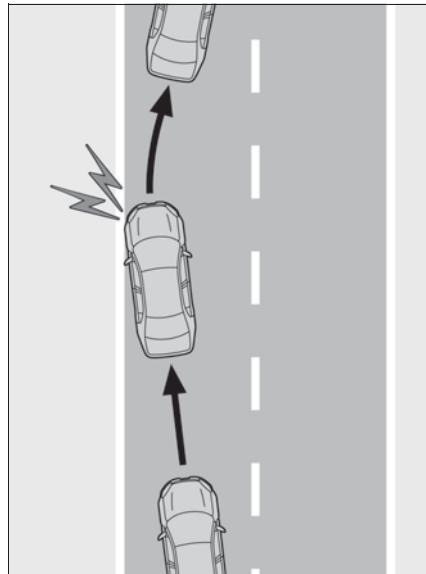


LDAに含まれる機能

■ 車線逸脱警報機能

車両が車線から逸脱する可能性がある場合に、マルチインフォメーションディスプレイの表示および、警報ブザーまたはハンドルの振動により注意をうながします。

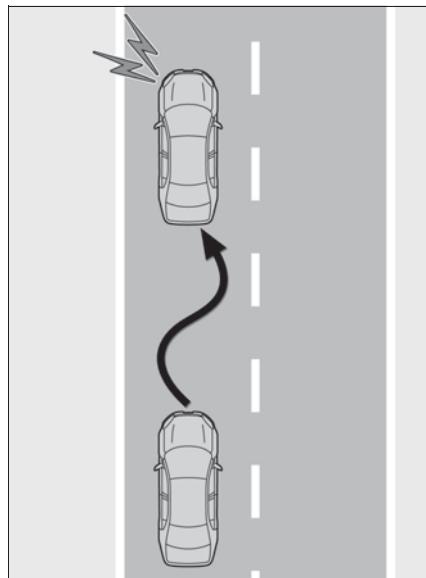
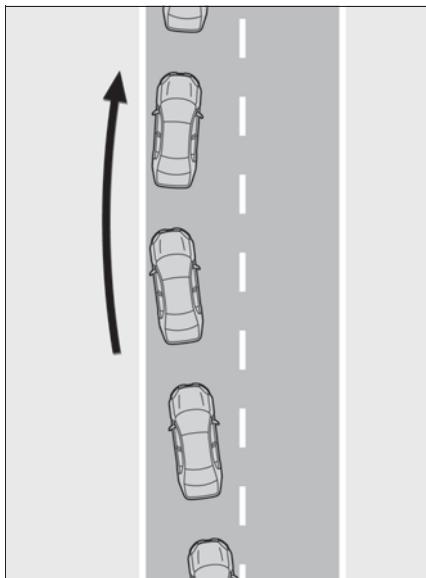
警報ブザーが鳴った、またはハンドルに振動があつたときは、まわりの道路状況を確認の上、ハンドルを慎重に操作して、白（黄）線内の中央付近にもどってください。



■ ステアリング制御機能

車両が車線から逸脱する可能性がある場合に、短時間、小さな操舵力をハンドルに与えて、車線からの逸脱を避けるのに必要なハンドル操作の一部を支援します。

一定のあいだハンドルを操作しなかつたり、ハンドルをしつかり握っていない状態での運転が続いたりしたときは、マルチインフォメーションディスプレイの表示により注意喚起が行われ、機能が一時的に解除されます。



■ ふらつき警報機能

車両がふらついて走行しているとき、または車線から何度もはみだしそうになった場合に、警報ブザーおよびマルチインフォメーションディスプレイの表示により注意をうながします。

4

運転

■ 警告

■ LDA をお使いになる前に

LDA を過信しないでください。LDA は自動で運転する装置でも前方への注意を軽減する装置でもないため、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、ハンドル操作で進路を修正し、安全運転を心がけてください。また、長時間の運転などによる疲労時は適切に休憩をとってください。

適切な運転操作をしなかつたり、注意を怠つたりすると、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■ 誤作動を防ぐために

LDA を使用しないときは、LDA スイッチでシステムを OFF にしてください。

■ LDA を使用してはいけない状況

次の状況では、LDA を使用しないでください。

システムが適切に作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⚠️ 警告

- 応急用タイヤ・タイヤチェーンなどを装着しているとき
- タイヤの残り溝が十分にないとき、または空気圧が不足しているとき
- 構造・メーカー・銘柄・トレッドパターンが異なるタイヤを使用したとき
- 路側物に白（黄）線と見間違えるような構造物や模様があるとき（ガードレール・縁石・反射ポールなど）
- 雪道を走行しているとき
- 雨・雪・霧・砂ぼこりなどで白（黄）線が見えにくいとき
- 道路の修復で、アスファルト修復跡や白（黄）線の跡などが残っているとき
- 工事によって規制された車線・仮設の車線を走行しているとき
- 雨天時や積雪・凍結などで、すべりやすい路面を走行しているとき
- 高速道路または自動車専用道以外の車線を走行しているとき
- 工事区間を走行しているとき
- LDA の故障、または誤作動を防ぐために
 - ヘッドランプを改造したり、ランプの表面にステッカーなどを貼ったりしないでください。
 - サスペンションなどを改造しないでください。交換が必要な場合は、レクサス販売店にご相談ください。
 - ボンネットやグリルの上には、何も取り付けたり置いたりしないでください。また、グリルガード（ブルバー・カンガルーバーなど）を取り付けたりしないでください。

- フロントウインドウガラスの修理が必要な場合は、レクサス販売店にご相談ください。

設定のしかた

LDA を ON にするには LDA スイッチを押す

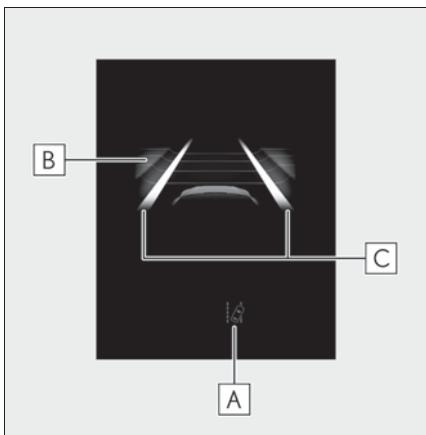
LDA 表示灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

OFF にするには、再度スイッチを押します。

いったん LDA を ON / OFF すると、次回ハイブリッドシステムを始動したときにも、そのままの状態が続きます。



マルチインフォメーションディスプレイ表示



A LDA 表示灯

表示灯の点灯状態で、システムの作動状況をお知らせします。

白色に点灯：車線逸脱監視中

緑色に点灯：ステアリング制御機能のハンドル操舵支援が作動中

橙色に点滅：車線逸脱警報中

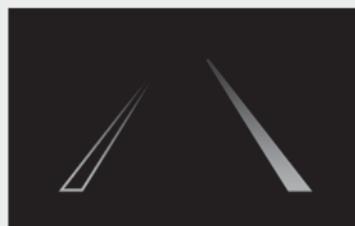
B ハンドル操舵支援の作動表示

ステアリング制御機能のハンドル操舵支援が作動中であることを示しています。

C 車線逸脱警報機能表示

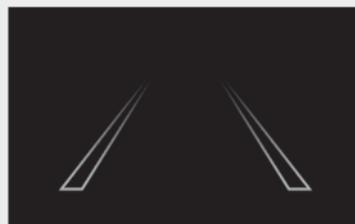
マルチインフォメーションディスプレイを運転支援機能情報に切りかえると表示されます。

▶ 白線表示の内側が白いとき



システムが白（黄）線を認識していることを示しています。車両が車線から逸脱した場合、逸脱している側の白線表示が橙色で点滅します。

▶ 白線表示の内側が黒いとき



システムが白（黄）線を認識できていない、またはシステムが一時的に解除されていることを示しています。

□ 知識

■ 各機能の作動条件

● 車線逸脱警報機能

次の条件をすべて満たしたとき作動します。

- ・ LDA を ON しているとき
- ・ 車速が約 50km/h 以上のとき
- ・ システムが白（黄）線を認識しているとき
- ・ 車線の幅が約 3m 以上のとき
- ・ 方向指示レバーを操作していないとき
- ・ 直線路または半径が約 150m よりゆる

いカーブを走行しているとき

- ・システムの異常が検知されていないとき（→P.203）

●ステアリング制御機能

車線逸脱警報機能の作動条件に加えて、次の条件をすべて満たしたとき作動します。

- ・マルチインフォメーションディスプレイので“操舵支援”を“有”に設定しているとき（→P.84）
- ・一定以上の加減速がないとき
- ・車線変更に相当する程度の操舵力でハンドルを操作していないとき
- ・ABS・VSC・TRC・PCSが作動していないとき
- ・TRCまたはVSCを停止していないとき
- ・手放し運転に対する注意喚起（→P.202）が行われていないとき

●ふらつき警報機能

次の条件をすべて満たしたとき作動します。

- ・マルチインフォメーションディスプレイので“ふらつき検知”を“有”に設定しているとき（→P.84）
- ・車速が約50km/h以上のとき
- ・車線の幅が約3m以上のとき
- ・システムの異常が検知されていないとき（→P.203）

■機能の一時解除

作動条件が満たされなくなった場合、一時的に機能が解除されますが、ふたたび作動条件が満たされると、自動的に復帰します。

ステアリング制御機能作動中に、作動条件（→P.201）が満たされなくなった場合、“ピピッ”とブザー音が鳴り、一時的に機能が解除されたことをお知らせする場合があります。

■ステアリング制御機能について

車速や車線の逸脱状況・路面状況などにより、ステアリング制御機能の作動を感じなかつたり、ステアリング制御機能が作動しなかつたりすることがあります。

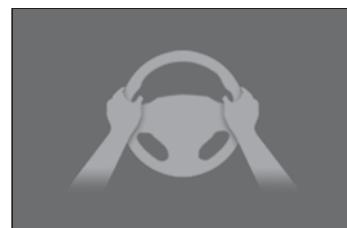
■車線逸脱警報機能について

外部の騒音やオーディオの音などにより、警報ブザーが聞きとりにくい場合があります。また、路面状況などにより、ハンドルの振動を感じにくい場合があります。

■手放し運転に対する注意喚起について

ステアリング制御機能の作動中に、手放し運転をしているとシステムが判断したとき、マルチインフォメーションディスプレイにハンドル保持をうながすメッセージと図に示すシンボルが表示され注意喚起を行います。

さらに操作しない状態が続くとブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージと図に示すシンボルが表示され注意喚起が行われ、機能が一時的に解除されます。運転者のハンドル操作が小さい状態が続いたときも同様に注意喚起が行われます。システムを使用する際は注意喚起にかかるわらず、常にハンドルをしっかりと握ってください。

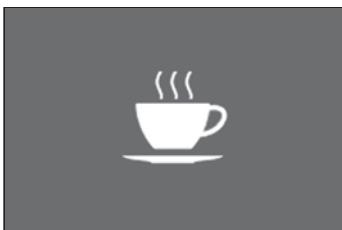


車両の状態や路面状況によっては注意喚起が行われない場合があります。

■ふらつき警報機能について

ふらつき警報機能の作動中に、車両がふらついで走行しているとシステムが判断したとき、ブザーと一緒にマルチインフォメーションディスプレイに休憩をう

ながすメッセージと図に示すシンボルが表示され注意喚起を行います。



車両の状態や路面状況によっては注意喚起が行われない場合があります。

■白（黄）線が片側しかないとき

白（黄）線が認識できていない方向への車線逸脱警報は作動しません。

■機能が正常に作動しないおそれのある状況

次のような状況では、カメラセンサーが白（黄）線を正しく検知できず、各機能が正しく作動しないおそれがあります。

- 白（黄）線に平行するような影がある、または白（黄）線が影の中にあるとき
- 料金所や検札所の手前や交差点など、白（黄）線がない場所を走行するとき
- 白（黄）線がかすれている、またはキャツツアイ（道路鉄）や置き石などがあるとき
- 白（黄）線が砂ぼこりなどで見えない、または見えにくくなっているとき
- 雨天・雨上がり・水たまりなどぬれた路面を走行しているとき
- 車線が黄色のとき（白線にくらべて認識率が低下することがあります）
- 白（黄）線が縁石等の上に引かれているとき
- コンクリート路のような明るい路面を走行しているとき
- 照り返しなどにより明るくなつた路面を走行しているとき

●トンネルの出入口など明るさが急変する場所を走行しているとき

●対向車のヘッドライト光・太陽光などがカメラに入射しているとき

●分岐・合流路などを走行しているとき

●坂道を走行しているとき

●左右に傾いた道路やうねった道路を走行しているとき

●舗装されていない道路や荒れた道路を走行しているとき

●急カーブを走行しているとき

●車線の幅が極端に狭いとき、または広いとき

●重い荷物の積載やタイヤ空気圧の不足などで、車両が著しく傾いているとき

●先行車との車間距離が極端に短くなつたとき

●走行中の路面状況（悪路・道路の継ぎ目など）により、車両が上下に大きく揺れているとき

●夜間にヘッドライトのレンズが汚れて照射が弱いときや、光軸がずれているとき

●横風を受けているとき

●車線変更をした直後、または交差点を通過した直後

●冬用タイヤなどを装着しているとき

■警告メッセージ

次のメッセージがマルチインフォメーションディスプレイに表示され、LDA 表示灯が橙色で点灯した場合は、対処方法に従つて適切に対処してください。

警告メッセージ	警告内容・対処方法	警告メッセージ	警告内容・対処方法	
“LDA 故障 販売店で 点検してください”	システムが正常に 作動しなくなっ ているおそれがある → レクサス販売店 で点検を受けて ください。		カメラセンサー以 外のセンサーの異 常によりシステム が一時停止してい る → いったん LDA を OFF にして、警 告メッセージの 内容に対処した あと、しばらく してから再度、 LDA を ON にし てください。	
“前方カメラ 一時使用不可 ガラスの汚れや 曇りを取ってく ださい”	カメラセンサーの 前のフロントウイ ンドウガラスの汚 れ・雨滴・結露・ 氷雪などが付着し ている → いったん LDA を OFF にして、汚 れ・雨滴・結 露・氷雪などを 取り除いてから、 再度 LDA を ON にしてください。	“LDA 現在利用で きません”	車速が約 50km/h 以下のため LDA が 使用できません → 約 50km/h より 速い速度で走行 してください。	
“前方カメラ 一時使用不可 しばらくお待ちく ださい”	カメラセンサーの 作動条件（温度な ど）が満たされて いない → カメラセンサー の作動条件（温 度など）が満た されると、LDA は使用可能にな ります。いった ん LDA を OFF にして、しばら く待ってから、 再度 LDA を ON にしてください。	その他の警告メッセージが表示されたと きは、表示された画面の指示に従ってく ださい。		

■ カスタマイズ機能

次の設定を変更できます。

機能	設定内容
車線逸脱警報機能	警報感度
	警報手段
ステアリング制御 機能	機能の ON/OFF
	機能の ON/OFF
ふらつき警報機能	警報感度

設定変更のしかたは、P.368 を参照して
ください。

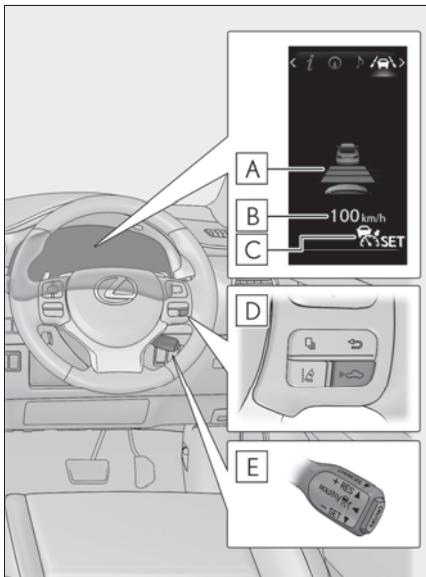
レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）

アクセルペダルを踏まなくても、車間制御モードでは、先行車の車速変化に合わせた追従走行を行い、自動的に加速・減速・停止をします。定速制御モードでは、一定の車速で走行できます。

高速道路や自動車専用道路で使用してください。

- 車間制御モード（→P.207）
- 定速制御モード（→P.210）

システムの構成部品



- A** マルチインフォメーションディスプレイ
- B** 設定速度
- C** 表示灯

D 車間距離切りかえスイッチ

E クルーズコントロールスイッチ

⚠️ 警告

■ 安全にお使いいただくために

安全運転を行う責任は運転者にあります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。

レーダークルーズコントロールは運転者の操作の一部を支援し、操作負担を軽減するためのシステムで、支援の範囲には限りがあります。設定速度は、制限速度・交通の流れ・路面環境・天候などを考慮して適切に設定してください。設定速度の確認は運転者が行う必要があります。

システムが正常に機能していても、運転者が認識している先行車の状況とシステムが検知している状況が異なる場合があります。従つて注意義務・危険性の判断・安全の確保は運転者が行う必要があります。システムに頼つたり、安全を委ねる運転をしたりすると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ システムの支援内容に関する注意点

システムの支援には限界があるため、次の点に注意してください。

システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 警告

- 運転者が見る過程での支援内容
レーダークルーズコントロールは、自車と設定された先行車との車間距離を検知するのみであり、わき見やぼんやり運転を許容するシステムでも、視界不良を補助するシステムでもありません。
運転者自らが周囲の状況に注意を払う必要があります。
- 運転者が判断する過程での支援内容
レーダークルーズコントロールは、自車と設定された先行車との車間距離が適正かどうかを判断しており、それ以外の判断はしません。このため、危険性があるかどうかなど運転者は自ら安全の判断をする必要があります。
- 運転者が操作する過程での支援内容
レーダークルーズコントロールは、先行車への追突を防止する機能はありません。このため、危険性があれば運転者自らが安全を確保する必要があります。

■ 誤操作を防ぐために

レーダークルーズコントロールを使わないときは ON/OFF スイッチでシステムを OFF にしてください。

■ レーダークルーズコントロールを使用してはいけない状況

次の状況では、レーダークルーズコントロールを使用しないでください。
適切な制御が行われず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

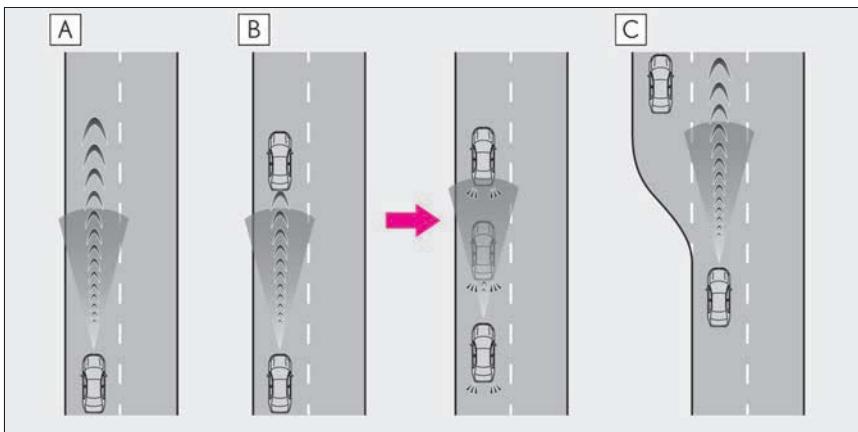
- 歩行者や自転車等が混在している道
- 交通量の多い道
- 急カーブのある道

- 曲がりくねった道
- 雨天時や、凍結路・積雪路などのすべりやすい路面
- 急な下り坂や急で勾配の変化が激しい坂
急な下り坂では車速が設定速度以上になることがあります。
- 高速道路や自動車専用道路の出入り口
- センサーが正しく検知できないような悪天候時（霧・雪・砂嵐・激しい雨など）
- レーダーセンサー前面または、カメラセンサー前面に雨滴や雪などが付着しているとき
- ひんぱんに加速・減速をくり返すような交通状況のとき
- 接近警報がひんぱんに鳴るとき

車間制御モードでの走行

車間制御モードでは、レーダーセンサーにより車両前方約100m以内の先行車の有無・先行車との車間距離を判定して、先行車との適切な車間距離を確保する制御をします。

下り坂を走行しているときは、車間距離が短めになります。



A 定速走行：

先行車がないとき

運転者が設定した速度で定速走行します。また、車間距離切りかえスイッチを操作して、希望の車間距離に設定することもできます。

B 減速走行・追従走行：

設定した速度より、車速が遅い先行車が現れたとき

先行車を検知すると自動で減速し、より大きな減速が必要な場合はブレーキがかかります（このとき制動灯が点灯します）。先行車の車速変化に合わせて、運転者の設定した車間距離になるように追従走行します。十分に減速できない状態で先行車に接近した場合は、接近警報を鳴らします。

先行車が停止したときは、続いて停止します（制御停車）。先行車の発進後、クルーズコントロールレバーを上げるか、アクセルペダルを踏むと追従走行にもどります。

C 加速走行：

設定した速度より、車速が遅い先行車がいなくなったとき

設定速度まで加速し、定速走行にもどります。

速度を設定する（車間制御モード）

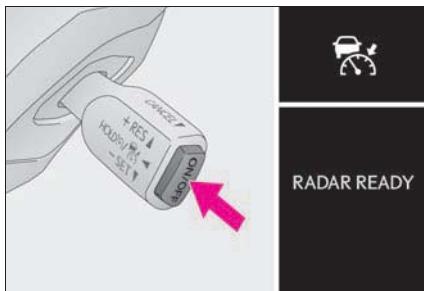
- ON/OFFスイッチを押して、シ

ステムをONにする

レーダークルーズコントロール表示灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

OFF にするには再度スイッチを押します。

ON/OFF スイッチを 1.5 秒以上押し続けると定速制御モードでシステムが ON します。 (→P.210)

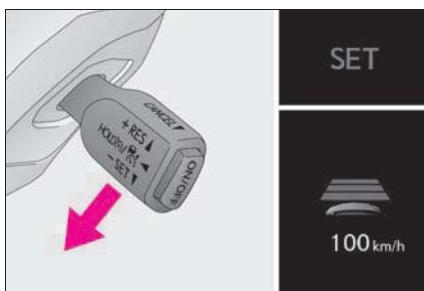


- 2 希望の車速（約 50km/h 以上）までアクセルペダル操作で加速／減速し、レバーを下げる速度を設定する**

クルーズコントロールセット表示灯が点灯します。

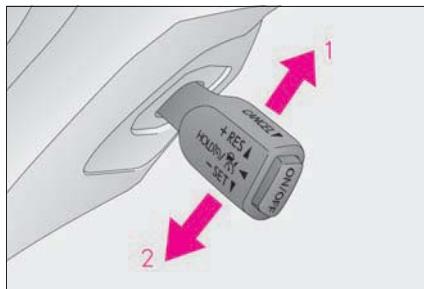
レバーを離したときの車速で定速走行できます。

車速が約 50km/h 未満、かつ先行車がいる状態でレバーを操作したときは、設定速度が約 50km/h にセットされます。



設定速度をかえる

設定速度をかえるには、希望の速度が表示されるまでレバーを操作します。



1 速度を上げる（車間制御モードの制御停車中は除く）

2 速度を下げる

微調整：レバーを上または下に軽く操作して手を離す

大幅調整：レバーを上または下に保持して速度をかえ、希望の速度で手を離す

車間制御モードでは、設定速度は、次のとおりに増減されます

微調整：レバー操作をすることに 1km/h

大幅調整：レバーを保持しているあいだ、5km/h ずつ

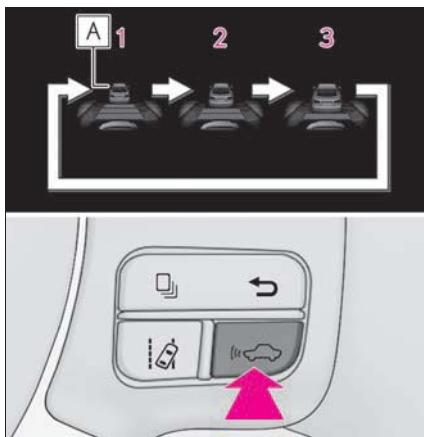
定速制御モード (→P.210) では、設定速度は、次のとおりに増減されます

微調整：レバー操作をすることに 1km/h

大幅調整：レバーを保持しているあいだ連続して変化

車間距離を変更する（車間制御モード）

スイッチを押すごとに次のように車間距離を切りかえます。



- 1 長い
- 2 中間
- 3 短い

パワースイッチを ON モードにするたびに車間距離は自動的に「長い」にもどります。

先行車がいる場合、先行車マーク[A]も表示されます。

車間距離選択の目安（車間制御モード）

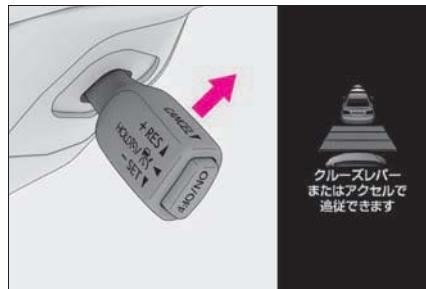
次の目安を参考に車間距離を選択してください。

(車速 80km/h で走行している場合)
なお、車速に応じて車間距離は増減します。また、制御停車時は設定にかかわらず状況に応じた車間距離で停車します。

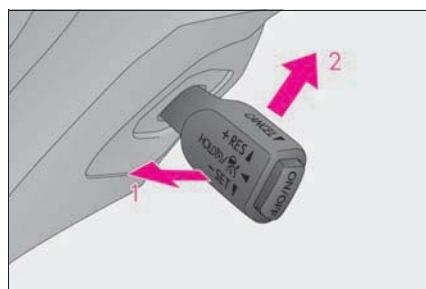
車間距離選択	車間距離
長い	約 50m
中間	約 40m
短い	約 30m

制御停車から追従走行に復帰させる（車間制御モード）

先行車の発進後、レバーを上げる
先行車の発進後にアクセルペダルを踏んでも追従走行に復帰します。



制御を解除する・復帰させる



- 1 制御を解除するには、レバーを手前に引く

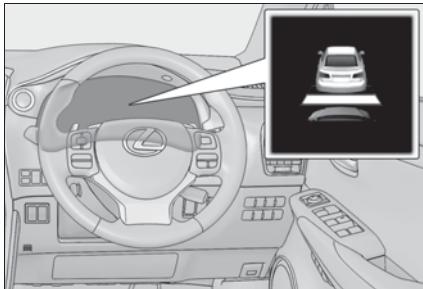
ブレーキペダルを踏んだときも解除されます。（車間制御モードの制御停車中は、ブレーキペダルを踏んでも解除されません）

- 2 制御を復帰させるには、レバーを上げる

ただし、車速が約 40km/h 以下で、かつ先行車を検知していないときは、復帰しません。

接近警報（車間制御モード）

追従走行中の他車の割り込みなど、十分な減速ができない状態で先行車に接近したときは、表示の点滅とブザーで運転者に注意をうながします。その場合は、ブレーキペダルを踏むなど適切な車間距離を確保してください。



■ 警報されないとき

車間距離が短くても、次のような場合は警報されないことがあります。

- 先行車と自車の車速が同じか先行車の方が速いとき
- 先行車が極端な低速走行をしているとき
- 速度を設定した直後
- アクセルペダルを踏んだとき

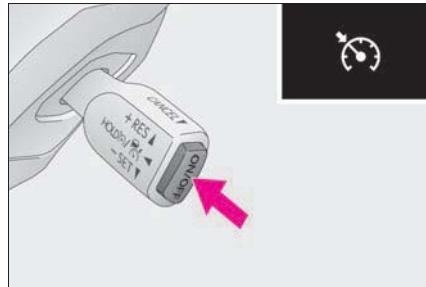
定速制御モードでの走行

定速制御モードでは、先行車の車速変化に合わせた追従走行を行わず、一定の車速で走行します。レーダーセンサーの汚れなどにより、車間制御モードで走行できない場合のみご使用ください。

- 1 クルーズコントロールが OFF の状態で、ON/OFF スイッチを 1.5 秒以上押し続ける

ON/OFF スイッチを押した直後は、レーダークルーズコントロール表示灯が点灯します。その後、クルーズコントロール表示灯に切りかわります。

システムが OFF の状態から操作したときのみ、定速制御モードへの切りかえが可能です。



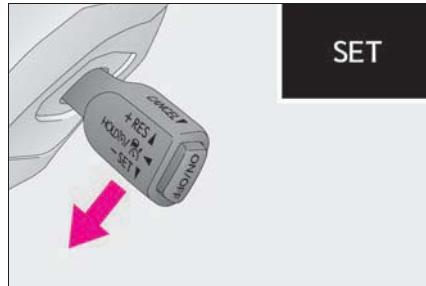
- 2 希望の車速（約 40km/h 以上）までアクセルペダル操作で加速／減速し、レバーを下げる速度を設定する

クルーズコントロールセット表示灯が点灯します。

レバーを離したときの車速で定速走行できます。

設定速度をかえる
→P.208

制御を解除する・復帰させる
→P.209



知識

■ 設定条件について

- シフトレバーがDまたはSの4レンジ以上とのとき設定できます。
- パドルシフトスイッチで4レンジ以上を選択したとき設定できます。
- 車速が約50km/h以上のとき設定できます。
(ただし先行車を検知しているときは、約50km/h未満でも設定できます)

■ 速度設定後の加速について

通常走行と同様にアクセルペダル操作で加速できます。加速後、車速が設定速度にもどります。ただし、車間制御モード時は先行車との距離を保持するため車速が設定速度以下になることもあります。

■ 追従走行中の停車制御について

- 制御停車中にレバーを上げた場合、約3秒以内に先行車が発進すれば追従走行にもどります。
- 先行車に続いて停車したあと約3秒以内に先行車が発進した場合、追従走行にもどります。

■ 車間制御モードの自動解除

次のとき、自動的に車間制御モードが解除されます。

- 先行車がいないときに車速が約40km/h以下になったとき
- 車速が約40km/h以下で追従走行中に先行車がいなくなった、もしくはセンサーが正しく車両を検知できなかつたとき（マルチインフォメーションディスプレイに「クルーズできません 先行車無し」が表示されます）
- VSC が作動したとき
- TRC が一定時間作動したとき
- TRC または VSC を OFF にしたとき

- センサーが何かでふさがれて正しく検知できないとき

- プリクラッシュブレーキが作動したとき

- パーキングブレーキが作動したとき

- 急坂路で制御停車したとき

- 制御停車中に次を検出したとき

- ・ 運転席シートベルトを着用していない
- ・ 運転席ドアが開いた
- ・ 車両が停止したあと約3分経過した

他の理由で車間制御モードが自動解除されるときは、システムが故障している可能性があります。レクサス販売店にご相談ください。

■ 定速制御モードの自動解除

次のとき、自動的に定速制御モードが解除されます。

- 設定速度より車速が約16km/h以上低下したとき
- 車速が約40km/h未満になったとき
- VSC が作動したとき
- TRC が一定時間作動したとき
- TRC または VSC を OFF にしたとき
- プリクラッシュブレーキが作動したとき

他の理由で定速制御モードが自動解除されるときは、システムが故障している可能性があります。レクサス販売店にご相談ください。

■ ブレーキシステムの作動音

車間制御モードで走行中に自動でブレーキがかかると、ブレーキシステムの作動音が聞こえることがあります。異常ではありません。

- マルチインフォメーションディスプレイに「クルーズコントロール現在使用できません」と表示されたときは

レーダークルーズコントロールのシス

ムが一時的に使用不可と判断されています。しばらく走行してからレーダークルーズコントロールを再度設定してください。

■ レーダークルーズコントロールの警告 メッセージ・警告ブザー

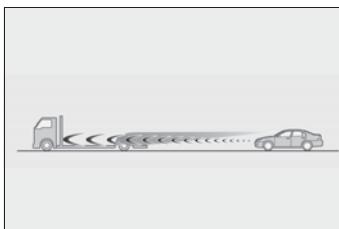
走行操作に関して注意が必要な場合や、システムに異常が発生したときには、警告メッセージ・警告ブザーで注意をうながします。マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されたときは、表示された画面の指示に従ってください。

■ センサーが正しく検知しないおそれのある先行車

次のような場合にシステムによる減速が不十分な場合はブレーキペダルを、加速が必要な場合はアクセルペダルを、状況に応じて操作してください。

センサーが正しく車両を検知できず、接近警報（→P.210）も作動しないおそれがあります。

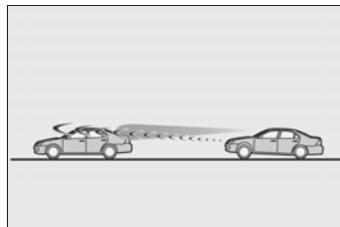
- 先行車が急に割り込んできたとき
- 先行車が低速で走行中のとき
- 同じ車線に停車中の車がいるとき
- 先行車の後部分が小さすぎるとき（荷物を積んでいないトレーラーなど）



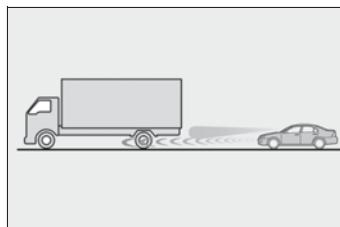
- 同じ車線を二輪車が走行中のとき

- 周囲の車より水や雪がまき散らされ、レーダーセンサーの検知のさまたげになる場合
- 自車の車両姿勢が上向きになる場合

（重い荷物を積んだときなど）



- 先行車の車高が極端に高いとき

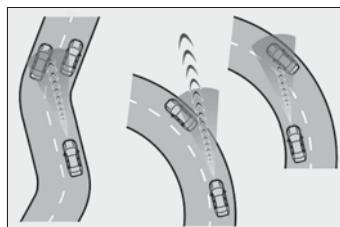


■ 車間制御モードが正しく作動しないおそれのある状況

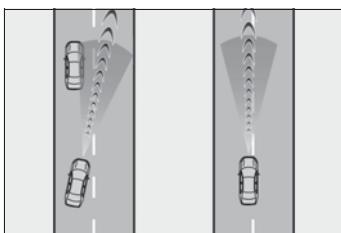
次の状況では、必要に応じてブレーキペダルで減速（場合によってアクセルペダルを操作）してください。

センサーが正常に車両を検知できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。

- カーブや車線幅が狭い道路などを走行する場合



- ハンドル操作が不安定な場合や、車線内の自車の位置が一定でない場合



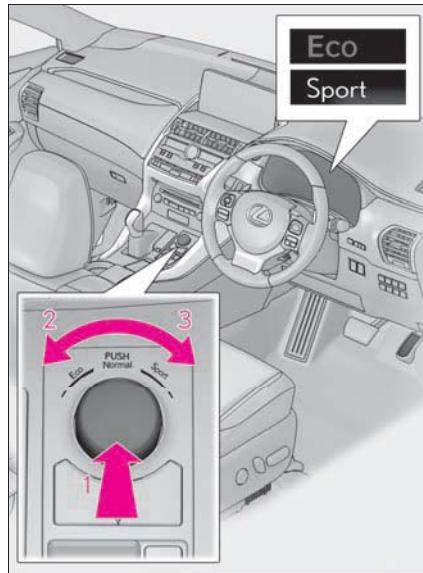
- 先行車が急ブレーキをかけた場合
- 道路脇に構造物がある道（トンネル・橋など）を走行する場合
- アクセルペダルを踏んで加速したあと、車速が設定速度に戻るとき

ドライブモードセレクトスイッチ

走行・使用状況に合わせて走行モードを選択できます。

走行モードを選択するには

▶ NAVI・AI-AVS 非装着車



4

運転

1 ノーマルモード

通常の走行に適しています。

エコモードまたはスポーツモード時にスイッチを押すと、ノーマルモードにもどります。

2 エコモード

通常にくらべてアクセルペダルの踏み込みに対するトルクの発生がゆるやかになり、またエアコン（暖房／冷房）の作動を抑え、燃費を向上させる走行に適しています。

エコモード以外のときにスイッチを左へまわすとエコモードに切りかわり、マルチインフォメーションディスプレイに

Eco 表示灯が点灯します。

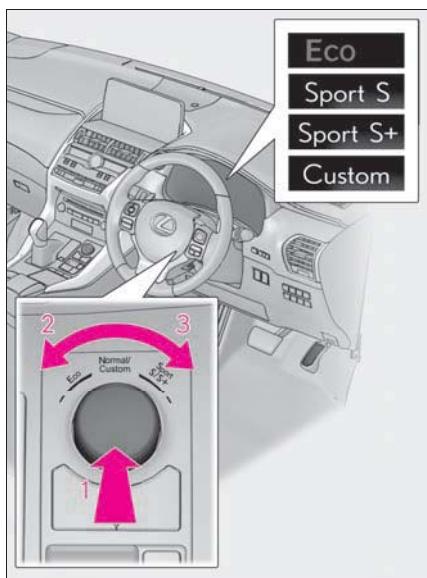
3 スポーツモード

ステアリングのフィーリング・およびハイブリッドシステムとトランスミッションの制御によるアクセルレスポンスなどがスポーツ走行に適した制御にかかります。山岳路などで、きびきびとした走りを楽しみたいときに適しています。

スポーツモード以外のときにスイッチを右へまわすとスポーツモードに切りかわり、マルチインフォメーションディスプレイに Sport 表示灯が点灯し、ハイブリッドシステムインジケーターからタコメーター表示に切りかわります。

(→P.76)

▶ NAVI・AI-AVS 装着車



1 ノーマル／カスタムモード

ノーマル／カスタムモードは、スイッチを押して選択します。スイッチを押すごとに、ノーマル／カスタムモードが切りかわります。カスタムモードのとき、“Custom” 表示灯が点灯します。エコモードまたはスポーツモードのときにスイッチを押すと、ノーマルモードに

もどります。

・ノーマルモード

燃費性能、静肅性、運動性能のバランスが良く、市街地を走行する場合に適しています。

・カスタムモード

パワートレーン制御、シャシー制御またはエアコン動作の機能をお好みで設定し、走行することができます。カスタムモードは、ナビゲーション画面で設定します。

2 エコモード

通常にくらべてアクセルペダルの踏み込みに対するトルクの発生がゆるやかになり、またエアコン（暖房／冷房）の作動を抑え、燃費を向上させる走行に適しています。

エコモード以外のときにスイッチを左へまわすとエコモードに切りかわり、マルチインフォメーションディスプレイに Eco 表示灯が点灯します。

3 スポーツモード

・スポーツ S モード

ハイブリッドシステムとトランスミッションの制御により、アクセルレスポンスを向上させ、力強い加速をしたいときに適しています。

スポーツ S モード以外のときにスイッチを右へまわすとスポーツ S モードに切りかわり、マルチインフォメーションディスプレイに Sport S 表示灯が点灯し、ハイブリッドシステムインジケーターからタコメーター表示に切りかわります
(→P.76)

・スポーツ S +モード

ハイブリッドシステムとトランスミッションに加え、ステアリングやサスペンションを総合的に制御することにより優れた安定感の確保に貢献し、スポーティな走りを楽しみたいときに適しています。

スポーツ S モードのときにスイッチを右

へまわすとスポーツ S + モードに切りかわり、マルチインフォメーションディスプレイに Sport S + 表示灯が点灯します。

知識

■ エコモード時のエアコン作動について
エコモードは、暖房／冷房の作動や風量を抑制して、燃費向上を図っています。空調の効きをより良くしたいときは、風量の調整またはエコモードの解除をしてください。

■ 走行モードの解除について

- スポーツモードは、パワースイッチを OFF にすると自動的に解除され、ノーマルモードにもどります。
- ノーマルモード、およびエコモードは、ほかの走行モードに切りかえるまで解除されません。(パワースイッチを OFF にしても自動では解除されません)
- ASC (アクティブサウンドコントロール) 作動について

ASC が ON の場合、スポーツ S+ モードを選択時に電子音が鳴ります。

PKSA (パーキングサポートアラート)

PKSA (パーキングサポートアラート) は、ソナーで壁などの静止物を検知しお知らせするクリアランスソナー機能により、駐車時に運転者に注意喚起を行います。

駐車支援機能

■ クリアランスソナー

→P.216

警報ブザー

■ ブザー音量調整

マルチインフォメーションディスプレイ上でブザー音量の調整ができます。

メーター操作スイッチを使って設定を変更します。(→P.82)

- 1 < または > を押して  を選択する
- 2 ▲ または ▼ を押して 「PKSA」を選択し、● を押す
- 3 ▲ または ▼ を押して  を選択し、● を押す

押すごとに小～大の間で音量が切りかわります。

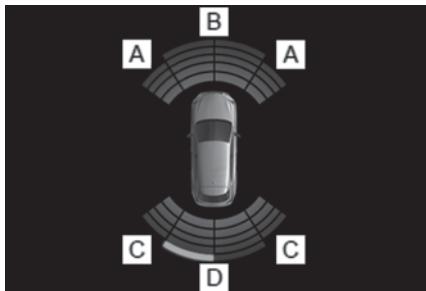
■ ブザー音の一時ミュート (消音)

→P.217

クリアランスソナー★

★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

クリアランスソナーは、車両と静止物とのおおよその距離を超音波センサーによって感知して、メーター内のマルチインフォメーションディスプレイおよびナビゲーション画面の距離表示とブザー音、音声案内で運転者にお知らせします。



A フロントコーナーセンサー作動表示

B フロントセンターセンサー作動表示

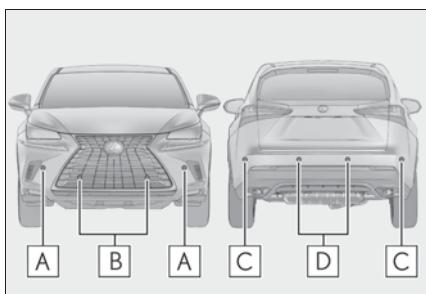
C リヤコーナーセンサー作動表示

D リヤセンターセンサー作動表示

● ナビゲーション画面の表示

静止物を感知すると自動的に表示されます。

▶ バックガイドモニター＆サイドモニター★



A フロントコーナーセンサー

B フロントセンターセンサー

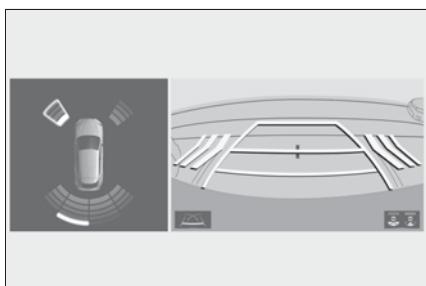
C リヤコーナーセンサー

D リヤセンターセンサー

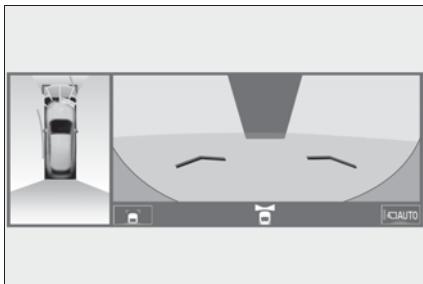
■ クリアランスソナーの表示

静止物を感知すると自動的に表示されます。

● マルチインフォメーションディスプレイの表示



▶ パノラミックビューモニター★



* : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

の操作では復帰しません)



クリアランスソナーの設定変更

マルチインフォメーションディスプレイでクリアランスソナーの ON (作動) / OFF (非作動) を変更することができます。

- 1 メーター操作スイッチの ▲ または ▼ を押して を選択する。
- 2 メーター操作スイッチの ▲ または ▼ を押して 「PKSA」 を選択する。
- 3 ▲ または ▼ を押して を選択し、● を押して ON (作動) / OFF (非作動) を変更する。

ON (作動) を選択すると、クリアランスソナー表示灯が点灯します。

OFF (非作動) に切りかえて、クリアランスソナーを停止させた場合、再度、マルチインフォメーションディスプレイの から ON (作動) に切りかえないシステムは復帰しません。(パワースイッチ

□ 知識

■ 作動条件

- パワースイッチが ON モードのとき
- クリアランスソナー機能が ON のとき
- 車両の速度が約 10km/h 以下のとき
- シフトレバーが P 以外にあるとき

■ ブザーの音量調整について

マルチインフォメーションディスプレイの からブザー音量を変更することができます。→P.215)

■ ブザー音のミュート (消音) について

- ミュート (消音) させるとき：マルチインフォメーションディスプレイに感知した画面が表示されているときに、メーター操作スイッチの ● を押すと、一時的にブザー音を消すことができます。

● ミュート (消音) が解除されるとき：次のとき、自動的にミュート (消音) が解除されます。

- ・ シフトポジションを切りかえたとき (D から N、および N から D への切りかえを除く)
- ・ シフトポジションが D で、車速が約 10km/h 以上になったとき
- ・ クリアランスソナーを OFF にし、再度 ON にしたとき

- ・パワースイッチを OFF にし、再度イグニッショナON モードにしたとき

■マルチインフォメーションディスプレイに「クリアランスソナー使用できませんソナーの汚れを除去してください」が表示されたときは

クリアランスソナーのセンサーに氷・雪・泥などが付着していることが考えられます。この場合はセンサーの氷・雪・泥などを取り除けば、正常に復帰します。また、低温時にはセンサーの凍結などにより異常表示が出たり、静止物があつても感知しないことがあります。氷が解ければ、正常に復帰します。

■マルチインフォメーションディスプレイに「クリアランスソナー故障販売店で点検してください」が表示されたときは

センサーの異常などにより装置が正常に作動しなくなっているおそれがあります。レクサス販売店で点検を受けてください。

■センサーの感知について

- センサーの感知範囲は車両前部と後部のバンパー周辺に限られます。
- 静止物の形状・条件によって感知できる範囲が短くなることや、感知できないことがあります。
- センサーが静止物に近づきすぎると感知できないことがあります。
- 静止物を感知してから、表示やブザーが出るまでに多少時間がかかります。低速走行時の場合でも表示やブザーが出る前に、静止物まで約 25cm 以内に接近するおそれがあります。

■カスタマイズ機能

クリアランスソナーの設定を変更できます。(カスタマイズ一覧: →P.369)

▲警告

■クリアランスソナーをお使いになる前に

必ず次のことをお守りください。
お守りいただかないと、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 車両の速度が約 10km/h をこえないようにしてください。
- センサーの感知範囲、作動速度には限界があります。車を前進・後退するときは、必ず車両周辺（特に車両側面など）の安全を確認し、ブレーキで車速を十分に制御し、ゆっくり運転してください。
- センサーが感知する範囲にはアクセサリー用品などを取り付けないでください。

■センサーについて

次のとき、クリアランスソナーが正常に作動しないことがあります。思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。注意して運転してください。

- センサーに氷・雪・泥などが付着したとき（取り除けば、正常に復帰します）
- センサー部が凍結したとき（解ければ、正常に復帰します）
特に低温時には凍結などにより異常表示が出たり、静止物があつても感知しないことがあります。
- センサーを手などで覆ったとき
- 炎天下や寒冷時
- 凸凹道・坂道・砂利道・草むら走行時など
- 他車のホーン・オートバイのエンジン音・大型車のエアブレーキ音・他車のクリアランスソナーなどの超音波を発生するものが近付いたとき

警告

- どしゃぶりの雨や水しぶきがかかつたとき
 - 車両姿勢が大きく傾いたとき
 - 市販のフェンダーポール、無線機アンテナ、フォグランプを車に付けたとき
 - 背の高い縁石や直角の縁石に向かつて進んだとき
 - 標識などのものによっては感知距離が短くなります。
 - バンパー真下付近は感知しません。センサーより低いものや細い杭などは、一度感知しても接近すると突然感知しなくなることがあります。
 - センサーに静止物が近付きすぎたとき
 - バンパーやセンサー部付近にものをぶつけたときや、たたくなどの強い衝撃を与えたとき
 - レクサス純正品以外のサスペンションを取り付けたとき
 - けん引フックを取り付けたとき
 - 字光式ナンバープレート・ナンバープレートホルダーなどを取り付けたとき
- 静止物の形状・条件によっては感知できる範囲が短くなることや、感知できないことがあります。
- 正確に感知できないことがある静止物**
- 次のようなものは感知しないことがあります。注意して運転してください。
- 針金・フェンス・ロープなどの細いもの
 - 編・雪などの音波を吸収しやすいもの

●鋭角的な形のもの

●背の低いもの

●背が高く上部が張り出しているもの

特に人は衣類の種類によっても検知できない場合がありますので、常に目視で確認してください。

注意

■クリアランスソナーを使用するとき

次のとき、センサーの異常などにより装置が正常に作動しなくなっているおそれがあります。レクサス販売店で点検を受けてください。

●静止物を感知していない状態で、クリアランスソナーの作動表示が点滅し、ブザーが鳴ったとき

●センサー部付近に物をぶつけたときや、たたくなどの強い衝撃を与えたとき

●バンパーをぶつけたとき

●ブザー音がしないのに表示が点灯したままのとき（ミュート選択時は除く）

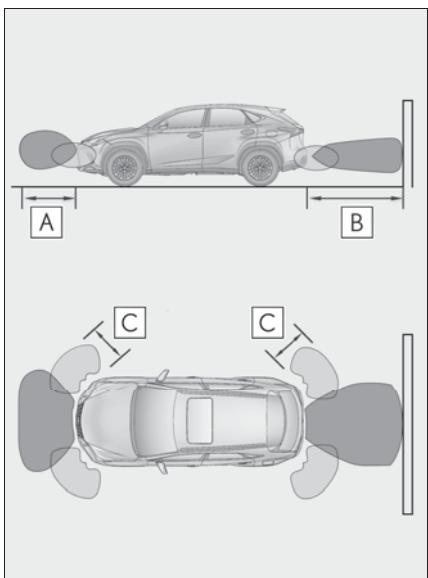
■洗車するとき

●高圧洗車機を使用して洗車するときは、センサー部に直接水をあてないでください。強い水圧により衝撃が加わり、正常に作動しなくなるおそれがあります。

●スチームを使用した洗車機などで洗車するときは、スチームをセンサー部に近付けすぎないようにしてください。スチームにより、正常に作動しなくなるおそれがあります。

距離表示の見方

■ 静止物を感知できる範囲



A 約 100cm

B 約 150cm

C 約 65cm

感知できる範囲は図のとおりです。ただし、静止物がセンサーに近付きすぎると感知できません。

静止物の形状・条件によっては、感知できる距離が短くなることや、感知できないことがあります。

■ 画面表示

静止物を感知すると、作動表示が点灯または点滅します。また、静止物との距離が約 30cm になると作動表示灯のまわりに枠が点滅します。

静止物までのおおよその距離	画面表示 ^{※1}
150cm ~ 65cm ^{※2} (リヤセンターセンサーのみ)	
100cm ~ 65cm ^{※2} (フロントセンターセンサーのみ)	
65cm ~ 45cm ^{※2}	
45cm ~ 30cm ^{※2}	
30cm ~ 15cm ^{※3}	
15cm 以下 ^{※3}	

^{※1} イラストはマルチインフォメーションディスプレイの表示です。ナビゲーション画面の表示は異なります。

^{※2} 自動ミュート機能あり (→P.221)

^{※3} 点灯および枠が点滅

音声案内とブザー音

静止物を感知すると、ブザーが鳴ります。

ブザー音と同時に音声案内を行います。

- フロント側またはリヤ側のみで静止物を感じているとき
- 静止物との距離が近付くと、ブザーの断続時間が短くなります。静止物との距離が約30cm以下のとき、ブザーは断続音「ピピピ」から連続音「ピー」になります。
- 複数のセンサーが同時に静止物を感じているときは、もっとも近い静止物との距離に合わせたブザー音が鳴ります。
- ブザー吹鳴後、静止物との距離が近づかない場合は、自動でブザーが消音されます。（自動ミュート機能）

パーキングサポートブレーキ（静止物）★

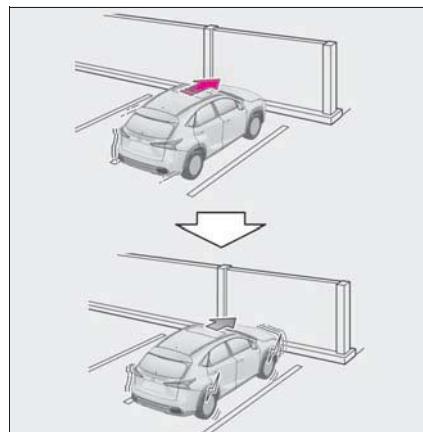
* : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

駐車時や低速走行時における壁などの静止物への衝突のおそれがあるときや、アクセルペダルの踏み間違いや踏みすぎによる急発進、および、シフトレバーの入れ間違いによる発進時に、センサーが前後進行方向の静止物を検知するとシステムが作動し、衝突を緩和し被害低減に寄与します。

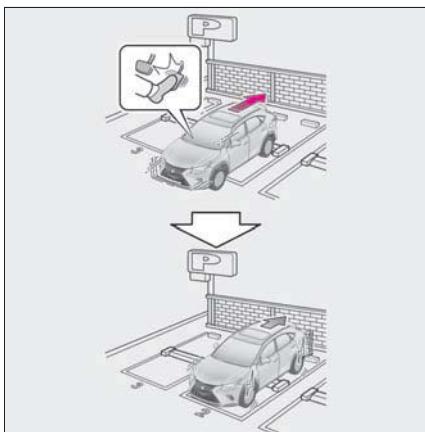
システム作動例

次のようなときに進行方向の静止物を感じてシステムが作動します。

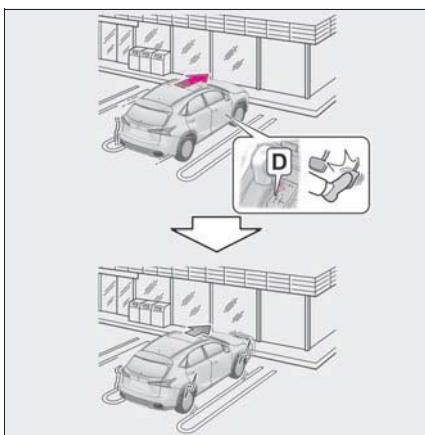
- 低速走行時にブレーキペダルを踏み忘れてしまった、または踏み遅れてしまったとき



■ アクセルペダルを踏みすぎてしまったとき



■ 誤ってシフトレバーを D に入れ前進してしまったとき



⚠ 警告

■ 安全にお使いいただくために

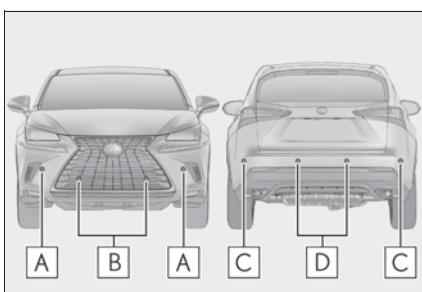
システムを過信しないでください。システムを過信すると思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。パーキングサポートブレーキ（静止物）は衝突緩和という支援ができる場合がありますが、状況によっては作動しない場合もあります。

- パーキングサポートブレーキ（静止物）は、完全に車両を停止させるシステムではありません。また、車両を停止させることができたとしても、ブレーキ制御は約 2 秒で解除されるため、すぐにブレーキペダルを踏んでください。

センサーの位置・種類

■ センサーの位置・種類



A フロントコーナーセンサー

B フロントセンサー

C リヤコーナーセンサー

D バックセンサー

⚠ 注意

■ センサーの故障を防ぐために

- センサー周辺に衝撃を受けたときは、センサーの故障などにより装置が正常に作動しなくなっているおそれがあります。レクサス販売店で点検を受けてください。
- 高圧洗車機を使用して洗車するときは、センサー部に直接水をあてないでください。強い水圧により衝撃が加わり、正常に作動しなくなるおそれがあります。
- スチームを使用した洗車機などで洗車するときは、スチームをセンサー部に近付けすぎないようにしてください。スチームにより、正常に作動しなくなるおそれがあります。

パーキングサポートブレーキ (静止物) の設定変更

マルチインフォメーションディスプレイでパーキングサポートブレーキ(静止物)のON(作動)／OFF(非作動)を変更することができます。

- 1 メーター操作スイッチの ▲ または ▼ を押して  を選択する。

- 2 メーター操作スイッチの ▲ または ▼ を押して  を選択する。

- 3 メーター操作スイッチの ● を押して ON(作動) / OFF(非作動) を変更する。

パーキングサポートブレーキ(静止物)が OFF(非作動)になっているときは、PKSB OFF 表示灯が点灯します。

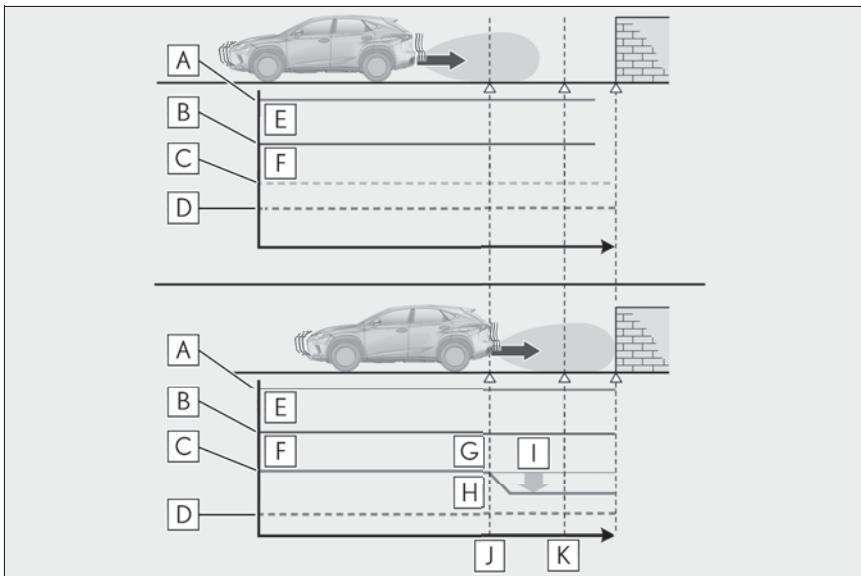
OFF(非作動)に切りかえて、パーキングサポートブレーキ(静止物)を停止させた場合、再度、マルチインフォメーションディスプレイの  画面から ON(作動)に切りかないとシステムは復帰しません。(パワースイッチの操作では復帰しません)



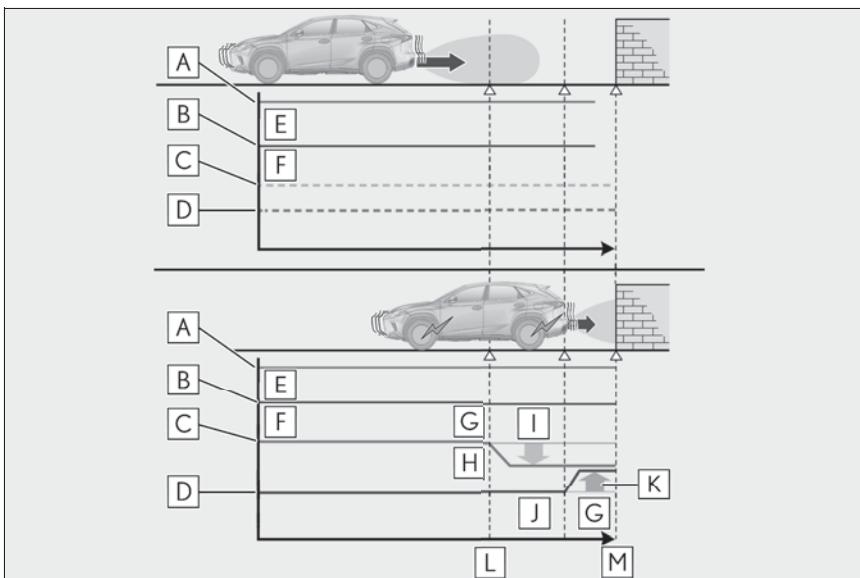
作動について

■ ハイブリッドシステム出力抑制制御

衝突の可能性がある静止物を感じたとき、ハイブリッドシステムの出力を抑制することにより車速の上昇を抑えます。



- A** アクセルペダル
 - B** ブレーキペダル
 - C** ハイブリッドシステム出力
 - D** 制動力
 - E** ON
 - F** OFF
 - G** 制御開始
 - H** 衝突の可能性がある
 - I** DOWN
 - J** マルチインフォメーションディスプレイに「ブレーキ！」と表示されます
 - K** マルチインフォメーションディスプレイに「アクセルが踏まれています
ブレーキを踏みなおしてください」と表示されます
 - **ブレーキ制御**
- ハイブリッドシステム出力制御後もそのままアクセルペダルを踏み続けた場合は、ブレーキをかけ減速させます。



- A** アクセルペダル
B ブレーキペダル
C ハイブリッドシステム出力
D 制動力
E ON
F OFF
G 制御開始
H 衝突の可能性がある
I DOWN
J 衝突の可能性が非常に高い
K UP
L マルチインフォメーションディスプレイに「ブレーキ！」と表示されます
M マルチインフォメーションディスプレイに「アクセルが踏まれています
ブレーキを踏みなおしてください」と表示されます

知識

■ 作動開始条件

PKSB OFF 表示灯が点灯・点滅
(→P.223, 324) しておらず、次の条件

をすべて満たすと作動します。

- ハイブリッドシステム出力抑制制御
- ・ パーキングサポートブレーキ（静止物）
を ON（作動）にしているとき
- ・ 車速が 15km/h 以下

- 車両進行方向に静止物がある（2～4m先まで）
- 衝突回避には、通常よりやや強めのブレーキ操作が必要とシステムが判断した

● ブレーキ制御

- ハイブリッドシステム出力抑制制御動作中
- 衝突回避には、急ブレーキ操作が必要とシステムが判断した

■ 作動終了条件

次のいずれかの条件のときに作動が終了します。

● ハイブリッドシステム出力抑制制御

- パーキングサポートブレーキ（静止物）を OFF（停止）にした
- 通常のブレーキ操作で衝突回避が可能になった
- 車両進行方向の静止物がなくなった（2～4m先まで）

● ブレーキ制御

- パーキングサポートブレーキ（静止物）を OFF（停止）にした
- ブレーキ制御により車両が停止して約2秒が経過した
- ブレーキ制御により車両が停止したあとに、ブレーキペダルを踏んだ
- 車両進行方向の静止物がなくなった（2～4m先まで）

■ センサーの感知範囲について

パーキングサポートブレーキ（静止物）の感知範囲は、クリアランスソナーの感知範囲（→P.220）とは異なります。

そのため、クリアランスソナーが静止物との接近をお知らせしても、パーキングサポートブレーキ（静止物）は作動を開始していない場合があります。

■ センサーが感知しない静止物について

次のような静止物は、センサーが感知しない場合があります。

- 人や綿、雪など音波を反射しにくいもの

（特に人は衣類の種類によっても感知できない場合があります）

- 地面に対して垂直でないもの、車両進行方向に対して直角でないもの、凸凹なもの、波打っているもの

● 背の低いもの

- 針金・フェンス・ロープ・標識の支柱などの細いもの

- バンパーに非常に近いもの

■ 衝突の可能性がなくてもシステムが作動する状況

次のような状況では、衝突の可能性がなくてもシステムが作動する場合があります。

● 周辺環境の影響

- 狭い道路を走行するとき



- 砂利道・草むらなどを走行するとき



- 垂れ幕や旗、垂れ下がった枝、遮断機（踏切のバー・ETCのバー・駐車場のバーなど）に向かって走行するとき
- 道路脇に静止物があったとき（狭いトンネル・狭い鉄橋・狭い道路などを走行したとき）
- 縦列駐車時

- ・地面にわだちや穴がある場合
- ・排水溝などの金属のフタ（グレーチング）走行時
- ・急な登坂路を走行するとき
- ・冠水している道路でセンサーに水が被ったとき

●天候の影響

- ・センサーに氷・雪・泥などが付着したとき（取り除けば、正常に復帰します）
- ・どしゃぶりの雨や水しぶきがかかったとき
- ・霧・雪・砂嵐などの悪天候の状況

●他の音波の影響

- ・他車のホーン・オートバイのエンジン音・大型車のエアブレーキ音・車両感知器・他車のクリアランスソナーなど超音波を発生するものが付近にいたとき
- ・センサー付近に市販の電装部品（字光式ナンバープレートく特に蛍光灯タイプ）・フォグランプ・フェンダーポール・無線アンテナなど）を取り付けたとき

●車両の変化

- ・車両姿勢が大きく傾いたとき
- ・積載状況などにより車高が著しく変化した場合（ノーズアップ・ノーズダウンなど）
- ・衝突などで、センサーの方向ズレが発生したとき

■システムが正常に作動しないおそれのある状況

次のような状況では、システムが正常に作動しない場合があります。

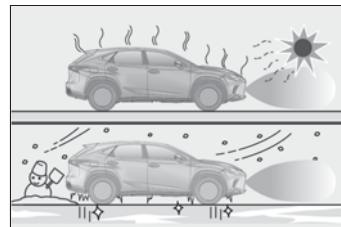
●周辺環境の影響

- ・感知できる静止物と車両のあいだに、感知できない静止物がある場合
- ・車・二輪車・自転車・歩行者などの静止物が車両の横から割り込んだり、飛び出してきたとき

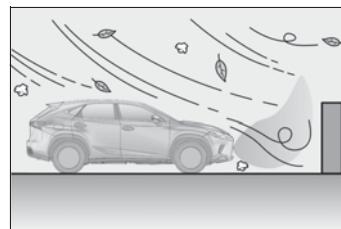
●天候の影響

- ・炎天下や寒冷時でセンサー周辺部が著

しく高温または低温の場合



- ・風が強いとき



- ・センサーに氷・雪・泥などが付着したとき（取り除けば、正常に復帰します）
- ・どしゃぶりの雨や水しぶきがかかったとき
- ・霧・雪・砂嵐などの悪天候の状況

●他の音波の影響

- ・他車のホーン・オートバイのエンジン音・大型車のエアブレーキ音・車両感知器・他車のクリアランスソナーなど超音波を発生するものが付近にいたとき
- ・センサー付近に市販の電装部品（字光式ナンバープレートく特に蛍光灯タイプ）・フォグランプ・フェンダーポール・無線アンテナなど）を取り付けたとき

●車両の変化

- ・車両姿勢が大きく傾いたとき
- ・積載状況などにより車高が著しく変化した場合（ノーズアップ・ノーズダウンなど）
- ・衝突などで、センサーの方向ズレが発生したとき

■マルチインフォメーションディスプレイに「パーキングサポートブレーキ 現在使用できません」が表示され PKSB OFF 表示灯が点滅したときは

- センサー部に氷・雪・泥などが付着していることが考えられます。

この場合はセンサーの氷・雪・泥などを取り除けば、正常に復帰します。

また、低温時にはセンサーの凍結などにより異常表示が出たり、静止物があつても感知しないことがあります。氷が解ければ、正常に復帰します。

- センサーの汚れを取り除いても表示が出るとき、センサーが汚れていないなくても表示が出るときは、レクサス販売店で点検を受けてください。

- 補機バッテリーを脱着したあとにシステムの初期化がされていないことが考えられます。システムの初期化を行ってください。

■補機バッテリーを脱着したときは

システムを初期化する必要があります。

約 35km/h 以上の車速で 5 秒以上直進走行することで初期化できます。

■マルチインフォメーションディスプレイに「パーキングサポートブレーキ故障販売店で点検してください」が表示され PKSB OFF 表示灯が点滅しブザーが鳴ったときは

システムが正常に作動しなくなっているおそれがあります。

レクサス販売店で点検してください。

警告

■システムを正しく作動させるために

センサー (→P.222) について、次のことをお守りください。お守りいただかないと、センサーが正しく作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です

- 改造・分解・塗装などをしない
- 純正品以外に交換しない
- センサー周辺へ衝撃を与えない
- センサーに傷を付けたりせずに、常にきれいにしておく

■サスペンションの取り扱いについて

車高や車の傾きが変化すると、センサーが静止物を正しく感知できなくなり、システムが作動しなくなったり、不要に作動してしまう場合があるため、サスペンションの改造はしないでください。

注意

■不要な作動を防ぐために

次のときは、パーキングサポートブレーキ（静止物）を OFF にしてください。

衝突の可能性がなくてもシステムが作動する場合があります。

- 点検などで、シャシーローラー・シャシーダイナモ・フリーローラーなどを使用する場合
- 船舶・トラックなどへ積載する際の進入時
- ローダウンサスペンションや、純正と異なるサイズのタイヤを取り付けた場合
- 積載状況などにより車高が著しく変化した場合（ノーズアップ・ノーズダウンなど）

⚠ 注意

- けん引フックを取り付けた場合
- 洗車機を使用するとき

ハイブリッドシステム出力抑制制御・ブレーキ制御の表示・ブザーについて

ハイブリッドシステム出力抑制制御・ブレーキ制御が作動したときは、ブザーでお知らせするとともに、マルチインフォメーションディスプレイ、ヘッドアップディスプレイおよび、ナビゲーション画面にメッセージが表示されます。

出力抑制制御は状況により、加速制限制御か出力最大抑制制御のいずれかが作動します。

■ ハイブリッドシステム出力抑制制御作動中（加速制限御）

状況	一定以上の加速ができない状況
マルチインフォメーションディスプレイ／ヘッドアップディスプレイ表示	「加速抑制中です」
ナビゲーション画面表示	なし
PKSB OFF 表示灯	消灯のまま
ブザー	なし

■ ハイブリッドシステム出力抑制制御作動中（出力最大抑制制御）

状況	通常よりやや強めのブレーキ操作が必要な状況
マルチインフォメーションディスプレイ／ヘッドアップディスプレイ表示	「ブレーキ！」
ナビゲーション画面表示	
PKSB OFF 表示灯	消灯のまま
ブザー	“ ポーン ” (単発音)

■ ブレーキ制御作動中

状況	急ブレーキが必要な状況
マルチインフォメーションディスプレイ／ヘッドアップディスプレイ表示	「ブレーキ！」
ナビゲーション画面表示	
PKSB OFF 表示灯	消灯のまま
ブザー	“ ポーン ” (単発音)

■ システム作動により車両停止

状況	ブレーキ制御作動後に車両が停止した状況
マルチインフォメーションディスプレイ／ヘッドアップディスプレイ表示	「アクセルが踏まれていますブレーキを踏み直してください」*
ナビゲーション画面表示	「ブレーキを踏んでください」
PKSB OFF 表示灯	点灯
ブザー	“ポーン”(単発音)

* アクセルが踏まれていない場合は「ブレーキを踏んでください」が表示されます。



■ システムが作動したときは

システム作動により車両が停止した場合、パーキングサポートブレーキ（静止物）が停止して、PKSB OFF 表示灯が点灯します。

■ システムの復帰について

システム作動によりパーキングサポートブレーキ（静止物）が停止したときに、パーキングサポートブレーキ（静止物）を復帰させたい場合は、再度、パーキングサポートブレーキ（静止物）を ON にし停止を解除（→P.223）するか、パワースイッチをいったん OFF にしてから再度、ON モードにしてください。

また、進行方向の静止物がなくなった状態で車両を走行させたとき、または車両の進行方向が入れかわった（前進から後退、または後退から前進に切りかえた）ときはシステムが自動的に復帰します。

■ 万一、踏切などでパーキングサポートブレーキ（静止物）が誤って作動したときは

万一、踏切などでパーキングサポートブレーキ（静止物）が誤って作動しても、ブレーキ制御は約 2 秒で解除されるため、そのまま前進することで脱出できます。また、ブレーキペダルを踏んでも、ブレーキ制御は解除されるため、再度アクセルペダルを踏むことで前進し、脱出できます。

■ クリアランスソナーのブザーについて

クリアランスソナーの ON/OFF（→P.217）に関係なく、パーキングサポートブレーキ（静止物）を停止（→P.223）させていなければ、前側センサーまたはうしろ側センサーが静止物を感じてブレーキ制御が作動すると、クリアランスソナーのブザーも鳴り、静止物とのおよその距離をお知らせします。

BSM (ブラインドスポットモニター) ★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ブラインドスポットモニターには2つの機能があります。

● BSM (ブラインドスポットモニター) 機能

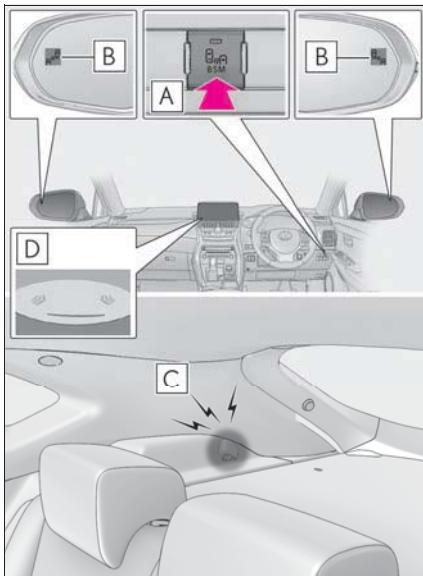
運転者による車線変更時の判断を支援します。

● RCTA (リヤクロストラフィックアラート) 機能

後退時に運転者を支援します。

これらの機能は同じセンサーを使用します。

システムの構成部品



A BSM メインスイッチ

押すごとに ON/OFF が切りかわり、ON

のときはスイッチ上のインジケーターが点灯します。

RCTA 機能は、BSM 機能と同時に ON/OFF が切りかわります。

B ドアミラーインジケーター

BSM 機能：

ドアミラーの死角領域に車両を検知したとき、または後方からその死角領域に急速に接近してくる車両を検知したときは、検知した側のドアミラーインジケーターが点灯します。検知した側に方向指示レバーを操作している場合は、ドアミラーインジケーターが点滅します。

RCTA 機能：

自車の右後方または左後方から接近している車両を検知したときは、両側のドアミラーインジケーターが点滅します。

BSM 機能を ON にした直後の約 1 秒はブザーが鳴ります

C RCTA ブザー (RCTA 機能のみ)

自車の右後方または左後方から接近している車両を検知したときは、ブザーが鳴ります。

BSM 機能を ON にした直後の約 1 秒はブザーが鳴ります。

D ナビゲーション画面の表示

自車の右後方または左後方から接近している車両を検知したときは、ナビゲーション画面に検知した側の RCTA アイコン (→P.234) が点灯します。

イラストは両方向から車両が接近している例です。

知識

■ ブラインドスポットモニターの作動条件

BSM メインスイッチが ON の状態で、車速が約 16km/h 以上のとき

■ BSM ドアミラーインジケーターの視認性について

強い日差しのもとでは、BSM ドアミラーインジケーターが見えづらいことがあります。

■ RCTA ブザー音の聞こえ方について

大音量のオーディオなど大きな音がする場合、RCTA ブザー音が聞こえづらくなる場合があります。

■ マルチインフォメーションディスプレイに「BSM 現在使用できません」が表示されたとき

センサー周辺のバンパーに氷・雪・泥などが付着していることが考えられます。
(→P.232) センサー周辺のバンパーの氷・雪・泥などを取り除けば、正常に復帰します。また、極めて高温または低温の環境で使用した場合正常に作動しないことがあります。

■ マルチインフォメーションディスプレイに「BSM 故障」が表示されたとき

センサーの故障や電圧異常などが考えられます。レクサス販売店にて点検を受けてください。

■ レーダーセンサーの取り扱いについて

本製品は各国の電波法に適合しています。製品表面の印字はその証明ですので、消さないでください。

製品を改造しないでください。改造すると認証番号が無効となります。

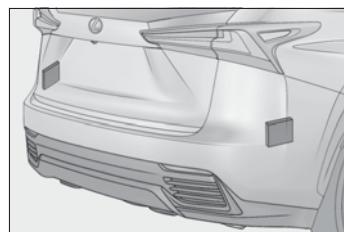


⚠ 警告

■ レーダーセンサーの取り扱い

ブラインドスポットモニターのセンサーは、車両後部に左右ひとつづつ設置されています。システムを正しく作動させるために次のことをお守りください。

- センサー周辺のバンパーは常にきれいにしておく
- センサー周辺のバンパーへの強い衝撃を避ける

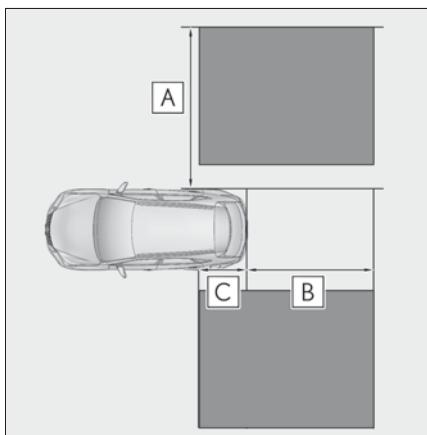


センサーの位置がずれると、検知範囲に入った車両を検知できないなど、システムに異常が起るおそれがあります。強い衝撃を受けた際は、必ずレクサス販売店にて点検を受けてください。

- センサーを分解しない
- センサーヤやセンサー周辺のバンパーにステッカーを貼らない
- センサーヤやセンサー周辺のバンパーを改造しない
- リヤバンパーの塗装修理の際にはレクサス設定色以外への変更は行わないでください
- センサーの交換が必要な場合は、レクサス販売店にご相談ください

ブラインドスポットモニターが検知できる範囲

死角領域となる、次の範囲に入った車両を検知します。



- A** 車両側面から外側に約 3.5m
車両側面から外側に約 0.5m は検知しません
- B** 車両後端から後方に約 3m
- C** 車両後端から前方に約 1m

□ 知識

■ センサーが車両を検知する条件

ブラインドスポットモニターは、次のような状況で検知範囲に入った車両を検知します。

- 隣の車線を走行する他車に自車が追い越されるとき
- 隣の車線を走行する他車を自車が追い越すとき
- 他車が車線変更中に検知範囲に進入するとき

■ センサーが検知しない条件

ブラインドスポットモニターは、次のような車両や車両以外のものを検知対象としません。

- 小型の二輪車、自転車、歩行者など※
- 対向車
- ガードレール・壁・標識・駐車車両な

どの静止物※

- 同じ車線を走行する後続車※

- 2つ隣の車線を走行する他車※

※状況によっては検知をすることがあります。

■ ブラインドスポットモニターが有効に作動しないおそれがある状況

- ブラインドスポットモニターは、次のような状況では車両を有効に検知しないおそれがあります。

- ・センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
- ・泥・雪・氷・ステッカーなどがセンサーやセンサー周辺のリヤバンパーに付着したとき
- ・大雨・雪・霧などの悪天候時、水たまりなどの濡れた路面を走行するとき
- ・複数台の他車が狭い間隔で連続して接近するとき
- ・自車と後続車の車間距離が短いとき
- ・検知範囲に入る他車と自車の速度差が大きすぎるとき
- ・自車と他車の速度差に変化があるとき
- ・検知範囲に入る他車と自車の速度がほとんど等しいとき
- ・停止状態から発進した際に、検知範囲に他車が存在し続けたとき
- ・急勾配の上り・下りが連続した坂道や道路のくぼみ等を走行しているとき
- ・きついカーブや連続したカーブ、起伏がある場所を走行するとき
- ・車線の幅が広い、もしくは車線の端を走行するなど、隣の車線の他車が自車から離れすぎているとき
- ・車両後部に自転車キャリアなどのアクセサリーを装着しているとき
- ・検知範囲に入る他車と自車の高さに差がありすぎるとき
- ・BSMメインスイッチをONにした直後
- ブラインドスポットモニターは、特に

次のような状況では不要な検知が増えことがあります。

- ・センサー やセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
- ・ガードレールや壁などとの距離が短い状況で、それらが検知範囲に入ったとき
- ・急勾配の上り・下りが連続した坂道や道路のくぼみ等を走行しているとき
- ・車線の幅が狭い、もしくは車線の端を走行するなど、隣の車線以外を走行する車両が検知範囲に入ったとき
- ・きついカーブや連続したカーブ、起伏がある場所を走行するとき
- ・タイヤがスリップ（空転）しているとき
- ・自車と後続車の車間距離が短いとき
- ・車両後部に自転車キャリアなどのアク

セサリーを装着しているとき

警告

■ 安全にお使いいただくために

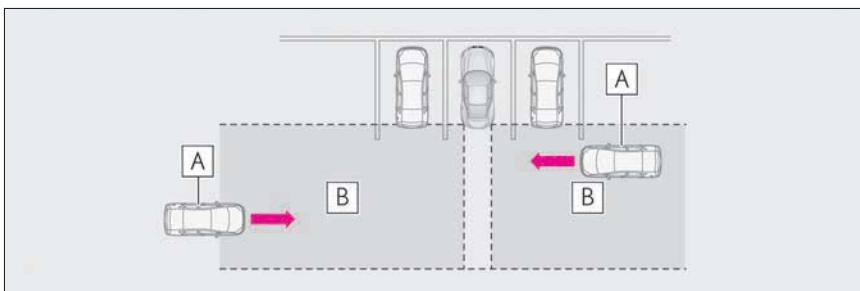
安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。

ブラインドスポットモニターは、死角に入った車両の存在をドライバーに提供する、補助的なシステムです。本システムだけで安全な車線変更の可否を判断できるものではないため、システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。また、状況によっては有効に機能しないことがあるため、運転者は自らの目視による安全確認を行う必要があります。

RCTA 機能

■ RCTA 機能の作動

RCTA 機能はレーダーセンサーにより自車の右後方または左後方から接近している車両を検知し、ドアミラーのインジケーターとブザーによってその車両の存在を運転者に知らせます。



A 接近車両

B 接近車両を検知できる範囲

■ RCTA アイコンの表示

自車の右後方または左後方から接近している車両を検知したときは、ナビゲーション画面上に次の表示をし

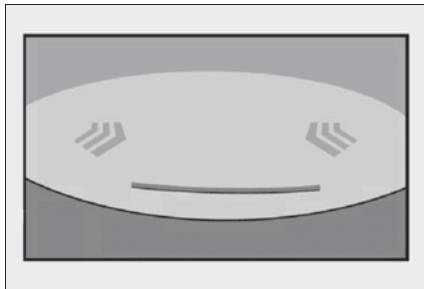
ます。

▶ バックガイドモニター

車両が接近している側のアイコンが

表示されます。

イラストは両方向から車両が接近している例です。



▶ パノラミックビューモニター

車両が接近している側のアイコンが

■ RCTA 機能で検知できる範囲

次の範囲に入った車両を検知します。

表示されます。

イラストは両方向から車両が接近している例です。

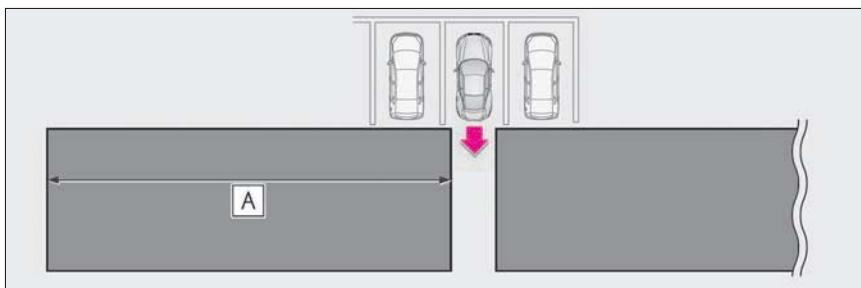


▶ パノラミックビューモニター

車両が接近している側のアイコンが

■ RCTA 機能で検知できる範囲

次の範囲に入った車両を検知します。



速度が速い車両に対しては、より離れた位置で警報ブザーを鳴らします。

例：

接近車両の速度	A 警報距離（概算）
28km/h（速い）	20m
8km/h（遅い）	5.5m

□ 知識

■ RCTA 機能の作動条件

RCTA 機能は、次の条件をすべて満たしているときに作動します。

- RCTA 機能が ON のとき

- シフトレバーが R のとき

- 自車の車速が約 8km/h 以下のとき

- 接近する他車の車速が約 8km/h ~ 28km/h のあいだのとき

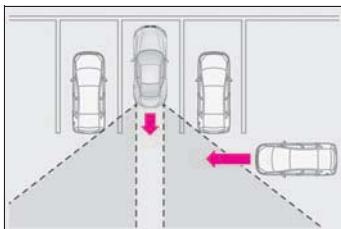
■ RCTA 機能が車両を検知しない状況

RCTA 機能は、次のような車両や車両以外のものを検知対象としません。

- 真後ろから接近する車両 ※

- 自車の隣の駐車スペースで後退する車両

- 障害物のためにセンサーが検知できない車両

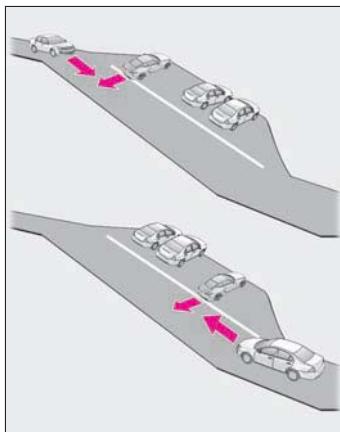


- ガードレール・壁・標識・駐車車両などの静止物※
- 小型の二輪車・自転車・歩行者など※
- 自車から遠ざかる車両
- 自車の隣の駐車スペースから接近する車両※

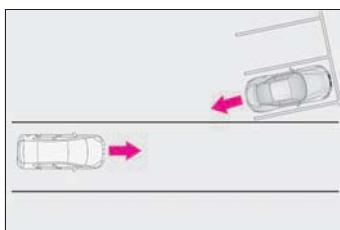
※ 状況によっては検知をすることがあります。

■ RCTA機能が有効に作動しないおそれがある状況

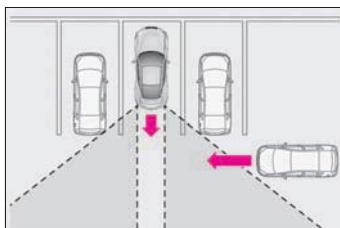
- RCTA 機能は、次のような状況では車両を有効に検知しないおそれがあります。
 - ・ センサー やセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
 - ・ 泥・雪・氷・ステッカーなどがセンサー やセンサー周辺のリヤバンパーに付着したとき
 - ・ 大雨・雪・霧などの悪天候時、水たまりなどのぬれた路面を走行するとき
 - ・ 複数台の他車が狭い間隔で連続して接近するとき
 - ・ 高速で接近する車両
 - ・ 車両後部にけん引フックを装着しているとき
 - ・ 勾配の変化が激しい坂で後退しているとき



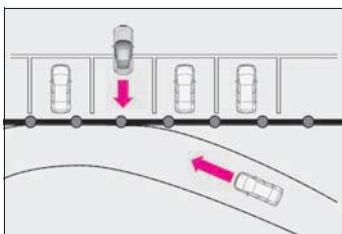
- ・ 浅い角度での駐車



- ・ RCTA 機能を ON にした直後
- ・ RCTA 機能を ON にした状態で、ハイブリッドシステムを始動した直後
- ・ 障害物のためにセンサーが検知できない車両



- RCTA 機能は、特に次のような状況では不要な検知が増えることがあります。
 - ・ 自車の横を通過する車両
 - ・ 駐車場に面した道を走行する車両



- 車両後方に電波の反射しやすい金属（ガードレール・壁・標識・駐車車両など）が存在するとき
- 車両後部にけん引フックを装着しているとき

⚠️ 警告

■ 安全にお使いいただくために

安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。

RCTA 機能は自車の右後方または左後方から接近てくる車両の存在を運転者に提供する補助的なシステムです。

RCTA 機能を使用していても状況によっては本システムが有効に機能しないことがあるため、運転者は自らの目視による安全確認を行う必要があります。

システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

運転を補助する装置

走行の安全性や運転性能を確保するため、走行状況に応じて次の装置が自動で作動します。ただし、これらの装置は補助的なものなので、過信せずに運転には十分に注意してください。

運転を補助する装置について

■ ECB (電子制御ブレーキシステム)

電子制御により、ブレーキ操作に応じたブレーキ力を発生させます。

■ ABS (アンチロックブレーキシステム)

急ブレーキ時やすべりやすい路面でのブレーキ時にタイヤのロックを防ぎ、スリップを抑制します。

■ ブレーキアシスト

急ブレーキ時などに、より大きなブレーキ力を発生させます。

■ VSC (ビーコルスタビリティコントロール)

急なハンドル操作や、すべりやすい路面で旋回するときに横すべりを抑え、車両の姿勢維持に寄与します。

■ S-VSC (ステアリングアシステッドビーコルスタビリティコントロール)

ABS・TRC・VSC・EPSを協調して制御します。

すべりやすい路面などの走行で急なハンドル操作をした際に、ハンドル操作力を制御することで、車両の方向安定性確保に貢献します。

■ TRC (トラクションコントロール)

すべりやすい路面での発進時や加速時にタイヤの空転を抑え、駆動力確保に貢献します。

■ ヒルスタートアシストコントロール

上り坂で発進するときに、車が後退するのを緩和します。

■ EPS (エレクトリックパワーステアリング)

電気式モーターを利用して、ハンドル操作を補助します。

■ E-Four (電気式4WDシステム)
★

通常走行からコーナリング時、登坂時、発進時、加速時や雪や雨などですべりやすい路面など様々な走行状態に応じて、FF(前輪駆動)走行状態からAWD(4輪駆動)走行状態まで自動的に制御し、安定した操縦性・走行安定性に寄与します。

★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ NAVI・AI-AVS (AVS: アダプティブバリアルサスペンションシステム)
★

路面の状態や運転操作などに応じ、ショックアブソーバーの減衰力を4輪独立に制御することで、なめらかな乗り心地と優れた安定感の確保に貢献し、車両の姿勢維持に寄与します。(→P.213)

また、ドライブモードセレクトスイッチでスポーツS+モードを選択したときには、スポーツ走行に適した減衰力に切りかわります。

★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ PCS (プリクラッシュセーフティシステム)

→P.190

■ 緊急ブレーキシグナル

急ブレーキ時に制動灯を自動的に点滅させることにより、後続車に注意をうながし、追突される可能性を低減させます。

■ BSM (ブラインドスポットモニター)
★

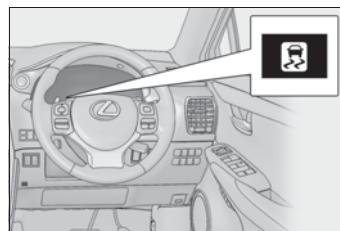
→P.231

★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

 知識

■ TRC・VSC・ABSが作動しているとき

TRC・VSC・ABSが作動しているときは、スリップ表示灯が点滅します。

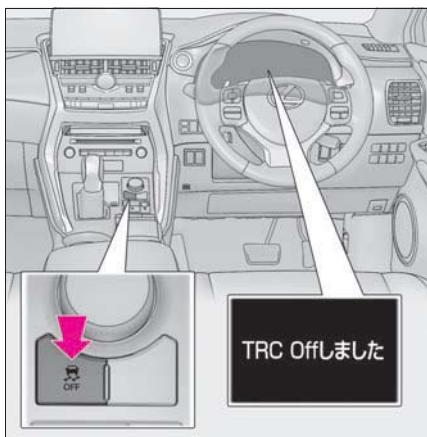


■ TRCを停止するには

ぬかるみや砂地、雪道などから脱出するときに、TRCが作動していると、アクセルペダルを踏み込んでハイブリッドシステムの出力が上がりせず、脱出が困難な場合があります。

このようなときに  を押すことにより、脱出しやすくなる場合があります。

TRCを停止するには  を押す



マルチインフォメーションディスプレイに「TRC Offしました」と表示されます。

もう一度  を押すと、システム作動可能状態にもどります。

■ TRC と VSC を停止するには

TRC と VSC を停止するには、停車時に  を押し 3 秒以上保持する

VSC OFF 表示灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイに「TRC Offしました」と表示されます。※

もう一度  を押すと、システム作動可能状態にもどります。

※ PCS（プリクラッシュセーフティシステム）装着車は、プリクラッシュブレーキアシスト・プリクラッシュブレーキも停止します。PCS 警告灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。（→P.197）

 を押さなくてもマルチインフォメーションディスプレイに「TRC Offしました」が表示されたとき

TRC が作動できない状態になっています。レクサス販売店にご相談ください。

■ ABS・ブレーキアシスト・TRC・VSC・ヒルスタートアシストコントロールの作動音と振動

● ハイブリッド始動時や発進直後、ブレーキペダルをくり返し踏んだときに、エンジンルームから作動音が聞こえることがあります、異常ではありません。

● 上記のシステムが作動すると、次のような現象が発生することがあります、異常ではありません。

- ・車体やハンドルに振動を感じる
- ・車両停止後もモーター音が聞こえる

■ ECB の作動音

次のような場合に ECB の作動音が聞こえることがあります、異常ではありません。

● ブレーキペダルを操作したときに、エンジンルームから聞こえる作動音（“カチ”、“シュー”、“ジー”という音）

● 運転席ドアを開けたときに車両前方から聞こえるブレーキシステムのモーター音（“ジー”という音）

● ハイブリッドシステム停止後 1~2 分経過時に、エンジンルームから聞こえる作動音（“カチ”、“シュー”、“ジー”という音）

■ EPS モーターの作動音

ハンドル操作を行ったとき、モーターの音（“ウィーン”という音）が聞こえることがあります、異常ではありません。

■ TRC や VSC の自動復帰について

TRC や VSC を作動停止にしたあと、次のときはシステム作動可能状態にもどります。

● パワースイッチを OFF にしたとき

● (TRC のみ) を作動停止にしている場合
車速が高くなつたとき

ただし、TRC と VSC の作動を停止している場合は、車速による自動復帰はありません。

■ TRC OFF の作動制限

TRC のみ作動を停止している場合は、車速が高くなると TRC は作動を再開します。ただし、TRC と VSC の作動を停止している場合は、車速による作動再開はありません。

■ EPS の効果が下がるとき

停車中か極低速走行中に長時間ハンドルをまわし続けると、EPS システムのオーバーヒートを避けるため、EPS の効果が下がりハンドル操作が重く感じられるようになります。その場合は、ハンドル操作を控えるか、停車し、ハイブリッドシステムを停止してください。10 分程度でもとの状態にもどります。

■ NAVI・AI-AVS ★の NAVI 協調機能について

ナビゲーションの道路コーナー情報により、コーナーの前からあらかじめショックアブリーバーの減衰力を制御します。これにより、優れたコーナーリング性能を確保します。ナビゲーションにおいてルート探索可能な道路で作動します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ ヒルスタートアシストコントロールの作動条件

次のときシステムが作動します。

- シフトレバーの位置が P または N 以外（前進または後退での上り坂発進時）

- 車両停止状態

- アクセルペダルを踏んでいない

- パーキングブレーキがかかっていない

■ ヒルスタートアシストコントロールの自動解除

次のいずれかのときシステムが解除され

ます。

- シフトレバーを P または N の位置にした
- アクセルペダルを踏んだ
- パーキングブレーキをかけた
- ブレーキペダルから足を離して最大 2 秒経過した

■ 緊急ブレーキシグナルの作動条件

次のときシステムが作動します。

- 非常点滅灯が点滅していないこと
- 車速 55km/h 以上
- ブレーキペダルが踏み込まれ、車両の減速度から急ブレーキだとシステムにより判断された

■ 緊急ブレーキシグナルの自動解除

次のいずれかのときシステムが解除されます。

- 非常点滅灯を点滅させた
- ブレーキペダルを離した
- 車両の減速度から急ブレーキではないとシステムにより判断された



警告

■ ABS の効果を発揮できないとき

- タイヤのグリップ性能の限界をこえたとき（雪に覆われた路面を過剰に摩耗したタイヤで走行するときなど）
- 雨でぬれた路面やすすべりやすい路面での高速走行時に、ハイドロブレーニング現象が発生したとき



警告

■ ABS が作動することで、制動距離が通常よりも長くなる可能性があるとき

ABS は制動距離を短くする装置ではありません。特に次の状況では、常に速度を控えめにして前車と安全な車間距離をとってください。

- 泥・砂利の道路や積雪路を走行しているとき
- タイヤチェーンを装着しているとき
- 道路のつなぎ目など、段差をこえたとき
- 凹凸のある路面や石だらみなどの悪路を走行しているとき

■ TRC や VSC の効果を発揮できないとき

すべりやすい路面では、TRC や VSC が作動していても、車両の方向安定性や駆動力が得られないことがあります。車両の方向安定性や駆動力を失うような状況では、特に慎重に運転してください。

■ ヒルスタートアシストコントロールの効果を発揮できないとき

● ヒルスタートアシストコントロールを過信しないでください。急勾配の坂や凍った路面ではヒルスタートアシストコントロールが効かないことがあります。

● ヒルスタートアシストコントロールはパーキングブレーキのように車を長時間駐車するための機能ではありませんので、同機能を坂道での駐停車のために使用しないでください。思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■ スリップ表示灯が点滅しているときは

TRC・ABS・VSC が作動中であることを知らせています。常に安全運転を心がけてください。無謀な運転は思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。表示灯が点滅したら特に慎重に運転してください。

■ TRC や VSC を OFF にするときは

TRC や VSC は駆動力や車両の方向安定性を確保しようとするシステムです。そのため、必要なとき以外は TRC・VSC を作動停止状態にしないでください。TRC・VSC を作動停止状態にしたときは、路面状況に応じた速度で、特に慎重な運転を心がけてください。

■ タイヤまたはホイールを交換するときは

4 輪とも指定されたサイズで、同じメーカー・ブランド・トレッドパターン（溝模様）のタイヤを使用し、推奨された空気圧にしてください。

異なるタイヤを装着すると、ABS・TRC・VSC が正常に作動しません。タイヤ、またはホイールを交換するときは、レクサス販売店に相談してください。

■ タイヤとサスペンションの取り扱い

問題があるタイヤを使用したり、サスペンションを改造したりすると、運転を補助するシステムに悪影響をおよぼし、システムの故障につながるおそれがあります。

ハイブリッド車運転のアドバイス

環境に配慮した経済的な運転のためには、次のことを心がけてください。

エコモードの利用

エコモードを使用すると、通常にくらべてアクセルペダルの踏み込みに対するトルクの発生がゆるやかになります。また、エアコン（暖房／冷房）の作動を抑え、燃費向上につながります。（→P.213）

ハイブリッドシステムインジケーターの利用

メーター内のハイブリッドシステムインジケーターの針をエコエリアの範囲に保つことで、より環境に配慮した走行が可能です。（→P.79）

シフトレバーの操作

信号待ちや渋滞のときなどは、シフトレバーを D にしましょう。また、駐車するときは、シフトレバーを P にしましょう。シフトレバーを N にしても、燃費向上の効果はありません。N では、ガソリンエンジンが回転していても駆動用電池は充電されないため、エアコンなどを使用していると駆動用電池の残量が低下します。

アクセルペダル・ブレーキペダルの操作

- 急加速・急減速を控え、スムーズな運転を心がけましょう。ゆるやかに加速・減速することで、より効果的に電気モーターを使用でき、余分なガソリン消費を抑えることができます。
- 加速のくり返しは、駆動用電池の残量を低下させ、結果、燃費が悪化するため控えましょう。走行中、アクセルペダルを少しもどすことで駆動用電池の残量を回復させることができます。

減速時のブレーキ操作

減速時は、早めに、ゆるやかなブレーキ操作を行いましょう。減速時に発生する電気エネルギーをより多く回収することができます。

渋滞

加速・減速のくり返しや、長い信号待ちは燃費を悪化させます。お出かけ前に交通情報を確認するなどして、なるべく渋滞を回避するようにしましょう。また渋滞の際は、ブレーキペダルをゆるめて微前進し、アクセルペダルをあまり踏まないようにしましょう。余分なガソリン消費を抑えることができます。

高速道路での運転

速度を抑え、一定速度で走行しましょう。また、料金所手前では早めにアクセルペダルをもどし、ゆるやかなブレーキ操作を行いましょう。

減速時に発生する電気エネルギーをより多く回収することができます。

エアコンの ON/OFF

必要時以外はエアコンスイッチを OFF にしましょう。余分なガソリン消費を抑えることができます。

夏季：外気温が高いときは、内気循環モードに設定しましょう。エアコンへの負荷が減り燃費向上につながります。

冬季：ガソリンエンジン・車室内が暖まるまで、ガソリンエンジンが自動停止しないので、燃料を消費します。また、過剰な暖房を避けると、燃費向上につながります。

タイヤ空気圧の点検

タイヤ空気圧はこまめに点検しましょう。タイヤ空気圧が適切でないと、燃費の悪化につながります。

また、冬用タイヤは転がり抵抗が大きいため、乾燥した路面では燃費の悪化につながります。季節、道路状況に応じて適切なタイミングでタイヤを交換しましょう。

荷物

重い荷物が積まれていると、燃費が悪化します。不要な荷物は、積んだままにせずに降ろしましょう。また、大型ルーフキャリアの装着も重い荷物と同様に燃費の悪化につながります。

走行前の暖機運転

ガソリンエンジンが冷えているとき

は、ガソリンエンジンの始動／停止を自動的に行いますので、暖機運転は必要ありません。

なお短距離走行のくり返しは、暖機運転のためのガソリンエンジン始動がひんぱんに行われることになりますので、燃費の悪化につながります。

寒冷時の運転

寒冷時に備えて、準備や点検など正しく処置していただいた上で適切に運転してください。

冬の前の準備について

- 次のものはそれぞれ外気温に適したものをお使いください。
 - ・ エンジンオイル
 - ・ 冷却水
 - ・ ウオッシャー液
- 補機バッテリーの点検を受けてください。
- 冬用タイヤ（4輪）やタイヤチェーン（前2輪）※を使用してください。タイヤは4輪とも指定サイズで同一銘柄のものを、タイヤチェーンはタイヤサイズに合ったものを使用してください。（タイヤについて：→P.296）

※ 225/60R18 タイヤには、タイヤとボルダーの隙間が狭いため、タイヤチェーンを装着できません。

□ 知識

■ タイヤチェーンについて

取り付け・取りはずし・取り扱い方法については次の指示に従ってください。

- 安全に作業できる場所で行う
- 前2輪に取り付ける
- タイヤチェーンに付属の取り扱い説明書に従う
- 取り付け後0.5～1.0km走行したら締め直しを行う

⚠ 警告

■ 冬用タイヤを装着するとき

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかない場合、車両のコントロールが不能となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 指定サイズのタイヤを使用する
- 空気圧を推奨値に調整する
- 装着する冬用タイヤの最高許容速度や制限速度をこえる速度で走行しない
- 冬用タイヤを装着する際は、必ず4輪とも装着する

■ タイヤチェーンを装着するとき

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかない場合、安全に車を運転することができずに、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 装着したチェーンに定められた制限速度、もしくは30km/hのどちらか低い方をこえる速度で走行しない
- 路面の凹凸や穴を避ける
- 急加速・急ハンドル・急ブレーキやシフト操作による急激なエンジンブレーキの使用は避ける
- カーブの入り口手前で十分減速して、車のコントロールを失うのを防ぐ

注意

■ タイヤチェーンの使用について

レクサス純正タイヤチェーンのご使用をおすすめします。

レクサス純正品以外のタイヤチェーンの中には、使用すると車体にあたり、走行のさまたげとなるおそれがあるものもあります。

詳しくはレクサス販売店にご相談ください。

■ タイヤを修理・交換するときは

レクサス販売店へご依頼ください。

タイヤの取り付け・取りはずしは、タイヤ空気圧バルブ／送信機の作動に影響します。(タイヤについての詳しい説明はP.296を参照してください)

■ タイヤチェーンの装着

タイヤチェーンを装着すると、タイヤ空気圧バルブ／送信機が正しく作動しないおそれがあります。

運転する前に

状況に応じて次のことを行ってください。

- ドアやワイパーが凍結したときは無理に開けたり動かしたりせず、ぬるま湯をかけるなどして氷を解かし、すぐに水分を十分にふき取ってください。
- フロントウインドウガラス前の外気取り入れ口に雪が積もっているときは、エアコンのファンを正常に作動させるために、雪を取り除いてください。

- 外装ランプ・車両の屋根・タイヤの周辺やブレーキ装置に雪や氷が付いているときは、取り除いてく

ださい。

- 乗車する前に靴底に付いた雪をよく落としてください。

知識

■ 寒冷地用ワイパープレードについて

● 降雪期に使用する寒冷地用ワイパープレードは、雪が付着するのを防ぐために金属部分をゴムで覆っています。レクサス販売店で各車指定のプレードをお求めください。

● 高速走行時は、通常のワイパープレードよりガラスがつき取りにくくなることがあります。その場合には速度を落としてください。

注意

■ フロントウインドウガラス・パノラマルーフガラスに付いた氷を除去するとき

たたいて割らないでください。

ガラスの内側（車内側）が割れるおそれがあります。

運転するとき

ゆっくりスタートし、車間距離を十分にとって控えめな速度で走行してください。

駐車するとき

- パーキングブレーキをかけると、ブレーキ装置が凍結して解除できなくなるおそれがあります。パーキングブレーキはかけずに、シフトレバーをPに入れて駐車し、必ず輪止め※1をしてください。輪止めをしないと、車が動き思わず事故につながるおそれがあり危

険です。

パーキングブレーキがオートモードのときは、シフトレバーを P に入れたあとにパーキングブレーキを解除してください。(→P.165)

- パーキングブレーキをかけずに駐車するときは、シフトレバーを P に入れた状態でシフトレバーが動かないこと^{※2} を確認してください。
- 寒冷時にブレーキ部品がぬれた状態で車を駐車したままにすると、凍結するおそれがあります。

^{※1}輪止めは、レクサス販売店で購入することができます。

^{※2}ブレーキペダルを踏まないで P からシフトするときにロックがかかります。シフトできる場合は、シフトロックシステムなどの故障を考えられます。ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

5-1. リモートタッチ

リモートタッチ 248

5-2. エアコンの使い方

オートエアコン 252

ステアリングヒーター／シートヒー
ター／シートベンチレーター 260

5-3. 室内灯のつけ方

室内灯一覧 263

5-4. 収納装備

収納装備一覧 266

ラゲージルーム内装備 270

5-5. その他の室内装備の使い方

その他の室内装備 274

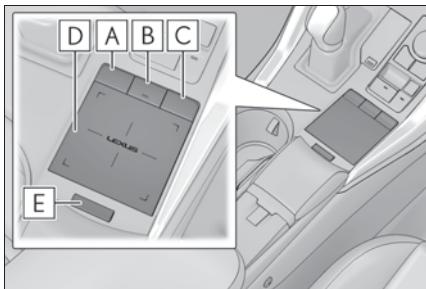
リモートタッチ

リモートタッチを使って、ナビゲーション画面の操作・設定ができます。

詳しくは別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

リモートタッチの操作について

■ 操作スイッチ



A MAP ボタン

ナビゲーション画面で現在地を表示します。

B MENU ボタン

メニュー画面を表示します。

C もどるボタン

1つ前の画面にもどります。

D タッチパッド

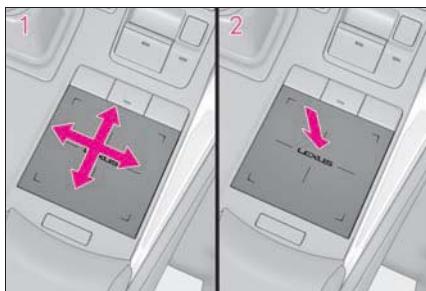
画面上のスイッチを選択または決定します。

また、リスト画面のスクロールや地図の拡大／縮小などもできます。

E サブファンクションボタン

画面に が表示されているときに、各画面ごとに割り当てられた機能画面を呼び出します。

■ タッチパッドの使い方



- 1 選択する：タッチパッドを操作して、ポインタ*をスイッチに合わせる

* ポインタとはタッチパッドの操作に合わせて画面上を動くマークです。

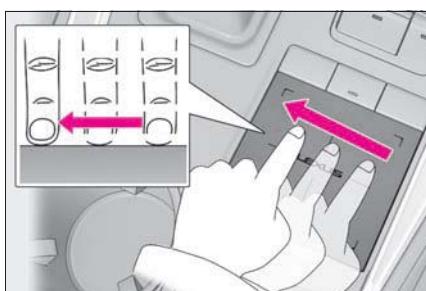
- 2 決定する：タッチパッドを押す、またはダブルタップする

■ タッチ操作

タッチパッドで次の操作が可能です。

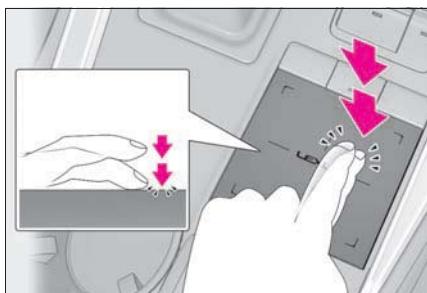
● なぞり操作

タッチパッドにふれた状態でパッド面をなぞります。カーソルやポインタを動かすことができます。



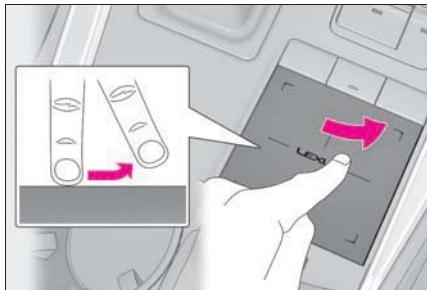
● ダブルタップ

タッチパッドを指先で素早く軽く2回叩きます。タッチパッドを押したときと同様に、ポインタで選んだ画面スイッチを決定することができます。



● フリック

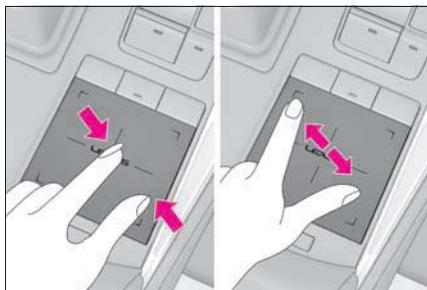
タッチパッドにふれた指先を素早く大きく払います。リスト画面のスクロールや地図（1画面表示のみ）を動かすことができます。



● ピンチアウト／ピンチイン

タッチパッドにふれた2本の指を広げたり近付けたりします。

地図の拡大や縮小を行うことができます。



注意

- リモートタッチの故障を防ぐために
- リモートタッチに飲料水や雨水などをかけないでください。変色や漏電の原因になります。
- リモートタッチの上に乗ったり、ものを上に置かないでください。故障の原因になります。
- タッチパッドを強く押したり、先のとがつたもので操作したりしないでください。破損の原因になります。

メニュー画面

リモートタッチの MENU ボタンを押すと、メニュー画面が表示されます。



ボタン	機能
	目的地を設定する※
	オーディオ操作画面を表示する※
	デジタルテレビ操作画面を表示する※
	ハンズフリー操作画面を表示する※

ボタン	機能
	G-Link 画面を表示する ※
	情報画面を表示する (→P.91)
	設定・編集画面を表示する ※
	エアコン操作画面を表示する (→P.255)

※ 別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

画面表示について

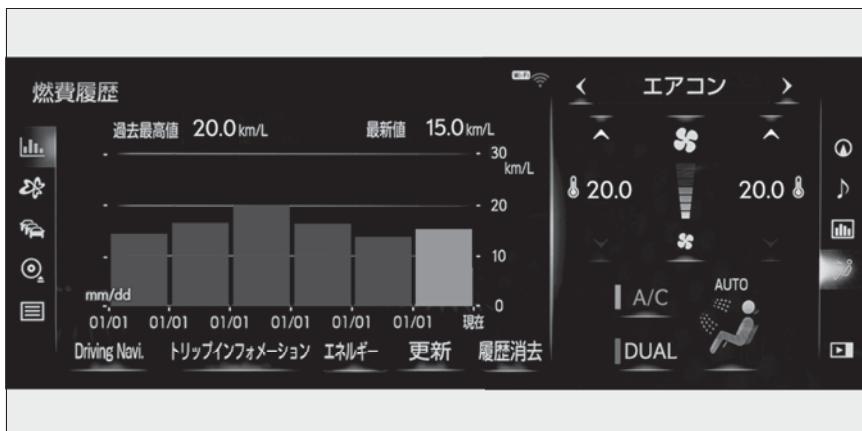
■ 全画面表示

お好みの画面を表示エリアのすべてに一画面で表示することができます。

■ 分割画面表示

異なる情報を左右に並べて表示します。例えば燃費情報画面を表示したまま、エアコンやオーディオなどの画面を並べて表示したり操作したりすることができます。

画面左側の広い表示エリアをメイン画面、右側の狭い表示エリアをサイド画面と呼びます。



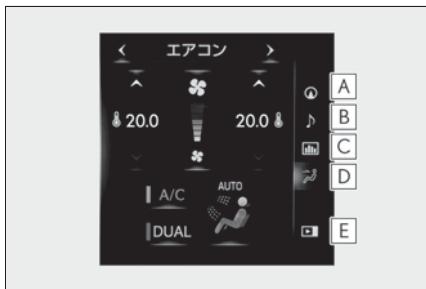
■ メイン画面

メイン画面の表示や操作、および各機能の詳細については、それぞれの項目および、別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

■ サイド画面

次の各画面をサイド画面に表示し操作することができます。

〔<〕または〔>〕を選択してお好みの画面を表示する



- 〔A〕ナビゲーションシステム ※
- 〔B〕オーディオ ※
- 〔C〕車両情報 (→P.91)
- 〔D〕エアコン (→P.255)
- 〔E〕サイド画面を非表示にする

※ 別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

知識

■ 低温時の画面表示について

外気温が極めて低いときは、リモートタッチを操作しても画面の反応が遅れることがあります。

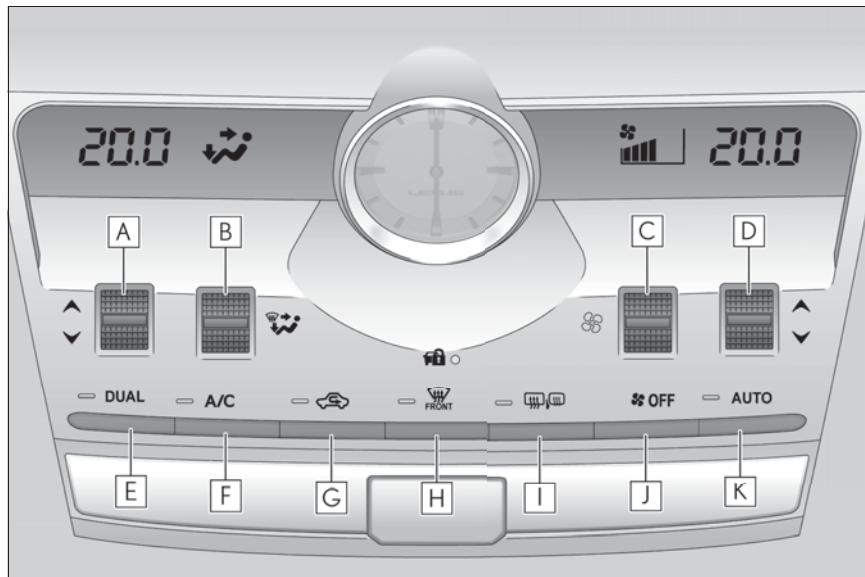
オートエアコン

設定温度に合わせて吹き出し口と風量を自動で調整します。

リモートタッチの MENU ボタンを押して、を選択するとエアコン操作画面が表示されます。

また、サイド画面に表示し操作することもできます。

エアコン操作スイッチについて



- A**: 助手席側温度調整スイッチ
- B**: 吹き出し口切りかえスイッチ
- C**: 風量調整スイッチ
- D**: 運転席側温度調整スイッチ
- E**: DUAL スイッチ
- F**: A/C スイッチ
- G**: 内外気切りかえスイッチ
- H**: フロントデフロスタースイッチ
- I**: リヤウインドウデフォッガー&ミラーヒータースイッチ

J OFF スイッチ

K AUTO スイッチ

■ 温度を調整する

設定温度を上げるときは温度調整スイッチを上に、下げるときは下に操作する

A/Cスイッチが押されていない場合は、送風または暖房で使用できます。

■ 風量を切りかえる

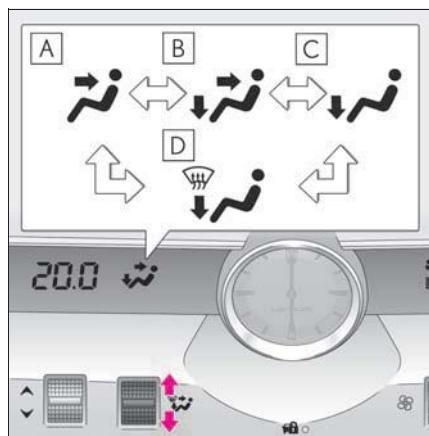
風量を増やすときは風量調整スイッチを上に、減らすときは下に操作する

OFFスイッチを押すと、ファンが止まります。

■ 吹き出し口を切りかえる

吹き出し口切りかえスイッチを上下に操作する

操作するたびに吹き出し口が切りかわります。



A 上半身に送風

B 上半身と足元に送風

C 足元に送風

D 足元に送風・ガラスの曇りを取る

■ 内気循環／外気導入を切りかえるには

内外気切りかえスイッチを押す

スイッチを押すたびに内気循環／外気導入が切りかわります。

内気循環を選択しているときはインジケーターが点灯します。

■ フロントウインドウガラスの曇りを取るには

フロントデフロスタースイッチを押す

除湿機能が作動し、風量が増えます。内気循環にしている場合は、外気導入にしてください。(自動的に外気導入に切りかわることがあります)

風量を強くし、設定温度を上げると、より早く曇りを取ることができます。曇りが取れたら再度フロントデフロスタースイッチを押すと前のモードにもどります。

■ リヤウインドウデフォッガー＆ミラーヒーター

リヤウインドウガラスの曇りを取るときや、ドアミラーから雨滴や霜を取るときに使用ください。

リヤウインドウデフォッガー＆ミラーヒータースイッチを押す

リヤウインドウデフォッガーとミラーヒーターは、しばらくすると自動的にOFFになります。

■ ウィンドシールドデアイサー★

→P.257

★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

 知識

■ ガラスの曇りについて

- 車室内の湿度が高いときはガラスが曇りやすくなります。その場合は、A/CスイッチをONになると、吹き出し口から除湿された風が出るため、効果的に曇りを取ることができます。
- A/CスイッチをONからOFFにすると、ガラスが曇りやすくなります。
- 内気循環を使うとガラスが曇る場合があります。

■ 外気導入・内気循環について

- トンネルや渋滞などで、汚れた外気を車内に入れたくないときや、外気温度が高いときに冷房効果を高めたい場合は、内気循環にすると効果的です。
- 設定温度や室内温度などにより、自動的に切りかわる場合があります。
- 電子キーによるエアコン設定の記憶制御（ドライビングポジションメモリー装着車）
 - 電子キーでドアを解錠してパワースイッチをONモードにすると、その電子キーに対して記憶されたエアコン設定が呼び出されます。
 - パワースイッチをOFFにすると、その時のエアコンの設定が解錠した電子キーに対して記憶されます。
 - 複数の電子キーを持ってスマートエンタリー＆スタートシステムでドアを解錠したり、運転席以外のドアをスマートエンタリー＆スタートシステムで解錠したりすると、正しく作動しないことがあります。
 - スマートエンタリー＆スタートシステムでエアコン設定の呼び出しのできる、解錠ドアの設定※を変更できます。詳しくはレクサス販売店にご相談ください。

※ ドライビングポジションメモリーの呼び出しを行う解錠ドアの設定も同時に変更になります。

■ エコモードのエアコン作動について

- エコモードは燃費性能を優先させるため、空調システムが次のように制御されます。
 - ・エンジン回転数やコンプレッサーの作動を制御し、暖房／冷房の能力を抑制します。
 - ・オート設定での使用時、ファンの風量を抑制します。
- 空調の効きをより良くしたいときは、次の操作を行ってください。
 - ・風量を調整する。
 - ・エコモードを解除する。

- エコモード時は自動でエコ空調モードに切りかわっていますが、その場合でも  を押すとエコ空調モードを解除することができます。

■ 換気とエアコンの臭いについて

- 車室外の空気を車室内に取り入れたいときは、外気導入にしてください。
- エアコン使用中に、車内外のさまざまな臭いがエアコン装置内に取り込まれて混ざり合うことにより、吹き出し口からの風に臭いがすることがあります。
- エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、駐車時は外気導入にしておくことをおすすめします。
- エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、オート設定での使用時にはエアコン始動直後、しばらく送風が停止する場合があります。

■ エアコンフィルターについて

→P.303

■ カスタマイズ機能

AUTOスイッチを押したとき、除湿機能を連動させるかどうかなどを設定できます。(カスタマイズ一覧: →P.369)



警告

■ フロントウインドウガラスの曇りを防止するために

外気の湿度が非常に高いときにエアコンを低い設定温度で作動させているときは、フロントデフロスター/スイッチを押さないでください。外気とガラスの温度差でガラスの外側が曇り、視界をさまたげる場合があります。

■ リヤウインドウデフォッガー&ミラーヒーター／ウインドシールドデアイサー★が作動しているとき

● ドアミラーの表面が非常に熱くなります。やけどをするおそれがあるのでふれないでください。

● ウインドシールドデアイサー装着車: フロントウインドウガラス下部およびフロントピラー横の表面が熱くなっています。やけどをするおそれがあるのでふれないでください。

★: グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

B～**E**は次の操作で調整することができます。

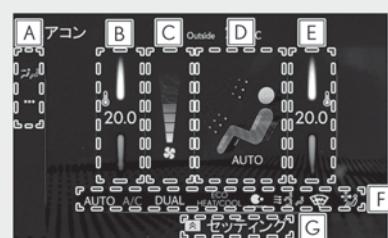
フリック操作: タッチパッドを上または下にフリックする

1段階ずつ調整することができます。

なぞり操作: 決定操作をしたあと、上または下になぞる

なぞった長さに応じて調整することができます。

走行中はなぞり操作ができません。



A サブメニュー

メイン操作画面を切りかえることができます。

: エアコン操作画面を表示する

: オプション操作画面を表示する

B 助手席側の温度を調整する

C 風量を切りかえる

D 吹き出し口を切りかえる

: 上半身に送風

: 上半身と足元に送風

: 足元に送風

: 足元に送風・ガラスの曇りを取り



注意

■ 補機バッテリーあがりを防ぐために

ハイブリッドシステム停止中は、エアコンを必要以上に使用しないでください。

エアコン操作画面について

■ メイン操作画面

リモートタッチのタッチパッドを操作して画面上のスイッチを選択します。

状況によっては、選択した吹き出し口以外からも送風する場合があります。

E 運転席側の温度を調整する

F 各機能 ON/OFF 表示灯

機能が ON のとき、表示灯が点灯します。

G サブファンクションメニュー

リモートタッチの ボタンを押すと、次の機能の ON/OFF を切りかえることができます。

“AUTO”：吹き出し口と風量が自動的に調整される (→P.258)

“OFF”：ファンを停止する

“A/C”：冷房・除湿する

“DUAL”：運転席と助手席の設定温度を別々に設定する（左右独立モード）
(→P.258)

ECO HEAT/COOL：エコ空調モードに設定する

■ オプション操作画面

サブメニューの を選択する。

各機能の ON/OFF を切りかえることができます。機能が ON のとき、画面上の作動表示灯が点灯します。



A 運転席と助手席の設定温度を別々に設定する（左右独立モード）
(→P.258)

B エコ空調モードに設定する

燃費を優先するため冷房／暖房の効きを抑えます。

C 冷房・除湿する

D 「ナノイー」* を作動させる

E S-FLOW モードを設定する
(→P.257)

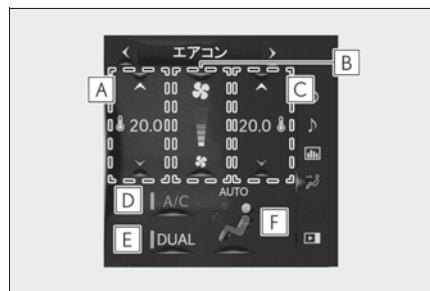
F フロントウインドウガラスとワイパークリアードの凍結を防ぐ（ワインドシールドデアイサー）★

G 花粉を除去する（花粉除去モード）

* 「nanoe」、「ナノイー」および「nanoe」マークは、パナソニック株式会社の商標です。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ サイド画面



A 助手席側の温度を調整する

B 風量を切りかえる

C 運転席側の温度を調整する

D 冷房・除湿する

E 運転席と助手席の設定温度を別々に設定する（左右独立モード）
(→P.258)

F 吹き出し口を切りかえる



■ ガラスの曇りについて

- 車室内の湿度が高いときはガラスが曇りやすくなります。その場合は、“A/C”をONにすると、吹き出し口から除湿された風が出るため、効果的に曇りを取ることができます。
- “A/C”をONからOFFにすると、ガラスが曇りやすくなります。
- 内気循環を使うとガラスが曇る場合があります。

■ ウィンドシールドデアイサー★

フロントウインドウガラスとワイパー・ブレードの凍結を防ぐために使用ください。
オプション操作画面で、を選択する。

ウィンドシールドデアイサーがONのとき、エアコン操作画面のが点灯します。

ウィンドシールドデアイサーは、しばらくすると自動的にOFFになります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ エコ空調モード

ドライブモードセレクトスイッチのエコモードを選択すると、エコ空調モードがONになります。エコモード以外を選択したときは、エコ空調モードがOFFになる場合があります。

■ S-FLOW モード

フロント席への送風を優先させ、リヤ席への送風および空調の効きを抑えます。

を選択する。

S-FLOWモードがONのとき、スイッチの作動表示灯が点灯します。

再度を選択すると、前のモードにもどります。

■ 花粉除去モードについて

オプション操作画面で、を選択する。

花粉除去モードがONのとき、エアコン操作画面のが点灯します。

内気循環に切りかわり、上半身に送風して花粉を除去します。

外気温が低いときは、フロントウインドウガラスの曇りを防止するために除湿機能が作動する場合があります。

花粉除去モードがOFFのときも花粉はフィルターで取り除かれています。

■ 「ナノイー」※1について

エアコンには「ナノイー」発生装置が搭載されています。この装置は助手席左側の吹き出し口を通じて、水に包まれた肌や髪にやさしい弱酸性のナノイーイオンを放出し、室内を爽やかな空気で満たします※2。

● ファンが作動すると、自動的に「ナノイー」が作動します※3。

● 「ナノイー」の作動中、次の条件で効果を発揮します。次の条件以外では、効果が十分に得られない場合があります。

・ 吹き出し口が、または

のとき

・ 助手席左側の吹き出し口が開いているとき

● 「ナノイー」作動時は、微量のオゾンが発生し、かすかに臭うことがあります。森林など、自然界に存在する程度の量なので、人体に影響はありません。

● 作動中、かすかに作動音が聞こえるこ

とがありますが、故障ではありません。

※¹「nanoe」、「ナノイー」および
「nanoe」マークは、パナソニック株式
会社の商標です。

※²温湿度環境、風量・風向きによっては
「ナノイー」の効果が十分に得られない
場合があります。

※³「ナノイー」がONのとき。(→P.256)



警告

■ウインドシールドデアイサー★が作動しているとき

フロントウインドウガラス下部および
フロントピラー横の表面が熱くなつて
おり、やけどをするおそれがあるので
ふれないでください。

★：グレード、オプションなどにより、
装備の有無があります。

■「ナノイー」について

このシステムは高電圧の部品を含むた
め、分解・修理はしないでください。
修理が必要な場合は、レクサス販売店
にお問い合わせください。



注意

■「ナノイー」の損傷を防ぐために

助手席左側の吹き出し口の近くでスプレー
を使用したり、吹き出し口にもの
をはめ込んだり貼ったりしないでください。
システムが正常に働かなくなる
おそれがあります。

オート設定で使用する

- 1 エアコン操作スイッチの AUTO
スイッチを押す、またはエアコン
操作画面で “AUTO” を選択す
る
- 2 温度を設定する

3 ファンを止めたいときは、OFF
スイッチを押す、またはエアコン
操作画面で「OFF」を選択する

風量や吹き出し口を切りかえると、
AUTO スイッチの作動表示灯が消灯
しますが、操作した機能以外のオー
ト設定は継続します。



■オート設定の作動について

風量は温度設定と外気の状態により自動
で調整されるため、AUTO スイッチ
(“AUTO”) を ON にした直後、温風や
冷風の準備ができるまでしばらく送風が
停止する場合があります。

■フロントウインドウガラス内側の曇り 検知機能

オート設定時、湿度センサーでフロント
ウインドウガラス内側の曇りを検知し、
エアコンを自動的に制御して曇りを防ぎ
ます。

■エアコンフィルターについて

→P.303

■カスタマイズ機能

AUTO スイッチを押したとき、除湿機能
を連動させるかどうかなどを設定できま
す。(カスタマイズ一覧：→P.369)

運転席と助手席の設定温度を 別々に設定する（左右独立モー ド）

次のいずれかの操作をすると、左右
独立モードが ON になります。

- エアコン操作パネルの DUAL ス
イッチを押す
- オプション操作画面で「DUAL」
を選択する

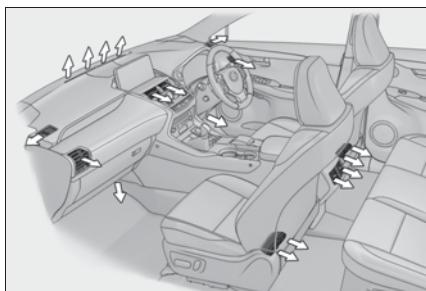
- 助手席側の温度調整スイッチで設定温度を変更する

左右独立モードになりスイッチの作動表示灯が点灯します。

吹き出し口の配置・操作

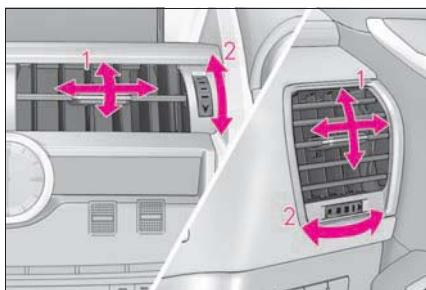
■ 吹き出し口の位置

吹き出し口の切りかえ設定により、風が出る位置や風量が変化します。



■ 風向きの調整と吹き出し口の開閉

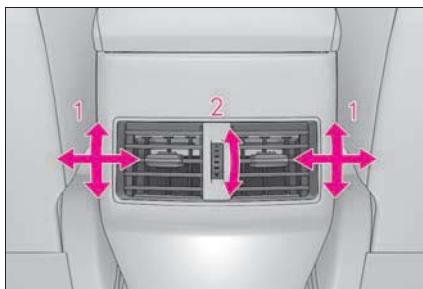
▶ フロント



1 風向きの調整

2 吹き出し口の開閉

▶ リヤ



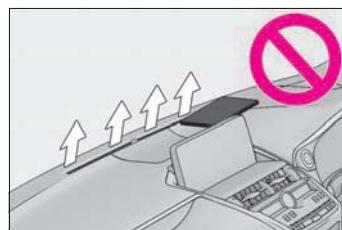
1 風向きの調整

2 吹き出し口の開閉

⚠ 警告

- フロントウインドウガラスの曇り取りをさまたげないために

吹き出し口を遮るようなものを置かないでください。送風がさえぎられ、曇りが取れにくくなることがあります。



ステアリングヒーター★/ シートヒーター★/シート ベンチレーター★

★ : グレード、オプションなどにより、
装備の有無があります。

● ステアリングヒーター

ハンドルの左右のグリップ部を暖めることができます。

● シートヒーター

シートの表面を暖めることができます。

● シートベンチレーター

シート内部に装備されたファンで送風することにより、シート表面の通気をよくします。



警告

■ 低温やけどについて

次の方がステアリングヒーター／シートヒーターに触れないようにご注意ください。

- 乳幼児・お子さま・お年寄り・病人・体の不自由な方
- 皮膚の弱い方
- 疲労の激しい方
- 深酒や眠気をさそう薬（睡眠薬、風邪薬など）を服用された方



注意

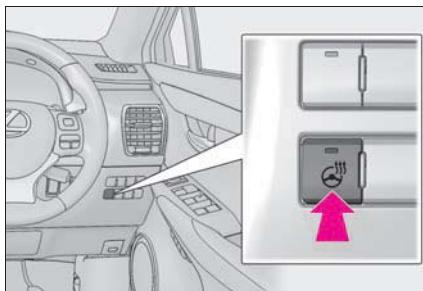
■ シートヒーター／シートベンチレーターの損傷を防ぐために

凹凸のある重量物をシートの上に置いたり、針金や針などの鋭利なものを突き刺したりしないでください。

■ 捕機バッテリーあがりを防ぐために
ハイブリッドシステムが停止した状態
で使用しないでください。

ステアリングヒーター

システムの ON/OFF を切りかえる
作動中はインジケーターが点灯します。



■ 作動条件

パワースイッチが ON モードのとき

■ タイマー制御について

約 30 分後に自動で OFF になります。

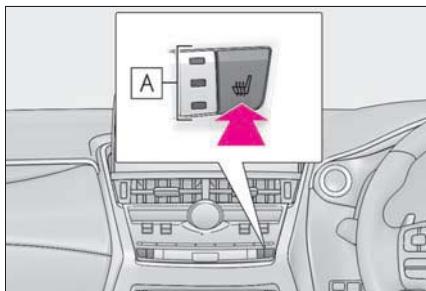
シートヒーター

■ フロント

▶ シートベンチレーター非装着車
スイッチを押すたびに、作動状態が
次のように切りかわります。

強（3 個点灯）→ 中（2 個点灯）→
弱（1 個点灯）→ OFF

作動中は、レベルインジケーター
(黄) [A] が点灯します。

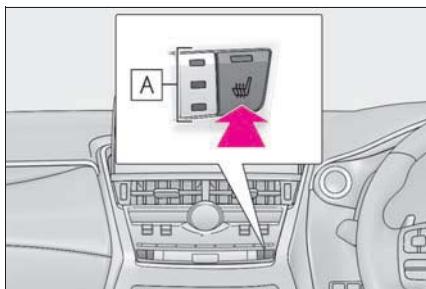


▶ シートベンチレーター装着車

スイッチを押すたびに、作動状態が次のように切りかわります。

強（3個点灯）→中（2個点灯）→弱（1個点灯）→OFF

作動中は、スイッチ上のインジケーター（黄）と、レベルインジケーター（緑）**A**が点灯します。

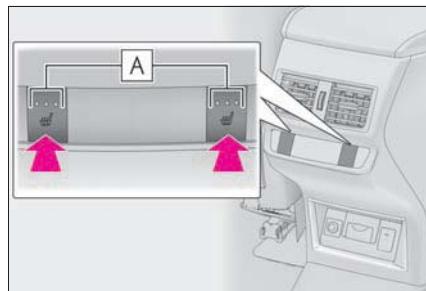


■ リヤ

スイッチを押すたびに、作動状態が次のように切りかわります。

強（3個点灯）→中（2個点灯）→弱（1個点灯）→OFF

作動中は、スイッチ上のレベルインジケーター（黄）**A**が点灯します。



□ 知識

■ 作動条件

パワースイッチがONモードのとき

⚠ 警告

■ 异常加熱や低温やけどを防ぐために
シートヒーターを使用するときは次の
ことをお守りください。

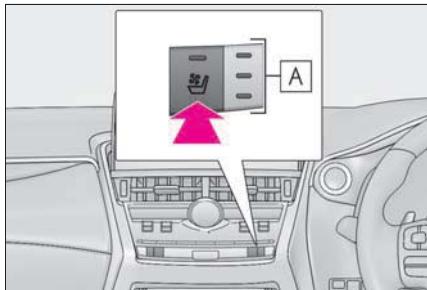
- 長時間連続使用しない
- 毛布・クッションなどを使用しない

シートベンチレーター（フロント）

スイッチを押すたびに、作動状態が次のように切りかわります。

強（3個点灯）→中（2個点灯）→弱（1個点灯）→OFF

作動中は、スイッチ上のインジケーター（緑）と、レベルインジケーター（緑）**A**が点灯します。



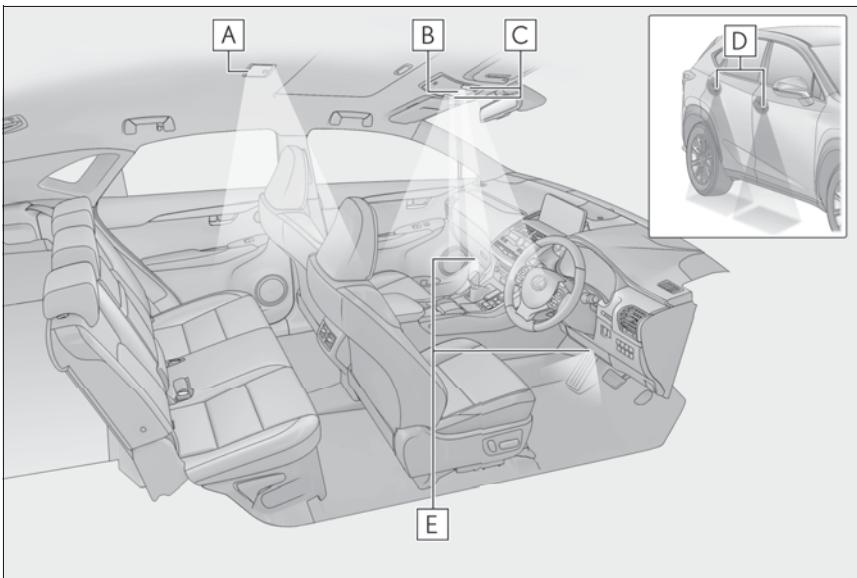
知識

■ 作動条件

パワースイッチがONモードのとき

室内灯一覧

室内灯の位置



- A** リヤインテリアランプ (→P.264)
- B** フロントインテリアランプ (→P.264)
- C** パーソナルランプ (→P.264)
- D** アウトサイドドアハンドル照明
- E** 足元照明 ※1, 2

※1パワースイッチがONモードのとき、足元照明が常時点灯します。ただし、インストルメントパネル照度を最も暗く調整すると、足元照明が消灯します。(→P.80)

※2シフトレバーがP以外のとき、足元照明の明るさが暗くなります。

□ 知識

■ 各部照明の自動点灯／消灯について

- 電子キーの検知・ドアの施錠／解錠・ドアの開閉・パワースイッチのモードにより、各部の照明が自動的に点灯・消灯します。(イルミネーテッドエントリーシステム)

- パワースイッチがOFFの場合、室内灯

が点灯したままのときは、約20分後に自動消灯します。

■ フロントインテリアランプとパーソナルランプが正常に反応しない状況について

- レンズ面に水や汚れなどが付着しているとき
- 濡れた手で操作したとき

- 手袋などを装着しているとき

■カスタマイズ機能

室内灯の消灯までの時間などを設定できます。

(カスタマイズ一覧 : →P.369)



■ランプのレンズの取りはずしについて

絶対に取りはずさないでください。ランプが故障する原因となります。レンズを取りはずす必要がある場合は、レクサス販売店にご相談ください。

■補機バッテリーあがりを防ぐために

ハイブリッドシステムが停止した状態で、長時間ランプを点灯しないでください。

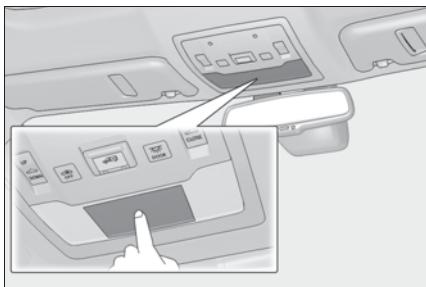
インテリアランプを操作するには

■フロントインテリアランプ

ランプを点灯・消灯する（ランプにタッチする）

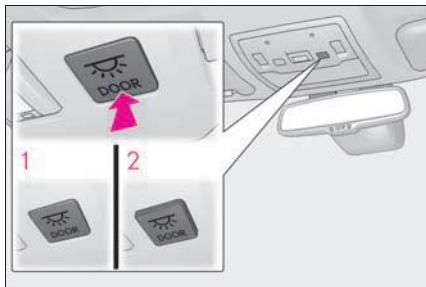
リヤインテリアランプが連動して点灯・消灯します。

ただし、リヤインテリアランプスイッチが押されている状態で、フロントインテリアランプを操作しても連動しません。



ドアの開閉に連動してランプの点

灯・消灯を切りかえる



1 ドア連動 ON

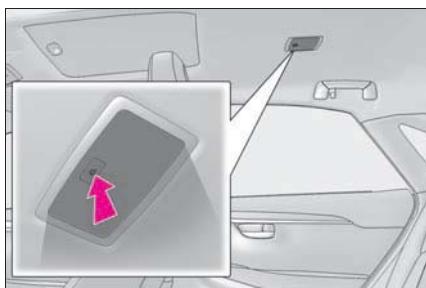
リヤインテリアランプもドアの開閉に連動して点灯・消灯します。

2 ドア連動 OFF

■リヤインテリアランプ

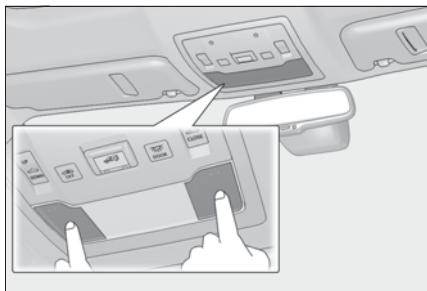
ランプを点灯・消灯する

フロントインテリアランプに連動してリヤインテリアランプが点灯・消灯します。フロントインテリアランプに連動して点灯しているときは、スイッチを押しても消灯しません。



パーソナルランプを操作するには

ランプを点灯・消灯する（ランプにタッチする）

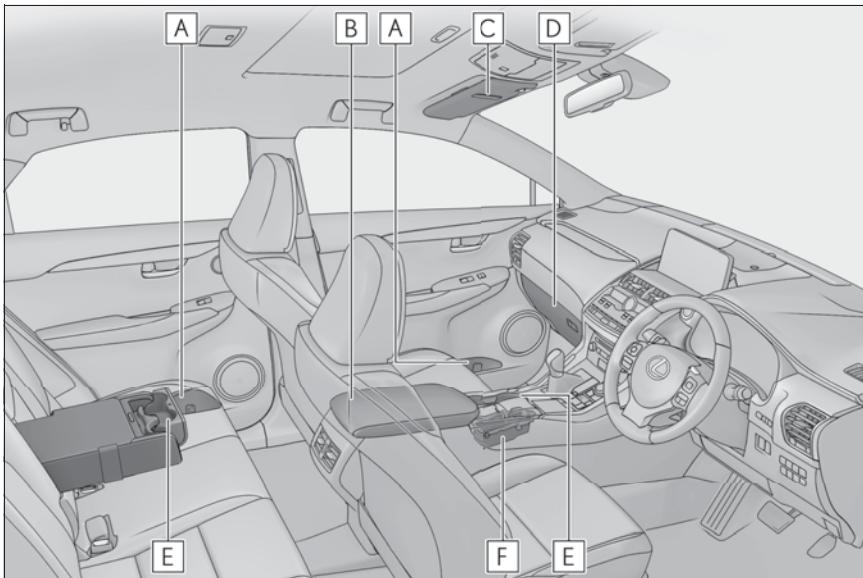


5

室内装備・機能

収納装備一覧

収納装備の位置



- A** ボトルホルダー (→P.268)
- B** コンソールボックス (→P.267)
- C** カードホルダー (→P.269)
- D** グローブボックス (→P.267)
- E** カップホルダー (→P.268)
- F** サングラスホルダー (→P.269)

警告

■ 収納装備に放置してはいけないもの

メガネ、ライターやスプレー缶を収納装備内に放置したままにしないでください。放置したままでいると、次のようなことが起こるおそれがあり危険です。

● 室温が高くなったときの熱や、他の収納物との接触などにより、メガネが変形やひび割れを起こす

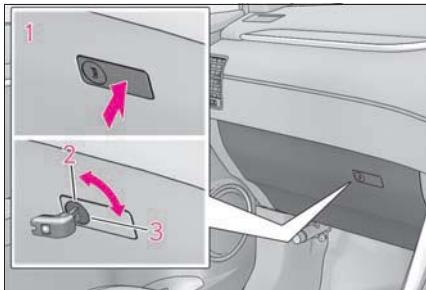
- 室温が高くなったときにライターやスプレー缶が爆発したり、他の収納物との接触でライターが着火したりスプレー缶のガスがもれるなどして火災につながる

⚠ 警告

■ 収納装備を使わないときは

グローブボックスまたはコンソールボックスを必ず閉じてください。急ブレーキや急旋回時などに、開いたグローブボックスやコンソールボックスに体があたったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。

グローブボックスを使うには



- 1 開ける
- 2 メカニカルキーで解錠
- 3 メカニカルキーで施錠

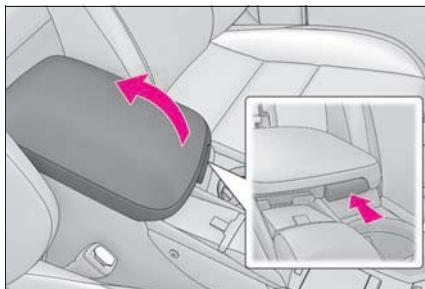
□ 知識

■ グローブボックスランプ

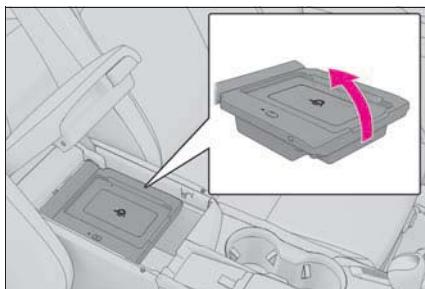
車幅灯点灯時は、グローブボックス内のランプが点灯します。

コンソールボックスを使うには

- 1 ボタンを押しながらフタを持ち上げて開く



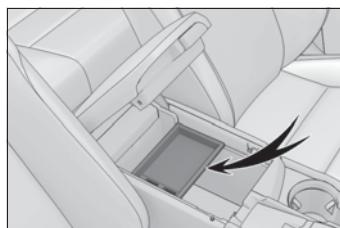
- 2 おくだけ充電（ワイヤレス充電器）装着車は、ワイヤレス充電器を持ち上げる



□ 知識

- コンソールボックス内のトレイについて（おくだけ充電 [ワイヤレス充電器] 非装着車）

コンソールボックス内のトレイを前後に移動する、または引き上げて取りはずすことができます。

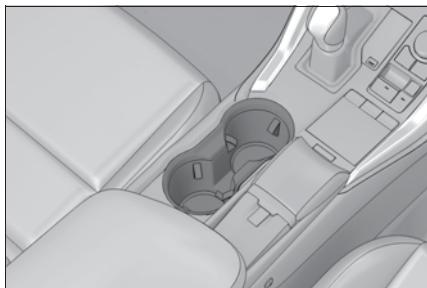


■コンソールボックスランプ

車幅灯点灯時は、コンソールボックス内のランプが点灯します。

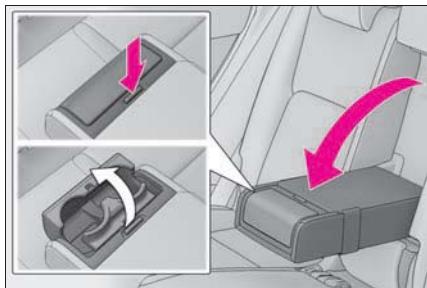
カップホルダーを使うには

■ フロント



■ リヤ

リヤアームレストを手前に倒し、ボタンを押す



警告

■ 収納してはいけないもの

カップホルダーにはカップや缶以外のものを置かないでください。

急ブレーキや事故により落ちてけがをするおそれがあります。やけどを防ぐために温かい飲み物にはフタを閉めておいてください。



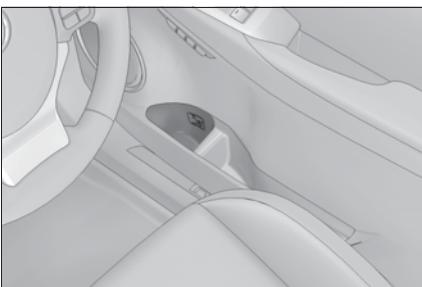
注意

■ リヤシートのアームレストを格納するとき

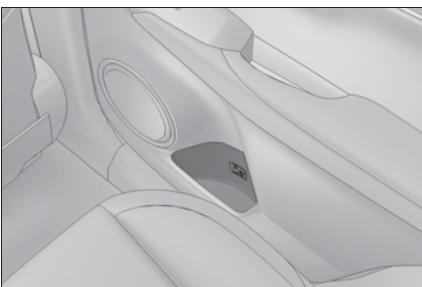
カップホルダーの破損を防ぐために、リヤシートのカップホルダーを開いた状態で、アームレストを格納しないでください。

ボトルホルダー

■ フロント



■ リヤ



知識

■ ボトルホルダーについて

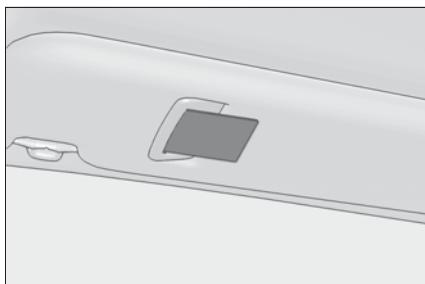
- ペットボトルのフタを必ず閉めてから収納してください。
- ペットボトルの大きさ・形によっては収納できないことがあります。

 **注意**

■ 収納してはいけないもの

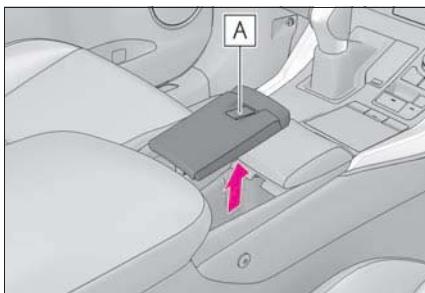
ボトルホルダーには、ジュースなどが入っている紙コップ・ガラス製のコップなどを収納しないでください。ジュースなどがこぼれたり、ガラス製品が割れたりするおそれがあります。

カードホルダー



サングラスホルダーを使うには

ストラップ[A]を持ってフタを取りはずす



 **知識**

■ サングラスホルダーのフタについて

- 取りはずしたフタをコンソールボックスタ内のトレイに収納することができます。



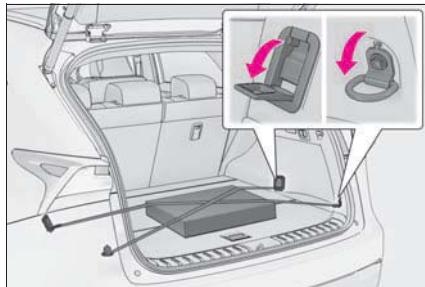
- サングラスホルダーのフタの裏側をバニティミラーとして使用することができます。 (→P.274)

ラゲージルーム内装備

デッキフックを使うには

フックを起こして使用する

フックを使って荷物を固定することができます。



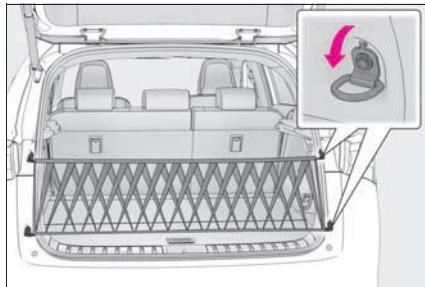
⚠ 警告

- デッキフックを使用しないときは
けがをしないように、必ずもとの位置
にもどしておいてください。

ネットフックを使うには

フックを起こして使用する

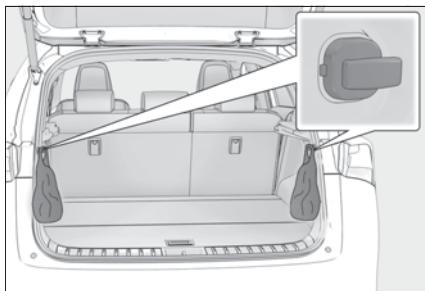
フックを使って積荷ネットをかけること
ができます。



⚠ 警告

- ネットフックを使用しないときは
けがをしないように、必ずもとの位置
にもどしておいてください。

買い物フック



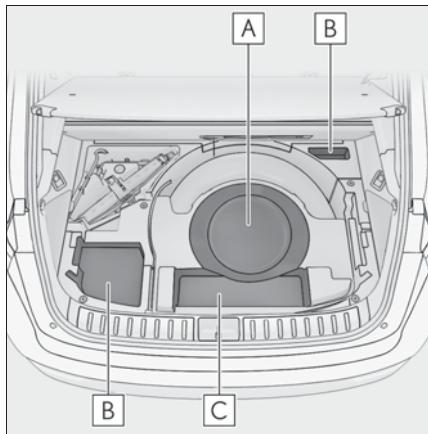
⚠ 注意

- 買い物フックの破損を防ぐには
5kg 以上のものや大きいものを買い物
フックに吊り下げないでください。

デッキアンダートレイを使うには

デッキボードを持ち上げてフックを
固定し（→P.271）、次のものを収納
することができます。

► 応急用タイヤ装着車



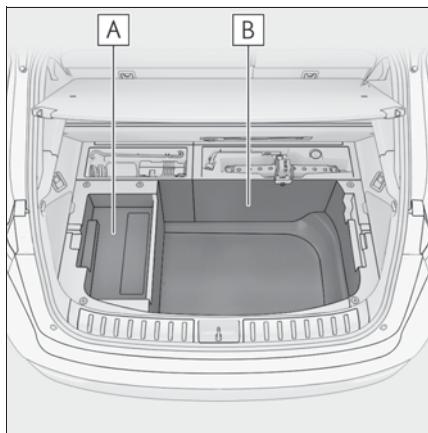
A 救急箱や小物など

B 小物など

C 停止表示板 [※]

※ 停止表示板は、レクサス販売店で購入することができます。

► タイヤパンク応急修理キット装着車



A 停止表示板 [※]

ジャッキの上に停止表示板を収納することができます。

B 救急箱や小物など

※ 停止表示板は、レクサス販売店で購入することができます。

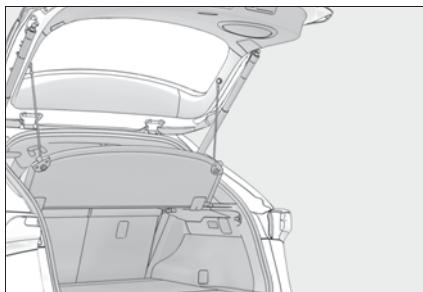
□ 知識

■ 停止表示板について

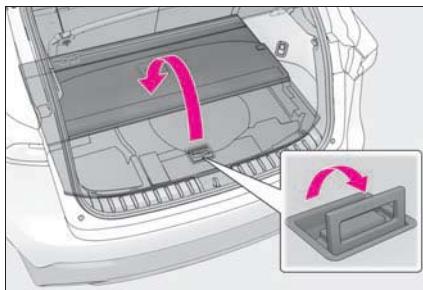
ケースの大きさや形状によっては、収納できない場合があります。

デッキボードを開けるには

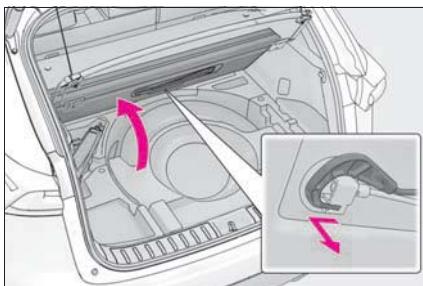
1 バックドアを開ける



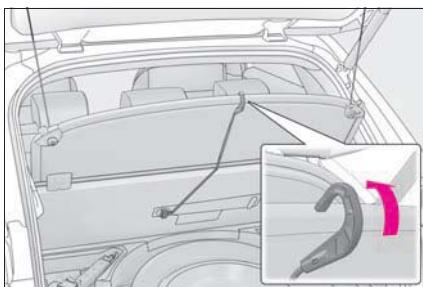
2 レバーを引き上げて、デッキボードを折りたたむ



- 3 デッキボードを持ち上げて、裏面のフックを取りはずす



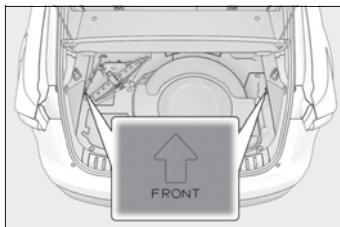
- 4 フックをトノボードに引っかけて固定する



□ 知識

- サイドデッキボードを取り付けるときは

“↑ FRONT”マークが車両前側を指すように取り付けてください。



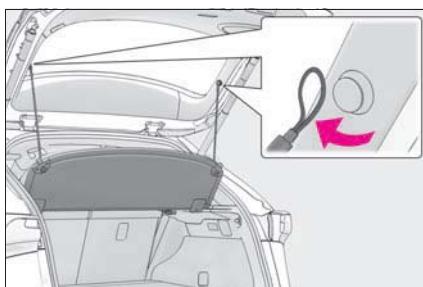
⚠ 警告

- デッキボードを開けたり取りはずしたときは

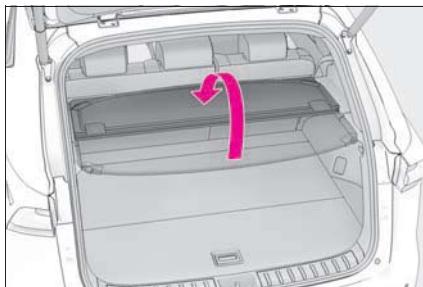
走行前に必ずもとどおりに取り付けてください。そのまま走行すると、急ブレーキをかけたときなどにデッキボードや収納していたものが飛び出し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

トノボードを収納するには

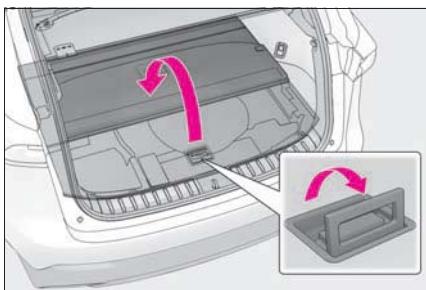
- 1 留めひもを左右のフックからはずす



- 2 トノボードを折りたたむ

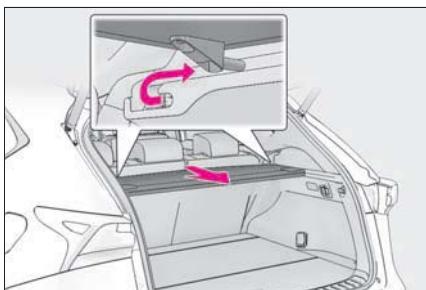


- 3 レバーを引き上げて、デッキボードを折りたたむ

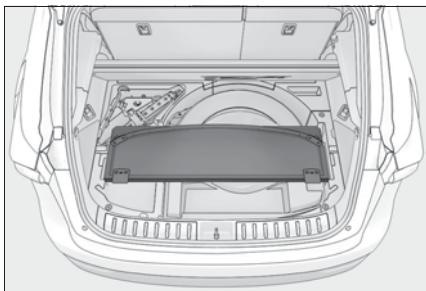


- 4 トノボードを取りはずす

リヤシートの背もたれをうしろに倒しているときは、背もたれを起こしてから取りはずしてください。（→P.124）



- 5 デッキボードを持ち上げながら、デッキアンダートレイに収納する



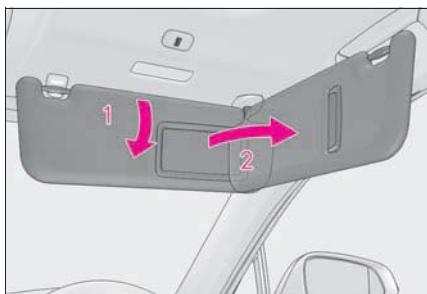
⚠ 警告

■ トノボードについて

- トノボードの上には、荷物を積まないでください。急ブレーキや旋回時に、荷物が飛び出して乗員にあたるなどして思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- トノボードの上には、お子さまが乗ったりしないようにしてください。トノボードが破損し、お子さまが重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

その他の室内装備

サンバイザーを使うには

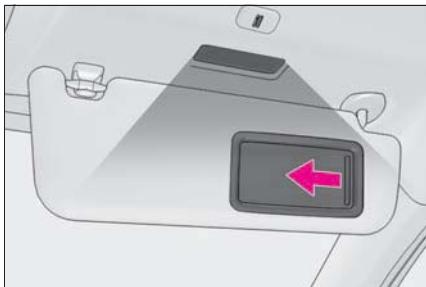


- 1 前方をさえぎるには、バイザーを下ろす
- 2 側方をさえぎるには、バイザーを下ろした状態でフックからはずし、横へまわす

バニティミラーを使うには

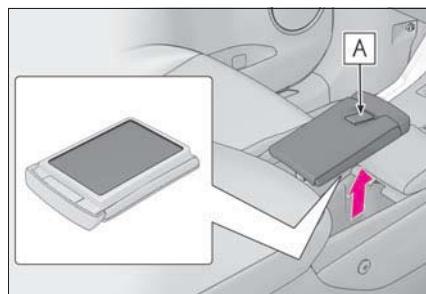
■ サンバイザー

カバーをスライドして開ける
カバーを開けるとバニティミラーランプ
が点灯します。



■ サングラスホルダー

ストラップ**A**を持ってサングラスホルダーのフタを取りはずす
サングラスホルダーのフタの裏面にバニティミラーがあります。



知識

■ 自動消灯について

パワースイッチが OFF の場合、バニティーランプが点灯したままのときは、約 20 分後に自動消灯します。

注意

■ バニティミラーの破損を防ぐために

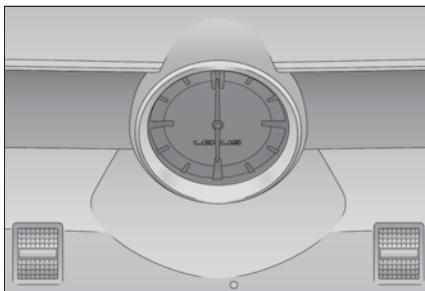
サングラスホルダーのフタを取りはずしたときは、強い衝撃を与えたたり、重いものなどを乗せないでください。

■ 補機バッテリーあがりを防ぐために

ハイブリッドシステムが停止した状態で、長時間ランプを点灯しないでください。

時計

GPS の時刻情報 (GPS 時計) を利用して、時刻を自動で調整します。
詳しくは別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。



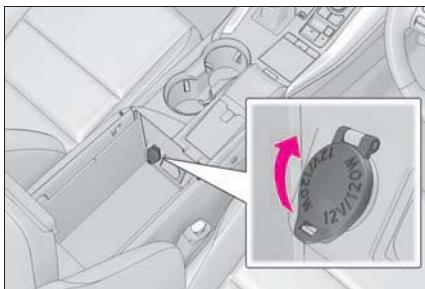
アクセサリーソケットを使うには

DC12V/10A（消費電力 120W）未満の電気製品を使用するときの電源としてお使いください。

電気製品を使用するときは、すべてのアクセサリーソケットに接続されている電気製品の消費電力合計を120W未満にしてください。

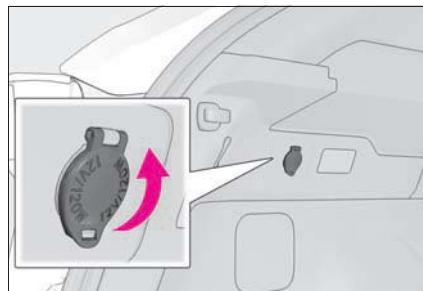
■ コンソールボックス内

フタを開けて使用する



■ ラゲージルーム内

フタを開けて使用する



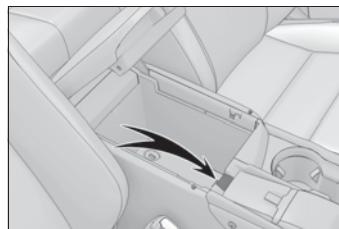
□ 知識

■ 作動条件

パワースイッチがアクセサリーモードまたはONモードのとき

■ アクセサリーソケットを使用するとき

コンソールボックスの溝に配線を通すことで、コンソールボックスを開じた状態でも配線を外へ引き出すことができます。



⚠ 注意

■ アクセサリーソケットを使用しないときは

異物が入ったり、飲料水などがかかたりしないように、使用しないときは、フタを閉めておいてください。

■ 搭機バッテリーあがりを防ぐために

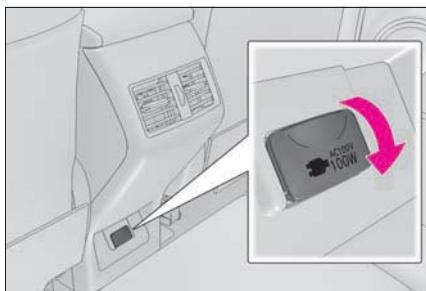
ハイブリッドシステムが停止した状態で、アクセサリーソケットを長時間使用しないでください。

アクセサリーコンセント (100W タイプ) ★を使うには

★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

AC100Vで最大消費電力100W以下の電気製品を使うときの電源としてお使いください。

フタを開けて使用する



□ 知識

■ 作動条件

パワースイッチがONモードのとき



注意

■ アクセサリーコンセントを使用しないときは

ショートや故障を防ぐために、アクセサリーコンセントに異物が入ったり、飲料水などがかかたりしないように、使用しないときは、フタを閉めておいてください。

■ 補機バッテリーあがりを防止するために

ハイブリッドシステムが停止した状態で、アクセサリーコンセントを長時間使用しないでください。

■ ヒューズが切れるのを防ぐために

AC100Vで最大消費電力100W以上の電気製品を使用しないでください。消費電力が100Wをこえる電気製品を使用すると、保護回路が作動して電源を遮断します。

■ 正常に使用できないおそれのある電気製品

次のようなAC100Vの電気製品は、消費電力が100W以下の場合でも正常に作動しないおそれがあります。

- 起動時のピーク電力が高い電気製品
- 精密なデータを処理する計測機器
- 電源周波数の切り替え(50/60Hz)のある機器

アクセサリーコンセント (1500W タイプ) ★を使うには

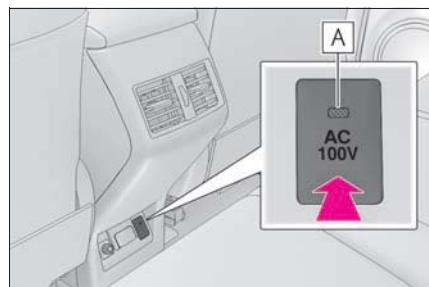
★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

AC100Vで最大消費電力1500W以下の電気製品を使うときの電源としてお使いください。

1 メインスイッチを押す

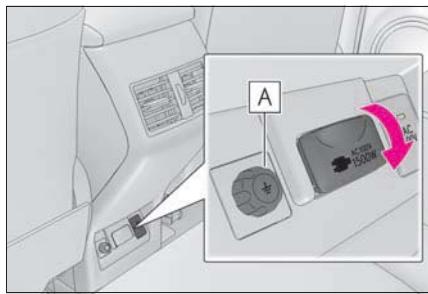
スイッチ上の作動表示灯[A]が点灯し、使用可能な状態になります。

スイッチを押すたびに電源のON/OFFが切りかわります。



2 フタを開けて使用する

アース線のある電気製品を使用するときは、アース線をアース端子[A]に接続してください。



知識

■ 作動条件

READY インジケーターが点灯しているとき

■ 駐車中または停車中に使用するときは

駆動用電池の残量が少なくなると、自動でエンジンが始動し、充電を行います。一部の自治体では、駐車中または停車中にエンジンが始動した場合、アイドリングストップに関する条例にふれ罰則の適用を受けるおそれがあります。駐車中または停車中のアクセサリーコンセントの使用については、関係する自治体に確認した上で、適切に使用してください。

■ 使用しないときは

メインスイッチを OFF にして、スイッチ上の作動表示灯が消灯していることを確認してください。

■ アクセサリーコンセントについて

- AC100Vで最大消費電力1500W以下の電気製品を使用してください。規定容量をこえる電気製品を使用すると、AC電源装置の保護機能が作動し、アクセサリーコンセントが使用できなくなります。

● メインスイッチを ON にした状態で、アクセサリーコンセントに電気製品のプラグを挿入した場合、電気製品側の回路構成によっては挿入時に大きな電流が流れ瞬間電力が1500Wをこえることがあります。この場合、AC電源装置の保護機能が作動し、自動でメインスイッチが OFF になることがあります。電源プラグ挿入後、再度メインスイッチを ON にしてください。

● 使用する電気製品によっては、ラジオやテレビに雑音が入ることがあります。

● アクセサリーコンセントの電圧は、市販のテスターでは正常な電圧を計測できません。電圧の確認が必要な場合は、レクサス販売店で点検を受けてください。

● アクセサリーコンセントを使用中、ラゲージルームから冷却用ファンの音がすることがありますが、異常ではありません。

■ 正しく作動しないおそれがある電気製品

次のような AC100V の電気製品は、消費電力が 1500W 以下の場合でも正常に作動しないおそれがあります。

- 起動時のピーク電力が高い電気製品
- 精密なデータを処理する計測機器
- きわめて安定した電力供給を必要とする電気製品
- タイマー設定する機器や医療機器など、AC電源の出力が連続して必要な電気製品

■ 使用できないときは

メインスイッチの作動表示灯が消灯して、コンセントから AC 電源が出力されない場合、再度メインスイッチを ON にしても復帰しないときは、保護機能が作動していることが考えられます。この場合は、まず次の処置を行ってください。

- 電気製品のプラグを抜き、消費電力が1500W以下になっているかどうかを確認し、再度メインスイッチをONにしてください。
- 電気製品のプラグを抜き、製品自体が故障していないかを確認して、再度メインスイッチをONにしてください。
- 駆動用電池の残量を確認してください(→P.92)。残量が少ない場合は、シフトレバーをPにして、駆動用電池の残量を回復させ、再度メインスイッチをONにしてください。
- 炎天下に放置した直後など車内が高温になっている場合は、エアコンを使用するなどして車内を十分に換気し、車内温度を下げ、しばらくしてから再度メインスイッチをONにしてください。
以上の処置を行っても復帰しない場合は、レクサス販売店で点検を受けてください。

■ 寒冷地で使用するときは

外気温が -15°C 以下になるようなときは、駆動用電池を保護するため、数十分間アクセサリーコンセントが使用できなことがあります。この場合はエアコンを使用して車内を暖房し、駆動用電池を暖めてから使用してください。

■ 電源周波数について

車両側の電源周波数は、50Hzに設定されています。
電気製品によっては、電源周波数の切りかえ(50Hz/60Hz)機能があるので、車両と電気製品の電源周波数を一致させておいてください。
車両側の電源周波数切りかえが必要な場合は、レクサス販売店にご相談ください。

▲ 警告

■ 安全にお使いいただくために

- 走行中、次のような場合は、電気製品を使用しないでください。また、電気製品を確実に固定できない状態で使用しないでください。思わぬ事故の原因となって重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
 - ・ わき見運転など、安全運転のさまたげになる場合(テレビ・ビデオ・DVDなど)
 - ・ 急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、固定の不完全な電気製品の転倒・落下による事故や、発熱により火災・やけどなどのおそれがある場合(トースター・電子レンジ・電熱器・ポット・コーヒーメーカーなど)
 - ・ ベルの下に電気製品が入り込み、ブレーキペダルが踏めなくなるおそれがある場合(ドライヤー・AC アダプター・マウスなど)
- 窓を閉めたまま、蒸気が出る電気製品を使用しないでください。ガラスが曇つて視界が悪化し、運転に支障が出るなど、思わぬ事故の原因となって重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。また、他の電気製品に悪影響をおよぼすおそれがあります。やむを得ず使用するときは、車両を停車した状態で窓を開けて使用してください。
- 故障した電気製品は使用しないでください。アクセサリーコンセントが使用できなくなったり、感電したりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 警告

- ぬれた手で電気製品のプラグを抜き挿したり、ピンなどをアクセサリーコンセントに挿したりしないでください。感電により重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。また、コンセントに雨水・飲料水・雪などが付着した場合は、乾燥させてから使用してください。
- アクセサリーコンセントの改造や分解・修理などはしないでください。また、車両に搭載されているAC100Vインバーターを、市販のAC100Vインバーターに組みかえないでください。思わぬ事故の原因となって、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。修理については、レクサス販売店にご相談ください。
- 使用する電気製品に付属の取り扱い説明書や、製品に記載されている注意事項を必ずお守りください。
- 駐車中または停車中に使用するときは

災害時などやむを得ず駐車中または停車中に使用するときは、次のことをお守りください。お守りいただかない、と思わぬ事故の原因になるおそれがあります。

 - 必ずシフトレバーをPにして、パーキングブレーキをかけてください。
 - 電気製品を使用中に、READYインジケーターが点灯した状態のまま車両から離れないでください。
 - 車庫内や雪が積もった場所などでは、排気ガスが充満したり、滞留したりするおそれがあるため、使用しないでください。（→P.41）

- 状況によっては、自動でエンジンが始動するため、排気管付近に近づいたり、荷物を置いたりしないでください。また、エンジンルーム内に顔や手などを近づけないでください。
- 車外に電源コードを引いて使用する場合は、雨水の浸入などに注意してください。アクセサリーコンセントに雨水などが付着した場合は、乾燥させてから使用してください。また、電源コードをドアなどに挟まないように注意してください。
- 暖房器具などの電気製品を使用して、車中で泊まるることはやめてください。
- アクセサリーコンセントは、照明機器などの電気製品と直接接続して使用するものであり、家屋などへ電気を供給する発電機として使用しないでください。また、家屋などに設置されている非常時給電システム（外部電源と接続ができる専用設備、外部電源からの供給回路が電力会社からの電気配線と分離されている設備など）に接続する場合は、当該システムの製造業者または販売業者にご相談ください。

■ 接続する電気製品について

使用する電気製品に付属の取り扱い説明書や、製品に記載されている注意事項を必ずお守りください。
電源プラグや電気製品が故障しているときは使用しないでください。
なお、次のような機器は使用しないでください。

● 医療用機器

車両の状態によっては、一時的にAC電源出力が断たれることがあります。

● 計量器・計測器など

AC電源電圧を基準にした計測機器の場合は、精度が不安定になるおそれがあります。

⚠ 注意

■ ショートや故障を防ぐために

- 車内のトリムの近くやシートの上などで、トースターなどの熱気を出す電気製品を使用しないでください。熱により溶損したり、焼損したりするおそれがあります。
- 振動や熱などに弱い電気製品を、車内で使用しないでください。走行時の振動や、炎天下での駐車時の熱などにより、電気製品が故障するおそれがあります。
- アクセサリーコンセントを使用しないときは、フタを閉めてください。コンセントに異物が入ったり、飲料水などがかかたりすると、故障したり、ショートしたりするおそれがあります。
- AC アダプターを直接アクセサリーコンセントに接続しないでください。フタを損傷したり、使用中に AC アダプターが脱落したりするおそれがあります。
- お子さまに、アクセサリーコンセントをさわらせないでください。
- アクセサリーコンセントに、二股などの分岐用コンセントを接続するなど、タコ足配線をしないでください。
- アクセサリーコンセントにほこりやゴミが付着しないようにしてください。また、定期的にコンセントを掃除してください。
- 電気製品のプラグをアクセサリーコンセントに挿し込んでもゆるいときは、コンセントを交換してください。交換については、レクサス販売店にご相談ください。

- 駆動用電池の残量によっては、アクセサリーコンセントが使用できない場合があります。できるだけ駆動用電池の残量が多い状態で使用してください。

おくだけ充電（ワイヤレス充電器）★を使うには

- ★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ワイヤレスパワーコンソーシアム (WPC) によるワイヤレス充電規格 Qi に適合したスマートフォンやモバイルバッテリーなどの携帯機器を充電エリアに置くだけで、携帯機器を充電することができます。

充電エリアより大きい携帯機器には本機能を使用できません。また、携帯機器によっては、正常に作動しない場合があります。

ご使用になる携帯機器に付属の取扱説明書もお読みください。

■ 「Qi」マークについて

「Qi」、「Qi」マークは、ワイヤレスパワーコンソーシアム (WPC) の登録商標です。

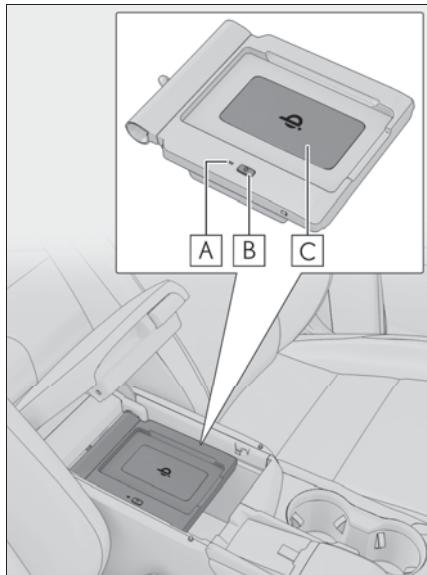


■ 「おくだけ充電」マークについて

「おくだけ充電」、「おくだけ充電」ロゴは、株式会社 NTT ドコモの登録商標です。



■ 各部の名称



A 作動表示灯

B 電源スイッチ

C 充電エリア

■ 充電する

1 コンソールボックスのフタを開ける (→P.267)

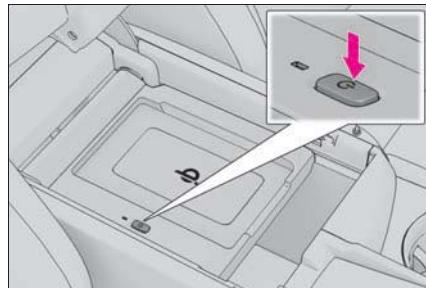
2 電源スイッチを押す

押すごとに ON と OFF に切りかわります。

ON になると作動表示灯が緑色に点灯します。

ワイヤレス充電器の電源の状態 (ON/OFF) はパワースイッチを OFF にして

も記憶されます。

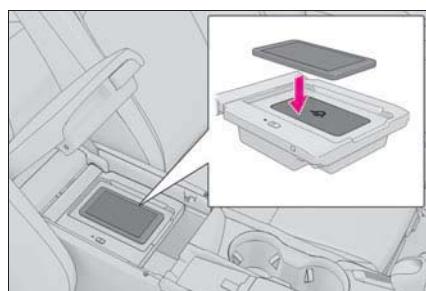


3 充電エリアに携帯機器を置く

携帯機器の充電面が下になるように置いてください。

充電中は作動表示灯が橙色に点灯します。充電が行われないときは、できるだけ充電エリアの中央付近に携帯機器を置き直してください。

充電が完了すると作動表示灯が緑色に点灯します。



● 再充電機能

- 充電が完了し、充電停止状態が一定時間経過すると充電を再開します。

- 携帯機器が移動すると、いったん充電が停止しますが、ただちに充電を再開します。

■ 作動表示灯の点灯状況

作動表示灯	状況
消灯	ワイヤレス充電器の電源が OFF のとき

作動表示灯	状況
緑（点灯）	待機中（充電可能状態）
	充電完了時※
橙（点灯）	充電エリアに携帯機器を置いたとき（携帯機器を検出中）
	充電中

※ 携帯機器によっては、充電完了後も表示灯が橙色に点灯し続ける場合があります。

■ 作動表示灯が点滅したときは

エラーが発生した場合の作動表示灯の状況と、想定される原因の対処方法は次の通りです。

- 1秒間に1回の点滅をくり返す（橙色）

想定される原因	対処方法
車両とワイヤレス充電器の通信不良	レクサス販売店へお問い合わせください。

- 3回連続の点滅をくり返す（橙色）

想定される原因	対処方法
異物検知：携帯機器と充電エリアの間に異物がある	携帯機器と充電エリアの間にある異物を取り除いてください。
携帯機器のずれ：充電エリアの中央付近から携帯機器がずれている	携帯機器を充電エリアの中央付近に置き直してください。

- 4回連続の点滅をくり返す（橙色）

想定される原因	対処方法
ワイヤレス充電器内の温度上昇	いつたん充電を停止し、しばらく待ってから充電を開始してください。

□ 知識

■ 使用条件

パワースイッチがアクセサリーモードまたはONモードのとき

■ 使用できる携帯機器について

● ワイヤレス充電規格 Qi 準拠機器を使用できます。ただし、すべての Qi 準拠機器と互換性を保証しているものではありません。

● 携帯電話やスマートフォンをはじめとする携帯機器を対象とした 5W 以下の低電力給電を対象としています。

■ 携帯機器にカバーやアクセサリーを付けるときは

携帯機器に、「Qi」非対応のカバーやアクセサリーを付けた状態で充電しないでください。カバーやアクセサリーの種類によっては充電できない場合があります。充電エリアに携帯機器を置いても充電が行われないときは、カバーやアクセサリーをはずしてください。

■ 充電中に、AMラジオにノイズが入るときは

ワイヤレス充電器の電源を OFF にして、ノイズが低減するか確認してください。ノイズが低減する場合は、充電中にワイヤレス充電器の電源スイッチを約 2 秒間押し続けることで、充電の周波数を切りかえてノイズを低減することができます。また、その際、作動表示灯が橙色に 2 回点滅します。

■ 充電中の留意事項

- 車室内に電子キーを検出できない場合

は、充電することができません。ドアの開閉時は、一時的に充電が停止することがあります。

- 充電中は、ワイヤレス充電器と携帯機器が温かになりますが、異常ではありません。充電中に携帯機器が温かくなつたときは、携帯機器側の保護機能により、充電が停止することがあります。この場合、携帯機器の温度が十分に下がつてから、再度、充電を行つてください。

■ 作動中の音について

電源スイッチを押して電源をONにしたときや、携帯機器を検出中は“ジー”と作動音がしますが、異常ではありません。



警告

■ 運転中の注意

携帯機器を充電する場合、安全のため、運転者は運転中に携帯機器本体の操作をしないでください。

■ 電波がおよぼす影響について

植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器などの医療用電気機器を装着されている方は、ワイヤレス充電器のご使用にあたつては医師とよくご相談ください。ワイヤレス充電器の動作が医療用電気機器に影響を与えるおそれがあります。

■ 故障ややけどを防ぐために

次のことをお守りください。
お守りいただかないと装置の故障や損傷、発火、発熱によるやけどにつながるおそれがあります。

- 充電中に、充電エリアと携帯機器の間に金属物をはさまない

- 充電エリアや携帯機器にアルミなどのシールや金属製のものを貼り付けない
- 布などをかぶせて充電しない
- 指定された携帯機器以外は充電しない
- 分解や改造、取りはずしをしない
- 強い力や衝撃をかけない



注意

■ 機能が正常に働かないおそれのある状況

次のような場合は正常に充電しない場合があります。

- 携帯機器が満充電
- 充電エリアと携帯機器の間に異物がある
- 充電により、携帯機器の温度が高温になっている
- 携帯機器の充電面を上にして置いた
- 携帯機器の置き場所が充電エリアからずれている
- 近くにテレビ塔や発電所・ガソリンスタンド・放送局・大型ディスプレイ・空港があるなど、強い電波やノイズの発生する場所にいるとき
- 携帯機器が、次のような金属製のものに接していたり、覆われたりしているとき
 - ・ アルミ箔などの金属の貼られたカード
 - ・ アルミ箔を使用したタバコの箱
 - ・ 金属製の財布やかばん
 - ・ 小銭
 - ・ カイロ
 - ・ CDやDVDなどのメディア

⚠ 注意

- 近くで電波式ワイヤレスリモコンを使用しているとき

また、上記以外で、充電が正常に行われない、または、作動表示灯が点滅したままのときは、ワイヤレス充電器の異常が考えられます。レクサス販売店へお問い合わせください。

■ 故障やデータ破損を防止するために

- 充電中に、充電エリアにクレジットカード・ETCカードなどの磁気カードや磁気記録メディアなどを近付けると、磁気の影響によりデータが消えることがあります。また、腕時計などの精密機器を近付けると、こわれたりすることがありますので、近付けないでください。

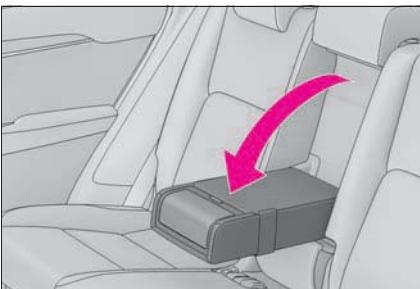
- 携帯機器は車室内に放置しないでください。炎天下など車室内が高温となり、故障の原因となります。

■ 補機バッテリーあがりを防止するために

ハイブリッドシステムを停止した状態で、ワイヤレス充電器を長時間使用しないでください。

リヤアームレストを使うには

手前に倒して使用します。

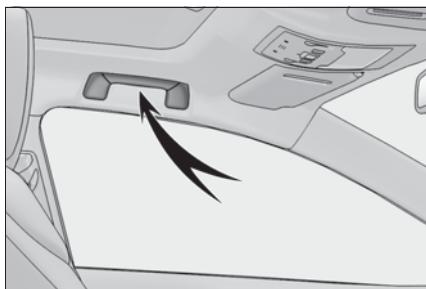


⚠ 注意

- アームレストの破損を防ぐために過度の負荷をかけないでください。

アシストグリップを使うには

天井に取り付けられているアシストグリップは、走行中にシートに座っている状態で体を支えるときにお使いください。



⚠ 警告

■ アシストグリップについて

乗降時やシートから立ち上がるときに使用しないでください。

⚠ 注意

■ アシストグリップの破損を防ぐために

破損を防ぐために、アシストグリップに過度の負荷をかけないでください。

お手入れのしかた

6

6-1. お手入れのしかた

- | | |
|--------------|-----|
| 外装の手入れ | 286 |
| 内装の手入れ | 289 |

6-2. 簡単な点検・部品交換

- | | |
|--------------------|-----|
| ポンネット | 293 |
| ガレージジャッキ | 294 |
| ウォッシャー液の補充 | 295 |
| タイヤについて | 296 |
| タイヤ空気圧について | 302 |
| エアコンフィルターの交換 | 303 |
| 電子キーの電池交換 | 305 |
| ヒューズの点検・交換 | 306 |
| 電球（バルブ）の交換 | 309 |

6

お手入れのしかた

外装の手入れ

お手入れは、部位や素材にあつた適切な方法で実施してください。

手入れの作業要領

- 水を十分かけながら、車体・足まわり・下まわりの順番に上から下へよごれを洗い落とす
- 車体はスポンジやセーム皮のようやわらかいもので洗う
- よごれがひどいときはカーシャンプーを使用し、水で十分洗い流す
- 水をふき取る
- 水のはじきが悪くなつたときは、ワックス掛けを行う

ボデーの表面のよごれを落としても水が玉状にならないときは、車体の温度が冷えているときにワックスをかける。(およそ体温以下を目安としてください)

なお、ボデーコート・ホイールコート・ガラスコートなど、レクサスケミカル商品を施工された場合は、お手入れ方法が異なります。詳しくはレクサス販売店にお問い合わせください。

□ 知識

■セルフリストアリングコートについて

お車のボデーには、洗車などによる小さなすり傷を自然に復元する、傷付きにくい塗装を使用しています。

- 新車時から5~8年のあいだ、効果が持続します。
- 傷が復元するまでの時間は、傷の深さや周囲の温度により変化します。
なお、お湯をかけて塗装を暖めると、

復元するまでの時間が短くなる場合があります。

- 鍵や硬貨などによる深い傷は復元できません。
- 成分にコンパウンド（磨き粉）が含まれるワックス類は使用しないでください。

■自動洗車機を使うときは

- お車を洗う前に：
 - ・ ドアミラーを格納する
 - ・ パワーバックドアを停止する
- 走行前は必ずドアミラーを復帰状態にもどしてください。
- ブラシで車体に傷が付き、塗装を損なうことがあります。
- 洗車機によっては、リヤスピailerが引っかかり洗車できない場合や傷付いたり、破損したりするおそれがあります。

■高圧洗車機を使うときは

- 車内に水が入るおそれがあるため、ノズルの先端をドアガラスやドア枠付近に近付けすぎないでください。
- 洗車の前に給油口が確実に閉まっていることを確認してください。

■スマートエントリー＆スタートシステムについて

- 電子キーを携帯して洗車などで水をドアハンドルにかけた場合、施錠／解錠動作をくり返すことがあります。その場合は次のような処置をして、洗車などをしてください。
- 電子キーを車両から2m以上離れた場所に保管して、洗車などをしてください（電子キーの盗難に注意してください）。
- 電子キーを節電モードに設定し、スマートエントリー＆スタートシステムの作動を停止する（→P.119）

■アルミホイールについて

- 中性洗剤を使用し、早めに汚れを落としてください。
- 洗剤を使用したあとは放置せずに水で十分洗い流してください。
- 塗装の損傷を防ぐため、次のことを必ずお守りください。
 - ・酸性・アルカリ性および研磨剤の入った洗剤を使用しない
 - ・硬いブラシを使用しない
 - ・夏場の走行後や駐車後でホイールが熱いときは、洗剤を使用しない

■バンパーについて

研磨剤入りの洗剤でこすらないようにしてください。

■フロントドアガラスの撥水コーティングについて

- 撥水効果を長持ちさせるため、次のことに注意してください。
 - ・フロントドアガラス表面の泥などのよごれを落とす
 - ・よごれは早めにやわらかい湿った布などで清掃する
 - ・コンパウンド（磨き粉）が入ったガラスクリーナーやワックスを使用しない
 - ・金属製の道具で霜取りをしない
- 水滴のはじきが悪くなつたときは補修することができます。
詳しくはレクサス販売店にお問い合わせください。

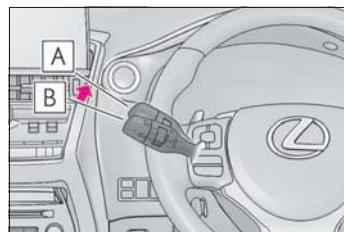


■洗車をするときは

エンジンルーム内に水をかけないでください。
電気部品などに水がかかると、車両火災につながるおそれがあります。

■フロントウインドウガラスを清掃するときは

ワイパーイッチを OFF にしてください。AUTO モードになっていると、次のようなときにワイパーが不意に作動し、指などを挟み重大な傷害を受けたり、ワイパー ブレードなどを損傷するおそれがあります。



A OFF

B AUTO

- 雨滴センサー上部のフロントウインドウガラスに手でふれたとき
- 水分を含んだ布などを雨滴センサーに近付けたとき
- フロントウインドウガラスに衝撃を与えたとき
- 車内から雨滴センサー本体にふれるなどして衝撃を与えたとき

■排気管について

排気管は排気ガスにより高温になります。洗車などでふれる場合は、十分に排気管が冷めてからにしてください。やけどをするおそれがあります。

■ブライエンドスポットモニター★について

リヤバンパーの塗装に傷が付くと、システムが正常に作動しなくなるおそれがあります。レクサス販売店にご相談ください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

 注意

■ 塗装の劣化や車体・部品（ホイールなど）の腐食を防ぐために

- 次のような場合は、ただちに洗車してください。

- ・ 海岸地帯を走行したあと
- ・ 凍結防止剤を散布した道路を走行したあと
- ・ コールタール・花粉・樹液・鳥の粪・虫の死がいなどが付着したとき
- ・ ばい煙・油煙・粉じん・鉄粉・化学物質などの降下が多い場所を走行したあと
- ・ ほこり・泥などで激しくよごれたとき
- ・ 塗装にベンジンやガソリンなどの有機溶剤が付着したとき

- 塗装に傷が付いた場合は、早めに補修してください。

- ホイール保管時は、腐食を防ぐためによごれを落とし、湿気の少ない場所へ保管してください。

■ ワイパーームの損傷を防ぐために

ワイパーームを立てるときは、必ず運転席側を先に立ててから助手席側を立ててください。また、もとにもどすときは、必ず助手席側から先にもどしてください。

■ ランプの清掃

- 注意して洗ってください。有機溶剤や硬いブラシは使用しないでください。

ランプを損傷させるおそれがあります。

- ランプにワックス掛けを行わないでください。

レンズを損傷するおそれがあります。

■ 自動洗車機を使用するときは

ワイパーを OFF にしてください。（→P.180, 182）

AUTO モードになっていると、不意にワイパーが作動してワイパー・ブレードなどを損傷するおそれがあります。

■ 高圧洗浄機を使用するときは

- 洗車時に高圧洗浄機でカメラやカメラ周辺に直接水を当てないでください。高い水圧により衝撃が加わり、装置が正常に作動しなくなるおそれがあります。

- ノズルの先端を、下記部品の結合部やブーツ類（ゴムまたは樹脂製のカバー）、コネクタ類に近付けすぎないでください。

高い水圧がかかることにより、部品が損傷するおそれがあります。

- ・ 駆動系部品

- ・ ステアリング部品

- ・ サスペンション部品

- ・ ブレーキ部品

内装の手入れ

お手入れは、部位や素材にあつた適切な方法で実施してください。

車内の手入れをするには

- 掃除機などではこりを取り除き、水またはぬるま湯を含ませた布でふき取る
- 汚れが落ちない場合は、中性洗剤を水で約1%に薄めてやわらかい布に含ませふき取る
水を浸した布を固くしぼり、表面に残った洗剤・水分をふき取る

知識

■ カーペットの洗浄について

カーペットは常に乾いた状態を保つことをおすすめします。洗浄には、市販の泡タイプクリーナーをご利用になります。スポンジまたはブラシを使用して泡をカーペットに広げ、円を描くように塗り込んでください。直接水をかけたりせず、ふき取ってから乾燥させてください。

■ シートベルトの取り扱いについて

刺激の少ない洗剤とぬるま湯で、布やスポンジを使って洗ってください。シートベルトのすり切れ・ほつれ・傷などを定期的に点検してください。

■ スーパーUVカットガラスについて

- ドアガラスが汚れているときは、早めに水またはぬるま湯を含ませた布で軽くふいて清掃してください。
- ドアガラスの汚れがひどいときは、ドアガラスの開閉をくり返さないでください。

⚠ 警告

■ 車両への水の浸入

- 床・ラゲージルーム内・駆動用電池冷却用吸入口など、車内に水をかけたり液体をこぼしたりしないでください。(→P.64) 駆動用電池や電気部品などに水がかかると、故障や車両火災につながるおそれがあり危険です

- SRSエアバッグの構成部品や配線をぬらさないでください。(→P.34) 電気の不具合により、エアバッグが展開したり、正常に機能しなくなり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 内装の手入れをするときは（特にインストルメントパネル）

艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルがフロントウインドウガラスへ映り込み、運転者の視界をさまたげ思われる事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 注意

■ 清掃するとき使用する溶剤について

- 変色・しみ・塗装はがれの原因になるため、次の溶剤は使用しないでください。
 - ・ シート以外の部分：ベンジン・ガソリンなどの有機溶剤や酸性またはアルカリ性の溶剤・染色剤・漂白剤
 - ・ シート部分：シンナー・ベンジン・アルコール・その他のアルカリ性や酸性の溶剤

注意

- 艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルやその他内装の塗装のはがれ・溶解・変形の原因になるおそれがあります。

■革の傷みを避けるために

皮革の表面の劣化や損傷を避けるためには次のことをお守りください。

- 革に付着したほこりや砂はすぐに取り除く

- 直射日光に長時間さらさないようにする

特に夏場は日陰で車を保管する

- ビニール製・プラスチック製・ワックス含有のものは、車内が高温になると革に張り付くおそれがあるため、革張りの上に置かない

■床に水がかかると

水で洗わないでください。

オーディオやフロアカーペット下にある電気部品に水がかかると、車の故障の原因になったり、ボーテーが錆びるおそれがあります。

■フロントウインドウガラスの内側を掃除するときは

カメラセンサーのレンズに、ガラスクリーナーが付着しないようにしてください。

また、レンズにはふれないでください。
(→P.188)

■フロントウインドウガラス・リヤウインドウガラスの内側を掃除するときは

- 热線やアンテナを損傷するおそれがあるため、ガラスクリーナーなどを使わず、热線やアンテナにそって水またはぬるま湯を含ませた布で軽くふいてください。

- 热線やアンテナを引っかいたり、損傷させないように気を付けてください。

■スーパーUVカットガラスを清掃するときは

ドアガラスを清掃するときは、コンパウンドまたは研磨剤入り用品（ガラスクリーナー・洗剤・ワックスなど）を使用しないでください。コーティングを損傷させるおそれがあります。

本革部分の手入れをするには

- 掃除機などでほこりや砂を取り除く

- うすめた洗剤をやわらかい布に含ませ、よごれをふき取る

ウール用の中性洗剤を約5%の水溶液までうすめたものを使用してください。

- 水を浸した布を固くしぼり、表面上に残った洗剤をふき取る

- 乾いたやわらかい布で表面の水分をふき取り、風通しのよい日陰で乾燥させる

知識

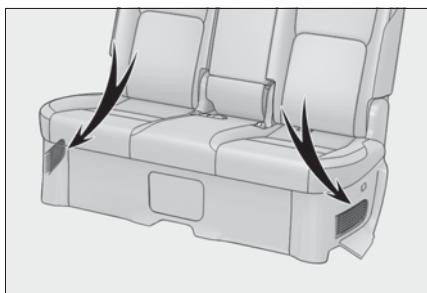
■本革部分のお手入れの目安

品質を長く保つため、年に2回程度の定期的なお手入れをおすすめします。

駆動用電池冷却用吸入口の清掃

駆動用電池冷却用吸入口にほこりなどがたまつたり、目づまりしたりしないように、次の要領で清掃してください。

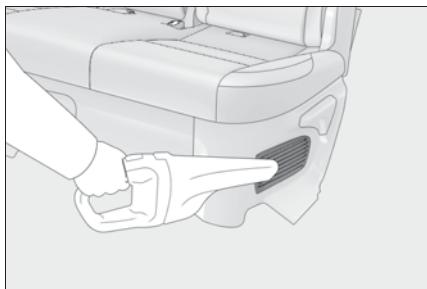
吸入口は、左右両側にあります。



■ 冷却用吸入口の清掃

- 1 掃除機などを使用して吸入口のほこりを取り除く

左右両側ともに、吸入口の清掃を実施してください。



- 2 ハイブリッドシステムを始動し、マルチインフォメーションディスプレイの警告メッセージが消えたことを確認する

ハイブリッドシステムの始動後、警告メッセージが消えるまでに数分間かかる場合があります。

知識

■ 駆動用電池冷却用吸入口の清掃について

- 冷却用吸入口が汚れていると、駆動用電池の冷却に悪影響をおよぼし、燃費の悪化につながります。駆動用電池冷却用吸入口にはほこりなどがたまらないよう、定期的に清掃してください。

- マルチインフォメーションディスプレ

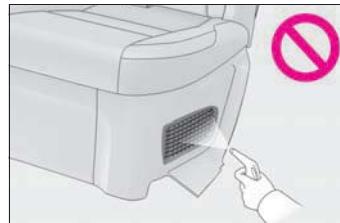
イに「駆動用電池の冷却部品のメンテナンス必要 取扱書を確認」が表示されている状態で走行を続けると、駆動用電池の入出力に制限がかかり、出力低下や故障の原因になります。警告メッセージが表示されたときは、レクサス販売店にご相談いただきか、すみやかに清掃してください。

- 駆動用電池冷却用吸入口を清掃してもマルチインフォメーションディスプレイの表示が消えないときは、レクサス販売店で点検を受けてください。
- 駆動用電池冷却用吸入口の清掃が必要な時期は、車両の使用環境により異なります。

注意

■ 駆動用電池冷却用吸入口を清掃するとき

必ず掃除機などで吸引してほこりを取り除いてください。
エアガンなどを使用するとほこりが押し込まれてしまい、駆動用電池の性能が低下したり、故障の原因となったりするおそれがあります。



■ 車両の故障を防ぐために

次のことをお守りください。お守りいただかないと、車両故障の原因となるおそれがあります。

- 水や液体などで吸入口を清掃しない

 注意

- この車両用のフィルター以外のものを吸気口に取り付けたり、フィルターを取りはずした状態で車を使用したりしない

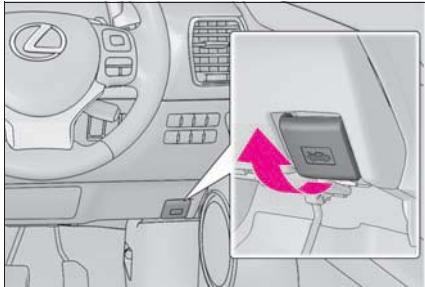
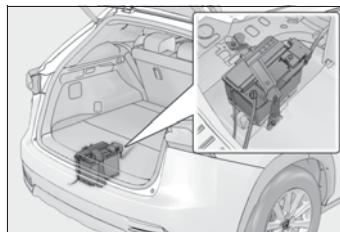
合成皮革部分の手入れをするには

- 掃除機などでほこりを取り除く
- 中性洗剤を水で約 1% に薄めてやわらかい布に含ませふき取る
- 水を浸した布を固くしぼり、表面に残った洗剤・水分をふき取る

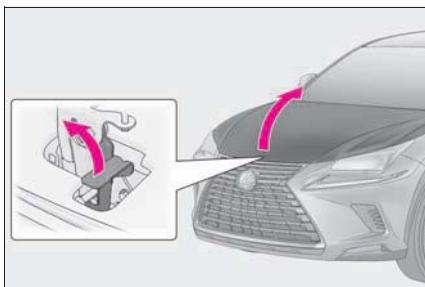
ポンネット

ポンネットを開けるには

- ポンネット解除レバーを引く
ポンネットが少し浮き上がります。



- レバーを引き上げてポンネットを開ける



□ 知識

■補機バッテリーについて

この車両の補機バッテリーは、ラゲージルーム（助手席側）のカバー内にあり、エンジンルームには搭載されていません。

補機バッテリーがあがってしまったときは、エンジンルーム内にある救援用端子を使用して、処置を行います。

（→P.354）

⚠ 警告

■走行前の確認

ポンネットがしっかりとロックされていることを確認してください。

ロックせずに走行すると、走行中にポンネットが突然開いて、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■修理・車検・整備点検をする場合は
整備モードに切り替える必要がありますので、必ずレクサス販売店にご相談ください。高電圧システムを使用しているため、取り扱いを誤ると、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ポンネットを開けるときは

ポンネットを開ける前にパワースイッチを OFF にしてください。作動中の部品に巻き込まれて重大な傷害を受けるおそれがあります。特に電動ファンは、パワースイッチを OFF にしたあとも最大 3 分間作動しますので注意してください。

■エンジンルームを点検したあとは

エンジンルーム内に工具や布を置き忘れていないことを確認してください。点検や清掃に使用した工具や布などをエンジンルーム内に置き忘れていると、故障の原因になつたり、また、エンジンルーム内は高温になるため車両火災につながるおそれがあり危険です。

⚠ 警告

■ ボンネットを閉めるときは

ボンネットを閉めるときは、手などを挟まないように注意してください。重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。



■ 補機バッテリーの取り扱いについて

→P.358

⚠ 注意

■ ボンネットへの損傷を防ぐために

● ボンネットを閉めるときは、体重をかけるなどして強く押さないでください。

ボンネットがへこむおそれがあります。

● ボンネットには、ボンネットを支えるためのダンパーステーが取り付けられています。ダンパーステーの損傷や作動不良を防ぐため、次のことをお守りください。

- ・ ビニール片・ステッカー・粘着材などの異物をステーのロッド部（棒部）に付着させない
- ・ ロッド部を軍手などでふれない
- ・ ボンネットにレクサス純正品以外のアクセサリー用品を付けない
- ・ ステーに手をかけたり、横方向に力をかけたりしない

ガレージジャッキ

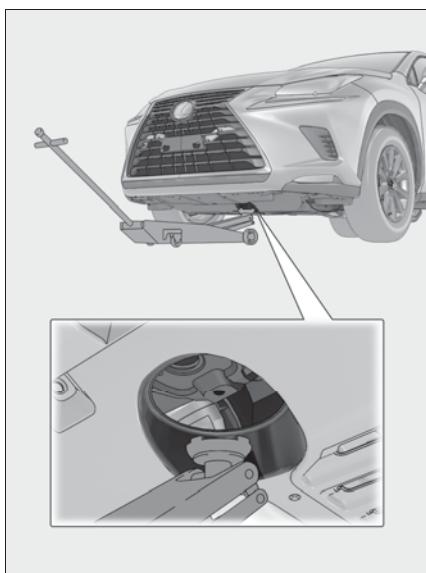
ガレージジャッキを使用するときは、ガレージジャッキに付属の取り扱い説明書に従って、安全に作業してください。

ガレージジャッキを使用して車両を持ち上げるときは、正しい位置にガレージジャッキをセットしてください。

正しい位置にセットしないと、車両が損傷したり、けがをしたりするおそれがあります。

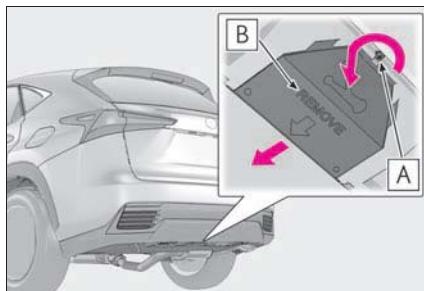
ジャッキポイントの位置を確認する

■ フロント側

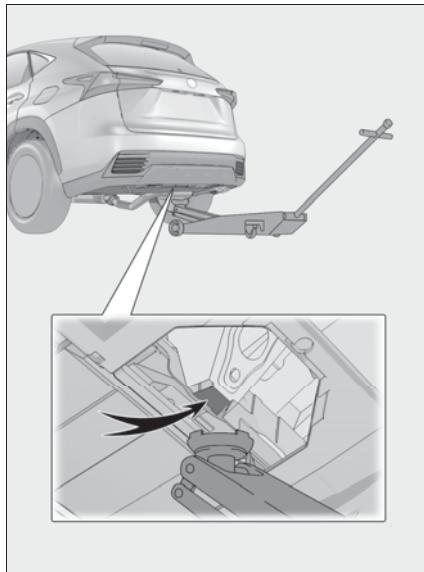


■ リヤ側

- 1 ネジ**A**をはずし、カバー**B**を取りはずす



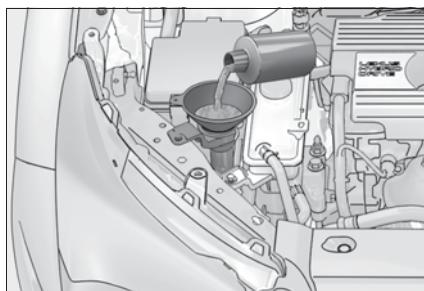
- 2 ガレージジャッキで車両を持ち上げる



ウォッシャー液の補充

補充するには

ウォッシャー液が出なかつたり、マルチインフォメーションディスプレイに「ウォッシャー液を補充してください」が表示されたら、ウォッシャー液を補充してください。



⚠ 警告

■ ウォッシャー液を補充するとき

ハイブリッドシステムが熱いときやハイブリッドシステム作動中は、ウォッシャー液を補充しないでください。ウォッシャー液にはアルコール成分が含まれているため、ハイブリッドシステムなどにかかると出火するおそれがあり危険です。

6

お手入れのしかた

⚠ 注意

■ ウォッシャー液について

ウォッシャー液のかわりに、せっけん水やエンジン不凍液などを入れないでください。塗装にしみが付くことや、ポンプが故障してウォッシャー液がなくなることがあります。

⚠ 注意

■ ウオッシャー液のうすめ方

必要に応じて水でうすめてください。水とウォッシャー液の割合は、ウォッシャー液の容器に表示してある凍結温度を参考にしてください。

タイヤについて

タイヤの点検は、法律で義務付けられています。日常点検として必ずタイヤを点検してください。タイヤの摩耗を均等にし寿命をのばすために、タイヤローテーション（タイヤ位置交換）を5,000kmごとに行ってください。

タイヤの点検項目

タイヤは次の項目を点検してください。

点検方法は別冊「メンテナンスノート」を参照してください。

● タイヤ空気圧

空気圧の点検は、タイヤが冷えているときに行ってください。

● タイヤの亀裂・損傷の有無

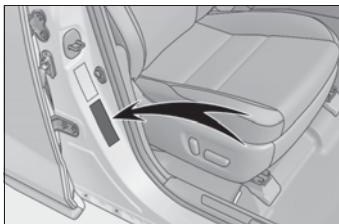
● タイヤの溝の深さ

● タイヤの異常摩耗（極端にタイヤの片側のみが摩耗していたり、摩耗程度が他のタイヤと著しく異なるなど）の有無

□ 知識

■ タイヤ空気圧について

タイヤの指定空気圧は、運転席側のタイヤ空気圧ラベルで確認することができます。



▶ 225/65R17 102H

前輪：240kPa (2.4kg/cm²) ※後輪：240kPa (2.4kg/cm²) ※

▶ 225/60R18 100H

前輪：220kPa (2.2kg/cm²) ※後輪：220kPa (2.2kg/cm²) ※

▶ 235/55R18 100V

前輪：220kPa (2.2kg/cm²) ※後輪：220kPa (2.2kg/cm²) ※▶ 応急用タイヤ★：420kPa (4.2kg/cm²) ※

※ タイヤが冷えているときの空気圧

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ タイヤ関連の部品を交換するとき

タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けナットを交換するときは、レクサス販売店にご相談ください。



警告

■ 点検・交換時について

必ず次のことをお守りください。
お守りいただかないと、駆動系部品の損傷や不安定な操縦特性により、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- タイヤはすべて同一メーカー・同一銘柄・同一トレッドパターンで、摩耗差のないタイヤを使用する
- メーカー指定サイズ以外のタイヤやホイールを使用しない
- ラジアルタイヤ・バイアスペルテッドタイヤ・バイアスライタイヤを混在使用しない

● サマータイヤ・オールシーズンタイヤ（マット&スノータイヤ）・冬用タイヤ（スタッドレスタイヤ）を混在使用しない

● 他の車両で使用していたタイヤを使用しない
以前どのように使用されていたか不明のタイヤは使用しない

■ 異常があるタイヤの使用禁止

異常があるタイヤをそのまま装着していると、走行時にハンドルをとられたり、異常な振動を感じることがあります。また、次のような事態になり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

● 破裂などの修理できない損傷を与える

● 車両が横すべりする

● 車両の本来の性能（燃費・車両の安定性・制動距離など）が発揮されない

■ 異常があるホイールの使用禁止

亀裂や変形などがあるホイールは使用しないでください。
走行中にタイヤの空気が抜けて、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。



注意

■ 走行中に空気もれが起こったら

走行を続けないでください。
タイヤまたはホイールが損傷することがあります。

注意

■ タイヤ・ホイール・空気圧バルブ／送信機・バルブキャップの修理・交換

- タイヤをホイールから脱着する際は、空気圧バルブ／送信機が損傷しないよう注意してください。脱着手順の詳細は、レクサス販売店へご相談ください。
- レクサス指定の純正ホイールを使用してください。
レクサス指定の純正ホイール以外を使用すると、空気圧警報システムが正しく作動しないおそれがあります。
- ホイールを交換したときは、空気圧バルブ／送信機を装着してください。空気圧バルブ／送信機が装着されていないと、タイヤ空気圧警告灯が消灯しません。
- バルブキャップを必ず取り付けてください。バルブキャップをはずしていると、水が浸入してバルブが固着する場合があります。
- バルブキャップを交換するときは、指定以外のバルブキャップを使用しないでください。バルブキャップが固着するおそれがあります。

■ パンク修理剤を使用したとき

空気圧が正確に計測できなくなることがあります。できるだけ早くレクサス販売店で点検を受け、空気圧バルブ／送信機を交換してください。

■ 悪路走行に対する注意

段差や凹凸のある路上を走行するときは注意してください。

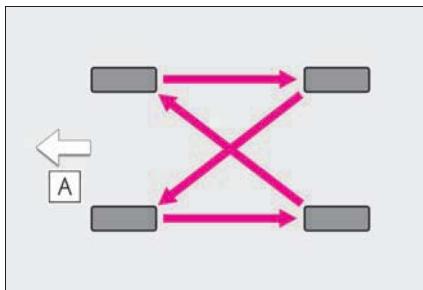
タイヤの空気が抜けて、タイヤのクッション作用が低下します。また、タイヤ・ホイール・車体などの部品も損傷するおそれがあります。

タイヤローテーションをするには

図で示す順にタイヤのローテーションを行う

タイヤの摩耗状態を均一にし、寿命をのばすために、レクサスは定期点検ごとのタイヤローテーションをおすすめします。

タイヤローテーション後は、タイヤ空気圧警報システムの初期化を確実に行ってください。



A 前側

知識

■ タイヤローテーションを行うとき（タイヤ空気圧警報システム【空気圧表示機能付】装着車）

必ずパワースイッチが OFF の状態で行ってください。ON モードのままタイヤローテーションを行うと、タイヤ位置情報が更新されません。

誤ってそのような状態になってしまったときは、パワースイッチをいったん OFF にしてから再度 ON モードにするか、タイヤ空気圧が正しく調整されていることを確認した上で、初期化操作を行ってください。

タイヤ空気圧警報システム

ディスクホイールに装着された空気圧バルブ、および送信機が一定周期ごとに各輪のタイヤ空気圧を監視し、タイヤの空気圧の低下を早期に知らせるタイヤ空気圧警報システムが付いています。

- 空気圧が一定値をこえて低下している場合、警告灯で警報します。
(→P.325)
- タイヤ空気圧警報システムが検知した空気圧をマルチインフォメーションディスプレイに表示できます。★



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

□ 知識

■ タイヤ空気圧警報システムについて

タイヤ空気圧警報システムは、日常点検の代用ではありません。

日常点検として必ずタイヤを点検してください。

タイヤの点検方法は、別冊「メンテナンスノート」を参照してください。

■ タイヤ空気圧警報システムが正常に動かないおそれのある状況

- 次の場合は、タイヤ空気圧警報システムが正しく作動しない場合があります。
 - ・ 純正ホイール以外を使用したとき

- ・ 純正装着タイヤ以外に交換したとき
- ・ 指定サイズ以外のタイヤに交換したとき
- ・ タイヤチェーンなどを装着しているとき
- ・ 電波を遮断するフィルムがフロント・リヤウインドウガラス、ドアガラスに貼り付けられているとき
- ・ 車両（特にホイール・ホイールハウスの周辺）に多くの雪や氷などが付着しているとき
- ・ タイヤ空気圧が指定空気圧より極端に高いとき
- ・ タイヤ空気圧警報バルブ／送信機を搭載していないホイールを使用しているとき
- ・ タイヤ空気圧警報バルブ／送信機のIDがタイヤ空気圧警報コンピューターに登録されていないとき

● 次の場合は正しい性能が確保できない場合があります。

- ・ 近くにテレビ塔や発電所・ガソリンスタンド・放送局・大型ディスプレイ・空港など、強い電波やノイズの発生する場所にいるとき
- ・ 無線機や携帯電話・コードレス式電話などの無線通信機器が車両付近にあるとき

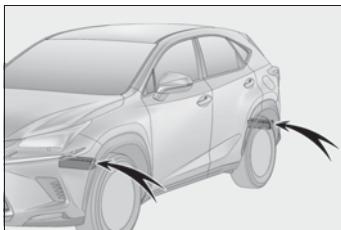
● 停車時は警報開始・警報解除までの時間が長くなる場合があります。

- タイヤが破裂（バースト）したときなど、空気圧が急激に低下したときは、警報できない場合があります。

⚠ 警告

■ 電波がおよぼす影響についての警告
(タイヤ空気圧警報システム [空気圧表示機能付] 装着車)

- 植え込み型心臓ペースメーカー、植え込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植え込み型除細動器を装着されている方は、アンテナから約45cm以内に近付かないようにしてください。電波により植え込み型心臓ペースメーカー、植え込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植え込み型除細動器の作動に影響を与えるおそれがあります。



- 植え込み型心臓ペースメーカー、植え込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植え込み型除細動器以外の医療用電気機器を使用される場合は、電波による影響について医療用電気機器製造業者などに事前に確認してください。電波により医療用電気機器の動作に影響を与えるおそれがあります。

空気圧バルブ／送信機の装着について

タイヤやホイールを交換するときは、付けかえたホイールにも空気圧バルブ／送信機を装着してください。バルブ／送信機を装着するには、次の3つの方法があります。

- もとのホイールからバルブ／送信

機をはずし、新しいホイールに付けかえる

- ホイールはバルブ／送信機が付いたままもとのものを使い、タイヤだけを交換する
- ホイールとバルブ／送信機共に新しいものにかける

新しいバルブ／送信機を装着する場合は専用のIDコードをコンピューターに登録する必要があります。登録の際は、レクサス販売店へご依頼ください。
(→P.302)

□ 知識

■ ホイールごとタイヤを交換するとき

ホイールごとタイヤを交換するときはタイヤ空気圧バルブ／送信機のIDコードが登録されていないと、タイヤ空気圧警報システムは正しく作動しません。その場合、約20分間走行したあとシステム異常となり、タイヤ空気圧警告灯が約1分間点滅、その後点灯します。

タイヤ空気圧警報システムを初期化するには

■ 初期化が必要な場合

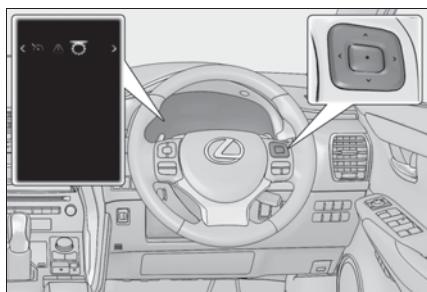
次のときは初期化操作を行ってください。

- タイヤローテーションを実施したとき
- タイヤ空気圧を調整したとき
- バルブ／送信機を交換したとき
- タイヤを交換したとき

システムを初期化すると、現在のタイヤの空気圧が標準値として記憶されます。

■ 初期化のしかた

- 1 車を安全な場所に駐車し、ハイブリッドシステムを停止する
車両が動いているときは、初期化できません。
- 2 タイヤの空気圧を指定の数値に調整する
タイヤ空気圧の調整はタイヤが冷えた状態で行ってください。タイヤ空気圧警報システムは、この空気圧を基準として作動します。
- 3 パワースイッチを ON モードにする
- 4 メーター操作スイッチの または を押して を選択する



- 5 メーター操作スイッチの または を押し、「車両設定」を選択し を押す
- 6 メーター操作スイッチの または を押し、「TPMS」を選択し を長押しする

メーターに “初期化を受け付けました” と表示され、タイヤ空気圧警告灯が 3 回点滅します。

メッセージが消えると初期化が完了します。

□ 知識

■ 初期化操作について

- 必ず指定空気圧に調整した上で初期化してください。
なお、空気圧の調整および初期化操作は、タイヤが冷えた状態で行ってください。
- 初期化中にパワースイッチを OFF にしてしまった場合は、次回 ON モードにしたとき、自動的に初期化処理が再開されるため、あらためて初期化操作をやり直す必要はありません。
- 初期化の必要がない状態で誤って初期化操作をしてしまったときは、タイヤが冷えている状態で指定空気圧に調整し、再度初期化操作を行ってください。

■ タイヤ空気圧警報システムの初期化がうまくいかないとき

通常 2、3 分で終了します。ただし、次の場合は、初期化されておらずシステムが適切に働かないおそれがありますので、初期化し直してください。それでもうまくいかないときは、レクサス販売店にて点検を受けてください。

- 初期化操作時に警告灯が 3 回点滅しない場合（走行中は初期化を受け付けません）
- 初期化してから約 20 分走行したあと、タイヤ空気圧警告灯が約 1 分間点滅後点灯した場合

⚠ 警告

■ タイヤ空気圧警報システムを初期化するとき

必ず指定空気圧に調整してから初期化操作をしてください。

お守りいただかないと、タイヤ空気圧が低下してもタイヤ空気圧警告灯が点灯しない、または適切な空気圧でもタイヤ空気圧警告灯が点灯してしまうことがあります。

ID コードの登録について

タイヤ空気圧バルブ／送信機には固有の ID コードが設定されており、タイヤ空気圧バルブ／送信機の交換時は、車両のコンピューターに ID コードを登録する必要があります。

ID コードの登録については、レクサス販売店にご依頼ください。

□ 知識

■ ID コードの登録について

車 1 台に対して、最大 2 セット分のホイールの ID コードを登録することができます。通常使用するタイヤとは別に、冬用タイヤを装着したホイールの ID コードをあらかじめ登録しておけば、冬用タイヤへの交換時に ID コードを登録しなおす必要がなく、便利です。ID コードの切り替えについては、レクサス販売店にご依頼ください。

タイヤ空気圧について

タイヤの空気圧を適正に維持するために、タイヤの空気圧点検を月に 1 回以上実施してください。

□ 知識

■ タイヤ空気圧が適正でない場合

適切に調整されていないタイヤ空気圧で走行すると、次のようなことが起こる場合があります。

- 燃費の悪化
- 乗り心地や操縦安定性の低下
- 摩耗によるタイヤ寿命の低下
- 安全性の低下

ひんぱんにタイヤ空気圧が低下する場合は、レクサス販売店でタイヤの点検を受けてください。

■ タイヤ空気圧の点検のしかた

タイヤ空気圧の点検の際は、次のことをお守りください。

- タイヤが冷えているときに点検する
- タイヤ空気圧ゲージを必ず使用する
タイヤの外観だけでは空気圧が適正かどうか判断できません。
- 走行後はタイヤの発熱により空気圧が高くなります。異常ではありませんので減圧しないでください。

⚠ 警告

- タイヤの性能を発揮するために
適正なタイヤ空気圧を維持してください。

タイヤ空気圧が適正に保たれていないと、次のようなことが起こるおそれがあり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 過度の摩耗
- 偏摩耗
- 操縦安定性の低下
- タイヤの過熱による破裂
- タイヤとホイールのあいだからでの空気漏れ
- ホイールの変形、タイヤの損傷
- 走行時にタイヤが損傷する可能性の増大（路上障害物、道路のつなぎ目や段差など）

⚠ 注意

- タイヤ空気圧の点検・調整をしたあとは

タイヤのバルブキャップを取り付けてください。

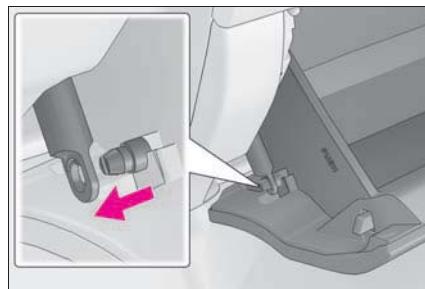
バルブキャップをはずしていると、ほこりや水分がバルブに入り空気が漏れ、タイヤの空気圧が低下するおそれがあります。

エアコンフィルターの交換

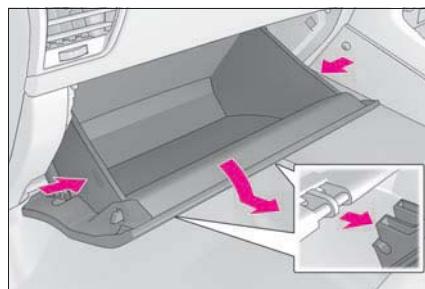
エアコンを快適にお使いいただくために、エアコンフィルターを定期的に交換してください。

交換するには

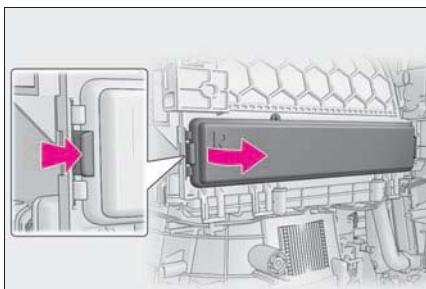
- 1 パワースイッチを OFF にする
- 2 グローブボックスを開き、ダンパーステーのピンをはずす



- 3 グローブボックス側面を内側に押して上部のツメを片側ずつはずし、下部のツメをはずして取りはずす

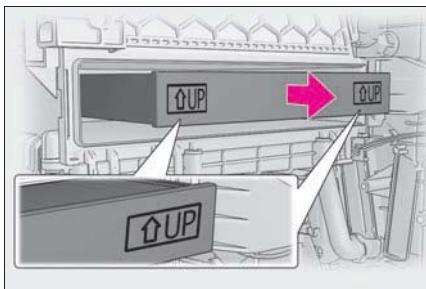


4 フィルターカバーを取りはずす



5 フィルターを取りはずし、新しいフィルターと交換する

「 UP」マークの矢印が上を向くように取り付けます。



知識

■ エアコンフィルターの交換について

エアコンフィルターは下記の時期を目安に交換してください。

15,000km[7,500km^{※1}]ごと、ただし12ヶ月をこえないこと^{※2}

*¹大都市や寒冷地など、交通量や粉じんの多い地区

*²芳香剤などの使用により脱臭寿命が著しく低下する場合があります。エアコンの臭いが気になりだしたらフィルターを交換してください。

■ エアコンの風量が減少したときは

フィルターの目詰まりが考えられますので、フィルターを交換してください。

注意

■ エアコンを使用するときの注意

- フィルターを装着せずにエアコンを使用すると、故障の原因になることがあります。必ずフィルターを装着してください。
- フィルターは、交換するタイプです。水洗いやエアブローによる清掃はしないでください。

電子キーの電池交換

電池が消耗しているときは、新しい電池に交換してください。

知識

■ カードキーの電池交換が必要なときは
カードキーの電池は市販されていないため、レクサス販売店で交換してください。

■ 電子キーの電池が消耗していると
次のような状態になります。

- スマートエントリー＆スタートシステム、ワイヤレス機能が作動しない
- 作動距離が短くなる

事前に準備するもの

交換をするには、次のものを準備してください。

- マイナスドライバー
- リチウム電池 : CR2032

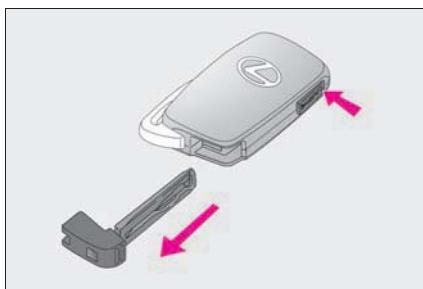
知識

■ リチウム電池 CR2032 の入手

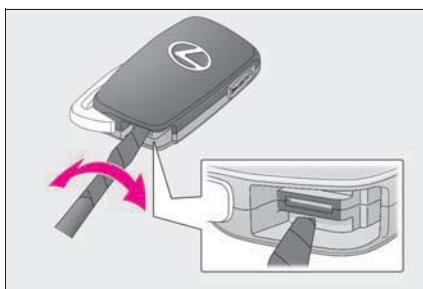
電池はレクサス販売店・時計店およびカメラ店などで購入できます。

電池を交換するには

1 メカニカルキーを抜く



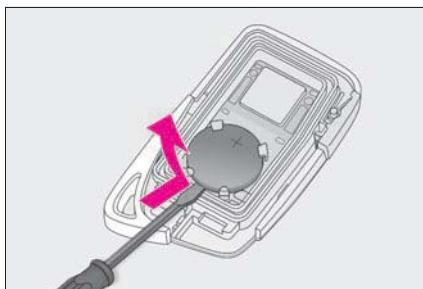
2 カバーをはずす



傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。

3 消耗した電池を取り出す

新しい電池は、+極を上にして取り付けます。



⚠ 警告

■取りはずした電池と部品について
お子さまにさわらせないでください。
部品が小さいため、誤って飲み込むと、
のどなどにつまらせ重大な傷害におよ
ぶか、最悪の場合死亡につながるおそ
れがあります。

⚠ 注意

■交換後、正常に機能させるために
次のことを必ずお守りください。

- ぬれた手で電池を交換しない
錆の原因になります。
- 電池以外の部品に、ふれたり動かし
たりしない
- 電極を曲げない

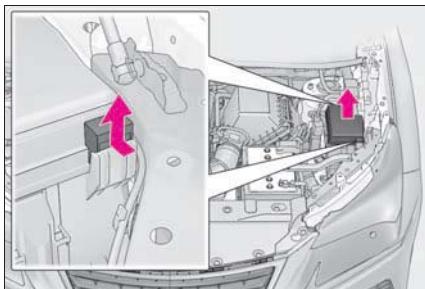
ヒューズの点検・交換

ランプがつかないときや電気系統
の装置が動かないときは、ヒュー
ズ切れが考えられます。ヒューズ
の点検を行ってください。

ヒューズの点検・交換をするに は

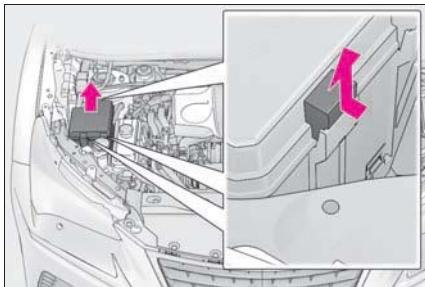
- 1 パワースイッチを OFF にする
 - 2 ヒューズボックスを開ける
- ▶ エンジルーム（ヒューズボック
ス A）

ツメを押してロックをはずし、カバーを
持ち上げる



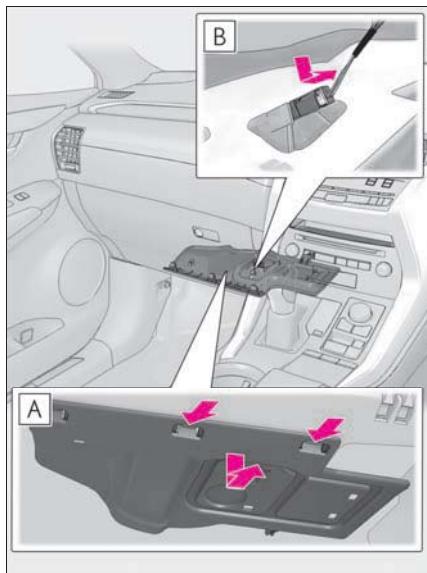
- ▶ エンジルーム（ヒューズボック
ス B）

ツメを押してロックをはずし、カバーを
持ち上げる

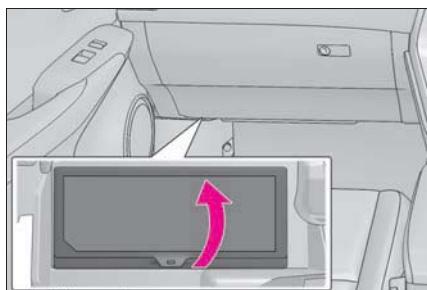


▶ 助手席足元

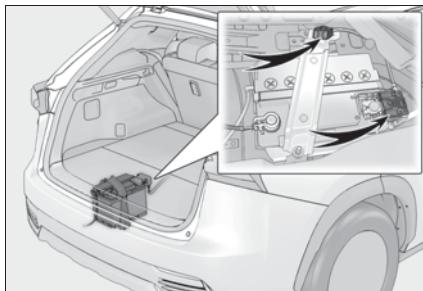
足元のカバー**A**を取りはずし、足元照明のコネクター**B**を取りはずす



ヒューズボックスカバーを取りはずす

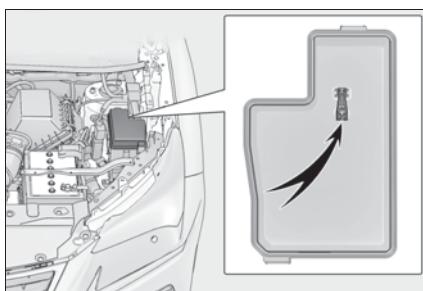


▶ ラゲージルーム



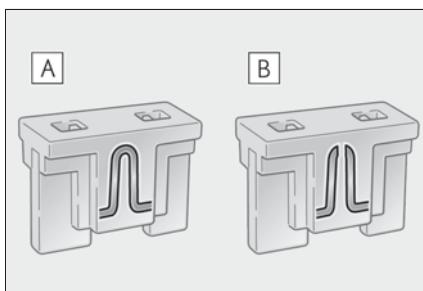
3 ヒューズを引き抜く

ヒューズはずしでヒューズを引き抜くことができます。



4 ヒューズが切れていないか点検する

ヒューズボックスの表示に従い、規定容量のヒューズに交換します。



A 正常

B ヒューズ切れ

 知識

■ ヒューズを交換したあと

- 交換してもランプ類が点灯しないときは、電球を交換してください。
- 交換しても再度ヒューズが切れる場合は、レクサス販売店で点検を受けてください。

■ 换機バッテリーからの回路に過剰な負荷がかかると

配線が損傷を受ける前にヒューズが切れ るように設計されています。

■ 電球（バルブ）を交換するときは

この車両に指定されているレクサス純正品のご使用をおすすめします。

一部の電球は過電流を防止する専用回路に接続されているため、この車両指定のレクサス純正品以外は使用できない場合があります。



警告

■ 車の故障や、車両火災を防ぐために

次のことをお守りください。

お守りいただかないと、車の故障や火災、けがをするおそれがあります。

- 規定容量以外のヒューズ、またはヒューズ以外のものを使用しないでください。
- 必ずレクサス純正ヒューズか同等品を使用してください。
- ヒューズやヒューズボックスを改造しないでください。

■ パワーコントロールユニット近くのヒューズボックスについて

高電圧部位・高電圧の配線が近くにあるため、絶対に点検・交換を行わないでください。

取り扱いを誤ると感電し、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



注意

■ ヒューズを交換する前に

ヒューズが切れた原因が電気の過剰負荷だと判明したときは、レクサス販売店で点検を受けてください。

電球（バルブ）の交換

もし LED がひとつでも点灯しないときは、レクサス販売店で交換してください。



知識

■ LED ランプについて

- ヘッドライト
- 車幅灯／LED デイライト
- フロント方向指示灯／非常点滅灯
- フロントフォグランプ／コーナーリングランプ
- リヤフォグランプ
- サイド方向指示灯／非常点滅灯
- 尾灯
- 制動灯
- ハイマウントストップランプ
- リヤ方向指示灯／非常点滅灯
- 後退灯
- 番号灯
- アウトサイドドアハンドル照明

上記のランプは LED で構成されています。もし LED がひとつでも点灯しないときは、レクサス販売店で交換してください。

■ レンズ内の水滴と曇り

レンズ内の一時的な曇りは、機能上問題ありません。ただし、次のようなときは、レクサス販売店にご相談ください。

- レンズ内側に大粒の水滴が付いている
- ランプ内に水がたまっている

7-1. まず初めに

- | | |
|---------------------|-----|
| 故障したときは..... | 312 |
| 非常点滅灯（ハザードランプ）..... | 313 |
| 発炎筒 | 313 |
| 車両を緊急停止するには | 314 |

7-2. 緊急時の対処法

- | | |
|----------------------------------|-----|
| けん引について..... | 316 |
| 警告灯がついたときは | 321 |
| 警告メッセージが表示されたときは | 328 |
| パンクしたときは（タイヤパンク応急修理キット装着車） | 332 |
| パンクしたときは（応急用タイヤ装着車）..... | 342 |
| ハイブリッドシステムが始動できないときは | 350 |
| キーをなくしたときは | 351 |
| 給油扉が開かないときは | 351 |
| 電子キーが正常に働かないときは | 352 |
| 補機バッテリーがあがつたときは | 354 |
| オーバーヒートしたときは | 359 |
| スタッツしたときは..... | 362 |

故障したときは

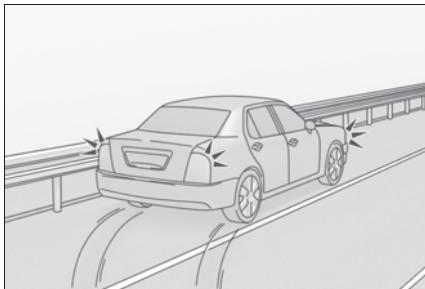
故障のときはすみやかに次の指示に従ってください。

対処のしかた

- 非常点滅灯（→P.313）を点滅させながら、車を路肩に寄せ停車する

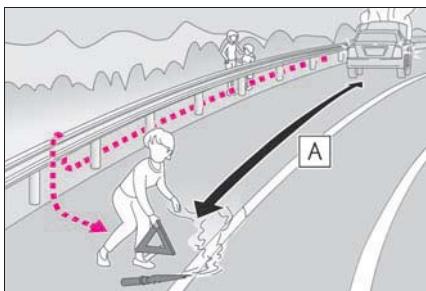
非常点滅灯は、故障などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるため使用します。

- 高速道路や自動車専用道路では、次のことに従う



- 1 同乗者を避難させる
- 2 車両の 50m 以上後方 **A** に発炎筒（→P.313）と停止表示板を置くか、停止表示灯を使用する
 - ・ 見通しが悪い場合はさらに後方に置いてください。
 - ・ 発炎筒は、燃料もれの際やトンネ

ル内では使用しないでください。

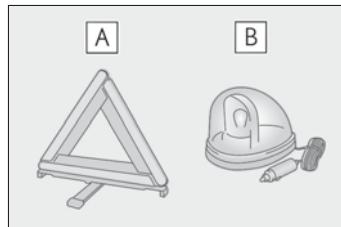


- 3 その後、ガードレールの外側などに避難する

□ 知識

■ 停止表示板・停止表示灯について

- 高速道路や自動車専用道路でやむを得ず駐停車する場合は、停止表示板または停止表示灯の表示が、法律で義務付けられています。
- 停止表示板・停止表示灯のご購入については、レクサス販売店にお問い合わせください。



A 停止表示板

B 停止表示灯

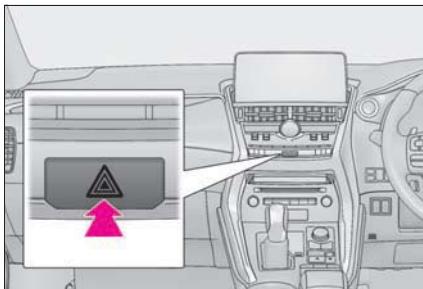
非常点滅灯（ハザードランプ）

故障などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるために使用してください。

点滅させるには

スイッチを押す

すべての方向指示灯が点滅します。
もう一度押すと消灯します。



□ 知識

■ 非常点滅灯について

ハイブリッドシステム停止中（READY インジケーターが点灯していないとき）に、非常点滅灯を長時間使用すると、補機バッテリーがあがるおそれがあります。

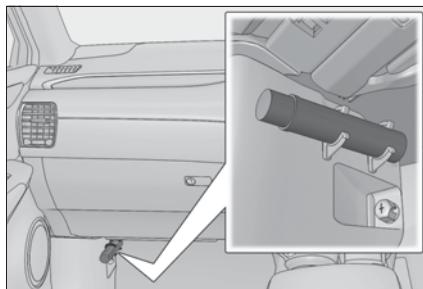
発炎筒

高速道路や踏切などでの故障・事故時に非常信号用として使用します。（トンネル内や可燃物の近くでは使用しないでください）

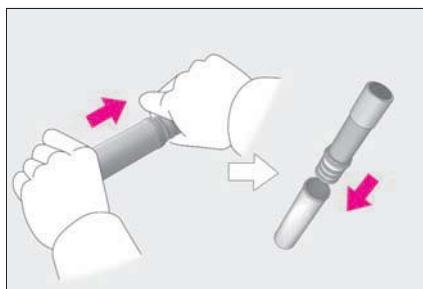
発炎時間は約 5 分です。非常点滅灯と併用してください。

発炎筒を使うには

1 助手席足元の発炎筒を取り出す



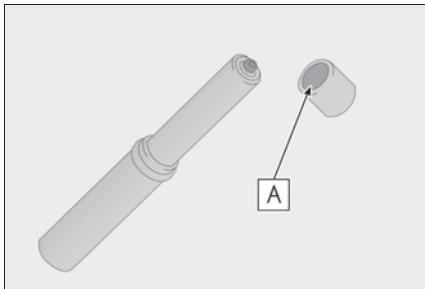
2 本体をまわしながら抜き、本体を逆さにして挿し込む



3 先端のフタを取り、すり薬Aで発炎筒の先端をこすり、着火させる

必ず車外で使用してください。
着火させる際は、筒先を顔や体に向けな

いでください。



□ 知識

■ 発炎筒の交換について

本体に表示してある有効期限が切れる前に、レクサス販売店でお求めください。有効期限が切れると、着火しなかつたり、炎が小さくなる場合があります。

⚠ 警告

■ 発炎筒を使用してはいけない場所

次の場所では、発炎筒を使用しないでください。

煙で視界が悪くなったり、引火するおそれがあるため危険です。

- トンネル内
- ガソリンなど可燃物の近く

■ 発炎筒の取り扱いについて

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

- 使用中は、発炎筒を顔や体に向けたり、近付けたりしない
- 発炎筒は、お子さまにさわらせない

車両を緊急停止するには

万一、車が止まらなくなったときの非常時のみ、手順に従って車を停止させてください。

車を停止するには

- 1 ブレーキペダルを両足でしっかりと踏み続ける

ブレーキペダルをくり返し踏まないでください。通常より強い力が必要となり、制動距離も長くなります。

- 2 シフトレバーを N に入る

▶ シフトレバーが N に入った場合

- 3 減速後、車を安全な道路脇に停める

- 4 ハイブリッドシステムを停止する

▶ シフトレバーが N に入らない場合

- 3 ブレーキペダルを両足で踏み続け、可能な限り減速させる

- 4 パワースイッチを 2 秒以上押し続けるか、素早く 3 回以上連続で押してハイブリッドシステムを停止する



- 5 車を安全な道路脇に停める

 **警告**

- 走行中にやむを得ずハイブリッドシステムを停止するときは
ハンドル操作が重くなるため、車のコントロールがしにくくなり危険です。
ハイブリッドシステムを停止する前に、十分に減速するようしてください。

けん引について

けん引は、できるだけレクサス販売店または専門業者に依頼ください。

その場合は、レッカー車または、車両運搬車を使用することをおすすめします。

やむを得ず他車にロープでけん引してもらう場合は、車両積載車までの移動など、できるだけ短距離にとどめてください。

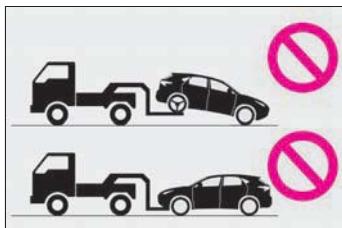
⚠ 警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害によぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ レッカー車でけん引するとき

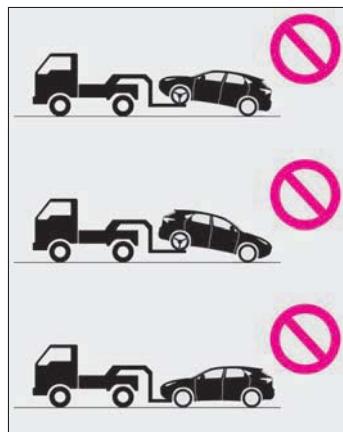
▶ FF（前輪駆動）

必ず前輪を持ち上げるか、4輪とも持ち上げた状態で運搬してください。前輪が地面に着いた状態でけん引すると、駆動系部品が破損したり、モーターが回転することにより発電され、故障や破損の状態によっては火災が発生するおそれがあります。



▶ AWD（4輪駆動）

4輪とも持ち上げた状態で運搬してください。タイヤが地面に着いた状態でけん引すると、駆動系部品の破損や、車が台車から飛び出したり、モーターが回転することにより発電され、故障や破損の状態によっては火災が発生するおそれがあります。



■ 他車にけん引してもらうときの運転について

- けん引フックやロープに過剰な負荷をかける急発進などを避けてください。

けん引フックやロープが破損し、その破片が周囲の人などにあたり、重大な傷害を与えるおそれがあります。

- パワースイッチを OFF にしないでください。

ハンドルがロックされ、ハンドル操作ができなくなるおそれがあります。

■ けん引フックを車両に取り付けるとき

指定の位置にしっかりと取り付けてください。

指定の位置にしっかりと取り付けないとけん引時にフックがはずれるおそれがあります。

⚠ 注意

■車両の損傷を防ぐために

- 他車にけん引してもらうときは次のことを必ずお守りください。
 - ・ ワイヤーロープは使用しない
 - ・ 速度は30km/h以下、距離は車両積載車までの移動など、できるだけ短距離にとどめる
 - ・ 前進方向でけん引する
 - ・ サスペンション部などにロープをかけない
- この車両で他車やボート（トレーラー）などをけん引しないでください。

■長い下り坂でけん引するときは

レッカー車で前輪を持ち上げるか（FF [前輪駆動]）、4輪とも持ち上げた状態でけん引してください。レッカー車でけん引しないと、ブレーキが過熱し効果が悪くなるおそれがあります。

■緊急用フックについて

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、装置の変形や車両の損傷などにつながるおそれがあります。

- やむを得ない場合以外は使用しないでください。
- 緊急用フックで他車をけん引しないでください。

けん引の前に販売店への連絡が必要な状況

次の場合は、駆動系の故障が考えられるため、レクサス販売店または専門業者へご連絡ください。

- ハイブリッドシステム警告メッセージが表示され、車が動かない

● 異常な音がする

レッカー車でけん引するには

- 前向きにけん引するときは
FF（前輪駆動）



パーキングブレーキを解除する

- 前向きにけん引するときは
AWD（4輪駆動）



台車を使用して後輪を持ち上げる

- うしろ向きにけん引するときは

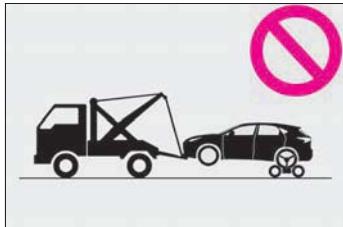


台車を使用して前輪を持ち上げる

⚠ 注意

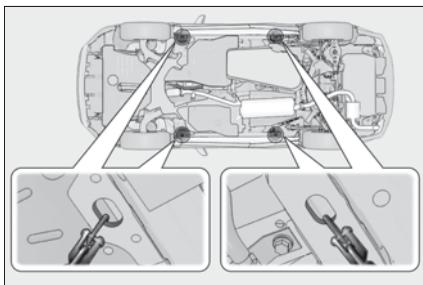
■ レッカーカーでけん引するとき

車両の損傷を防ぐために図のようなレッカーカーではけん引しないでください。

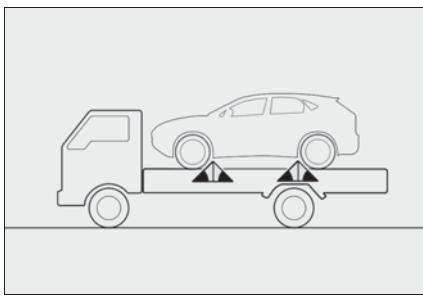


車両運搬車を使用するには

車両運搬車で輸送するときは、図の場所で固縛する



鎖やケーブルなどを使用して車両を固縛する場合は図に黒く示す角度が45° になるように固縛する



⚠ 注意

■ 車両運搬車に車を固縛するとき

ケーブル等を過度に締め付け過ぎないでください。車両の損傷につながるおそれがあります。

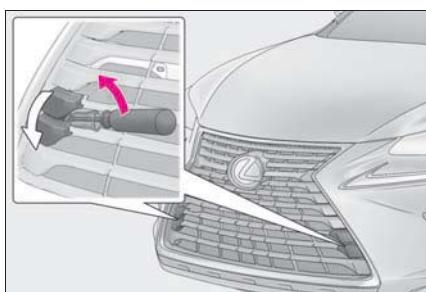
他車にけん引してもらうには

他車にけん引してもらうときは、けん引フックを取り付ける必要があります。手順に従って取り付けてください。

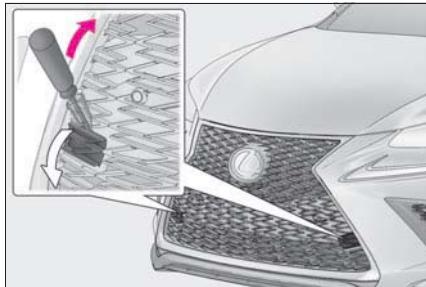
- 1 けん引フックを取り出す
(→P.333, 343)
- 2マイナスドライバーを使ってフタをはずす

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。

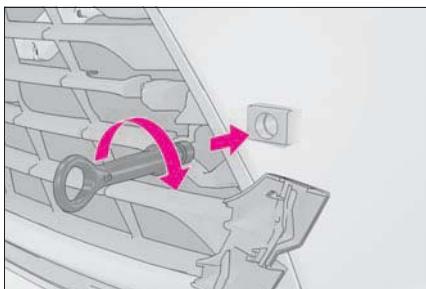
▶ タイプA



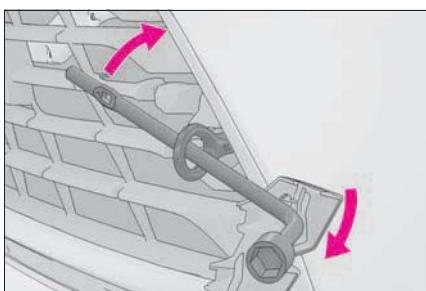
▶ タイプB



- 3** けん引フックを穴に挿し込んでまわし、軽く締める



- 4** ホイールナットレンチや金属の長い棒などを使い確実に取り付ける



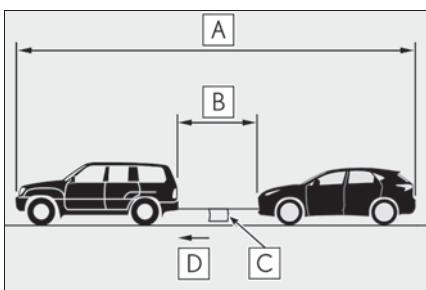
- 5** 車体に傷が付かないようにロープをけん引フックにかける

車体に傷が付かないように注意してください。また、前進方向でけん引してください。

- 6** ロープの中央に白い布を付ける

布の大きさ：

0.3m 平方 (30cm×30cm) 以上



- A** 25m 以内

B 5m 以内

C 白い布

D けん引方向

- 7** 運転者はけん引される車両に乗り、ハイブリッドシステムを始動する

ハイブリッドシステムが始動しないときは、パワースイッチを ON モードにしてください。

- 8** けん引される車両のシフトレバーを N にしてから、パーキングブレーキを解除する

けん引中は、ロープがたるまないよう、減速時なども前の車の速度に合わせてください。

シフトレバーがシフトできないときは：→P.161

□ 知識

■ けん引フックの使用目的

けん引フックはけん引してもらうときに使うものであり、他車をけん引するためのものではありません。

■ 他車にけん引してもらうとき

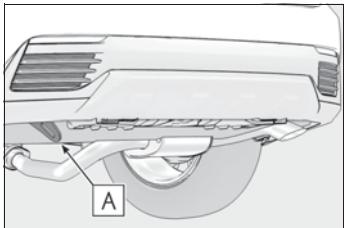
ハイブリッドシステムが停止しているとブレーキの効きが悪くなったり、ハンドル操作が通常より重くなったりします。

■ ホイールナットレンチについて

ラゲージルームに搭載されています。
(→P.333, 343)

■ 緊急用フックについて

雪の吹きだまりなどでスタックして走行できなくなったとき、やむを得ず他車に引っ張り出してもらうために使用することができます。他車をけん引することはできません。



A 緊急用フック

警告灯がついたときは

警告灯が点灯または点滅したままの場合は、落ち着いて次のように対処してください。なお、点灯・点滅しても、その後消灯すれば異常ではありません。ただし、同じ現象が再度発生した場合は、レクサス販売店で点検を受けてください。

警告灯・警告ブザーへの対応

■ ブレーキ警告灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
 (赤色)	<ul style="list-style-type: none"> ●ブレーキ液の不足 ●ブレーキ系統の異常 <p>→ ただちに安全な場所に停車し、レクサス販売店へ連絡してください。走行を続けると危険です。</p>

■ 充電警告灯※

警告灯	警告内容・対処方法
	<p>充電系統の異常</p> <p>→ ただちに安全な場所に停車し、レクサス販売店へ連絡してください。走行を続けると危険です。</p>

※ マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

■ 出力制限警告灯※（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
	<p>ハイブリッドシステムが過熱しています。</p> <p>→ P.359</p>

※ マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

■ 油圧警告灯※（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
	<p>エンジンオイルの圧力が異常に低いと表示されます。</p> <p>→ ただちに安全な場所に停車し、レクサス販売店へ連絡してください。走行を続けると危険です。</p>

※ マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

■ 高水温警告灯 ※ (警告ブザー)

警告灯	警告内容・対処方法
	エンジン冷却水の高温異常 → ただちに安全な場所に停車してください。走行を続けると危険です。対処方法 (→P.359)

* マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

■ ブレーキ警告灯 (警告ブザー)

警告灯	警告内容・対処方法
 (黄色)	●電子制御ブレーキシステムの異常 ●電動パーキングブレーキシステムの異常 → ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

■ エンジン警告灯

警告灯	警告内容・対処方法
	●ハイブリッドシステムの異常 ●エンジン電子制御システムの異常 ●電子制御スロットルの異常 → ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

■ SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯

警告灯	警告内容・対処方法
	●SRS エアバッグシステムの異常 ●プリテンショナー付きシートベルトシステムの異常 → ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

■ ABS & ブレーキアシスト警告灯

警告灯	警告内容・対処方法
	●ABS の異常 ●ブレーキアシストの異常 → ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

■ パワーステアリング警告灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
 (黄色)	EPS（エレクトリックパワーステアリング）の異常 → ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。
 (赤色)	

■ PCS 警告灯

警告灯	警告内容・対処方法
 (点滅または点灯)	炎天下や極寒の環境、またはセンサーが汚れているなどの状況のため一時的に作動しない、またはプリクラッシュセーフティシステムの異常（→P.197, 330） → マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージを確認してください。（→P.197, 330） プリクラッシュセーフティシステムが OFF、または VSC（ビークルスタビリティコントロール）システムが停止しているときも点灯します。 → P.197

■ LDA 表示灯※

警告灯	警告内容・対処方法
 (橙色)	LDA（レーンディバーチャーアラート〔ステアリング制御機能付き〕）の異常 → マルチインフォメーションディスプレイに「LDA 現在利用できません」が表示された場合は、いったん LDA を OFF にして、しばらくしてから再度 LDA を ON してください。（→P.200） それ以外のメッセージが表示された場合は、メッセージの指示に従ってください。

※ マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

■ PKSB OFF 表示灯★ (警告ブザー)

警告灯	警告内容・対処方法
 (点滅)	<p>ブザーが鳴った場合： パーキングサポートブレーキ（静止物）の異常 → ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。</p> <p>ブザーが鳴らなかつた場合： センサー部の汚れなどによりシステムが一時的に使用できない → 汚れおよび氷などを取り除いてください。</p>

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ スリップ表示灯

警告灯	警告内容・対処方法
	<ul style="list-style-type: none"> ●VSC システムの異常 ●TRC システムの異常 ●ヒルスタートアシストコントロールシステムの異常 ABS・VSC・TRC システム作動時は点滅します。 → ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

■ ブレーキホールド作動表示灯

警告灯	警告内容・対処方法
 (点滅)	ブレーキホールドシステムの異常 → ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

■ パーキングブレーキ表示灯

警告灯	警告内容・対処方法
 (点滅)	パーキングブレーキが完全にかかっていない、または解除されていない可能性があります。 → パーキングブレーキスイッチを再度操作してください。 パーキングブレーキが解除されていないときは点灯します。解除後、消灯すれば正常です。

■ 燃料残量警告灯

警告灯	警告内容・対処方法
	燃料の残量が約 8.4L 以下になった → 燃料を補給する

■ シートベルト非着用警告灯（警告ブザー※）

警告灯	警告内容・対処方法
	運転席・助手席シートベルトの非着用 → シートベルトを着用する

※ 運転席・助手席シートベルト非着用警告ブザー：

運転席・助手席シートベルト非着用のまま車速が約 20km/h 以上になると警告ブザーが 1 回鳴ります。その後も運転席・助手席シートベルトを非着用のまま 24 秒を経過すると、30 秒間断続的に鳴り、さらにブザーの音がかわり 90 秒間鳴ります。

■ マスターウォーニング

警告灯	警告内容・対処方法
	システムの異常時にブザーと共に点灯・点滅し、マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージを表示します。 → P.328

■ タイヤ空気圧警報灯

警告灯	警告内容・対処方法
	<p>警告灯が点灯した場合： 次のようなタイヤ空気圧の低下を表します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●自然要因 (→P.326) ●タイヤのパンク (→P.332, 342) <p>→ 指定された空気圧に調整してください。 調整して数分後に警告灯が消灯します。 空気圧を調整しても警告灯が消灯しない場合は、レクサス販売店で点検を受けてください。</p> <p>警告灯が 1 分間点滅したあとに点灯した場合： タイヤ空気圧警報システムに異常があります。 → レクサス販売店で点検を受けてください。</p>

■ ブレーキオーバーライドシステム／ドライブスタートコントロール警告灯

※ (警告ブザー)

警告灯	警告内容・対処方法
	<p>ブレーキオーバーライドシステム アクセルペダルとブレーキペダルが同時に踏まれたことによりブレーキオーバーライドシステムが作動 → アクセルペダルを離し、ブレーキペダルを踏んでください。</p> <p>ブレーキオーバーライドシステムの異常（警告ブザー） → ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。</p> <p>ドライブスタートコントロール アクセルペダルを踏んだ状態でシフト操作が行われたことによりドライブスタートコントロールが作動（警告ブザー） → ただちにアクセルペダルを離してください。</p> <p>ドライブスタートコントロールの異常（警告ブザー） → ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。</p>

※ マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。



知識

■ シートベルト非着用警告灯の乗員検知センサーの作動について

- 助手席に乗員がいなくても、シートに荷物などを置くと、センサーが重量を検知して警告灯が点滅することがあります。

- 助手席に座布団などを敷くと、センサーが乗員を検知せず警告灯が作動しないことがあります。

■ エンジン警告灯が走行中に点灯したとき

以下をチェックしてください。

- 燃料タンクは空ですか？もしそうであれば、すぐに給油してください。

- キヤップは緩んでいませんか？ そうであれば、しっかりと締めてください。

何度か走行すると、エンジン警告灯が

消灯します。

何度か走行してもエンジン警告灯が消灯しない場合、ディーラーへご相談ください。

■ パワーステアリング警告灯／警告ブザーについて

補機バッテリーの充電が不十分な場合、または一時的に電圧が下がった場合に警告灯が点灯し、警告ブザーが鳴ることがあります。

■ タイヤ空気圧警告灯が点灯した場合

空気圧を確認し、適切な値に調整してください。

■ 自然要因によるタイヤ空気圧警報について

自然な空気もれ、外気温による空気圧の変化など、自然要因によりタイヤ空気圧警告灯が点灯することができます。この場合、タイヤ空気圧を適切な値に調整してください。数分後に警告灯が消灯しま

す。

- タイヤ空気圧警報システムが正常に働かないおそれがある状況

→P.299

■ 警告ブザーについて

状況によっては、外部の騒音やオーディオの音などにより、ブザー音が聞こえない場合があります。



警告

■ ABS 警告灯とブレーキ警告灯が同時に点灯したときは

ただちに安全な場所に停車し、レクサス販売店にご連絡ください。

ABS またはブレーキアシストシステムに異常が発生しているだけでなく、強めのブレーキの際に車両が不安定になるおそれがあり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ パワーステアリング警告灯が点灯したときは

黄色に点灯したときは操舵力補助が制限され、赤色に点灯したときは操舵力補助がなくなるため、ハンドル操作が非常に重くなることがあります。

ハンドル操作が通常より重いときは、ハンドルをしっかりと持ち、通常より強く操作してください。

■ タイヤ空気圧警告灯が点灯した場合

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、駆動系部品の損傷や不安定な操縦特性により、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

できる限り速やかに安全な場所に停車し、タイヤ空気圧を調整してください。

- タイヤ空気圧を調整したあとも警告灯が点灯する場合はタイヤがパンクしている可能性があります。タイヤを確認し、パンクしている場合は応急用タイヤに交換するかタイヤパンク応急修理キットで応急修理し、最寄りのレクサス販売店でタイヤを修理してください。

- 急ハンドル・急ブレーキを避けてください。

タイヤの状態が悪化すると、ハンドル操作やブレーキが効かなくなるおそれがあります。

■ タイヤの破裂、突然の空氣もれが発生した場合

急激にタイヤ空気圧が低下した場合は、タイヤ空気圧警報システムによる警報ができない場合があります。



注意

■ タイヤ空気圧警報システムについての注意

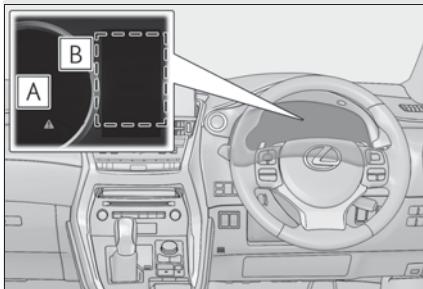
- 純正ホイール以外を使用した場合、バルブ／送信機から発信する電波の飛び方がかわり、システムが正常に作動しないことがあります。

- 構造・メーカー・銘柄・トレッドパターンが異なるタイヤを使用しないでください。タイヤ空気圧警報システムが正常に作動しないことがあります。

- タイヤ空気圧警告灯の点灯および点滅は、初期化操作（→P.300）では解除できません。

警告メッセージが表示されたときは

マルチインフォメーションディスプレイには、システムの故障や誤った操作をしたときの警告、メンテナンスが必要であることをお知らせするメッセージが表示されます。メッセージが表示されたときは、メッセージの内容に従って対処してください。



A マスター オーナー インジケーター

マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されているとき、点灯・点滅します。

B マルチインフォメーション

ディスプレイ

マルチインフォメーションディスプレイのメッセージに従ってください。

処置後に再度メッセージが表示されたときは、レクサス販売店へご連絡ください。

メッセージと警告作動

メッセージの内容によって警告灯や警告ブザーの作動が次のように切りかわります。ディーラーで点検をするように表示されたときは、ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

	専用警告灯	警告ブザー ※	警告内容
点灯	—	あり	走行にかかるシステムの故障や、そのまま放置すると思わぬ危険を招くおそれがあるなどの重要なメッセージを意味します。
—	点灯または点滅	あり	表示されたシステムに故障のおそれがあるなどのメッセージを意味します。
点滅	—	あり	車両への損傷や、思わぬ危険を招くおそれがあるなどのメッセージを意味します。
点灯	—	なし	電装品の故障や状態、メンテナンスのお知らせなどのメッセージを意味します。
点滅	—	なし	車両を正しく操作していない場合や、操作方法のアドバイスなどを意味します。

* メッセージを最初に表示したときに作動します。



■ 警告メッセージについて

文中の警告メッセージの表示は、使用状況や車両の仕様により実際の表示と異なる場合があります。

■ 専用警告灯について

次の内容のメッセージが表示されたときは、マスターオーナリングが点灯・点滅

しません。その場合は個別の専用警告表示を行います。

● ABS の異常

ABS & ブレーキアシスト警告灯が点灯します。 (→P.322)

● 充電系統の異常

充電警告灯が点灯します。 (→P.321)

■「ハイブリッドシステム高温 出力制限中です」が表示されたとき

負荷の高い走行状況（例えば、長い上り坂を走行）のときにメッセージが表示される場合があります。

対処方法 → P.359

■「補機バッテリ（始動用）充電不足」が表示されたときは

- 数秒後※に表示が消えたときは
約 15 分以上、ハイブリッドシステムが作動した状態を保持し、補機バッテリーを充電してください。

● 表示が消えないときは

「補機バッテリーガガガつたときは」
(→P.354) の手順でハイブリッドシステムを始動してください。

※ 約 6 秒間表示されます。

■「駆動用電池保護が必要 N レンジの使用を控えてください」が表示されたとき

シフトレバーが N のときにメッセージが表示されることがあります。

シフトレバーが N では充電できないため、長時間停車するときはシフトレバーを P してください。

■「駆動用電池保護が必要 P レンジにして再始動してください」が表示されたとき

長時間シフトレバーが N になっているため、駆動用電池の残量が低下したときにメッセージが表示されます。

車両を動かす場合は、ハイブリッドシステムを再始動してください。

■「駐車時は P レンジに入れてください」が表示されたとき

シフトレバーが P 以外でパワースイッチを OFF にせずに運転席ドアが開いたときにメッセージが表示されます。

駐車時は P してください。

■「N レンジです アクセルを緩めて 希望レンジに切りかえてください」が表示されたとき

シフトレバーが N で、アクセルペダルを踏んだときにメッセージが表示されます。アクセルペダルから足を離し、シフトレバーを D、S または R にしてください。

■「停車時はブレーキを踏んでください」が表示されたとき

上り坂などでの停車時にアクセルペダルを踏んで車両を保持するとメッセージが表示される場合があります。

そのままの状態を続けるとハイブリッドシステムが過熱するおそれがあります。アクセルペダルから足を離し、ブレーキペダルを踏んでください。

■「前方カメラ一時使用不可しばらくお待ちください」または「前方カメラ一時使用不可ガラスの汚れや曇りを取ってください」が表示されたとき

次のシステムが一時的にもしくは対処を行うまで使用できなくなります。

● PCS（プリクラッシュセーフティシステム）

● LDA（レーンディバーチャーアラート [ステアリング制御機能付き]）

● レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付）

● アダプティブハイビームシステム

● オートマチックハイビーム

■「取扱書を確認」の警告メッセージが表示されたときは

● 次のメッセージが表示されたときは、対処方法に従ってください。

・「エンジン冷却水高温」(→P.359)

・「補機バッテリ（始動用）充電不足」(→P.354)

● 次のメッセージが表示されたときは、故障している可能性があります。ただ

ちにレクサス販売店で点検を受けてください。

- ・「ハイブリッドシステム故障」
- ・「エンジン系故障」
- ・「バッテリー系故障」
- ・「アクセル系故障」
- ・「故障のためブレーキ力が低下」
- ・「スマートエントリー＆スタートシステム故障」

■「補機バッテリ（始動用）充電不足」 がひんぱんに表示されるときは

補機バッテリーが劣化している可能性があります。その状態で放置しておくと、補機バッテリーあがりを起こすおそれがあるため、レクサス販売店で補機バッテリーの点検を受けてください。

- “駆動用電池の冷却部品のメンテナンス必要 取扱書を確認” が表示されたときは、フィルターが目づまりしている、冷却用の吸入口がふさがれている、またはダクトにすき間があるなどが考えられますので、次の対処方法に従ってください。
- ・ 駆動用電池冷却用吸入口が汚れている場合は P.290 の要領で清掃してください。
- ・ 駆動用電池冷却用吸入口が汚れていないのにメッセージが表示されたときは、レクサス販売店で点検を受けてください。
- 次のメッセージが表示されたときは、故障している可能性があります。ただちに安全な場所に停車し、レクサス販売店へ連絡してください。走行を続けると危険です。
- ・ 「エンジン油圧不足」
- ・ 「充電システム故障」

■警告ブザーについて

→P.327



注意

■「電力消費が大きいため一部の空調・ ヒータ作動を制限中」がひんぱんに 表示されるときは

充電系の異常や補機バッテリーが劣化している可能性があります。レクサス販売店で点検を受けてください。

パンクしたときは（タイヤパンク応急修理キット装着車）

タイヤパンク応急修理キット装着車には、応急用タイヤが搭載されています。

タイヤがパンクしたときは、タイヤパンク応急修理キットで応急修理することができます。釘やネジなどが刺さった程度の軽度なパンクを応急修理できます。（パンク補修液 1 本につき、応急修理できるタイヤは 1 本です）

タイヤパンク応急修理キットで応急修理したタイヤの修理・交換については、レクサス販売店にご相談ください。

⚠ 警告

■ タイヤがパンクしたときは

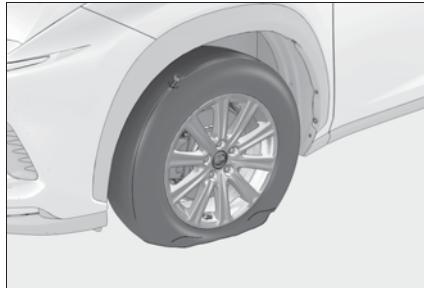
パンクしたまま走行しないでください。短い距離でも、タイヤとホイールが修理できないほど損傷したり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

応急修理する前に

- 地面が固く平らで安全な場所に移動する
 - パーキングブレーキをかける
 - シフトレバーを P にする
 - ハイブリッドシステムを停止する
 - 非常点滅灯を点滅させる
(→P.313)
 - タイヤの損傷程度を確認する
- 釘やネジなどが刺さっている場合のみ、
タイヤを応急修理してください。

- ・ タイヤに刺さっている釘やネジなどは抜かないでください。抜いてしまうと穴が大きくなりすぎ、応急修理ができなくなることがあります。

- ・ パンク補修液がもれないようにするために、パンク箇所が分かっている場合は、パンク箇所が上になるように車両を移動してください。

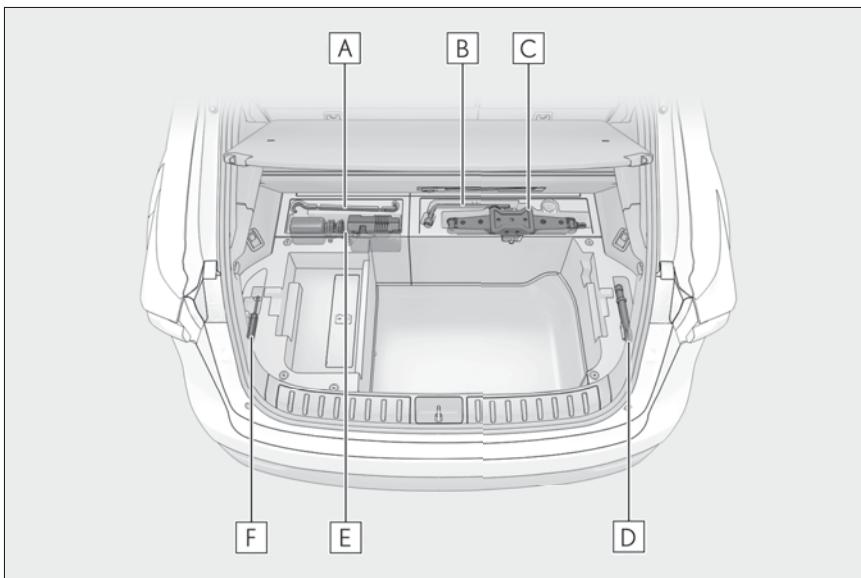


□ 知識

■ 次の場合は、応急修理キットでは応急修理できません。レクサス販売店にご連絡ください。

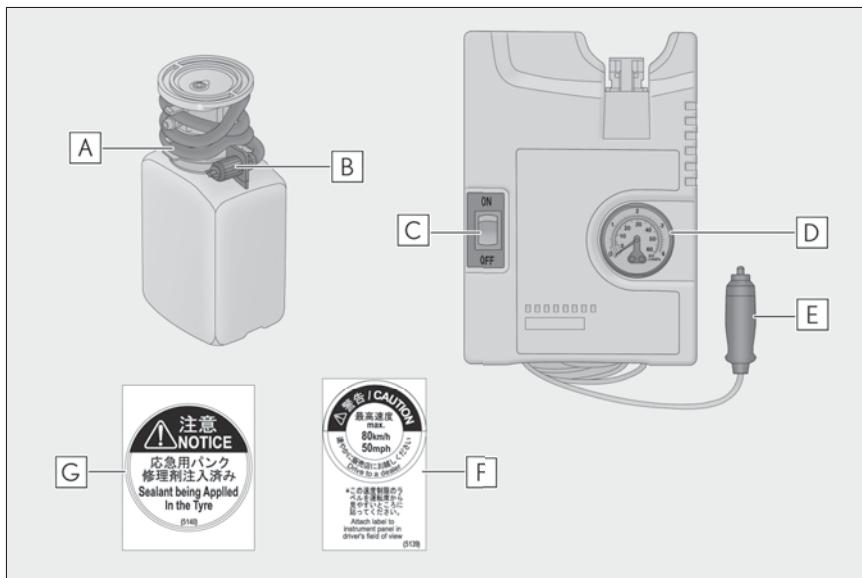
- タイヤ空気圧が不十分な状態で走行してタイヤが損傷しているとき
- タイヤ側面など、接地面以外に穴や損傷があるとき
- タイヤがホイールから明らかにはずれているとき
- タイヤに 4mm 以上の切り傷や刺し傷があるとき
- ホイールが破損しているとき
- 2 本以上のタイヤがパンクしているとき
- 1 本のタイヤに 2 箇所以上の切り傷や刺し傷があるとき

タイヤパンク応急修理キットと工具の位置



- A** ジャッキハンドル
- B** ホイールナットレンチ
- C** ジャッキ※
※ ジャッキの使い方 (→P.345)
- D** けん引フック
- E** タイヤパンク修理キット
- F** ドライバー

応急修理キットの内容



- A** ホース
- B** 空気逃がしキャップ
- C** 電源スイッチ
- D** 空気圧計
- E** 電源プラグ
- F** 速度制限ラベル
- G** パンク補修液注入済ラベル

□ 知識

■ 応急修理キットについて

- 応急修理キットは自動車タイヤの空気充填用です。
- パンク補修液には有効期限があります。有効期限は容器に表示されています。有効期限が切れる前に交換してください。交換については、レクサス販売店にご相談ください。
- 応急修理キットのパンク補修液は、1本のタイヤを一度だけ応急修理できます。
- 使用したパンク補修液の交換は、レクサス販売店にご相談ください。コンプレッサーは、くり返し使用できます。
- 外気温度が-40°C~60°Cのときに使用できます。
- 応急修理キット搭載車両の装着タイヤ専用です。指定タイヤサイズ以外のタイヤや、他の用途には使用しないでください。
- パンク補修液が衣服に付着すると、シミになる場合があります。

使用したパンク補修液の交換は、レクサス販売店にご相談ください。

コンプレッサーは、くり返し使用できます。

● 外気温度が-40°C~60°Cのときに使用できます。

● 応急修理キット搭載車両の装着タイヤ専用です。指定タイヤサイズ以外のタイヤや、他の用途には使用しないでください。

● パンク補修液が衣服に付着すると、シミになる場合があります。

- パンク補修液がホイールやボデーに付着した場合、放置すると取れなくなるおそれがあります。ぬれた布などですみやかにふき取ってください。
- 応急修理キット作動中は、大きな音がしますが故障ではありません。
- タイヤ空気圧の点検や調整には使用しないでください。

■応急修理キットの点検について

パンク補修液の有効期限の確認は定期的に行ってください。

有効期限はボトルに表示されています。有効期限が切れたパンク修理液は使用しないでください。応急修理キットによる修理が正常にできない場合があります。



警告

■応急修理キットについて

- 応急修理キットは指定の位置に収納してください。
急ブレーキ時などに応急修理キットが飛び出したりして破損したり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 応急修理キットはお客様の車専用です。他の車には使わないでください。他の車に使うと思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 指定タイヤサイズ以外のタイヤや他の用途には使用しないでください。
パンク修理が完全に行われず、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

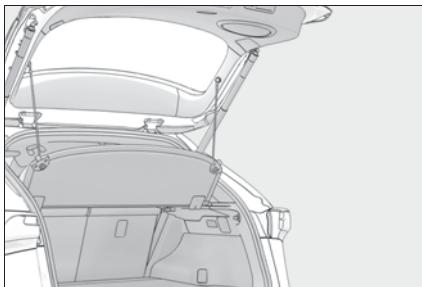
■パンク補修液について

- 誤って飲み込むと健康に害があります。その場合はできるだけたくさん水を飲み、ただちに医師の診察を受けてください。

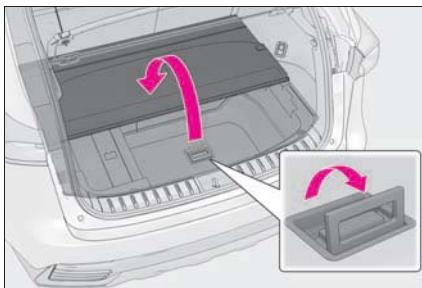
- もし目に入ったり、皮膚に付着したりした場合には、水でよく洗い流してください。それでも異常を感じたときは、医師の診察を受けてください。

応急修理キットを取り出すには

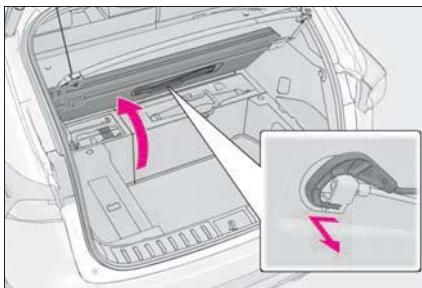
1 バックドアを開ける



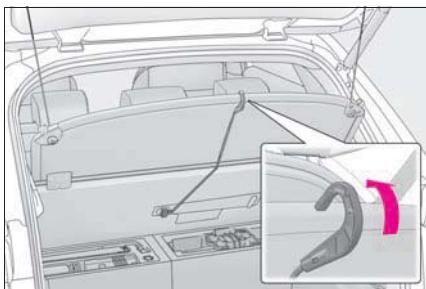
2 レバーを引き上げて、デッキボードを折りたたむ



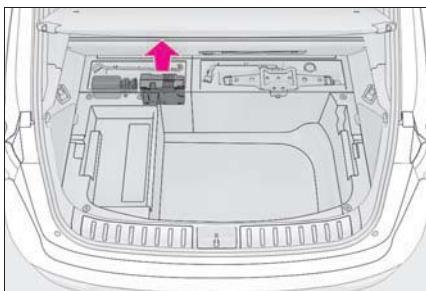
3 デッキボードを持ち上げて、裏面のフックを取りはずす



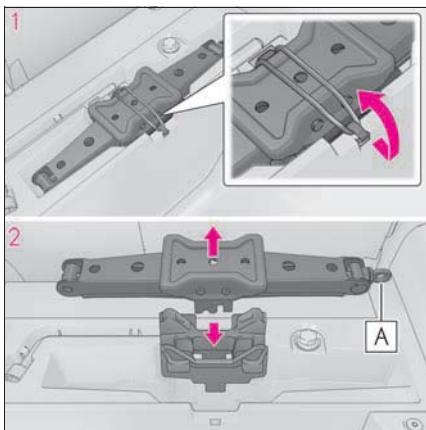
- 4 フックをトノボードに引っかけて固定する**



- 5 応急修理キットを取り出す**



ジャッキを取り出すには



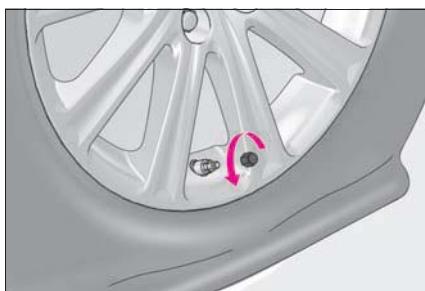
- 1 ゴムバンドをはずす**
- 2 カバーを取りはずし、ジャッキを取り出す**

ジャッキの使い方 (→P.345)

ジャッキを収納するときは、ジャッキの**A**部を回して動かなくなるまで縮めたあと、カバーを押し込んでからゴムバンドで固定する。

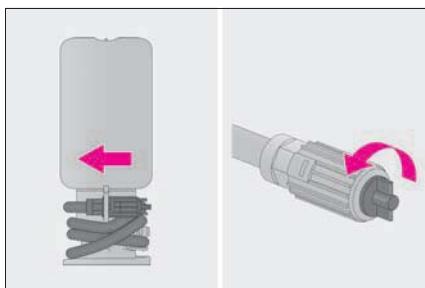
応急修理をするには

- 1 応急修理キットを取り出す**
- 2 パンクしたタイヤのバルブから、バルブキャップを取りはずす**



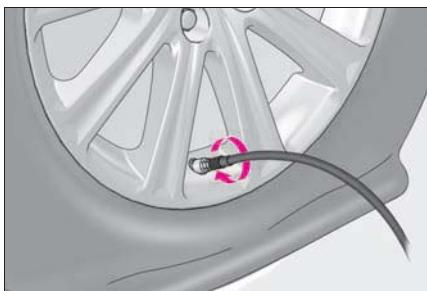
- 3 ホースをのばし、空気逃しキャップを取りはずす**

空気逃がしキャップは再度使用するため、なくさないように保管してください。

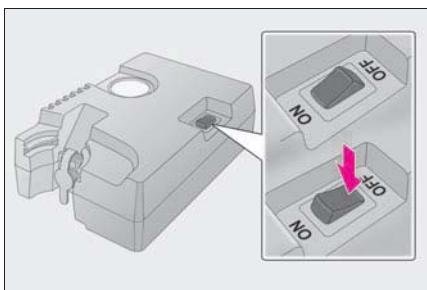


- 4 ホースをバルブに接続する**
ホース先端を時計まわりにまわして、で

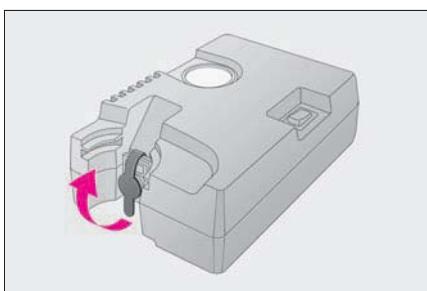
きるだけ奥までねじ込みます。



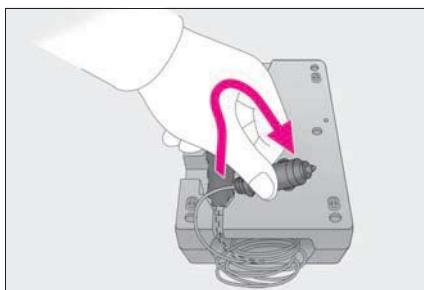
5 コンプレッサーのスイッチが OFF であることを確認する



6 コンプレッサーのゴム栓をはずす



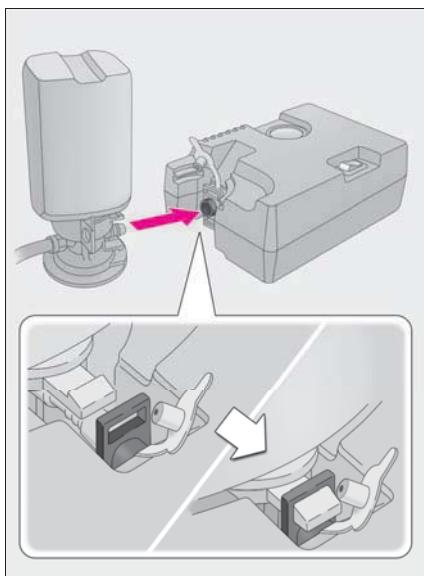
7 コンプレッサーの電源プラグを取りはずす



8 コンプレッサーの電源プラグをアクセサリーソケットに挿し込む
→P.275)

9 ポトルをコンプレッサーに接続する

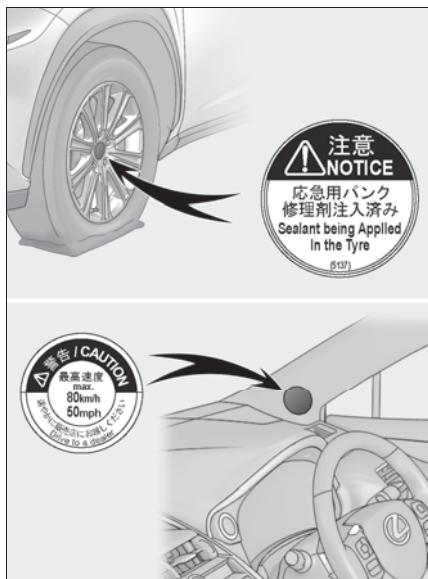
しっかりと接続されているか確認してください。



10 付属のラベル 2 枚を図のようにそれぞれ貼り付ける

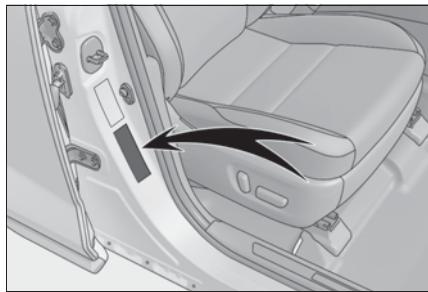
ホイールの汚れや水分を十分にふき取つてからラベルを貼り付けてください。ラベルを貼り付けることができない場合は、

レクサス販売店にてタイヤを修理・交換するときにパンク補修液注入済みであることを必ずお伝えください。



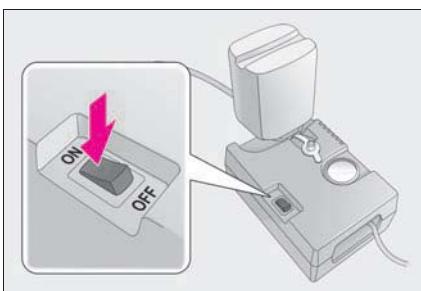
11 タイヤの指定空気圧を確認する

運転席側の空気圧ラベルで確認することができます。(\rightarrow P.296)

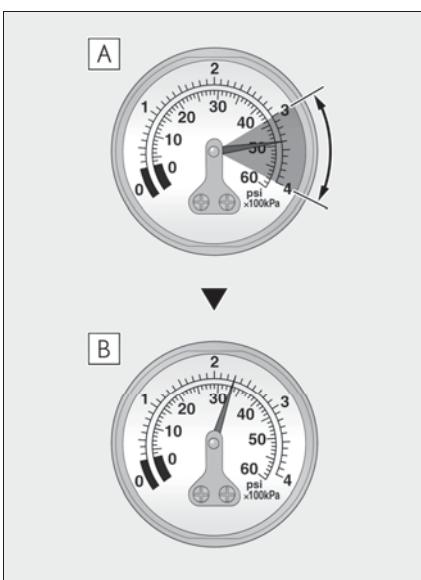


12 ハイブリッドシステムを始動する

13 コンプレッサーのスイッチを ON にし、パンク補修液と空気を充填する



14 空気圧が指定空気圧になるまで充填する



A 一時的に空気圧計が 300 ~ 400kPa (3.0 ~ 4.0kg/cm²) まで上昇し、徐々に減少します。

B スイッチを ON にしてから 1 分程度（低温の場合は 15 分程度）実際の空気圧になります。

コンプレッサーのスイッチを OFF にして確認してください。空気の入れすぎに

注意して、指定空気圧になるまで充填・確認をくり返してください。

10 10分以上（低温の場合は25分以上）充填しても指定空気圧にならない場合は、応急修理できません。コンプレッサーのスイッチをOFFにしてレクサス販売店にご連絡ください。

空気を入れすぎたときは、指定空気圧になるまで空気を抜いてください。

（→P.296, 367）

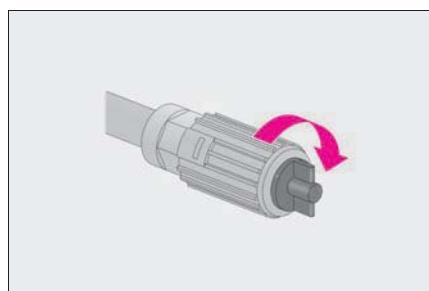
15 コンプレッサーのスイッチがOFFであることを確認した上で、アクセサリーソケットから電源プラグを抜き、タイヤのバルブから応急修理キットのホースを取りはずす

ホースを取りはずすときにパンク補修液がもれる可能性があります。

16 バルブキャップを応急修理したタイヤのバルブに取り付ける

17 ポトルのホース先端に空気逃がしキャップを取り付ける

空気逃がしキャップを取り付けないとパンク補修液がもれ、お車が汚れる可能性があります。

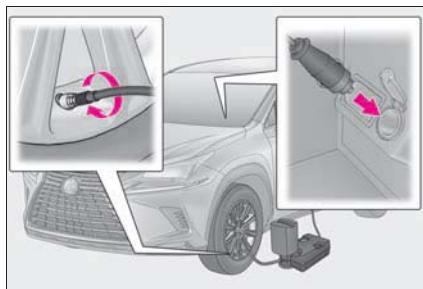


18 いつたん、ポトルとコンプレッサーを接続したままラゲージルーム内に収納する

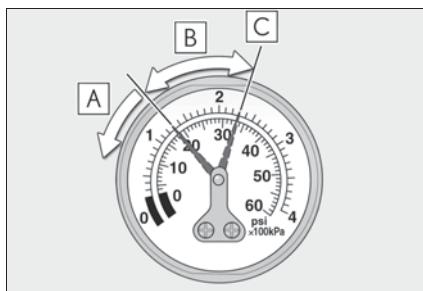
19 タイヤ内のパンク補修液を均等に広げるために、すみやかに約

5km程度、速度80km/h以下で安全に走行する

20 走行後、平坦な場所に停車し、再度コンプレッサーを接続する



21 コンプレッサーのスイッチをONにして数秒間経過後、スイッチをOFFにして空気圧を確認する



A 空気圧が130kPa(1.3kg/cm²)未満の場合：応急修理できません。レクサス販売店にご連絡ください。

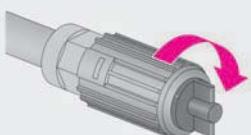
B 空気圧が130kPa(1.3kg/cm²)以上、指定空気圧未満の場合：手順**22**へ

C 空気圧が指定空気圧（→P.296, 367）の場合：手順**23**へ

22 コンプレッサーのスイッチをONにして指定空気圧まで空気を充填し、再度、約5km走行後にあらためて手順**20**から実施する

23 ポトルのホース先端に空気逃がしキャップを取り付ける

空気逃がしキャップを取り付けないとパンク補修液がもれ、お車が汚れる可能性があります。



24 ポトルとコンプレッサーを接続したままラゲージルーム内に収納する

25 急ブレーキ、急加速、急ハンドルを避け、約 100km 以内、速度 80km/h 以下でレクサス販売店まで慎重に運転する

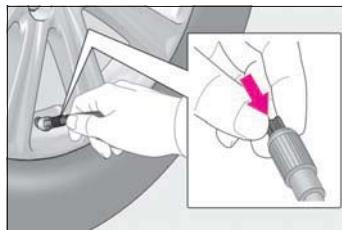
□ 知識

■ 応急（パンク）修理キットを使用したとき

- 空気圧が正確に計測できなくなることがあります。できるだけ早くレクサス販売店で点検を受け、空気圧バルブ／送信機を交換してください。
- タイヤの指定空気圧に達していても、タイヤ空気圧警告灯が点灯する可能性があります。

■ 空気を入れすぎてしまったときの対処法

- 1 タイヤからホースを取りはずす
- 2 ホース先端に空気逃がしキャップをかぶせ、キャップの突起部をタイヤのバルブに押しあてて空気を抜く



3 ホースから空気逃がしキャップを取りはずし、ホースを再接続する

4 応急修理キットのスイッチを ON にして数秒間経過後、スイッチを OFF にして空気圧計を確認する

指定空気圧より低いときは、再度、応急修理キットのスイッチを ON にし、指定空気圧になるまで空気を充填してください。

⚠ 警告

- パンクしたタイヤを応急修理するときは
 - 車両を安全で平坦な場所に停止させてください。
 - 走行直後、ホイールやブレーキまわりなどにはふれないでください。走行直後のホイールやブレーキまわりは高温になっている可能性があるため手や足などがふれると、やけどをするおそれがあります。
 - タイヤを車両に取り付けた状態で、バルブとホースをしっかりと接続してください。
 - 接続が不十分な場合、空気がもれたり、パンク補修液が飛散したりするおそれがあります。
 - 充填中にホースがはずれると、圧力でホースが急に動くおそれがあり危険です。
 - 充填後、ホースを取りはずすときや空気を抜くときにパンク補修液が飛散する場合があります。

警告

- 作業手順に従って応急修理を行ってください。
手順どおりに行わないとパンク補修液が噴出する場合があります。
- 破裂の危険があるので、応急修理キットの作動中は補修中のタイヤから離れてください。タイヤに亀裂や変形が発生している場合、ただちにキットのスイッチを OFF にし、修理を中止してください。
- 応急修理キットは、長時間作動させると過熱する可能性があります。35分以上連続で作動させないでください。
- 応急修理キットの作動中は、部分的に熱くなります。使用中、または使用後の取り扱いには注意してください。ボトルとコンプレッサー接続箇所の金属部分は特に熱くなるため、使用中、または使用直後はふれないでください。
- 速度制限シールは指定位置以外に貼らないでください。ハンドルのパッド部分などの SRS エアバッグ展開部に貼ると、SRS エアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。
- **補修液を均等に広げるための運転について**
- 低速で慎重に運転してください。特にカーブや旋回時には注意してください。

- 車がまっすぐ走行しなかったり、ハンドルをとられたりする場合は、停車し、次のことを確認してください。
 - ・ タイヤを確認してください。タイヤがホイールからはずれている可能性があります。
 - ・ 空気圧を確認してください。130kPa 未満の場合は、タイヤが大きなダメージを受けている可能性があります。

注意

- **応急修理をするときは**
- タイヤに刺さった釘やネジを取り除かずに対応修理を行ってください。取り除いてしまうと、応急修理キットでは応急修理ができなくなる場合があります。
- 応急修理キットに防水機能はありません。降雨時などは、水がかからないようにして使用してください。
- 砂地などの砂ぼこりの多い場所に直接置いて使用しないでください。砂ぼこりなどを吸い込むと、故障の原因になります。
- 応急修理キットは倒れた状態では正常に作動しません。必ず立ててご使用ください。
- **応急修理キットについて**
- 応急修理キットは DC12V 専用です。他の電源での使用はできません。
- 応急修理キットにガソリンがかかると、劣化するおそれがあります。ガソリンがかかるないようにしてください。
- 応急修理キットは砂埃や水を避けて収納してください。

⚠ 注意

- 応急修理キットは指定の位置に収納し、お子さまが誤って手をふれないようご注意ください。
- 分解・改造などは絶対にしないでください。また、圧力計などに衝撃を与えないでください。故障の原因になります。

パンクしたときは（応急用タイヤ装着車）

パンクしたタイヤを、備え付けの応急用タイヤと交換してください。
(タイヤについての詳しい説明はP.296を参照してください)

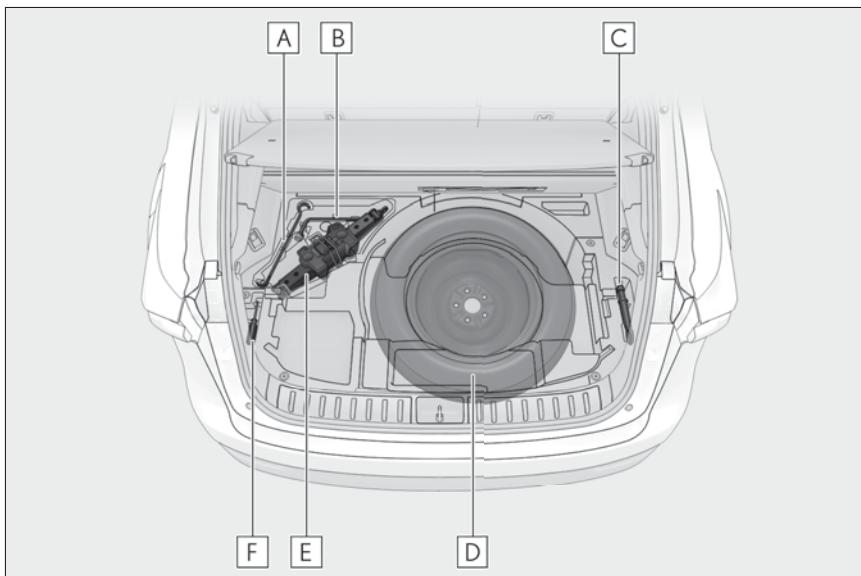
⚠ 警告**■ タイヤがパンクしたときは**

パンクしたまま走行しないでください。短い距離でも、タイヤとホイールが修理できないほど損傷したり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

ジャッキで車体を持ち上げる前に

- 地面が固く平らで安全な場所に移動する
- パーキングブレーキをかける
- シフトレバーをPにする
- ハイブリッドシステムを停止する
- 非常点滅灯を点滅させる
(→P.313)

工具とジャッキの位置



- A** ジャッキハンドル
- B** ホイールナットレンチ
- C** けん引フック
- D** 応急用タイヤ
- E** ジャッキ
- F** ドライバー

!**警告**

■ ジャッキの使用について

次のことをお守りください。

ジャッキの取り扱いを誤ると、車が落下して重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ジャッキはタイヤ交換・タイヤチェーン取り付け・取りはずし以外の目的で使用しない

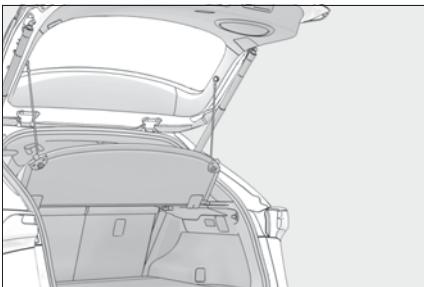
- 備え付けのジャッキは、お客様の車にしか使うことができないため、他の車に使つたり他の車のジャッキをお客様の車に使用したりしない
- ジャッキはジャッキセット位置に正しくかける
- ジャッキで支えられている車の下に体を入れない
- 車がジャッキで支えられている状態で、ハイブリッドシステムを始動したり車を走らせない

⚠ 警告

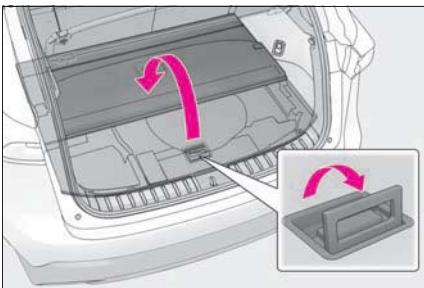
- 車内に人を乗せたまま車を持ち上げない
- 車を持ち上げるときは、ジャッキの上または下にものを置かない
- 車を持ち上げるときは、タイヤ交換できる高さ以上に上げない
- 車の下にもぐり込んで作業する場合は、ジャッキスタンドを使用する
- 車を下げるときは、周囲に人がいないことを確認し、人がいるときは声をかけてから下げる

ジャッキを取り出すには

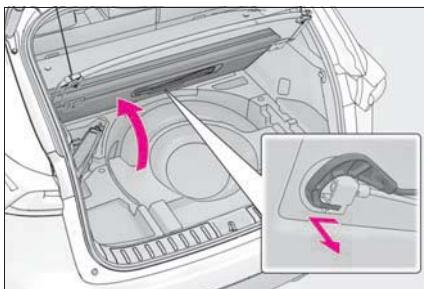
1 バックドアを開ける



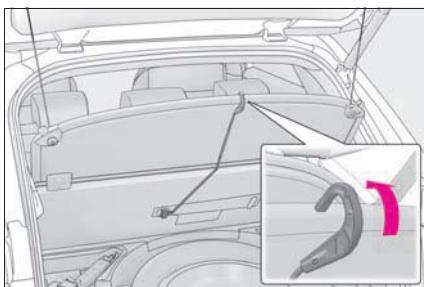
2 レバーを持ち上げデッキボードを折りたたむ



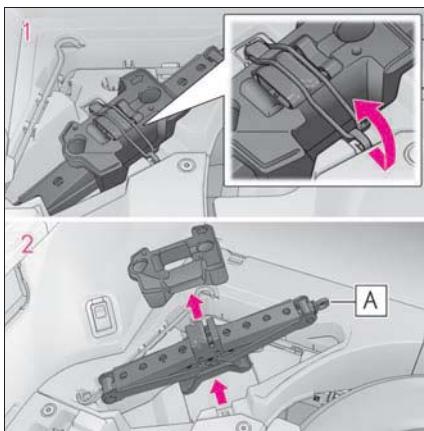
3 デッキボードを持ち上げて、裏面のフックを取りはずす



4 フックをトノボードに引っかけて固定する



5 ジャッキを取りはずす



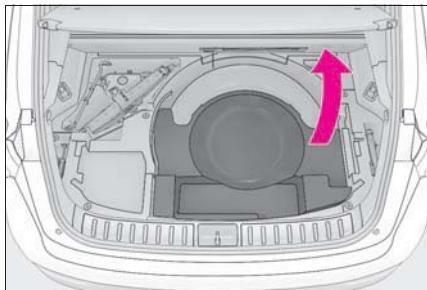
1 ゴムバンドをはずす

2 カバーを取りはずし、ジャッキを取り出す

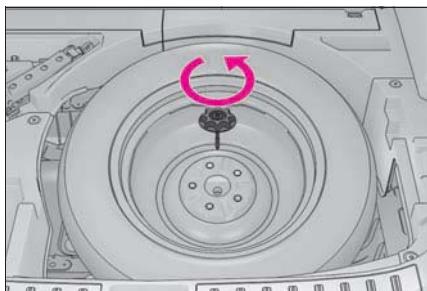
ジャッキを収納するときは、ジャッキの**A**部を回して動かなくなるまで縮めたあと、カバーを押し込んでからゴムバンドで固定する。

応急用タイヤを取り出すには

- デツキアンダーポックスを取りはずす



- 留め具をはずし、応急用タイヤを取り出す



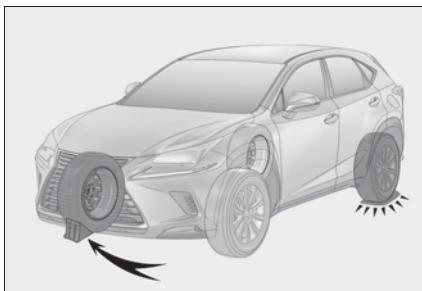
⚠ 警告

■ 応急用タイヤを収納するとき

ボディーと応急用タイヤとのあいだに、指などを挟まないように注意してください。

パンクしたタイヤを交換するには

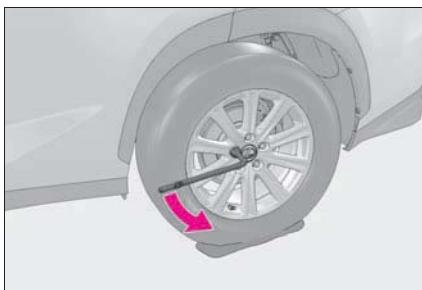
- 輪止め※をする



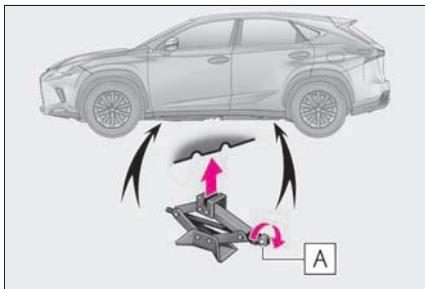
パンクしたタイヤ		輪止めの位置
前輪	左側	右側後輪うしろ
	右側	左側後輪うしろ
後輪	左側	右側前輪前
	右側	左側前輪前

※ 輪止めは、レクサス販売店で購入することができます。

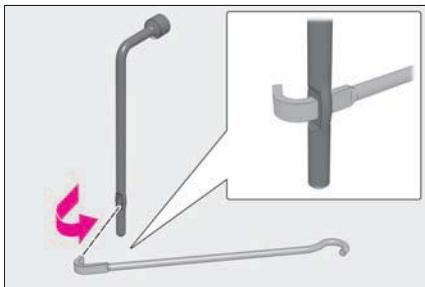
- ナットを少し（約1回転）ゆるめる



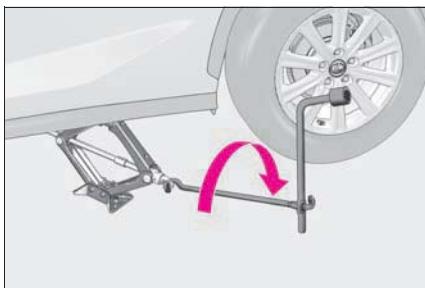
- 3 ジャッキのA部を手でまわして、ジャッキの溝をジャッキセット位置にしっかりとかける



- 4 ジャッキハンドルにホイールナットレンチを取り付ける



- 5 タイヤが地面から少し離れるまで、車体を上げる



- 6 ナットすべてを取りはずし、タイヤを取りはずす

タイヤを直接地面に置くときは、ホイールの表面に傷が付かないよう表面を上に

します。



⚠ 警告

■タイヤ交換について

- 走行直後、ディスクホイールやブレーキまわりなどにはふれないでください
走行直後のディスクホイールやブレーキまわりは高温になっているため、タイヤ交換などで手や足などがふれると、やけどをするおそれがあります。

⚠️ 警告

●次のことをお守りいただかないとナットがゆるみ、ホイールがはずれ落ち、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ・ねじ部にオイルやグリースを塗らない
ナットを締めるときに必要以上に締め付けられ、ボルトが破損したり、ディスクホイールが損傷するおそれがあります。またナットがゆるみホイールが落下するおそれがあります。オイルやグリースがねじ部に付いている場合はふき取ってください。
- ・ホイールの交換後はすぐに 103N·m (1050kgf·cm) の力でナットを締める
- ・タイヤの取り付けには、使用しているホイール専用のナットを使用する
- ・ボルトやナットのねじ部や、ホイールのボルト穴につぶれや亀裂などの異常がある場合は、レクサス販売店で点検を受ける

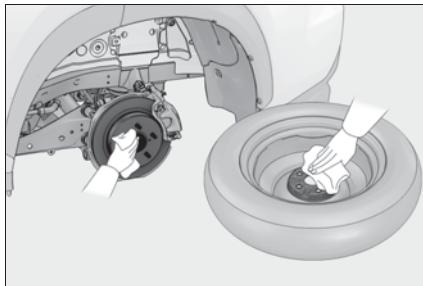
■パワーバックドア装着車のタイヤ交換について

タイヤ交換などをする際は、パワーバックドアの作動（→P.116）を停止してください。停止しないと、誤ってパワーバックドアを作動させたときにバックドアが動き、指や手を挟んでけがをするおそれがあります。

応急用タイヤを取り付けるには

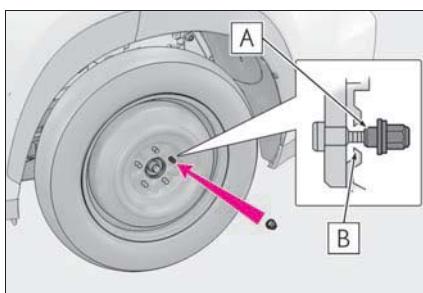
- 1 ホイール接触面の汚れをふき取る
ホイール接触面が汚れていると、走行中にナットがゆるみ、タイヤがはずれるお

それがあります。

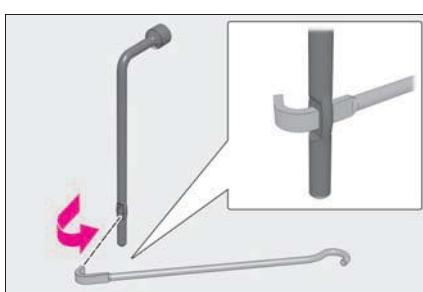


- 2 応急用タイヤを取り付け、タイヤががたつかない程度まで手でナットを仮締めする

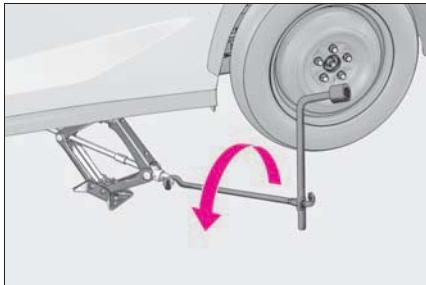
ナットのテーパー部[A]がホイールのシート部[B]に軽くあたるまでまわします。



- 3 ジャッキハンドルにホイールナットレンチを取り付ける



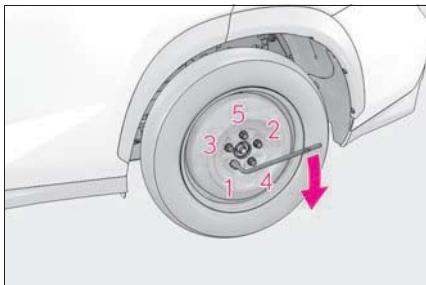
4 車体を下げる



5 図の番号順でナットを2、3度 しっかりと締め付ける

締め付けトルク：

103N・m (1050kgf・cm)



6 すべての工具・ジャッキ・パンク したタイヤを収納する

知識

■応急用タイヤについて

- タイヤの側面に TEMPORARY USE ONLY と書かれています。応急用にのみ使用してください。
- 空気圧を必ず点検してください。
(→P.367)

■応急用タイヤを装着しているとき

標準タイヤ装着時にくらべ車高が低くなっています。

■雪道・凍結路で前輪がパンクしたときは

1 後輪を応急用タイヤと交換する

- 2 パンクした前輪をはずした後輪と交換する

- 3 タイヤチェーンを前輪に装着する

⚠ 警告

■応急用タイヤを使用するときは

- お客様のお車専用になっているため、他の車には使用しないでください。
- 同時に2つ以上の応急用タイヤを使用しないでください。
- できるだけ早く通常のタイヤと交換してください。
- 急加速・急ハンドル・急ブレーキやシフト操作による急激なエンジンブレーキの使用は避ける



■ 応急用タイヤ装着中は

正確な車両速度が検出できない場合があり、次のシステムが正常に作動しなくなるおそれがあります。

- ・ ABS
- ・ ブレーキアシスト
- ・ VSC
- ・ TRC
- ・ NAVI・AI-AVS★
- ・ レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）
- ・ PCS（プリクラッシュセーフティシステム）
- ・ EPS
- ・ LDA（ステアリング制御機能付き）
- ・ バックガイドモニター＆サイドモニター★
- ・ クリアランスソナー★
- ・ パーキングサポートブレーキ（静止物）★
- ・ ナビゲーションシステム
- ・ パノラミックビューモニター★
- ・ BSM（ブラインドスポットモニター）★
- ・ オートマチックハイビーム
- ・ アダプティブハイビームシステム★

また、次のシステムは、性能が十分に発揮できないばかりでなく、駆動系部品に悪影響を与えるおそれがあります。

- ・ E-Four（電気式4WDシステム）★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ 応急用タイヤ使用時の速度制限

応急用タイヤを装着しているときは、80km/h以上速度で走行しないでください。応急用タイヤは、高速走行に適していないため、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■ ジャッキや工具を使用したあとは

走行前に正しい位置に格納されているか確認してください。正しく格納されていないと、事故や急ブレーキの際、重大な傷害につながるおそれがあり危険です。



注意

■ 応急用タイヤ装着中の注意

応急用タイヤ装着中は、標準タイヤ装着時にくらべ車高が低くなっています。段差を乗りこえるときは注意してください。

■ 応急用タイヤ使用時のタイヤチェーン装着

応急用タイヤには、タイヤチェーンを装着しないでください。

タイヤチェーンが車体側にあたり、走行に悪影響をおよぼすおそれがあります。

ハイブリッドシステムが始動できないときは

ハイブリッドシステムが始動できない原因は状況によって異なります。次の状況の中であてはまるものをご確認いただき、適切に対処してください。

正しいハイブリッドシステムの始動方法（→P.154）に従っても始動できない

次の原因が考えられます。

- 電子キーが正常に働いていない可能性があります。（→P.352）
- 燃料が入っていない可能性があります。
給油してください。（→P.62）
- イモビライザーシステムに異常がある可能性があります。（→P.66）
- ステアリングロックシステムに異常がある可能性があります。
- 電子キーの電池切れやヒューズ切れなど、電気系統異常の可能性があります。異常の種類によっては、ハイブリッドシステムを一時的な処置でかけることができます。（→P.350）

室内灯・ヘッドライトが暗い／ホーンの音が小さい、または鳴らない場合

次の原因が考えられます。

- 補機バッテリーあがりの可能性があります。（→P.354）
- 補機バッテリーのターミナルがゆ

るんでいる可能性があります。

室内灯・ヘッドライトが点灯しない／ホーンが鳴らない場合

次の原因が考えられます。

- 補機バッテリーあがりの可能性があります。（→P.354）
- 補機バッテリーのターミナルがはずれている可能性があります。

対処の方法がわからないとき、あるいは対処をしてもハイブリッドシステムが始動できないときは、レクサス販売店にご連絡ください。

緊急時の始動について

通常のハイブリッドシステム始動操作でハイブリッドシステムが始動しないときは、次の手順でハイブリッドシステムが始動する場合があります。

緊急時以外は、この方法で始動させないでください。

- 1 パーキングブレーキがかかっていることを確認する
- 2 シフトレバーが P の位置にあることを確認する
- 3 パワースイッチをアクセサリーモードにする
- 4 ブレーキペダルをしっかりと踏んでパワースイッチを約 15 秒以上押し続ける

上記の方法でハイブリッドシステムが始動しても、システムの故障が考えられます。ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

キーをなくしたときは

キーナンバープレートに打刻されたキーナンバーと残りのメカニカルキーから、レクサス販売店でレクサス純正品の新しいメカニカルキーを作ることができます。

キーナンバープレートは車の中以外の安全な場所（財布の中など）に保管してください。



■電子キーを紛失したとき

電子キーを紛失した状態で放置すると、盗難の危険性が極めて高くなります。車両に付属している残りの電子キーとカードキーをすべてお持ちのうえ、ただちにレクサス販売店にご相談ください。

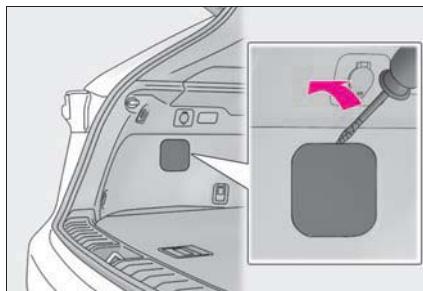
給油扉が開かないときは

ドアが解錠されている状態で給油扉の車両後端の中央部分を押しても給油扉が開かないときは、次の手順で給油扉を開くことができます。

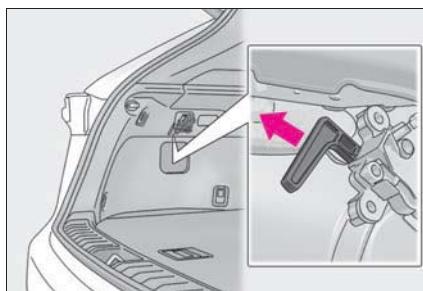
給油扉を開くには

- ラゲージルーム内のカバーをマイナスドライバーを使って取りはずす

カバーを取りはずすときは、傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。



- レバーを引く



電子キーが正常に動かないときは

電子キーと車両間の通信がさまたげられたり（→P.120）、電子キーの電池が切れたときは、スマートエントリー＆スタートシステムとワイヤレスリモコンが使用できなくなります。このような場合、次の手順でドアを開けたり、ハイブリッドシステムを始動したりすることができます。

□ 知識

- 電子キーが正常に動かないときは
 - 車両カスタマイズ機能でスマートエントリー＆スタートシステムの設定を確認し、非作動になっている場合には、作動可能に設定変更してください。
 - 電子キーが節電モードに設定されていないことを確認してください。
設定されている場合は解除してください。（→P.119）



注意

- スマートエントリー＆スタートシステムの故障などで販売店に車両を持っていくとき

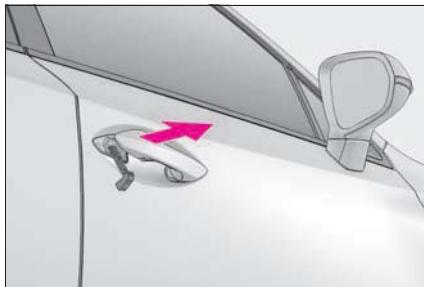
車両に付属しているすべての電子キー（カードキーを含む）をお持ちください。

ドアを施錠・解錠するには

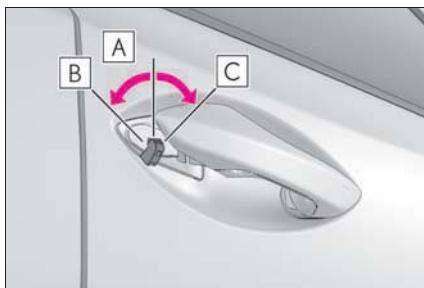
■ ドアの解錠

メカニカルキー（→P.102）を使って次の操作ができます。（運転席ドアのみ）

- 1 運転席側のドアハンドルを引いたまま、メカニカルキーを挿し込む



- 2 次のようにキーを回す



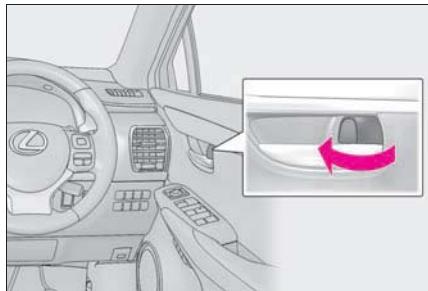
- A** ドアの解錠
- B** ドアガラスとムーンルーフが開く（まわし続ける）※
- C** ドアガラスとムーンルーフが閉まる（まわし続ける）※

※ レクサス販売店での設定が必要です。

- 3 メカニカルキーを抜いてドアハンドルを元に戻したあと、再度ドアハンドルを引く

■ ドアの施錠

1 ロックレバーを施錠側にする



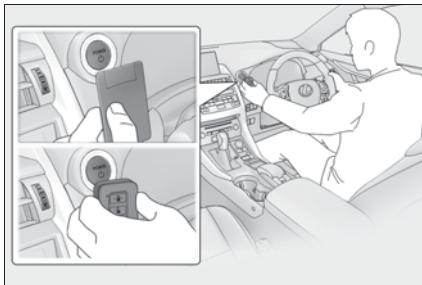
2 ドアハンドルを引いたままドアを閉める

警告

■ メカニカルキーを使ってドアガラスやムーンルーフを操作するとき

ドアガラスやムーンルーフに人が挟まるおそれがないことを確認してから操作してください。またお子さまには、メカニカルキーによる操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスやムーンルーフに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

ドヘ切りかわります。



3 ブレーキペダルをしっかりと踏み込んで、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されていることを確認する。



4 パワースイッチを押す

処置をしても作動しないときは、レクサス販売店にご連絡ください。

7

万一の場合には

ハイブリッドシステムを始動するには

- シフトレバーが P の状態でブレーキペダルを踏む
- 電子キーのレクサスエンブレム面で、パワースイッチにふれる
電子キーを認識するとブザーが鳴り、イグニッション ON モードへ切りかわります。

車両カスタマイズ機能でスマートエントリー＆スタートシステムの設定が非作動になっているときは、アクセサリーモードへ切りかわります。

知識

■ ハイブリッドシステムの停止のしかた

通常のハイブリッドシステム停止のしかたと同様に、シフトレバーを P にし、パーキングブレーキをかけて、パワースイッチを押します。

■ 電子キーの電池交換

ここで説明しているハイブリッドシステムの始動方法は一時的な処置です。電池が切れたときは、ただちに電池の交換をおすすめします。（→P.305）

■オートアラームについて

メカニカルキーで施錠した場合、オートアラームが設定されません。

■パワースイッチのモードの切りかえ

ハイブリッドシステム始動方法の手順**4**で、ブレーキペダルから足を離してパワースイッチを押すと、ハイブリッドシステムが始動せず、スイッチを押すごとにモードが切りかわります。(\rightarrow P.156)

補機バッテリーがあがったときは

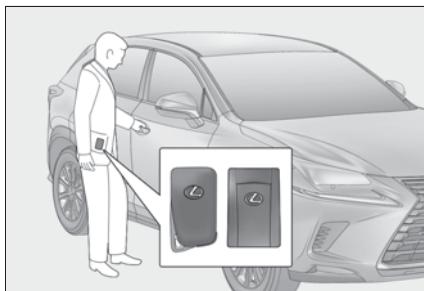
補機バッテリーがあがった場合、次の手順でハイブリッドシステムを始動することができます。

ハイブリッドシステムを再始動するには

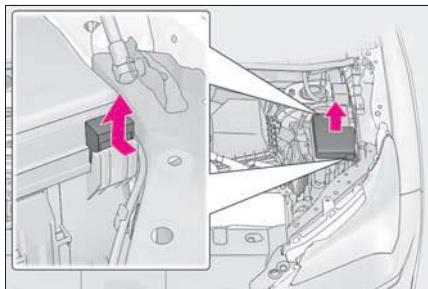
ブースターケーブルと12Vのバッテリー付き救援車があれば、手順に従って、ハイブリッドシステムを始動させることができます。

1 電子キーを携帯していることを確認する

ブースターケーブル接続時、場合によっては、オートアラームが作動し自動的にドアが施錠されます。(\rightarrow P.68)



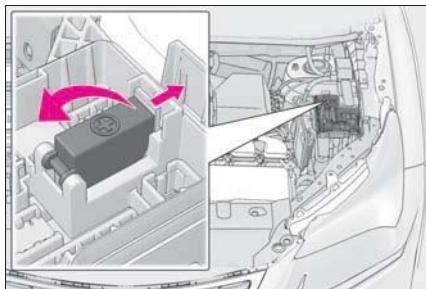
- 2 ボンネットを開けて（→P.293）、ヒューズボックスのカバーをはずす



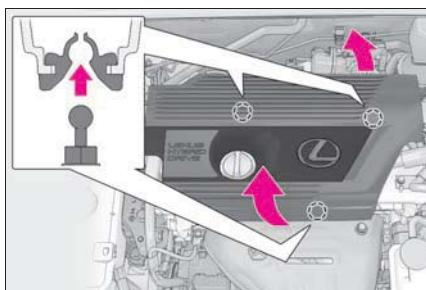
- 3 ヒューズボックス内の救援用端子のカバーを開ける

ツメを軽く引きながら、カバーを開けます

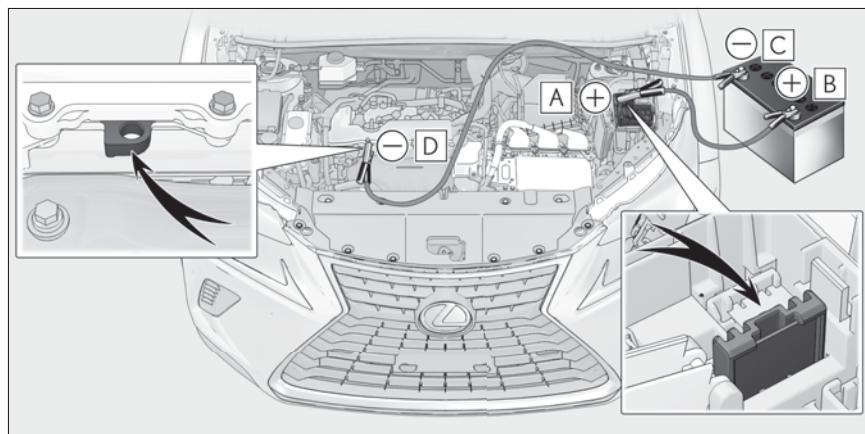
す



- 4 エンジンルーム中央のカバーをはずす



- 5 赤色のブースターケーブルを自車の救援用端子**A**につなぎ、もう一方の端を救援車のバッテリーの+端子**B**につなぐ。その後、黒色のブースターケーブルを救援車のバッテリーの-端子**C**につなぎ、もう一方の端を未塗装の金属部**D**につなぐ。



A 救援用端子（自車）

- B** バッテリーの+端子（救援車）
- C** バッテリーの-端子（救援車）
- D** 未塗装の金属部（図に示すような固定された部分）
- 6** 救援車のエンジンをかけ、回転を少し高めにして、約5分間自車の補機バッテリーを充電する
- 7** パワースイッチがOFFの状態でいずれかのドアを開閉する
- 8** 救援車のエンジン回転を維持したまま、パワースイッチをいったんONモードにしてからハイブリッドシステムを始動する
- 9** READYインジケーターが点灯することを確認する

点灯しない場合はレクサス販売店にご連絡ください。

- 10** ハイブリッドシステムが始動したら、ブースターケーブルをつないだときと逆の順ではです
- 11** 救援用端子カバーを閉じ、ヒューズボックスのカバーをもとどおりに取り付ける

ハイブリッドシステムが始動しても、早めにレクサス販売店で点検を受けてください。

□ 知識

■ 補機バッテリーあがり時の始動について

この車両は、押しがけによる始動はできません。

■ 補機バッテリーあがりを防ぐために

- ハイブリッドシステムが停止しているときは、ランプやオーディオの電源を切ってください。
- 渋滞などで長時間止まっているときは、不必要的電装品の電源を切ってください。

い。

■ 補機バッテリーがはずされたり、あがってしまった場合は

- コンピューターに記憶されている情報が消去されます。補機バッテリーがあがったときはレクサス販売店で点検を受けてください。
- 初期設定が必要な機能があります。

■ 補機バッテリーについて

→P.293

■ 補機バッテリーの充電について

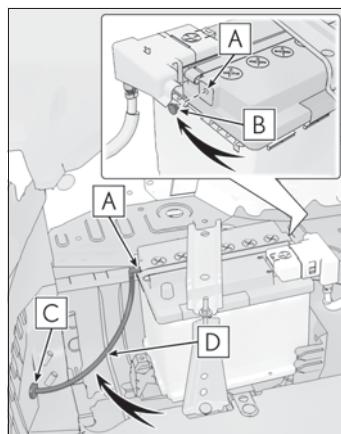
補機バッテリーの電力は、車両を使用していないあいだも、一部の電装品による消費や自然放電のために、少しずつ消費されています。そのため、車両を長時間放置すると、補機バッテリーがあがってハイブリッドシステムが始動できなくなるおそれがあります。（補機バッテリーはハイブリッドシステムの作動中に自動で充電されます）

■ 補機バッテリーあがり時や取りはずし時などは

- 補機バッテリー脱着直後はスマートエントリー＆スタートシステムによるドアの解錠ができない場合があります。解錠できなかつた場合は、ワイヤレスリモコン、またはメカニカルキーで解錠・施錠を実施してください。
- 補機バッテリー脱着後、最初のハイブリッドシステム始動は失敗することがあります。2回目以降のハイブリッドシステム始動は正常に動作しますので、問題ではありません。
- 車両は常にパワースイッチの状態を記憶しています。補機バッテリーあがり時、補機バッテリー脱着後は、バッテ

リーをはずす前の状態に車両は復帰します。補機バッテリーを脱着する際は、パワースイッチを OFFにしてから行ってください。補機バッテリーあがり前のパワースイッチの状態が不明の場合、補機バッテリー接続時は特に注意してください。

- 初期設定が必要な機能があります。
- 補機バッテリーを交換するときは
 - 一括排気タイプの補機バッテリー（欧洲規格）を使用してください。
 - 交換前と同一のケースサイズ（LN2）、20 時間率容量（20HR）が同等（60Ah）以上、かつ性能基準値（CCA）が同等（460A）以上の補機バッテリーを使用してください。
 - ・ 大きさが異なると、補機バッテリーが正しく固定されません。
 - ・ 20 時間率容量が小さいと、車両を使用していない時期が短い期間であっても補機バッテリーがあがつて、ハイブリッドシステムの始動ができなくなるおそれがあります。
 - 交換後は、補機バッテリーの排気穴に次のものを確実に取り付けてください。
 - ・ 排気ホースは、交換前の補機バッテリーに取り付けられているものを使用し、車両穴部と確実に接続されていることを確認してください。
 - ・ 排気穴栓は、交換した補機バッテリーに付属のもの、または交換前の補機バッテリーに取り付けられているものを使用してください。（交換する補機バッテリーによっては、排気穴がふさがれたものもあります。）
- 詳しく述べは、レクサス販売店にご相談ください。



- A** 排気穴
B 排気穴栓
C 車両穴部
D 排気ホース

▲ 警告

■ 補機バッテリーの引火または爆発を防ぐために

補機バッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあり危険ですので、火や火花が発生しないよう、次のことをお守りください。

- ブースターケーブルは正しい端子以外に接続しない
- +端子に接続したブースターケーブルの先を付近のブラケットや未塗装の金属部に接触させない
- ブースターケーブルは+側と-側の端子を絶対に接触させない
- 補機バッテリー付近では、喫煙したりマッチやライターなどで火を起こさない

⚠ 警告

■補機バッテリーの取り扱いについて

補機バッテリー内には有毒で腐食性のある酸性の電解液が入っており、また関連部品には鉛または鉛の混合物を含んでいるので、取り扱いに関し、次のことを必ずお守りください。

- 補機バッテリーを取り扱うときは保護メガネを着用し、液（酸）が皮膚・衣服・車体に付着しないようにする
- 必要以上、顔や頭などを補機バッテリーに近付けない
- 誤ってバッテリー液が体に付着したり目に入ったりした場合、ただちに大量の水で洗い、すぐに医師の診察を受ける
また、医師の診察を受けるまで、水を含ませたスポンジや布を患部にあてておく
- 誤ってバッテリー液を飲み込んだ場合、多量の水を飲んで、すぐに医師の診察を受ける
- 補機バッテリーの支柱・ターミナル・その他の関連部品の取り扱い後は手を洗う
- お子さまを補機バッテリーに近付けない
- 補機バッテリーあがりの処置をしたあと**

早めにレクサス販売店で補機バッテリーの点検を受けてください。
補機バッテリーが劣化している場合、そのまま使い続けると補機バッテリーから異臭ガスが発生し、乗員に健康障害をおよぼすおそれがあり危険です。

■補機バッテリーを交換するときは

交換後は、交換した補機バッテリーの排気穴に排気ホースと排気穴栓を確実に取り付けてください。正しく取り付けられていないと、ガス（水素）が車内に侵入したり、引火して爆発するおそれがあります。

■補機バッテリーのマイナス端子について

ボデーに接続された補機バッテリーのマイナス端子をはずさないでください。誤ってはずすとプラス端子と接触し、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



⚠ 注意

■ブースターケーブルの取り扱いについて

ブースターケーブルを接続したり、取りはずすときは、冷却ファンやベルトに巻き込まれないように十分注意してください。

■救援用端子について

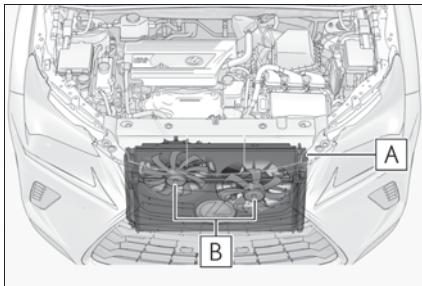
この車の救援用端子は、他の車から応急的に補機バッテリーを充電するためのものです。この救援用端子を使用して、他の車のバッテリーあがりを救援することはできません。

オーバーヒートしたときは

次のような場合は、オーバーヒートの可能性があります。

- 水温計（→P.76）の針がレッドゾーンに入ったり、ハイブリッドシステムの出力が低下する（スピードが出ないなど）
- マルチインフォメーションディスプレイに「エンジン冷却水高温」または「ハイブリッドシステム高温出力制限中です」が表示される
- エンジルームから蒸気が出る

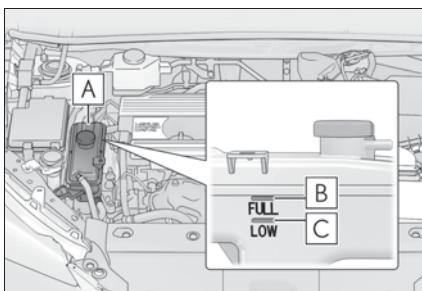
にレクサス販売店に連絡してください。



A ラジエーター

B ファン

- 4** 冷却水の量がリザーバータンクの“FULL”（上限）と“LOW”（下限）のあいだにあるかを点検する



A リザーバータンク

B “FULL”（上限）

C “LOW”（下限）

- 5** 冷却水が不足している場合は、冷却水を補給する

冷却水がない場合は、応急措置として水

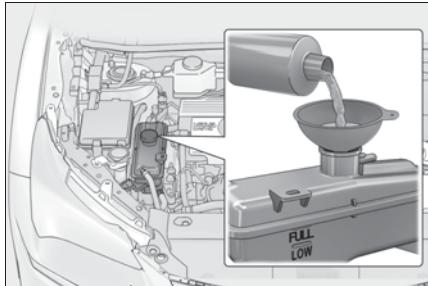
対処方法

- 水温計の針がレッドゾーンに入ったり、マルチインフォメーションディスプレイに「エンジン冷却水高温」が表示されたとき

- 1 安全な場所に停車し、エアコンをOFFにしてから、ハイブリッドシステムを停止する
- 2 蒸気が出ている場合：蒸気が出なくなったことを確認してから、注意してポンネットを開ける
蒸気が出ていない場合：注意してポンネットを開ける
- 3 ハイブリッドシステムが十分に冷えてから、ラジエーターコア部（放熱部）やホースなどからの冷却水もれを点検する

多量の冷却水もれがある場合は、ただち

を補給してください。



- 6** ハイブリッドシステムを始動し、エアコンを作動させてラジエーター冷却用のファンが作動しているか、およびラジエーターコアやホースなどから冷却水もれがないことを再度確認する

ハイブリッドシステムが冷えた状態での始動直後は、エアコンを ON にすることでファンが作動します。ファンの音や風で確認してください。わかりにくいときは、エアコンの ON・OFF をくり返してください。

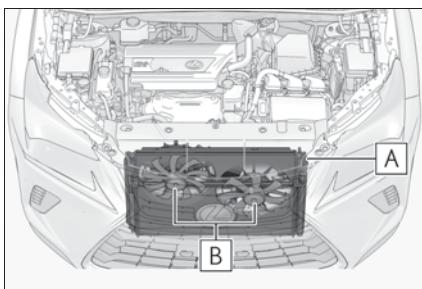
(ただし、氷点下となる寒冷時はファンが作動しないことがあります)

- 7** ファンが作動していない場合：
すぐにハイブリッドシステムを停止し、レクサス販売店に連絡する
ファンが作動している場合：
最寄りのレクサス販売店で点検を受ける
- 8** マルチインフォメーションディスプレイの「エンジン冷却水高温」表示を確認する
表示が消えていない場合：
すぐにハイブリッドシステムを停止し、レクサス販売店に連絡する
表示が消えてる場合：
最寄りのレクサス販売店で点検を受ける

■ マルチインフォメーションディスプレイに「ハイブリッドシステム 高温出力制限中です」が表示されたとき

- 1** 安全な場所に停車する
- 2** ハイブリッドシステムを停止し、注意してポンネットを開ける
- 3** ハイブリッドシステムが十分に冷えてから、ラジエーターコア部(放熱部)やホースなどからの冷却水もれを点検する

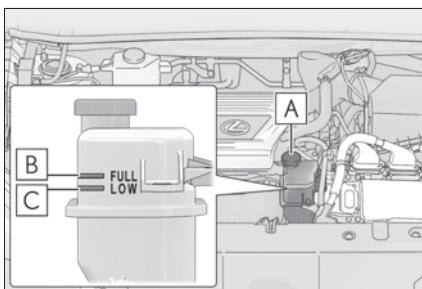
多量の冷却水もれがある場合は、ただちにレクサス販売店に連絡してください。



A ラジエーター

B ファン

- 4** 冷却水の量がリザーバータンクの“FULL”(上限)と“LOW”(下限)のあいだにあるかを点検する



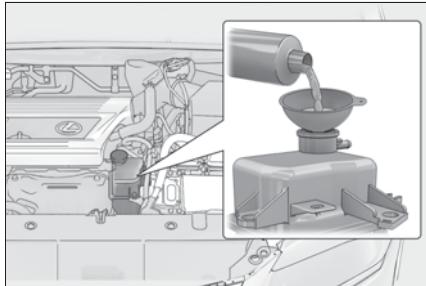
A リザーバータンク

B “FULL” (上限)

C “LOW” (下限)

5 冷却水が不足している場合は、冷却水を補給する

冷却水がない場合は、応急措置として水を補給してください。



6 ハイブリッドシステムを停止してから5分以上経過したあとで、ハイブリッドシステムを始動し、マルチインフォメーションディスプレイを確認する

表示が消えない場合：

ハイブリッドシステムの温度が低下したため、通常走行が可能です。ただし、そのあともひんぱんに表示される場合は、レクサス販売店に連絡してください。

⚠ 警告

■ エンジンルームを点検しているとき

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、やけどなどの重大な傷害を受けるおそれがあります。

● エンジンルームから蒸気が出ている場合は、蒸気が出なくなるまでボンネットを開けないでください。エンジンルーム内が高温になっています。

● ハイブリッドシステムの停止後は、READY インジケーターが消灯していることを確認してください。ハイブリッドシステムが作動していると、ガソリンエンジンが自動的に動き出したり、ガソリンエンジンが停止していても、冷却ファンが急にまわり出すことがあります。ファンなどの回転部分にふれたり、近付いたりすると、手や着衣（特にネクタイ・スカーフ・マフラーなど）が巻き込まれたりして、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

● ハイブリッドシステムおよびラジエーターが熱い場合は、冷却水リザーバータンクのキャップを開けないでください。

高温の蒸気や冷却水が圧力によって噴き出すおそれがあります。

⚠ 注意

■ 冷却水を入れるとき

ハイブリッドシステムが十分に冷えてからゆっくり入れてください。
ハイブリッドシステムが熱いときに急に冷たい冷却水を入れると、ハイブリッドシステムが損傷するおそれがあります。

■ 冷却系統の故障を防ぐために

次のことをお守りください。

● 異物（砂やほこりなど）を冷却水に混入させない

● 市販の冷却水添加剤を使用しない

スタックしたときは

ぬかるみや砂地、雪道などでタイヤが空転したり埋まり込んで動けなくなつたときは次の方法で脱出してください。

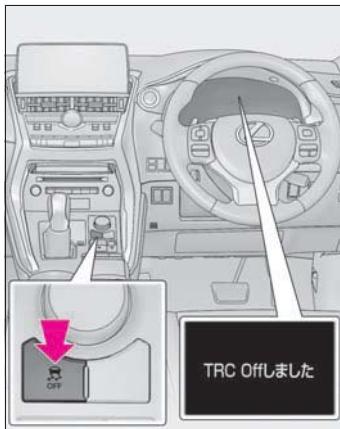
脱出するには

- 1 パーキングブレーキをかけシフトレバーを P にしてハイブリッドシステムを停止する
- 2 前輪周辺の土や雪を取り除く
- 3 前輪の下に木や石などをあてがう
- 4 ハイブリッドシステムを再始動する
- 5 シフトレバーを D または R に入れ、パーキングブレーキを解除して注意しながらアクセルペダルを踏む

□ 知識

■ 脱出しにくいとき

 を押して TRC を OFF にしてください。



⚠ 警告

■ 脱出するときは

前進と後退をくり返してスタックから脱出する場合、他の車、ものまたは人との衝突を避けるため周囲に何もないことを確認してください。

スタックから脱出するとき、車が前方または後方に飛び出すおそれがありますので、特に注意してください。

■ シフトレバーを操作するときは

アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気を付けてください。

車が急発進するおそれや、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⚠ 注意

■ ハイブリッドトランスミッションやその他の部品への損傷を避けるために

- タイヤが空転するのを避け、必要以上にアクセルペダルを踏まないでください。

- 上記の方法で脱出できなかつた場合、けん引による救援が必要です。

8-1. 仕様一覧

メンテナンスデータ（指定燃料・オイル量など） **364**

8-2. カスタマイズ機能

ユーザーカスタマイズ機能 **368**

8-3. 初期設定

初期設定が必要な項目 **378**

メンテナンスデータ（指定燃料・オイル量など）

使用するオイルや液類の品質により、お車の寿命は著しく左右されます。お車には、最も適した弊社純正オイル・液類（以下、「指定銘柄」といいます）のご使用をおすすめします。

指定銘柄以外を使用される場合は、指定銘柄に相当する品質のものをご使用ください。

燃料

指定燃料	容量 [L] (参考値)
・ 無鉛レギュラーガソリン	56
・ バイオ混合ガソリン（レギュラー）※	

※ エタノールの混合率 10% 以下または、ETBE の混合率 22% 以下のガソリン（酸素含有率 3.7% 以下）を使用することができます。

エンジンオイル

指定銘柄	容量 [L] (参考値※1)	
	オイルのみ交換	オイルとオイルフィルター交換
弊社純正モーターオイル SN 0W-20※2 － API SN/RC, ILSAC GF-5, SAE 0W-20	4.0	4.4
弊社純正モーターオイル SN 5W-30 － API SN/RC, ILSAC GF-5, SAE 5W-30		

※1 エンジンオイルの容量は交換する際の目安です。オイル量の確認は、エンジンの暖機後にハイブリッドシステムを停止し、5 分以上経過してからレベルゲージで行ってください。

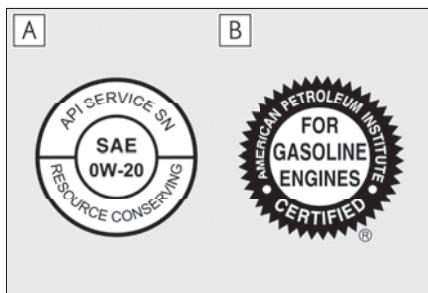
※2 0W-20 は上記表の指定銘柄の中では、最も省燃費性に優れるオイルです。

■ 指定エンジンオイル

API 規格 SN/RC、SM/EC か、
ILSAC 規格に合致したオイルをご使
用ください。

なお、ILSAC 規格合格油の缶には
ILSAC CERTIFICATION (イルサッ

クサーティifikーション) マーク
が付いています。

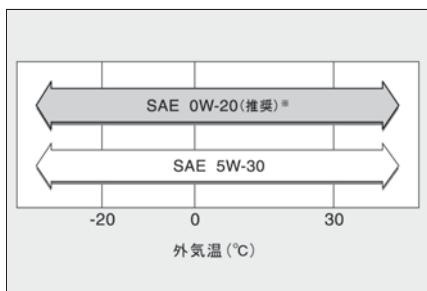


A API マーク

B ILSAC CERTIFICATION マーク

■ エンジンオイル推奨粘度

下記図に基づき、外気温に適した粘度のものをご使用ください。



* 0W-20 は新車時に充填されており、上記図に示す中では、最も省燃費性に優れるオイルです。

オイル粘度について（例として 0W-20 で説明します）：

- 0W-20 の 0W は、低温時のエンジン始動特性を示しています。W の前の数値が小さいほど冬場や寒冷時のエンジン始動が容易になります。
- 0W-20 の 20 は、高温時の粘度特性を示しています。粘度の高い（数値が大きい）オイルは、高速または重負荷走行に適しています。

ラジエーター

指定銘柄	容量 [L] (参考値)	
	ガソリン エンジン	パワーコント ロールユニット
弊社純正スーパーロングライフクーラント		
凍結保証温度		
濃度 30% – 12 °C	6.7	3.1
濃度 50% – 35 °C		

トランスマッision

指定銘柄	容量 [L] (参考値)
弊社純正オートフルード WS*	3.8

* 交換が必要な際はレクサス販売店にご相談ください。

リヤディファレンシャル (リヤ電動モーター 「AWD」)

オイルタイプ・推奨粘度	容量 [L] (参考値)
弊社純正オートフルード WS*	1.8

* 交換が必要な際はレクサス販売店にご相談ください。

ブレーキ

■ ブレーキフルード

指定銘柄
弊社純正ブレーキフルード 2500H-A

■ ブレーキペダル

項目	基準値 [mm]
遊び	1 ~ 6
踏み込んだときの床板とのすき間*	100

* ハイブリッドシステムが作動している状態で、490N (50kgf) の踏力をかけたときの床板とのすき間の最小値

ウォッシャータンク

容量 [L] (参考値)
4.8

タイヤ・ホイール

タイヤサイズ		ホイールサイズ	タイヤが冷えているときの 空気圧 kPa (kg/cm ²)	
			前輪	後輪
標準タイヤ	225/65R17 102H	17 × 7 J	240 (2.4)	240 (2.4)
	225/60R18 100H	18 × 7 1/2 J	220 (2.2)	220 (2.2)
	235/55R18 100V	18 × 7 1/2 J	220 (2.2)	220 (2.2)
応急用タイヤ★	T165/80D17 104M	17 × 4 T	420 (4.2)	

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

電球（バルブ）※

	電球	W(ワット)数
車内	バニティランプ	8

※ 表に記載のないランプは LED を採用しています。

車両仕様

名称	型式	エンジン	電動機型式	駆動方式
NX300h	AYZ10	2AR-FXE (2.5L ガソリン)	フロント：2JM リヤ：2FM	FF（前輪駆動）
	AYZ15			AWD（4輪駆動）

ユーザーカスタマイズ機能

お車に装備されている各種の機能は、ご希望に合わせてレクサス販売店で作動内容を変更することができます。また、ナビゲーションシステム・マルチインフォメーションディスプレイの操作により設定を変更することができる機能もあります。

機能によっては、他の機能と連動して設定がかわるものもあります。詳しくはレクサス販売店へお問い合わせください。

G-Link サービスご契約のお客様は、G- カスタマイズ機能（レクサスオーナーズサイトのご利用またはレクサス販売店へのご依頼）により、遠隔で設定変更ができます。遠隔での設定変更が可能な項目に関してはレクサスオーナーズサイトでご確認ください。

設定を変更するには

安全に操作することができる場所に停車し、パーキングブレーキをかけ、シフトレバーを P にします。

■ ナビゲーションシステムで設定するには

- 1 リモートタッチの MENU ボタンを押し、 を選択する
- 2 サブメニュー画面の「車両」を選択する
- 3 「車両カスタマイズ」もしくは「ドライブモードカスタマイズ」を選択する

4 一覧表示された中から設定を変更する項目を選択する

5 機能の作動内容を選択する

作動・非作動を変更できる機能では、「する」（作動）・「しない」（非作動）を選択します。

音量やセンサーの感度などを変更できる機能では、「+」または「-」を選択してレベルを調整します。

■ マルチインフォメーションディスプレイで設定するには

1 メーター操作スイッチの < または > を押して  を選択する

2 ▲ または ▼ を押して変更する項目を選択し、● スイッチを押す

3 ▲ または ▼ を押して設定したい項目を選択し、● スイッチを押す

設定を終了する場合は、➡ スイッチを押します。

知識

■ セッティング画面について

次の状態になるとマルチインフォメーションディスプレイのセッティング画面は自動的に終了します。

- セッティング画面表示後に警告メッセージが表示された
- パワースイッチが OFF になった
- セッティング画面表示中に走行し始めた

⚠ 警告

■ カスタマイズを行うときは

ハイブリッドシステムを始動した状態で操作を行うため、車庫内など囲まれた場所では、十分に換気をしてください。換気をしないと、排気ガスが充満し、排気ガスに含まれる一酸化炭素(CO)により、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 注意

■ カスタマイズを行うときは

補機バッテリーあがりを起こす可能性がありますので、確実にハイブリッドシステムが作動している状態で実施してください。

車両カスタマイズ設定一覧

A ナビゲーションシステムの画面操作で設定変更可能

B マルチインフォメーションディスプレイで設定変更可能

C レクサス販売店で設定変更可能

D 車両側のスイッチなどで設定変更可能

■ ドアロック (→P.104, 352)

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C	D
メカニカルキーによる解錠	1回で全ドア解錠	1回で運転席ドア解錠、連続2回で全ドア解錠	—	—	○	—
車速感応オートドアロック	あり	なし	○	—	○	—
シフトレバーを P 以外にしたときの全ドア施錠 (シフト操作連動ドアロック)	なし	あり	○	—	○	—
シフトレバーを P にしたときの全ドア解錠 (シフト操作連動アンロック)	あり	なし	○	—	○	—
運転席を開けたときの全ドア自動解錠 (運転席ドア開連動アンロック)	なし	あり	○	—	○	—

■ パワーバックドア (→P.108)

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C	D
バックドア自動開停止位置	開度 5	お好みの位置 (高さ) で停止 ※	○	—	○	○
		開度 1 ~ 5				
パワーバックドア機能	あり	なし	—	—	○	—
ブザー音量	レベル3	レベル 1	—	○	—	—
		レベル 2				
キックセンサ作動★	あり	なし	—	○	○	—

★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※ バックドア下部の~~△~~スイッチ操作で設定します。 (→P.117)

■ スマートエントリー＆スタートシステム、ワイヤレスドアロック共通
(→P.102, 118)

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C	D
ドアを施錠・解錠したときの非常点滅灯の点滅 (施錠・解錠時非常点滅灯応答)	あり	なし	○	—	○	—
半ドア警告ブザー	あり	なし	—	—	○	—
ドアを施錠・解錠したときの作動確認ブザー音量 (施錠・解錠時ブザー音量調節)	レベル5	OFF	○	—	○	—
		レベル 1 ~ レベル 7				
解錠後、ドアを開けなかつたときの自動施錠までの時間	30秒	60秒	—	—	○	—
		120秒				

■ スマートエントリー＆スタートシステム (→P.118)

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C	D
解錠ドアの選択 (スマートドアアンロック)	全席	運転席	○	—	○	○
スマートエントリー＆スタートシステム	あり	なし	○	—	○	—
連続してできる施錠操作の回数	2回	無制限	—	—	○	—

■ ワイヤレスドアロック (→P.102)

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C	D
ブザーアンサーバック	あり	なし	—	—	○	—
ハザードアンサーバック	あり	なし	—	—	○	—
半ドアウォーニング	あり	なし	—	—	○	—
作動ブザー	あり	なし	—	—	○	—
作動ブザー音量	レベル5	レベル7～ レベル0	—	—	○	—
ワイヤレス機能	あり	なし	—	—	○	—
ワイヤレスリモコンのドア解除ボタン操作 (ボタン2回操作アンロック)	1回で全ドア 解錠 (しない)	1回で運転席ドアのみ解錠、連続2回で全ドア 解錠 (する)	○	—	○	—

■ ドライビングポジションメモリー★ (→P.129)

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C	D
降車時の運転席シート移動量調節 (降車時運転席シート移動量調整)	標準	OFF	○	—	○	—
		少なめ		—	—	—
メモリーコール機能と連動するドアの選択	運転席ドア	全ドア	—	—	○	—

* : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ ランプ自動点灯・消灯システム (→P.171)

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C	D
ライトセンサーの感度調整 (コンライト感度調整)	標準	-2～2	○	—	○	—
ランプを点灯するまでの時間	標準	長め	—	—	○	—

■ イルミネーション (→P.263)

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C	D
ドアの開閉後に点灯している室内灯 が自動で消灯するまでの時間 (室内照明消灯時間調節)	15秒	OFF	○	—	○	—
		7.5秒		—	—	—
		30秒		—	—	—

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C	D
パワースイッチ OFF 後の室内灯自動点灯機能	あり	なし	—	—	○	—
ドアを解錠したときの室内灯自動点灯	あり	なし	—	—	○	—
電子キーを携帯して車両に近づいたときの室内灯自動点灯	あり	なし	—	—	○	—
アウトサイドドアハンドル照明の消灯までの時間（室外照明消灯時間調節）	15 秒	OFF	○	—	○	—
		7.5 秒				
		30 秒				
アウトサイドドアハンドル照明の消灯時のフェードアウト	長い	短い	—	—	○	—
車室内足元照明の点灯	あり	なし	—	—	○	—
電子キーを携帯して車両に近づいたときのアウトサイドドアハンドル照明の点灯	あり	なし	—	—	○	—
解錠時のアウトサイドドアハンドル照明の点灯	あり	なし	—	—	○	—
ドアを開けたときのアウトサイドドアハンドル照明の点灯	あり	なし	—	—	○	—

■ メーター (→P.76, 81)

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C	D
スポーツモード選択時のタコメータへの切替え (タコメーターの表示)	自動切替	常時タコメーター	—	○	—	—
		常時ハイブリッドシステムインジケーター				
言語	日本語	英語	○	○	—	—
単位	km/L	L/100km	○	○	—	—
EV インジケータの点灯・消灯	ON	OFF	—	○	—	—
スイッチを押したときに表示される画面の設定	ドライブインフォ 1	お好みの項目 ※1	—	○	—	—

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C	D
ドライブインフォ 1 に表示される項目	瞬間燃費	※2	—	○	—	—
	平均燃費 (リセット間)					
ドライブインフォ 2 に表示される項目	航続可能距離	※2	—	○	—	—
	平均車速 (リセット間)					
ドライブインフォ 3 に表示される項目	平均燃費 (給油後)	※2	—	○	—	—
	走行時間 (始動後)					
各割込み表示の ON/OFF 切替 ^{※3} (割込み表示)	する	しない	—	○	—	—
テーマカラーの切替 (アクセントカラー)	カラー 1	カラー 2	○	○	—	—
時計	12 時間表示	24 時間表示	—	○	—	—

※1 登録できない項目もあります

※2 瞬間燃費・平均燃費 (リセット間)・平均燃費 (給油後)・平均燃費 (始動後)・平均車速 (リセット間)・平均車速 (始動後)・距離 (航続可能)・距離 (始動後走行)・走行時間 (リセット間)・走行時間 (始動後)・ブランク (非表示) から 2 項目を選択

※3 交差点案内・ETC に関する通知・電話着信・照度調整

■ エアコン (→P.252)

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C	D
AUTO スイッチが ON のとき、連動して外気導入と内気循環を自動的に切りかえる (内外気切替 AUTO スイッチ連動)	する	しない	○	—	○	—
AUTO スイッチを ON にしたとき、A/C (エアコン) スイッチが連動して ON になる (エアコン AUTO スイッチ連動)	する	しない	○	—	○	—

■ オートアラーム (→P.67)

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C	D
メカニカルキーを使って解錠したときのアラーム解除	しない	する	—	—	○	—

■ アダプティブハイビームシステム★ (→P.173)

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C	D
遮光ビームの切りかえ	あり	なし※	—	—	○	—
前方車両と遮光ハイビームとの間隔	標準	狭い	—	—	○	—
		広い	—	—	—	—
車速に応じた、ハイビームの明るさと照らす範囲の調整	約 15km/h から作動	約 30km/h から作動	—	—	○	—
		約 80km/h から作動	—	—	—	—
カーブを走行しているとき、進行方向側のハイビームを明るく照らす	あり	なし	—	—	○	—
先行車との距離に応じた、ロービームの照らす範囲の調整	あり	なし	—	—	○	—

★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※ ハイビームとロービームのみ切りかえます。

■ パーキングサポートブレーキ (静止物) ★ (→P.221)

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C	D
パーキングサポートブレーキ (静止物) 機能	ON	OFF	—	○	—	—

★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ PKSA (パーキングサポートアラート) (→P.215)

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C	D
クリアランスソナー機能	ON	OFF	—	○	○	—
パーキングサポートアラート作動時のブザー音量 (ブザー音量設定)	中	小～大	—	○	○	—

■ ドライブモードセレクトスイッチ (NAVI・AI-AVS 装着車)
(\rightarrow P.213)

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C	D
パワートレーン制御	Normal	Power	<input type="radio"/>	—	—	—
		Eco	—	—	—	—
シャシー制御	Normal	Sport	<input type="radio"/>	—	—	—
エアコン制御	Normal	Eco	<input type="radio"/>	—	—	—

■ エコモード (\rightarrow P.213)

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C	D
エコモード時に暖房・冷房の作動を抑える空調制御機能	する	しない	—	—	<input type="radio"/>	—

■ PCS (プリクラッシュセーフティシステム) (\rightarrow P.190)

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C	D
PCS (プリクラッシュセーフティシステム) 機能	あり	なし	—	<input type="radio"/>	—	—
警報タイミング	中間	遠い	—	<input type="radio"/>	—	—
		近い	—	—	—	—

■ LDA (レーンディバーチャーアラート [ステアリング制御機能付き])
(\rightarrow P.198)

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C	D
ステアリング制御機能 (操舵支援)	あり	なし	—	<input type="radio"/>	—	—
警報手段 (振動／音)	振動	音	—	<input type="radio"/>	—	—
車線逸脱時の警報ブザーが吹鳴する 感度 (警報感度)	普通	高	—	<input type="radio"/>	—	—
ふらつき検知機能	あり	なし	—	<input type="radio"/>	—	—
ふらつき検知機能の感度調節	普通	低	—	<input type="radio"/>	—	—
		高	—	—	—	—

■ パワーウィンドウ (→P.138)

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C	D
メカニカルキー連動開閉機能	なし	あり	—	—	○	—
ワイヤレスリモコン連動開閉機能	なし	あり	—	—	○	—
ドア開警告制御	あり	なし	—	—	○	—

■ ムーンルーフ★ (→P.140)

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C	D
メカニカルキー連動開閉機能 ※	なし	あり	—	—	○	—
ワイヤレスリモコン連動開閉機能 ※	なし	あり	—	—	○	—
ムーンルーフ開警告制御	あり	なし	—	—	○	—

★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※ ワイヤレスリモコンまたはメカニカルキーでパワーウィンドウの開閉が可能なときのみ設定できます。

■ ドアミラー (→P.136)

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C	D
オート電動格納作動	ドアの施錠・解錠と連動	なし パワースイッチと連動	—	—	○	—
リバース連動作動	あり	なし	—	—	○	—

■ 車両接近通報装置 (→P.60)

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C	D
音圧調整	レベル 1	レベル 2 停止	—	—	○	—



■ 車両カスタマイズについて

- 「車速感応式自動ドアロック」と「シフトレバーを P 以外にしたときの全ドア施錠」を両方とも「あり」にした場合次のように作動します。
 - ・ シフトレバーを P 以外にすると全ドア施錠されます。
 - ・ 全ドア施錠された状態で発進した場合、車速感応式自動ドアロックは作動しません。
 - ・ 発進前にいずれかのドアロックを解錠してから発進した場合は、車速感応式ドアロッ

クが作動します。

- スマートエントリー＆スタートが「しない」の場合、「解錠ドアの選択」の設定はできません。
- 解錠後にドアを開けなかつたときの自動施錠が作動した合図は、「作動の合図（非常点滅灯）」・「作動の合図音量（ブザー音量の調整）」の設定に依存します。

初期設定が必要な項目

次の項目は補機バッテリーを再接続したり、メンテナンスを行ったあとなどに、システムを正しく作動させるために初期設定が必要です。

設定が必要な項目

項目	初期設定が必要なとき	参照先
タイヤ空気圧警報システム	<ul style="list-style-type: none"> ・ タイヤローテーションを実施したとき ・ タイヤ空気圧を調整したとき ・ バルブ・送信機を交換したとき ・ タイヤを交換したとき 	P.301
バックガイドモニター＆サイドモニター★	補機バッテリーの充電・交換後の再接続時	別冊「ナビゲーションシステム取扱書」
パノラミックビューモニター★		
パーキングサポートブレーキ（静止物）★	正常に働かないとき	P.228
パワーバックドア		P.113
パワーウィンドウ	正常に働かないとき	P.138
ムーンルーフ★		P.141

★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

さくいん

こんなときは（症状別さくいん）	380
車から音が鳴ったときは（音さくいん）	382
アルファベット順さくいん	383
五十音順さくいん	385

こんなときは（症状別さくいん）

お困りの際は、レクサス販売店にご連絡いただく前にまず次のことを確認してください。

施錠／解錠／ドアの開閉ができない



キーをなくした

- メカニカルキーをなくした場合、レクサス販売店でレクサス純正の新しいメカニカルキーを作ることができます。（→P.351）
- 電子キーをなくすと盗難の危険性が極めて高くなるため、ただちにレクサス販売店にご相談ください。（→P.351）



キーが正常に働かないときは

- キーの電池が消耗、または電池が切れていませんか？（→P.305）



施錠・解錠できない

- パワースイッチがONモードになつていませんか？
施錠するときは、パワースイッチをOFFにしてください。（→P.156）
- 電子キーを車内に置き忘れていませんか？
施錠するときは、電子キーを携帯していることを確認してください。

- 電波状況により、機能が正常に働いていない可能性があります。（→P.120）



リヤドアが開かない

- チャイルドプロテクターがかかつていませんか？
チャイルドプロテクターがかかつていると車内からは開きません。いったん車外から開けて、チャイルドプロテクターを解除してください。（→P.107）

故障かな？と思ったら



ハイブリッドシステムが始動できない

- ブレーキペダルをしっかりと踏みながらパワースイッチを押していますか？（→P.154）
- シフトレバーはPになっていますか？（→P.154）
- キーが車内の検知される場所にありますか？（→P.118）
- ステアリングロックされていませんか？（→P.155）
- キーの電池が消耗、または電池が切れていませんか？
このときは、一時的な方法でハイブリッドシステムを始動することができます。（→P.353）
- 補機バッテリーがあがつていませんか？（→P.354）



ハイブリッドシステムを停止したあとにハンドルがまわせなくなつた

- 盗難防止のため、自動的にロックされます。（→P.155）



パワーウィンドウスイッチを操作してもドアガラスが開閉しない

- ウィンドウロックスイッチが押されていませんか？

ウインドウロックスイッチが押されていると、運転席以外のパワーウィンドウは操作できなくなります。（→P.140）



パワースイッチが自動的に OFF になった

- 一定時間アクセサリーモードまたはONモード（ハイブリッドシステムが作動していない状態）にしておくと、自動電源OFF機能が作動します。（→P.157）



警告音・アラーム・ホーンが鳴りだした

- 警告音が鳴りだしたときは、「車から音が鳴ったときは（音さくいん）」（→P.382）をご確認ください。



警告灯や警告メッセージが表示されたとき

- 警告灯や警告メッセージが表示されたときは、P.321, 328をご確認ください。

トラブルが発生した



タイヤがパンクした

- タイヤパンク応急修理キット装着車

車を安全な場所に停め、タイヤパンク応急修理キットでパンクしたタイヤを応急修理してください。（→P.332）

- 応急用タイヤ装着車

車を安全な場所に停め、パンクしたタイヤを応急用タイヤに交換してください。（→P.342）



立ち往生した

- ぬかるみ・砂地・雪道などで動けなくなつたときの脱出方法を試してください。（→P.362）

車から音が鳴ったときは（音さくいん）

次の状況のとき、車の状態や誤操作などをお知らせするために警告音が鳴ります。

車に乗るとき／降りるとき

状況	原因	詳細
解錠したとき	盗難防止装置（オートアラーム）が作動した※	P.67
ドアを開閉したとき	シフトポジションがP以外になっている	P.330
	窓・ムーンルーフが開いている（ハイブリッドシステム停止中のみ）	P.139, 142
	盗難防止装置（オートアラーム）が作動した※	P.67
ハイブリッドシステムを停止したとき	電子キーの電池残量が少なくなっている	P.100
施錠しようとしたとき（施錠できないとき）	いずれかのドアが確実に閉まっていない	P.119
	電子キーを車内に置き忘れている	P.328

※ ドアを解錠する、またはパワースイッチをアクセサリーモードまたはONモードにするか、ハイブリッドシステムを始動すると、警報を解除することができます。

走行しているとき

状況	原因	詳細
走り出したとき	いずれかのドア・バックドア・ボンネットが確実に閉まっていない	P.107
	パーキングブレーキが解除されていない	P.167
	運転席・助手席のシートベルトを着用していない※	P.325
シフトダウンしたとき	シフトダウン制限をこえて操作した	P.162
ブレーキペダルを踏んだとき（きしみやひつかき音）	ブレーキパッドが摩耗しているおそれがある	P.149
先行車に接近したとき	レーダークルーズコントロールを使用している	P.210
前方の障害物と衝突しそうになったとき	PCS（プリクラッシュセーフティシステム）が作動した	P.190
車線から逸脱しそうになつたとき	LDA（レーンディバーチャーアラート）を使用している	P.198

※ 助手席に荷物を置いている場合にもブザーが鳴ることがあります。

アルファベット順さくいん

A/C	
(エアコン)	252
ABS	
(アンチロックブレーキシステム)	237
AHB	
(オートマチックハイビーム) ..	176
AHS	
(アダプティブハイビームシステム)	173
AI-AVS	
(アーティフィカルインテリジェンスアダプティブバリアブルサスペンションシステム)	238, 240
ASC	
(アクティブサウンドコントロール)	170
AVS	
(アダプティブバリアブルサスペンションシステム)	238
AWD	
(オールホイールドライブ)	367
BSM	
(ブラインドスポットモニター)	231
E-Four	
(電気式4WDシステム)	238
ECB	
(エレクトロニカリコントロール ドブレーキシステム)	237
EDR	
(イベントデータレコーダー)	7
EPS	
(エレクトリックパワーステアリング)	238
EV ドライブモード	
EV ドライブモード	158
FF	
(フロントエンジンフロントドライブ)	367
Harmonious Driving Navi. 画面	
Harmonious Driving Navi. 画面	91
HUD	
(ヘッドアップディスプレイ)	87
ILSAC CERTIFICATION	
(イルサックサーティフィケーション)	364
ISOFIX	
(アイソフィックス／イソフィックス)	41
LDA	
(レーンディバーチャーアラート)	198
LED	
(ライトエミッティングダイオード)	171, 309
LED デイライト	
LED デイライト	171
Lexus Safety System+	187
LDA (レーンディバーチャーアラート)	198
PCS (プリクラッシュセーフティシステム)	190
アダプティブハイビームシステム	173
オートマチックハイビーム	176
レーダークルーズコントロール	205
PCS	
(プリクラッシュセーフティシステム)	190, 323
PKSA	
(パークリングサポートアラート)	215
PKSB	
(パークリングサポートブレーキ [静止物])	237
RCTA	
(リヤクロストラフィックアラート)	234

S-VSC

(ステアリングアシstedピーク
ルスタビリティコントロール) 237

SRS

(サブリメンタルレストレイントシ
ステム) 34

TRC

(トラクションコントロール) .. 238

VSC

(ピーカルスタビリティコントロー
ル) 237

五十音順さくいん

あ

アースポイント（バッテリーあがりの処置）	354
アームレスト	284
アウターミラー（ドアミラー）	
格納のしかた	137
操作	136
ブレインドスポットモニター（BSM）	231
ポジションメモリー	129
ミラーヒーター	253
リバース連動機能	136
アウトサイドドアハンドル照明	263
電球（バルブ）の交換	309
アクセサリーコンセント（1500Wタイプ）	276
アクセサリーコンセント（100Wタイプ）	276
アクセサリーソケット	275
アクセサリーモード	156
アクティブサウンドコントロール（ASC）	170
足元照明	263
アダプティブハイビームシステム	173
アダプティブバリアルサスペンションシステム	238
アラーム	
オートアラーム	67
音さくいん	382
警告ブザー	321
アンチロックブレーキシステム（ABS）	237
アンテナ（スマートエントリー＆スタートシステム）	118

い

イージークローザーバックドア	112
EV ドライブモード	158

イグニッションスイッチ（パワースイッチ）	154
位置交換（タイヤローテーション）	298
イベントデータレコーダー（EDR）	7
イモビライザーシステム	66
イルミネーテッドエントリーシステム	263
インジケーター（表示灯）	74
インストルメントパネル照度調整スイッチ	80
インテリアランプ	264
インナーミラー	135

う

ワインカー（方向指示灯）	164
電球（バルブ）の交換	309
方向指示レバー	164
ウインドウ	
ウインドシールドデアイサー	257
ウォッシャー	180, 182
パワーウィンドウ	138
リヤウインドウデフォッガー	253
ウインドウロックスイッチ	140
ウインドシールドデアイサー	257
ウォーニングランプ（警告灯）	73, 321
ウォッシャー	180, 182
液の補充	295
スイッチ	180, 182
タンク容量	366
冬の前の準備・点検	244
動けなくなつたときは（スタッカ）	362
雨滴感知式ワイパー	180
運転	
雨の日の運転	146
運転を補助する装置	237
寒冷時の運転	244
正しい運転姿勢	27
手順	146

ハイブリッド車運転のアドバイス	242
運転席シートベルト非着用警告灯	325
運転席シートポジションメモリー	129

え

エアコン

「ナノイー」	257
S-FLOW モード	257
オートエアコン	252
曇り取り（フロントガラス）	253
フィルターの清掃	303
エアコン・デフォッガー	253
エアバッグ	34
SRS エアバッグ警告灯	322
お子さまのための注意	37
改造・廃棄	39
作動条件	35
正しい姿勢	27
配置	34
S-FLOW モード	257
エネルギーモニター	91
LED デイライト	171
エレクトリックパワーステアリング (EPS)	
機能	238
パワーステアリング警告灯	323

エンジン

イモビライザーシステム	66
エンジン警告灯	322
エンジンスイッチ	154
オーバーヒート	359
ハイブリッドシステムが始動できない	350
ハイブリッドシステムの始動方法	154
パワースイッチ（イグニッションスイッチ）	154
ポンネット	293
エンジンオイル	364
冬の前の準備・点検	244

メンテナンスデータ	364
油圧警告灯	321
容量	364

エンジンスイッチ（パワースイッチ）

自動電源 OFF 機能	157
車両を緊急停止するには	314
ハイブリッドシステム始動のしかた	154
モードの切りかえ	156
エンジンフード（ポンネット）	293
エンジルーム	
エンジルームから蒸気が出ている	359

お

オイル（エンジンオイル）	364
応急用タイヤ	342
空気圧	367
交換方法	342
オートアラーム	67
オートエアコン	252
オートドアロック・アンロック機能	107
オートマチックハイビーム	176
オートレベルングシステム（ヘッドランプ）	171
オーバーヒート	359
オープナー	
給油扉	185
バックドア	110
ポンネット	293
おくだけ充電（ワイヤレス充電器）	280
お子さまを乗せるとき	40
ウインドウロックスイッチ	140
エアバッグ	37
お子さまの安全のために	40
キーの電池	306
シートベルトの着用	30
ステアリングヒーター／シートヒーターに関する警告	260

チャイルドシート	41
チャイルドシートの取り付け	41
チャイルドプロテクター	107
電動サンシェードに関する警告	144
発炎筒の取り扱いに関する警告	314
バックドアに関する警告	108
バッテリーに関する警告	358
パワーウィンドウに関する警告	139
ムーンルーフに関する警告	142
オドメーター	
機能	80
表示の切りかえ・リセットボタン	80

か

カーテンシールドエアバッグ	34
カードキー	100
カードホルダー	269
カーペット	289
洗浄	289
フロアマットの取り付け方	26
外気温度表示	76
回生ブレーキ	59
外装の電球（バルブ）	
交換要領	309
買い物フック	270
ガス欠になったとき	62
カスタマイズ機能	368
ガソリンスタンドでの情報	400
型式	367
カップホルダー	268
カラー ヘッドアップディスプレイ	87
ガラスの曇り取り（リヤウインドウデ フォッガー）	253
ガレージジャッキ	294
冠水路走行	151
寒冷時の運転	244

き

キー	100
カードキー	100
キーナンバープレート	100
キーの構成	102
キーレスエントリー	102, 118
キーをなくした	351
給油扉が開かない	351
正常に動かない	352
施錠・解錠ができる	352
電子キー	100
電池が切れた	305, 352
ハイブリッドシステムが始動できない	350
メカニカルキー	102
ワイヤレスリモコン	102
キーレスエントリー	
スマートエントリー＆スタートシステム	118
ワイヤレスドアロック	102
きしみやひつかき音が聞こえる（ブレー キパッドウェインジケーター）	149
給油	
給油扉が開けられない	351
給油のしかた	184
メンテナンスデータ	364
緊急時シートベルト固定機構	30
緊急始動機能（ハイブリッドシステム） 	350
緊急時の対処	
オーバーヒートした	359
キーの電池が切れた	305, 352
キーをなくした	351
警告灯がついた	321
警告メッセージが表示された	328
けん引	316
故障したときは	312
車両を緊急停止する	314

スタックした	362
電子キーが正常に動かない	352
ハイブリッドシステムが始動できない	350
発炎筒	313
パンクした	332, 342
補機バッテリーがあがつた	354
緊急停止システム	64
緊急ブレーキシグナル	238

く

空気圧（タイヤ）	367
クーラー	252
区間距離計（トリップメーター）	
機能	76
切りかえ・リセットボタン	80
駆動用電池	61
充電について	59
搭載位置	61
冷却用吸入口	64
曇り取り	
フロントガラス	253
ミラーヒーター	253
リヤウインドウデフォッガー	253
クラクション（ホーン）	134
クリアランスソナー	216
警告メッセージ	218
操作	217
クリアランスランプ（車幅灯）	
スイッチ	171
電球（バルブ）の交換	309
クリップ	
フロアマット	26
クルーズコントロール	
レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）	205
グローブボックス	267
グローブボックスランプ	267

け

警音器（ホーン）	134
計器類（メーター）	76
照度調整	80
ヘッドアップディスプレイ	87
マルチインフォメーションディスプレイ	81
メーター	76
警告灯	
プリテンショナー	321
警告灯	73
ABS & ブレーキアシスト	322
SRS エアバッグ	322
LDA 表示灯	323
エンジン	322
高水温	322
シートベルト非着用	325
充電	321
スリップ表示灯	324
タイヤ空気圧	325
ドライブスタートコントロール	326
燃料残量	324
パーキングブレーキ表示灯	324
パワーステアリング	323
PKSB OFF 表示灯	324
PCS	323
プリテンショナー	322
ブレーキ	321, 322
ブレーキオーバーライドシステム	326
ブレーキホールド作動表示灯	324
マスターウォーニング	325
油圧	321
警告ブザー	
高水温	322
シートベルト非着用	325
シフトダウン制限	162
衝突警報	190
接近警報	210

パーキングブレーキ未解除走行時	167
パワーステアリング	323
半ドア	105, 119
半ドア走行	107
ブレーキ	322
窓開	139
ムーンルーフ開	142
油圧	321
リバース	160
警告メッセージ	328
化粧ミラー（バニティミラー）	274
けん引	
けん引のしかた	316
フック	318

こ

交換	
キーの電池	305
タイヤ	342
電球（バルブ）	309
ヒューズ	306
工具（ツール）	333, 343
航続可能距離	82, 95
後退灯（バックアップランプ）	
電球（バルブ）の交換	309
高電圧部位	61
コーナリングランプ	172
子供専用シート	41
選択方法	42
取り付け方	43
コンソールボックス	267
コンライト（自動点灯・消灯装置）	171

さ

サービスプラグ	61
サイドエアバッグ	34
サイド方向指示灯	164

電球（バルブ）の交換	309
方向指示レバー	164
サイドミラー（ドアミラー）	
格納のしかた	137
操作	136
プライムスポットモニター（BSM）	231
ミラーヒーター	253
リバース連動機能	136
サングラスホルダー	269
サンバイザー	274

し

シート	123, 124
シートクッションエアバッグ	34
正しい運転姿勢	27
チャイルドシート	41
調整	123, 124
手入れ	289
ドライビングポジションメモリー	129
ヘッドレスト	132
メモリーコール機能	130
シートヒーター	260
シートベルト	29
お子さまの着用	41
緊急時シートベルト固定機構	30
シートベルト非着用警告灯	325
高さ調節	33
正しく着用するには	30
着け方、はずし方	30
手入れ	289
妊娠中の方の着用	29
シートベルト非着用警告灯	325
シートベルトプリテンショナー	33
機能	33
プリテンショナー警告灯	322
シートベンチレーター	260
シートポジションメモリー	129

事故が発生したとき（ハイブリッドシステムの注意）	62
室内灯	263
始動のしかた	154
シフトポジション	160
シフトレバー	160
シフトポジションの切りかえ	160
シフトレンジの切りかえ	162
リバース警告ブザー	160
締め付けトルク（ホール）	347
ジャッキ	
ガレージジャッキ	294
車載ジャッキ	333, 343
ジャッキハンドル	333, 343
車幅灯	171
電球（バルブ）の交換	309
ランプスイッチ	171
車両型式	367
車両仕様（スペック）	364
車両接近通報装置	60
車両データの記録	7
車両を緊急停止するには	314
収納装備	266
瞬間燃費	82
仕様（車両仕様）	367
衝撃感知ドアロック解除システム	105
助手席シートベルト非着用警告灯	325
侵入センサー（オートアラーム）	68

す

水温計	76
スイッチ	
EV ドライブモード	158
イグニッション	154
ウインドウロック	140
ウォッシュャー	180, 182
ASC 音量調整ダイヤル	170
LDA	200

オートマチックハイビームスイッチ	176
クリアランスソナー	216
クルーズコントロール	205
シート調整	123, 124
シートヒーター	260
シートベンチレーター	261
シートポジションメモリー	129
車間距離切りかえ（レーダークルーズコントロール）	205
車両接近通報一時停止	60
侵入センサー OFF	68
ステアリングヒーター	260
ドアミラー	136
ドアロック	106
ドライビングポジションメモリー	129
ドライブモードセレクト	213
パーキングブレーキスイッチ	165
ハザードランプ	313
パドルシフト	162
パワーウィンドウ	138
パワースイッチ	154
PCS	192
非常点滅灯（ハザードランプ）	313
VSC OFF	238
フォグラント	179
ブラインドスポットモニター（BSM）	231
ブレーキホールドスイッチ	168
ヘッドアップディスプレイ	87
ヘッドライトクリーナー	180
方向指示レバー	164
ホーン（警音器）	134
ムーンルーフ	140
メーター操作スイッチ	82
メーター表示切りかえ	80
ランプ	171
リヤウインドウデオツッガー	253
レーダークルーズコントロール	205
ワイパー	180, 182

スタック	362
ステアリングアシstedドピークルスター	
ビリティコントロール (S-VSC) ..	237
ステアリングヒーター	260
ステアリングホイール (ハンドル) .	134
位置調整	134
ステアリングヒーター	260
ステアリングロック	155
解除できないとき	155
警告メッセージ	155
ストップランプ (制動灯)	
緊急ブレーキシグナル	238
電球 (バルブ) の交換	309
スノータイヤ (冬用タイヤ)	244
スピードメーター	76
スペアタイヤ (応急用タイヤ)	342
空気圧	296, 367
交換方法	342
スペック (車両仕様)	364
スマートエントリー&スタートシステム	118
アンテナの位置	118
カスタマイズ設定	368
緊急始動機能	350
警告ブザー	119
警告メッセージ	119
作動範囲	119
節電機能	119
電波がおよぼす影響について	122
ドアの解錠・施錠	104, 109
ハイブリッドシステムの始動	154
バックドアの施錠・解錠	104
スマールランプ (車幅灯)	171
電球 (バルブ) の交換	309
ランプスイッチ	171

せ

積算距離計 (オドメーター)

機能	76
表示の切りかえ・リセットボタン	80
清掃	286, 289
アルミホイール	287
外装	286
シートベルト	289
内装	289

制動灯

緊急ブレーキシグナル	238
電球 (バルブ) の交換	309
セキュリティインジケーター	66, 67
接近警報 (レーダークルーズコントロール)	210

センサー

インナーミラー	135
雨滴感知センサー	181
キックセンサ	111
侵入センサー	68
前方センサー	188
ライトセンサー	171
レーダーセンサー	188, 232
洗車	286
前照灯 (ヘッドライト)	171
電球 (バルブ) の交換	309
ヘッドライトオートレベリングシステム	171
ライトセンサー	171
ランプ消し忘れ防止機能	171
ランプスイッチ	171

そ

走行時間	82
走行モード (ドライブモード)	213
送信機	299
速度計 (スピードメーター)	76

た

ターンシグナルランプ（方向指示灯）	164
電球（バルブ）の交換	309
方向指示レバー	164
タイヤ	296
応急用タイヤ	342
空気圧	302, 367
交換	342
締め付けトルク	347
チェーン	244
点検	296
パンクしたときは	332, 342
パンク応急修理キット	332
冬用タイヤ	244
ホイールサイズ	367
ローテーション（位置交換）	298
タイヤが空まわりする（スタッカした）	362
タイヤ空気圧警報システム	
IDコードの登録・選択	302
機能について	299
空気圧バルブ／送信機について	300
空気圧表示画面	299
警告灯	325
初期化	300
タイヤチェーン	244
タコメーター（エンジン回転計）	76

ち

チェーン（タイヤチェーン）	244
チャイルドシート	41
ISOFIXバーでの取り付け	50
シートベルトでの固定	47
選択方法	42
チャイルドプロテクター	107
駐車ブレーキ（パーキングブレーキ）	

165

つ

ツール（工具）	333, 343
---------	----------

て

手入れ	286, 289
アルミホイール	287
外装	286
シートベルト	289
内装	289
レーダーセンサー	188, 232
テールランプ（尾灯）	171
電球（バルブ）の交換	309
ランプスイッチ	171
デッキアンダートレイ	270
デッキフック（荷物固定用フック）	270
デッキボード	271
デフォッガー（リヤウインドウデフォッガ）	253
電気式4WDシステム（E-Four）	238
電子制御ブレーキシステム（ECB）	237
電気モーター	58, 61
電球（バルブ）	
交換要領（外装バルブ）	309
ワット数	367
点検基準値（メンテナンスデータ）	364
電子キー	100
作動範囲	119
正常に働かないとき	352
節電機能	119
電池が切れた	305, 352
電池交換（キー）	305
電動サンシェード	
操作	143
挟み込み防止機能	143
電動パーキングブレーキ	165

と

ドア	104
オートドアロック・アンロック機能 ..	107
衝撃感知ドアロック解除システム	105
スマートエントリー＆スタートシステム	118
チャイルドプロテクター	107
ドアガラス	138
ドアロックスイッチ	106
バックドア	108
ロックレバー	106
ワイヤレスリモコン	104
ドアミラー	
格納のしかた	137
操作	136
ブライムドスポットモニター (BSM)	231
ミラーヒーター	253
リバース連動機能	136
盗難防止装置	
イモビライザーシステム	66
オートアラーム	67
時計	274
トップテザーアンカー	55
トノボード	272
ドライビングポジションメモリー ...	129
ポジションメモリー	129
メモリーコール機能	130
ドライブインフォメーション (マルチイ	
ンフォメーションディスプレイ)	82
ドライブインフォメーション	82
メーター操作スイッチ	82
ドライブスタートコントロール ...	147,
160	
トラクションコントロール (TRC) .	238
トランスマッision	160
シフトダウン制限警告ブザー	162
操作	160

パドルシフツスイッチ	162
メンテナンスデータ	366
トリップメーター	76
機能	76
切りかえ・リセットボタン	80

な

内装

収納装備	266
手入れ	289
「ナノイー」	257

に

ニーエアバッグ	34
荷物	
積むときの注意	152
荷室内装備	270

ぬ

ぬかるみにはまつた (スタッカ)	362
------------------------	-----

ね

ネットフック	270
燃費	
エネルギー モニター	91
燃費情報	82, 95
燃料	364
ガソリンスタンドでの情報	400
給油	184
種類	364
燃料残量警告灯	324
容量	364
燃料計	76

は

パーキングサポートブレーキ

警告灯 324

警告メッセージ 229

表示灯 74

パーキングブレーキ 165

操作 165

パーキングブレーキ表示灯 324

ブレーキ警告灯 322

未解除走行時警告ブザー 167

パーソナルランプ 264

排気ガス 57

ハイビーム（ヘッドランプ） 171

オートマチックハイビーム 176

電球（バルブ）の交換 309

ランプスイッチ 171

ハイブリッドシステム 58

EV ドライブモード 158

運転のアドバイス 242

オーバーヒート 359

回生ブレーキ 59

ガス欠になつたとき 62

緊急始動機能 350

緊急時の停止方法 314

緊急停止システム 64

駆動用電池冷却用吸入口 64

高電圧部位 61

サービスプラグ 61

事故が発生したときは 62

始動できないときは 350

始動方法 154

車両接近通報装置 60

充電 59

注意 61

特徴 58

特有の音と振動 59

パワー（イグニッション）スイッチ .. 154

補機バッテリーがあがつた 354

メンテナンス・修理・廃車するとき 60

ハイブリッドシステムインジケーター 79

ハイマウントストップランプ

電球（バルブ）の交換 309

ハザードランプ（非常点滅灯）

スイッチ 313

電球（バルブ）の交換 309

挟み込み防止機能

電動サンシェード 143

パワーウィンドウ 138

ムーンルーフ 141

発炎筒 313

バックアップランプ（後退灯）

電球（バルブ）の交換 309

バックドア 108

イージークローザー 112

バッテリー（駆動用電池）

充電について 59

搭載位置 61

冷却用吸入口 64

バッテリー（補機バッテリー）

搭載位置 293

バッテリーがあがつた 354

パドルシフトスイッチ 162

バニティ（化粧用）ミラー 274

バニティミラーランプ

装備について 274

ワット数 367

バルブ（電球）

交換要領（外装のバルブ） 309

ワット数 367

パワーイージーアクセスシステム ... 129

パワーウィンドウ 138

ウインドウロックスイッチ 140

閉めることができないときは 138

操作 138

ドアロック連動ドアガラス開閉機能... 139

挟み込み防止機能	138
パワーコントロールユニット	61
パワースイッチ	154
パワーステアリング	238
パワーステアリング警告灯	323
パンクした	
応急用タイヤ装着車	342
タイヤパンク応急修理キット装着車	332
番号灯 (ライセンスプレートランプ)	171
電球 (バルブ) の交換	309
ランプスイッチ	171
ハンドル (ステアリングホイール)	
位置調整	134
ステアリングヒーター	260

ひ

ビークルスタビリティコントロール (VSC)	237
ヒーター	
オートエアコン	252
シートヒーター	260
ステアリングヒーター	260
ミラーヒーター	253
非常点滅灯 (ハザードランプ)	
スイッチ	313
電球 (バルブ) の交換	309
尾灯 (テールランプ)	171
電球 (バルブ) の交換	309
ランプスイッチ	171
ヒューズ	306
表示灯	74
日よけ (サンバイザー)	274
ヒルスタートアシストコントロール	238

ふ

ブースターケーブルのつなぎ方	354
----------------------	-----

フォグランプ	
スイッチ	171
電球 (バルブ) の交換	309
ブザー	
高水温	322
シートベルト非着用	325
シフトダウン制限	162
衝突警報	190
接近警報 (レーダークルーズコントロール)	210
パークリングブレーキ未解除走行時	167
パワーステアリング	323
半ドア	105, 119
半ドア走行	107
ブレーキ	322
窓開	139
ムーンルーフ開	142
油圧	321
リバース	160
フック	
買い物フック	270
けん引フック	318
デッキフック	270
ネットフック	270
フロアマット固定フック	26
フューエルメーター (燃料計)	76
フューエルリッド (給油口)	
給油扉が開かない	351
給油のしかた	184
冬の前の準備 (寒冷時の運転)	244
冬用タイヤ	244
ブライムドスポットモニター (BSM)	
.....	231
プリクラッシュセーフティシステム (PCS)	
機能	190
PCS 警告灯	323
PCS スイッチ	192

ブレーキ

回生ブレーキ	59
緊急ブレーキシグナル	238
パーキングブレーキ	165
ブレーキ警告灯	321, 322
ブレーキホールド	168
メンテナンスデータ	366
ブレーキアシスト	237
ABS & ブレーキアシスト警告灯	322
機能	237

ブレーキ付近からキー音が聞こえる	149
ブレーキフルード	366
ブレーキホールド	168
フロアマット	26
フロントシート	123
シートヒーター	123
シートベンチレーター	260
シートポジションメモリー	129
正しい運転姿勢	27
調整	123
手入れ	289
ドライビングポジションメモリー	129
パワーイージーアクセスシステム	129
ヘッドレスト	132
フロントフォグラント	
スイッチ	179
電球（バルブ）の交換	309
フロント方向指示灯	164
電球（バルブ）の交換	309
方向指示レバー	164

ヘ

平均車速	82, 95
平均燃費	82, 95
ヘッドラップディスプレイ	87
ヘッドラント	171
クリーナー	180

電球（バルブ）の交換	309
ライトセンサー	171
ランプ消し忘れ防止機能	171
ランプスイッチ	171
ヘッドラントオートレベルリングシステム	171
ヘッドラスト	132
ベンチレーター（シートベンチレーター）	260

ほ

ホイール

交換（タイヤ）	342
メンテナンスデータ	367
ホイールナットレンチ	333, 343
方向指示灯	164
電球（バルブ）の交換	309
方向指示レバー	164
ホーン（警音器）	134
補機バッテリー	
搭載位置	293
バッテリーがあがつた	354
保証	8
ボトルホルダー	268
ポンネット（エンジンフード）	293

ま

マスターウォーニング	325
マルチインフォメーションディスプレイ	81
警告メッセージ	328
時計	76
ドライブインフォメーション	82
メーター操作スイッチ	82

み

ミラー

インナーミラー	135
ドアミラー	136
バニティミラー	274
ミラーヒーター	253

む

ムーンルーフ

操作	140
挟み込み防止機能	141

め

メーター（計器類）	76
警告灯	321
照度調整	80
表示切りかえボタン	80
表示灯	74
ヘッドアップディスプレイ	87
マルチインフォメーションディスプレイ	81
メーター	76
メカニカルキー	102
メモリーコール機能	130
メンテナンスデータ	364

も

モーター（電気モーター）	61
モーターでの走行（EV ドライブモード）	
	158

ψ

ユーズーカスタマイズ機能	368
雪道ですべって動けない（スタックした）	
	362
油脂類	364

ら

ライセンスプレートランプ（番号灯）	171
電球（バルブ）の交換	309
ランプスイッチ	171
ラゲージフック	270
ラジエーター	
オーバーヒート	359
メンテナンスデータ	365
ランプ	
アダプティブハイビームシステム	173
インテリアランプ	263
オートマチックハイビーム	176
コーナリングランプ	172
室内灯	263
電球（バルブ）の交換	309
パーソナルランプ	264
非常点滅灯（ハザードランプ）	313
フロントフォグランプ	179
ヘッドライト（前照灯）	171
方向指示灯（ターンシグナルランプ／ワインカー）	164
ライトセンサー	171
ランプ消し忘れ防止機能	171
リヤフォグランプ	179
ワット数	367
ランプ消し忘れ防止機能	171

り

リバース連動機能	136
リモートタッチ	248
リヤアームレスト	284
リヤウインドウデフォッガースイッチ	
	253
リヤシート	124
リヤフォグランプ	
スイッチ	179

電球（バルブ）の交換.....	309
リヤ方向指示灯.....	164
電球（バルブ）の交換.....	309
方向指示レバー	164

る

ルームミラー（インナーミラー）....	135
ルームランプ.....	263

れ

冷却水	365
冬の前の準備	244
メンテナンスデータ.....	365
冷却装置（ラジエーター）.....	365
オーバーヒート	359
メンテナンスデータ.....	365
レーダークルーズコントロール	205
接近警報	210
レーンディバーチャーアラート（LDA）.....	198
レバー	
シフト	160
方向指示	164
ボンネット解除	293
ロック（ドア）.....	106

ろ**ロック**

ウインドウロック	140
スマートエントリー&スタートシステム	118
チャイルドプロテクター	107
ドア	104
バックドア	108
ワイヤレスリモコン	102

わ**ワイパー＆ウォッシャー**

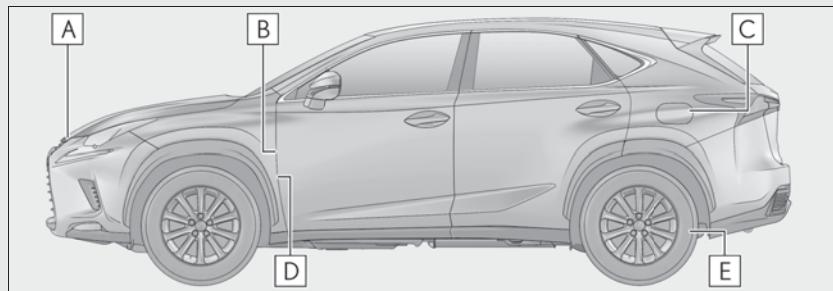
ウインドシールドデアイサー	257
ウォッシャー液の補充	295
フロント	180
リヤ	182
ワイヤレス充電器（おくだけ充電）..	280
ワイヤレスリモコン	102
作動の合図	105
操作	102
電池の交換	305
半ドア警告ブザー	105
ワックス	286
ワット数	367

次の装備は、別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」をお読みください。

- ・オーディオ
- ・バックガイドモニター
- ・ナビゲーションシステム
- ・音声操作システム
- ・ハンドズフリー
- ・G-Link
- ・ETC2.0 システム

ガソリンスタンドでの情報

給油や交換などの際に必要になる項目をまとめてあります。



A ボンネットフック (→P.293)

B バックドアスイッチ★ (→P.109)

C 給油口 (→P.185)

D ボンネット解除レバー (→P.293)

E タイヤ空気圧 (→P.367)

★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

燃料の容量 (参考値)	56L	
燃料の種類	<ul style="list-style-type: none"> ・ 無鉛レギュラーガソリン ・ バイオ混合ガソリン（レギュラー）※ <p>※ エタノールの混合率 10%以下または、ETBE の混合率 22%以下のガソリン（酸素含有率 3.7% 以下）を使用することができます。</p>	P.364
タイヤが冷えているときの空気圧		P.367
エンジンオイル容量 (参考値)		P.364
エンジンオイルの種類	弊社純正モーターオイル	P.364

「個人情報保護方針」については、<http://lexus.jp> にて掲載しております。

△-75



M78284
01999-78284
ZS-2018年5月9日
2018年5月16日初版

NX300h